

ANNUAL REPORT

平成23年度 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館活動報告

Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo 2011

2011

目次

Contents

美術・工芸部門

I 作品収集・修理等

- 1 作品収集
 - 6-1-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻(立体造形) 映像 書 写真 美術資料]
 - 6-1-2 工芸作品[陶磁 ガラス 漆工 木工 竹工 染織 人形 金工 その他の工芸 工芸資料 工業デザイン グラフィックデザイン]
- 2 新収蔵作品
 - 7-2-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻 書 写真]
 - 24-2-2 工芸作品[陶磁 漆工 木工 人形 金工 工芸資料 工業デザイン]
- 3 作品修理
 - 35-3-1 美術作品
 - 37-3-2 工芸作品

II 公衆への観覧

- 1 展覧会
 - 38-1-1 入館者数
 - 39-1-2 これまでの展覧会一覧
 - 66-1-3 平成23年度企画展覧会記録
 - 76-1-4 平成23年度所蔵作品展記録 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館 1-4-3 MOMATパスポート
 - 83-1-5 東京国立近代美術館工芸館所蔵作品巡回展等 1-5-1 国立美術館巡回展 1-5-2 工芸館巡回展
 - 85-2-1 本館 2-2 工芸館
- 2 作品貸与・特別観覧・プリントスタディ

III 調査研究

- 1 本館 86
- 2 工芸館 92

IV 教育普及

- 1 普及活動
 - 95-1-1 資料の収集及び図書室の公開
 - 96-1-2 児童生徒を対象とした事業 1-2-1 本館 1-2-2 工芸館
 - 100-1-3 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク等 1-3-1 本館 1-3-2 工芸館
 - 107-1-4 大学等との連携 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館
 - 109-1-5 ボランティア 1-5-1 本館 1-5-2 工芸館
 - 111-1-6 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修
- 2 刊行物
 - 112-2-1 企画展覧会カタログ 2-1-1 本館 2-1-2 工芸館
 - 115-2-2 目録・ガイド等 2-2-1 本館 2-2-2 工芸館
 - 117-2-3 研究紀要・年報等
 - 118-2-4 その他の刊行物 2-4-1 本館
 - 119-2-5 美術館ニュース『現代の眼』
- 3 広報
 - 120-3-1 広報
 - 120-3-2 美術館情報システムによる普及・広報

映画部門

I 作品収集・復元等

- 1 作品収集
 - 124-1-1 映画フィルム
 - 127-1-2 映画関連資料
- 2 保存／復元 128
- 3 カタロギング/ドキュメンテーション 130

II 公衆への観覧

- 1 上映会等
 - 131-1-1 入館者数 1-1-1 上映会 1-1-2 展覧会
 - 133-1-2 上映会 1-2-1 上映会一覧 1-2-2 平成23年度上映会記録
 - 194-1-3 展覧会 1-3-1 展覧会一覧 1-3-2 平成23年度展覧会記録
 - 200-1-4 共催事業 1-4-1 共催による館外上映会

2 優秀映画鑑賞推進事業

3 所蔵品へのアクセス

III 調査研究

IV 教育普及

- 1 普及活動
 - 226-1-1 資料の収集及び図書室の公開
 - 226-1-2 学校や社会教育施設への幅広い学習機会の提供
 - 227-1-3 児童生徒を対象とした事業
 - 228-1-4 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク等 1-4-1 講演会・シンポジウム 1-4-2 ゲストトーク 1-4-3 ギャラリー・トーク
 - 233-1-5 大学等との連携
- 2 刊行物
 - 234-2-1 カタログ
 - 235-2-2 目録・ガイド等
 - 236-2-3 NFCカレンダー等 2-3-1 NFCカレンダー 2-3-2 展覧会チラシ 2-3-3 上映会チラシ 2-3-4 こども映画館
 - 240-2-4 NFCニューズレター
 - 241-2-5 その他
- 3 広報
 - 242-3-1 美術館情報システムによる普及・広報

記録

- 1 国際交流
 - 244-1-1 平成23年度招聘者
 - 245-1-2 平成23年度来館者
- 2 日誌 247
- 3 予算 248-3-1 平成23年度歳出予算一覧
- 4 名簿
 - 249-4-1 東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)
 - 249-4-2 東京国立近代美術館評議員(映画部会)
 - 250-4-3 東京国立近代美術館職員

1 作品収集 List of Acquisitions

1-1 美術作品

種別	平成23年度収集点数	所蔵総点数
日本画	3	744
油彩 その他	2	1,193
版画	1	1,931
水彩・素描	17	747
彫刻(立体造形)	1	428
映像	0	24
書	2	21
写真	141	2,188
美術資料	0	3,140
計	165	10,416

1-2 工芸作品

種別	平成23年度収集点数	所蔵総点数
陶磁	69	908
ガラス	0	127
漆工	3	260
木工	7	79
竹工	0	38
染織	0	405
人形	7	87
金工	6	388
その他の工芸	0	9
工芸資料	1	29
工業デザイン	13	155
グラフィックデザイン	0	582
計	106	3,067

平成23年度における美術作品の購入、受贈による新収蔵作品は次のとおり。日本画3点(購入1点、受贈2点)、油彩 その他2点(受贈2点)、版画1点(受贈1点)、水彩・素描17点(受贈17点)、彫刻(立体造形) 1点(購入1点)、書2点(受贈2点)、写真141点(購入51点、受贈90点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of works of art during fiscal 2011 were as follows: 3 works of Japanese-style painting (1 purchased, 2 donated); 2 works of oil painting, etc. (2 donated); 1 work of print (1 donated); 17 works of watercolor and drawing (17 donated); 1 work of sculpture (1 purchased); 2 works of calligraphies (2 donated), and 141 photographic works (51 purchased, 90 donated).

日本画 Japanese-Style Paintings	狩野芳崖(1828-1888) <small>おうか ゆうくす</small> 桜下勇駒図 明治17年 紙本墨画淡彩 138.1×63.5cm 右中央に落款、印章 第2回内国絵画共進会(東京、上野公園、1884年) 奈良岩雄氏寄贈 J-742	狩野芳崖(1828-1888) <small>に おうそつ きす</small> 仁王捉鬼図 明治19年 紙本彩色 123.8×64.0cm 第2回鑑画会大会(東京、池之端松源、1886年) 購入 J-744
	KANO, Hogai (1828-1888) Dashing Horse under a Cherry Tree 1884 sumi and color on paper, hanging scroll 138.1×63.5cm	KANO, Hogai (1828-1888) Nio(Buddhistguardian) Seizing an Evil Spirit 1886 color on paper, hanging scroll 123.8×64.0cm

狩野芳崖(1828-1888)

獅子図

明治19年頃
 紙本墨画淡彩
 98.3×49.5cm
 左中央に落款、印章
 奈良岩雄氏寄贈
 J-743

KANO, Hogai (1828-1888)

Lions

c.1886
 sumi and color on paper, hanging scroll
 98.3×49.5cm

油彩 その他
Oil Paintings, etc.

麻生三郎(1913-2000)
とり
昭和15年
油彩・キャンバス
91.0×72.7cm
右下に署名、年記
第1回美術文化協会展(東京府美術館、1940年)
大桑康氏寄贈
O-1225

ASO, Saburo (1913-2000)
Birds
1940
oil on canvas
91.0×72.7cm

麻生三郎(1913-2000)
仰向けの人
昭和36年
油彩・キャンバス
145.5×112.0cm
右下に署名、中央下に年記
第25回自由美術家協会会員展(東京都美術館、1961年)
麻生美智子氏寄贈
O-1226

ASO, Saburo (1913-2000)
Figure on the Back
1961
oil on canvas
145.5×112.0cm

版画
Prints

恩地孝四郎(1891-1955)
あるヴァイオリニストの印象(諏訪根自子像)
昭和21年
木版(多色)・紙
42.5×34.8cm
右下に署名、年記、書込み(題名)
第15回日本版画協会展(東京都美術館、1947年)
恩地展子氏遺贈
P-1931

ONCHI, Koshiro (1891-1955)
Impression of a Violinist (Portrait of Suwa Nejiko)
1946
color woodcut
42.5×34.8cm

水彩・素描

Watercolors & Drawings

麻生三郎(1913-2000)
人
昭和10年
水彩、パステル・紙
19.5×29.3cm
右下に署名、年記
「麻生三郎展」(東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、愛知県美術館、2010-11年)
麻生美智子氏寄贈
W-242

ASO, Saburo (1913-2000)
Figure
1935
watercolor and pastel on paper
19.5×29.3cm

麻生三郎(1913-2000)
人
昭和10年
水彩、パステル、墨、鉛筆・紙
23.4×37.0cm
中央上に署名、台紙左下に年記
麻生美智子氏寄贈
W-243

ASO, Saburo (1913-2000)
Figure
1935
watercolor, pastel, sumi and pencil on paper
23.4×37.0cm

麻生三郎(1913-2000)
フィレンツェ
昭和13年
鉛筆、パステル・紙
25.0×32.7cm
左下に署名、年記、書込み
麻生美智子氏寄贈
D-547

ASO, Saburo (1913-2000)
Florence
1938
pencil and pastel on paper
25.0×32.7cm

麻生三郎(1913-2000)
焼けた家(隅田川)
昭和26年
インク・紙
20.5×28.8cm
左下に署名
麻生美智子氏寄贈
D-548

ASO, Saburo (1913-2000)
Burnt House (Sumida River)
1951
ink on paper
20.5×28.8cm

麻生三郎(1913-2000)
汐留
昭和30年頃
鉛筆・紙
25.2×35.6cm
左下に署名
麻生美智子氏寄贈
D-549

ASO, Saburo (1913-2000)
Shiodome
c.1955
pencil on paper
25.2×35.6cm

麻生三郎(1913-2000)

三軒茶屋

昭和32年頃
水彩、コンテ・紙
38.0×54.4cm
右下に署名
「麻生三郎展」(東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、愛知県美術館、2010-11年)
麻生美智子氏寄贈
W-244

ASO, Saburo (1913-2000)

Sangenjaya
c.1957
watercolor and conte on paper
38.0×54.4cm

麻生三郎(1913-2000)

作品

昭和33年
墨、油絵具・紙
38.2×45.5cm
右下に署名、年記
麻生美智子氏寄贈
D-550

ASO, Saburo (1913-2000)

Work
1958
sumi and oil on paper
38.2×45.5cm

麻生三郎(1913-2000)

鶯谷

昭和34年頃
インク・紙
25.7×30.2cm
右下に署名
麻生美智子氏寄贈
D-551

ASO, Saburo (1913-2000)

Uguisudani
c.1959
ink on paper
25.7×30.2cm

麻生三郎(1913-2000)

寝ている男

昭和38年
パステル、鉛筆・紙
14.3×19.5cm
右下に署名、年記
麻生美智子氏寄贈
D-552

ASO, Saburo (1913-2000)

Lying Man
1963
pastel and pencil on paper
14.3×19.5cm

麻生三郎(1913-2000)

寝ている男

昭和38年
鉛筆、色鉛筆・紙
29.7×37.6cm
右下に署名、年記
麻生美智子氏寄贈
D-553

ASO, Saburo (1913-2000)

Lying Man
1963
pencil and color pencil on paper
29.7×37.6cm

麻生三郎(1913-2000)

目

昭和42年
水彩、パステル、鉛筆・紙
31.8×24.0cm
左下に署名
麻生美智子氏寄贈
W-245

ASO, Saburo (1913-2000)

Eye
1967
watercolor, pastel and pencil on paper
31.8×24.0cm

麻生三郎(1913-2000)

目 C

昭和42年
水彩、パステル、鉛筆・紙
31.8×24.2cm
左下に署名
麻生美智子氏寄贈
W-246

ASO, Saburo (1913-2000)

Eye C
1967
watercolor, pastel and pencil on paper
31.8×24.2cm

麻生三郎(1913-2000)

人

昭和53年
コンテ、墨、鉛筆、水彩・紙
52.0×34.8cm
左下に署名、年記
麻生美智子氏寄贈
D-554

ASO, Saburo (1913-2000)

Figure
1978
conte, sumi, pencil and watercolor on paper
52.0×34.8cm

麻生三郎(1913-2000)

人

昭和53年
鉛筆、墨・紙
49.3×63.9cm
右下に署名
麻生美智子氏寄贈
D-555

ASO, Saburo (1913-2000)

Figure
1978
pencil and sumi on paper
49.3×63.9cm

麻生三郎(1913-2000)

雲

昭和60年
パステル、色鉛筆・紙
25.6×18.1cm
右下に署名、年記
個展(東京、南天子画廊、1998年)
麻生美智子氏寄贈
D-556

ASO, Saburo (1913-2000)

Clouds
1985
pastel and color pencil on paper
25.6×18.1cm

麻生三郎(1913-2000)

空 A

昭和61年
鉛筆、パステル・紙
21.8×26.7cm
右下に署名、年記
麻生美智子氏寄贈
D-557

ASO, Saburo (1913-2000)

Sky A
1986
pencil and pastel on paper
21.8×26.7cm

岸田劉生(1891-1929)

古屋芳雄像

大正5年
水彩・紙
24.5×18.8cm
右下に署名、左下に年記
古屋康子氏寄贈
W-241

KISHIDA, Ryusei (1891-1929)

Portrait of Koya Yoshio
1916
watercolor on paper
24.5×18.8cm

彫刻
Sculptures

辻晋堂(1910-1981)
樹
昭和31年
テラコッタ(陶彫)
33.0×38.0×29.0cm
個展(東京、丸善画廊、1956年)
購入
S-459

TSUJI, Shindo (1910-1981)
Tree
1956
terra cotta
33.0×38.0×29.0cm

書
Calligraphies

青山杉雨(1912-1993)
巍
昭和45年
墨・紙
76.0×47.0cm
左下に印章
公益財団法人 全国書美術振興会寄贈
C-20

AOYAMA, San-u (1912-1993)
Gi (lofty)
1970
sumi on paper
76.0×47.0cm

小林斗盞(1916-2007)
杯盤狼藉
昭和57年
墨・紙
34.1×22.2cm
中央下に署名、年記、書込み
第14回日展(東京都美術館、1982年)
小林俊明氏、小林高明氏寄贈
C-21

KOBAYASHI, Toan (1916-2007)
Haiban Rohzeki (glasses and plates lying in wild disorder)
1982
sumi on paper
34.1×22.2cm

写真
Photographic Works

中平卓馬(1938-)
無題 [#295]
平成19年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2033

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [#295]
2007
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D004 #387]
平成19年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2034

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D004 #387]
2007
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D011 #342]
平成17年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2035

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D011 #342]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D016 #326]
平成17年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2036

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D016 #326]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D033 #301]
平成17年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2037

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D033 #301]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D045 #308]

平成18年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2038

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D045 #308]
2006
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D054 #344]

平成17年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2039

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D054 #344]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D057 #303]

平成17年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2040

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D057 #303]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D080 #373]

平成18年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2041

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D080 #373]
2006
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D087 #363]

平成18年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2042

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D087 #363]
2006
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D092 #324]

平成21年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2043

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D092 #324]
2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D097 #357]

平成17年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2044

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D097 #357]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D121 #366]

平成18年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2045

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D121 #366]
2006
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D124 #323]

平成21年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2046

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D124 #323]
2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [D133 #431]

平成21年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2047

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [D133 #431]
2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K001 #437]

平成17年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2048

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K001 #437]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K002 #438]

平成17年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2049

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K002 #438]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K003 #439]

平成21年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2050

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K003 #439]

2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K006 #442]

平成21年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2051

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K006 #442]

2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K007 #443]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2052

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K007 #443]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K008 #444]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2053

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K008 #444]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K009 #445]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2054

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K009 #445]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K011 #447]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2055

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K011 #447]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K012 #448]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2056

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K012 #448]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K013 #449]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2057

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K013 #449]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K014 #450]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2058

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K014 #450]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K015 #451]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2059

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K015 #451]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K016 #452]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2060

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K016 #452]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K017 #453]

平成17年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2061

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K017 #453]

2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K019 #455]

平成17年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2062

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K019 #455]
2005
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K021 #457]

平成20年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2063

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K021 #457]
2008
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K022 #458]

平成20年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2064

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K022 #458]
2008
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K026 #462]

平成21年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2065

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K026 #462]
2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K031 #467]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2066

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K031 #467]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K034 #470]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2067

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K034 #470]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K035 #471]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2068

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K035 #471]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K036 #472]

平成21年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2069

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K036 #472]
2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K037 #473]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2070

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K037 #473]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K039 #475]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2071

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K039 #475]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K044 #480]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2072

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K044 #480]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K050 #486]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2073

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K050 #486]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K054 #490]

平成22年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2074

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K054 #490]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K059 #495]

平成22年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2075

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K059 #495]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K063 #499]

平成22年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2076

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K063 #499]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K064 #500]

平成22年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2077

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K064 #500]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K066 #502]

平成22年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2078

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K066 #502]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K068 #504]

平成22年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2079

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K068 #504]

2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K073 #509]

平成23年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2080

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K073 #509]

2011
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K075 #511]

平成23年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2081

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K075 #511]

2011
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K076 #512]

平成23年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2082

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K076 #512]

2011
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K078 #514]

平成23年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2083

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K078 #514]

2011
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K082 #518]

平成23年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2084

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K082 #518]

2011
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)

無題 [K083 #519]

平成23年
タイプCプリント、A. P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2085

NAKAHIRA, Takuma (1938-)

Untitled [K083 #519]

2011
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K085 #521]

平成19年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2086

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K085 #521]
2007
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K086 #522]

平成20年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2087

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K086 #522]
2008
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K088 #524]

平成20年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2088

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K088 #524]
2008
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K091 #527]

平成21年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2089

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K091 #527]
2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K095 #531]

平成21年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2090

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K095 #531]
2009
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K101 #537]

平成23年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2091

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K101 #537]
2011
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K103 #539]

平成23年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2092

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K103 #539]
2011
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K105 #541]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2093

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K105 #541]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K106 #542]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2094

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K106 #542]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K109 #545]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2095

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K109 #545]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中平卓馬(1938-)
無題 [K112 #548]

平成22年
タイプCプリント、A.P.
90.0×60.0cm
個展(大阪、Six、2011年)
株式会社コム・デ・ギャルソン寄贈
Ph-2096

NAKAHIRA, Takuma (1938-)
Untitled [K112 #548]
2010
type C print
90.0×60.0cm

中山岩太(1895-1949)
題名不詳 [ポートレート(小森敏)]

昭和2年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.9×19.5cm
画面内に署名、画面外右下にスタンプ、裏面に
年記
購入
Ph-2130

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)
Title Unknown [Portrait(Komori Toshi)]
1927
gelatin silver print
24.9×19.5cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
巴里の夜

昭和4年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
27.4×34.8(35.9×43.6)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-001

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Paris, Night from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1929(2010 print)
gelatin silver print
27.4×34.8(35.9×43.6)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
福助足袋

昭和5年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
34.5×27.0(43.5×35.9)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-002

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Fukusuke Tabi from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1930(2010 print)
gelatin silver print
34.5×27.0(43.5×35.9)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
・・・

昭和8年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
27.5×23.5(43.3×35.8)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-003

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

.... from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1933(2010 print)
gelatin silver print
27.5×23.5(43.3×35.8)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
コンポジション(ヌードとグラス)

昭和10年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
31.6×27.3(43.4×36.0)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-004

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Composition (Nude and Glass) from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1935(2010 print)
gelatin silver print
31.6×27.3(43.4×36.0)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
長い髪の女

昭和8年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
33.5×24.3(43.5×35.9)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-005

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Woman with Long Hair from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1933(2010 print)
gelatin silver print
33.5×24.3(43.5×35.9)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
上海から来た女

昭和11年頃(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
28.0×21.0(43.4×36.0)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-006

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Woman from Shanghai from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
c.1936(2010 print)
gelatin silver print
28.0×21.0(43.4×36.0)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
コンポジション

昭和10年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
31.5×25.6(43.3×36.0)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-007

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Composition from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1935(2010 print)
gelatin silver print
31.5×25.6(43.3×36.0)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
冬眠

昭和15年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
34.0×27.4(43.5×36.0)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-008

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Hibernation from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1940(2010 print)
gelatin silver print
34.0×27.4(43.5×36.0)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
イーヴ

昭和15年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
24.5×20.5(43.4×36.0)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-009

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Eve from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1940(2010 print)
gelatin silver print
24.5×20.5(43.4×36.0)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
蝶(一)

昭和16年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
33.5×26.3(43.7×36.2)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-010

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Butterfly #1 from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1941(2010 print)
gelatin silver print
33.5×26.3(43.7×36.2)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
静物

昭和23年頃(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
34.6×27.4(43.3×36.1)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-011

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Still Life from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
c.1948(2010 print)
gelatin silver print
34.6×27.4(43.3×36.1)cm

中山岩太(1895-1949)

「中山岩太ポートフォリオ 2010」より
デモンの祭典

昭和23年(平成22年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、ed.1/10
29.2×24.6(43.3×36.0)cm
裏面に中山聖(中山岩太の会代表)の署名、エディション番号
ポートフォリオ制作：中山岩太の会
購入
Ph-2131-012

NAKAYAMA, Iwata (1895-1949)

Festival Demon from *Iwata Nakayama Portfolio 2010*
1948(2010 print)
gelatin silver print
29.2×24.6(43.3×36.0)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
22.0×33.0(27.9×35.6)cm
購入
Ph-2132

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
22.0×33.0(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
21.8×33.0(27.9×35.6)cm
購入
Ph-2133

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
21.8×33.0(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.1×22.0(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2134

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.1×22.0(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.0×21.8(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2135

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.0×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.0×21.7(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2136

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.0×21.7(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
32.9×21.0(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2137

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
32.9×21.0(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
32.9×21.0(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2138

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
32.9×21.0(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
22.0×33.0(27.9×35.6)cm
購入
Ph-2139

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
22.0×33.0(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
22.5×33.2(27.9×35.6)cm
購入
Ph-2140

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
22.5×33.2(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.1×21.8(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2141

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.1×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.1×22.1(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2142

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.1×22.1(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)

「無国籍地」より

昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
32.7×21.9(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2143

NARAHARA, Ikko (1931-)

From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
32.7×21.9(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.0×21.6(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2144

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.0×21.9(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2145

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.0×21.8(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2146

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.0×21.6(35.6×27.9)cm

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.0×21.9(35.6×27.9)cm

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.0×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
32.9×21.9(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2147

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.0×21.8(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2148

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.0×21.8(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2149

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
32.9×21.9(35.6×27.9)cm

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.0×21.8(35.6×27.9)cm

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.0×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.1×21.4(35.6×27.9)cm
購入
Ph-2150

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(昭和62年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
21.9×32.8(27.9×35.6)cm
購入
Ph-2151

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(平成24年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
21.8×32.9(27.9×35.6)cm
作者寄贈
Ph-2029

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
33.1×21.4(35.6×27.9)cm

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(1987 print)
gelatin silver print
21.9×32.8(27.9×35.6)cm

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(2012 print)
gelatin silver print
21.8×32.9(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(平成24年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
33.5×20.8(35.6×27.9)cm
作者寄贈
Ph-2030

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(平成24年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
26.1×25.7(35.6×27.9)cm
作者寄贈
Ph-2031

奈良原一高(1931-)
「無国籍地」より
昭和29-31年(平成24年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
25.7×25.7(35.6×27.9)cm
作者寄贈
Ph-2032

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(2012 print)
gelatin silver print
33.5×20.8(35.6×27.9)cm

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(2012 print)
gelatin silver print
26.1×25.7(35.6×27.9)cm

NARAHARA, Ikko (1931-)
From "Stateless Land"
1954-56(2012 print)
gelatin silver print
25.7×25.7(35.6×27.9)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.5(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2097

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.5(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.1×28.5(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2098

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.1×28.5(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.5(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2099

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.5(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2100

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2101

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2102

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2103

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2104

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
22.1×28.5(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2105

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
22.1×28.5(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2106

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.7(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2107

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.7(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2108

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2109

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2110

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2111

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2112

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2113

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2114

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2115

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.7(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2116

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2117

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.7(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2118

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2119

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2120

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.5(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2121

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.5(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2122

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.1×28.5(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2123

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.1×28.5(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.7(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2124

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.7(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2125

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2126

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2127

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2128

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
山村千恵氏寄贈
Ph-2129

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
22.2×28.5(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2152

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
22.2×28.5(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2153

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.7(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2154

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.7(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.7(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2155

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.7(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2156

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2157

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.7(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.7(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2158

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.1×28.7(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2159

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2160

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.1×28.7(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2161

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2162

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2163

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2164

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.4×28.7(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2165

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.2×28.6(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2166

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
23.4×28.7(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.2×28.6(25.4×30.5)cm

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
22.1×28.5(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2167

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.1×28.5(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2168

山村雅昭(1939-1987)

「植物に」より

昭和49-50年
ゼラチン・シルバー・プリント
24.3×28.5(25.4×30.5)cm
購入
Ph-2169

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
22.1×28.5(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.1×28.5(25.4×30.5)cm

YAMAMURA, Gasho (1939-1987)

From "Plants"

1974-75
gelatin silver print
24.3×28.5(25.4×30.5)cm

平成23年度における工芸作品の購入、受贈による新収蔵作品は次のとおり。陶磁69点(購入19点、受贈50点)、漆工3点(購入2点、受贈1点)、木工7点(購入2点、受贈5点)、人形7点(購入1点、受贈6点)、金工6点(購入3点、受贈3点)、工芸資料1点(受贈1点)、工業デザイン13点(受贈13点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of crafts during fiscal 2011 were as follows: 69 ceramic works (19 purchased, 50 donated); 3 lacquerewares (2 purchased, 1 donated); 7 wood works (2 purchased, 5 donated); 7 dolls (1 purchased, 6 donated); 6 metal works (3 purchased, 3 donated); 1 reference material (1 donated), and 13 items of industrial design (13 donated)

<div style="text-align: center;"> <p>陶磁</p> <p>Ceramic Works</p> </div>	<p>石黒宗麿(1893-1968) 唐三彩馬 昭和3年頃 陶器 h13.5 w14.0 d6.0cm 寄贈 Cr0898</p>	<p>石黒宗麿(1893-1968) 鈎窰香炉 昭和3年頃 陶器 h8.2 D8.0cm 寄贈 Cr0925</p>
	<p>ISHIGURO, Munemaro (1893-1968) Ornament in shape of horse, three-colored ware c.1928 stoneware h13.5 w14.0 d6.0cm</p>	<p>ISHIGURO, Munemaro (1893-1968) Incense burner, chun ware c.1928 stoneware h8.2 D8.0cm</p>
<p>石黒宗麿(1893-1968) 鉄絵小壺 昭和3-11年頃 陶器 h8.5 D10.0cm 寄贈 Cr0911</p> <p>ISHIGURO, Munemaro (1893-1968) Small jar, <i>tetsu-e</i> c.1928-36 stoneware h8.5 D10.0cm</p>	<p>石黒宗麿(1893-1968) 天目釉土瓶 昭和3-11年頃 陶器 h12.0 w19.0 d14.0cm 寄贈 Cr0912</p> <p>ISHIGURO, Munemaro (1893-1968) Tea pot, <i>temmoku</i> style c.1928-36 stoneware h12.0 w19.0 d14.0cm</p>	<p>石黒宗麿(1893-1968) 絵刷毛目茶碗 昭和3-11年頃 陶器 h8.5 D11.0cm 寄贈 Cr0919</p> <p>ISHIGURO, Munemaro (1893-1968) Tea bowl, white slip brushed pattern c.1928-36 stoneware h8.5 D11.0cm</p>

石黒宗麿(1893-1968)

絵唐津土瓶

昭和13-11年頃
陶器
h17.0 w18.0 d13.0cm
寄贈
Cr0920

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea pot, *e-garatsu* type
c.1928-36
stoneware
h17.0 w18.0 d13.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

黒釉耳附壺

昭和13-11年頃
陶器
h27.0 D19.0cm
寄贈
Cr0928

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Vase with ears, black glaze
c.1928-36
stoneware
h27.0 D19.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

刷毛目徳利

昭和13-11年頃
陶器
h14.0 D9.0cm
寄贈
Cr0929

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Sake bottle, brush pattern
c.1928-36
stoneware
h14.0 D9.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

刷毛目碗

昭和13-11年頃
陶器
h6.5 D13.3cm
寄贈
Cr0931

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, brush pattern
c.1928-36
stoneware
h6.5 D13.3cm

石黒宗麿(1893-1968)

刷毛目茶碗

昭和13-11年頃
陶器
h6.0 D15.5cm
寄贈
Cr0932

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, brush pattern
c.1928-36
stoneware
h6.0 D15.5cm

石黒宗麿(1893-1968)

鉄絵香合

昭和13-11年頃
陶器
h5.0 D6.5cm
寄贈
Cr0936

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Incense case
c.1928-36
stoneware
h5.0 D6.5cm

石黒宗麿(1893-1968)

均窯盃

昭和15年頃
陶器
h4.5 D7.8cm
寄贈
Cr0899

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Sake cup
c.1930
stoneware
h4.5 D7.8cm

石黒宗麿(1893-1968)

黒釉徳利

昭和8年頃
陶器
h22.0 D16.0cm
寄贈
Cr0900

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Sake bottle, black glaze
c.1933
stoneware
h22.0 D16.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

蓋付壺

昭和9年頃
陶器
h14.0 D14.0cm
寄贈
Cr0910

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Lidded container
c.1934
stoneware
h14.0 D14.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

飴釉面取小皿

昭和9-10年頃
陶器
各h2.8 D11.0cm
寄贈
Cr0918

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)
Small dishes with faceted sides, brown ash
glaze
c.1934-35
stoneware
each h2.8 D11.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

刷毛目碗

昭和9-10年頃
陶器
h5.5 D15.7cm
寄贈
Cr0930

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, brush pattern
c.1934-35
stoneware
h5.5 D15.7cm

石黒宗麿(1893-1968)

茶碗

昭和9-10年頃
陶器
h5.4 D17.0cm
寄贈
Cr0933

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl
c.1934-35
stoneware
h5.4 D17.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

白瓷鉢

昭和10-11年頃
磁器
h7.7 D30.3cm
寄贈
Cr0902

石黒宗麿(1893-1968)

柿釉香合

昭和10-11年頃
陶器
h3.3 D5.5cm
寄贈
Cr0921

石黒宗麿(1893-1968)

柿釉コーヒー碗

昭和10-11年頃
陶器
カップ：各h5.5 w9.0 d7.5；ソーサー：各h2.0
D15.0cm
寄贈
Cr0922

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Bowl, white porcelain

c.1935-36
porcelain
h7.7 D30.3cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Incense case, reddish brown glaze

c.1935-36
stoneware
h3.3 D5.5cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

A set of coffee cups and saucers, reddish
blown glaze

c.1935-36
stoneware
cup: each. h5.5 w9.0 d7.5; saucer: each. h2.0 D15.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

柿釉汲出碗

昭和10-11年頃
陶器
各h6.5 D8.0cm
寄贈
Cr0923

石黒宗麿(1893-1968)

筒茶碗

昭和11年
陶器
h9.0 d10.0cm
購入
Cr0948

石黒宗麿(1893-1968)

千点文蓋物

昭和12-17年頃
陶器
h10.0 D9.0cm
寄贈
Cr0935

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea cups, reddish brown glaze

c.1935-36
stoneware
each h6.5 D8.0cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Sylindrical tea bowl

1936
stoneware
h9.0 d10.0cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Lidded container, chatter marks

c.1937-42
stoneware
h10.0 D9.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

緑褐釉注子

昭和15年頃
陶器
h8.5 w12.0 d10.0cm
寄贈
Cr0903

石黒宗麿(1893-1968)

黒釉茶碗

昭和16年頃
陶器
h8.0 D13.5cm
寄贈
Cr0926

石黒宗麿(1893-1968)

草花文壺

昭和17-19年頃
陶器
h18.0 D12.0cm
寄贈
Cr0908

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Ewer, greenish ash glaze

c.1940
stoneware
h8.5 w12.0 d10.0cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, black glaze

c.1941
stoneware
h8.0 D13.5cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Vase, flower pattern

c.1942-44
stoneware
h18.0 D12.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

流釉茶碗

昭和17-19年頃
陶器
h8.0 D15.0cm
寄贈
Cr0906

石黒宗麿(1893-1968)

白釉碗

昭和17-19年頃
陶器
h7.2 D14.5cm
寄贈
Cr0915

石黒宗麿(1893-1968)

白瓷輪花香炉

昭和17-19年頃
磁器
h6.0 D11.5cm
寄贈
Cr0914

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, *madara-garatsu* type

c.1942-44
stoneware
h8.0 D15.0cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, opaque glaze

c.1942-44
stoneware
h7.2 D14.5cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Incense burner in the shape of flower, white
porcelain

c.1942-44
porcelain
h6.0 D11.5cm

石黒宗麿(1893-1968)

唐津茶碗

昭和24-25年頃
陶器
h9.5 D10.0cm
寄贈
Cr0901

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, Karatsu ware
c.1949-50
stoneware
h9.5 D10.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

緑褐釉碗

昭和24-25年頃
陶器
h6.5 D13.5cm
寄贈
Cr0917

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, greenish brown glaze
c.1949-50
stoneware
h6.5 D13.5cm

石黒宗麿(1893-1968)

藍彩碗

昭和24-25年頃
陶器
h9.0 D12.0cm
購入
Cr0950

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, cobalt blue splotches on white ground
c.1949-50
stoneware
h9.0 D12.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

黒釉葉文碗

昭和24-25年頃
陶器
h9.0 D10.0cm
購入
Cr0952

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, leaf design, black glaze
c.1949-50
stoneware
h9.0 D10.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

黒釉茶碗 春雪

昭和25-27年頃
陶器
h7.8 D12.8cm
購入
Cr0949

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, "Spring Snow", black glaze with dotted white pattern
c.1950-52
stoneware
h7.8 D12.8cm

石黒宗麿(1893-1968)

茶碗 魚屋

昭和25-29年頃
陶器
h6.2 D16.5cm
寄贈
Cr0909

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, "Totoya"
c.1950-54
stoneware
h6.2 D16.5cm

石黒宗麿(1893-1968)

鵲鳩斑小壺

昭和27年頃
陶器
h16.5 D15.5cm
寄贈
Cr0904

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Small vase, "partridge feather" pattern
c.1952
stoneware
h16.5 D15.5cm

石黒宗麿(1893-1968)

茶碗

昭和27-41年頃
陶器
h7.8 D13.0cm
寄贈
Cr0913

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl
c.1952-66
stoneware
h7.8 D13.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

魚屋碗

昭和27-41年頃
陶器
h7.0 D18.0cm
寄贈
Cr0924

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, *totoya* type
c.1952-66
stoneware
h7.0 D18.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

柿天目茶碗 夕映

昭和27-41年頃
陶器
h6.5 D16.5cm
購入
Cr0951

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, "Evening Glow", reddish brown glaze
c.1952-66
stoneware
h6.5 D16.5cm

石黒宗麿(1893-1968)

荒土碗

昭和28年頃
陶器
h9.5 D12.0cm
寄贈
Cr0905

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl
c.1953
stoneware
h9.5 D12.0cm

石黒宗麿(1893-1968)

黒釉碗

昭和30年代
陶器
h7.2 D14.3cm
寄贈
Cr0927

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl, black glaze
c.1955-64
stoneware
h7.2 D14.3cm

石黒宗麿(1893-1968)

南蛮壺

昭和41年
陶器
h17.5 D12.0cm
寄贈
Cr0907

石黒宗麿(1893-1968)

美濃出土山茶碗

不詳
陶器
h6.5 D16.5cm
寄贈
Cr0916

石黒宗麿(1893-1968)

失透釉皿

不詳
陶器
各h3.5 D14.5cm
寄贈
Cr0934

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Vase, *namban* type
1966
stoneware
h17.5 D12.0cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Tea bowl
unknown
stoneware
h6.5 D16.5cm

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Dishes, opaque glaze
unknown
stoneware
each h3.5 D14.5cm

小川待子(1946-)

無題

平成20年
陶器
h23.0 D61.0cm
個展(東京、阿曾美術、2008年)
購入
Cr0953

加藤孝造(1935-)

黄瀬戸扁壺

平成15年
陶器
h39.5 w23.1 d22.3cm
寄贈
Cr0940

加藤孝造(1935-)

瀬戸黒茶鉢 昇竜

平成23年
陶器
h10.0 w13.0 d12.7cm
寄贈
Cr0937

OGAWA, Machiko (1946-)

Untitled
2008
stoneware
h23.0 D61.0cm

KATO, Kozo (1935-)

Vase, *kizeto* type
2003
stoneware
h39.5 w23.1 d22.3cm

KATO, Kozo (1935-)

Tea bowl, "Rising Dragon", *setoguro* ware
2011
stoneware
h10.0 w13.0 d12.7cm

加藤孝造(1935-)

志野茶鉢 和合

平成23年
陶器
h9.9 w13.4 d13.2cm
寄贈
Cr0938

加藤孝造(1935-)

志野茶鉢 秀峯

平成23年
陶器
h10.1 w12.0 d12.2cm
寄贈
Cr0939

加藤卓男(1917-2005)

三彩花器 碧い山

昭和38年
陶器
h32.6 w50.2 d44.8cm
第6回新日展(東京都美術館、1963年)
購入
Cr0954

KATO, Kozo (1935-)

Tea bowl, "Harmony", *shino* ware
2011
stoneware
h9.9 w13.4 d13.2cm

KATO, Kozo (1935-)

Tea bowl, "Magnificent Mountain", *shino*
ware
2011
stoneware
h10.1 w12.0 d12.2cm

KATO, Takuo (1917-2005)

Bowl, "Blue Mountain", three-color glaze
1963
stoneware
h32.6 w50.2 d44.8cm

北川宏人(1967-)

TU07007一水玉

平成19年
陶器
h163.5 w41.0 d24.5cm
個展(東京、新宿高島屋、2007年)
購入
Cr0955

笹山忠保(1939-)

赤滴紋四曲屏風

昭和57年
陶器
h70.0 w120.0 d30.0cm
寄贈
Cr0943

里中英人(1932-1998)

傷跡A・B・C

昭和48年
陶器、金属
A:h5.8 w25.0 d14.3cm、B:h2.5 w40.0 d20.0cm、
C:h3.5 w25.0 d14.0cm
個展(東京、南青山グリーンギャラリー、1973年)
寄贈
Cr0944

KITAGAWA, Hiroto (1967-)

TU07007 - dots
2007
stoneware
h163.5 w41.0 d24.5cm

SASAYAMA, Tadayasu (1939-)

Four-fold screen, red drops pattern
1982
stoneware
h70.0 w120.0 d30.0cm

SATONAKA, Hideto (1932-1998)

Scar A,B,C
1973
stoneware, metal
A:h5.8 w25.0 d14.3cm、B:h2.5 w40.0 d20.0cm、
C:h3.5 w25.0 d14.0cm

里中英人(1932-1998)
ワイン・グラスの悪夢

昭和50年
陶器、ガラス
h17.0 w13.5 d19.0 ; h14.5 w14.5 d17.0cm
個展(東京、南青山グリーンギャラリー、1975年)
寄贈
Cr0945

SATONAKA, Hideto (1932-1998)
Wineglass Nightmare
1975
stoneware, glass
h17.0 w13.5 d19.0; h14.5 w14.5 d17.0cm

里中英人(1932-1998)
陶板・シリーズ韻(黒)

昭和57-平成元年頃
陶器
26.2×26.2cm
寄贈
Cr0946

SATONAKA, Hideto (1932-1998)
Plaques : A series of rhyme (black)
c.1982-89
stoneware
26.2×26.2cm

里中英人(1932-1998)
私の世紀末

昭和63-平成元年頃
陶器、金属
h8.5 w100.0 d30.0cm
寄贈
Cr0947

SATONAKA, Hideto (1932-1998)
The End of My Century
c.1988-89
stoneware, metal
h8.5 w100.0 d30.0cm

ザウリ、カルロ(1926-2002)
壺

昭和29年
陶器
h25.4 w17.8 d10.4cm
購入
Cr0956

ZAULI, Carlo (1926-2002)
Vase
1954
stoneware
h25.4 w17.8 d10.4cm

ザウリ、カルロ(1926-2002)
飾皿

昭和32年
陶器
h4.8 w20.6 d39.0cm
購入
Cr0957

ZAULI, Carlo (1926-2002)
Tray
1957
stoneware
h4.8 w20.6 d39.0cm

ザウリ、カルロ(1926-2002)
歪められた壺

昭和51年
陶器
h17.0 w22.4 d21.9cm
寄贈
Cr0942

ZAULI, Carlo (1926-2002)
Vase
1976
stoneware
h17.0 w22.4 d21.9cm

ザウリ、カルロ(1926-2002)
塔

昭和60年
陶器
h210.0 w24.6 d14.5cm
購入
Cr0958

ZAULI, Carlo (1926-2002)
Stele
1985
stoneware
h210.0 w24.6 d14.5cm

島田文雄(1948-)
彩磁カトリア文大壺

平成20年
磁器
h37.1 D37.2cm
個展(東京、日本橋三越本店、2008年)
購入
Cr0959

SHIMADA, Fumio (1948-)
Large jar, cattleya design, underglaze colors
2008
porcelain
h37.1 D37.2cm

トラモンティ、ゲッリーノ(1915-1992)
静物画

昭和36年
陶器
h4.9 w65.2 d29.9cm
購入
Cr0960

TRAMONTI, Guerrino (1915-1992)
Still Life
1961
stoneware
h4.9 w65.2 d29.9cm

トラモンティ、ゲッリーノ(1915-1992)
二重構造のフォルム

昭和41-43年頃
陶器
h18.2 D40.5cm
寄贈
Cr0941

TRAMONTI, Guerrino (1915-1992)
Double Crater Shape
c.1966-68
stoneware
h18.2 D40.5cm

三原研(1958-)
炆器 起源

平成20年
陶器
h52.7 w48.0 d20.6cm
日本陶磁協会賞受賞作家展(東京、和光、2008年)
購入
Cr0961

MIHARA, Ken (1958-)
Vessel, "Origin"
2008
stoneware
h52.7 w48.0 d20.6cm

三代宮永東山(理吉)(1935-)
パイプ

昭和45年
磁器
h34.5 w30.0 d14.0cm
六人の日本青年陶芸家展(アメリカ、スクリップス大学ギャラリー)
購入
Cr0962

MIYANAGA, Tozan III (Rikichi, 1935-)
Pipe
1970
porcelain
h34.5 w30.0 d14.0cm

三代宮永東山(理吉)(1935-)

格子 A

昭和45年
陶器
h35.0 w36.0 d25.0cm
個展(京都、ギャラリーココ)
購入
Cr0963

MIYANAGA, Tozan III (Rikichi, 1935-)

Lattice A

1970
stoneware
h35.0 w36.0 d25.0cm

三代宮永東山(理吉)(1935-)

色の橋

昭和53年
磁器
h55.0 w41.5 d15.0cm
走泥社展
購入
Cr0964

MIYANAGA, Tozan III (Rikichi, 1935-)

Bridge of Many Colors

1978
porcelain
h55.0 w41.5 d15.0cm

三代宮永東山(理吉)(1935-)

立方体の会話

昭和53年
磁器
h34.2 w21.3 d20.8; h32.4 w22.6 d22.0cm
購入
Cr0965

MIYANAGA, Tozan III (Rikichi, 1935-)

Cubes Meeting

1978
porcelain
h34.2 w21.3 d20.8; h32.4 w22.6 d22.0cm

八木一夫(1918-1979)

漂流

昭和36年
陶器
h40.0 w24.0 d22.0cm
購入
Cr0966

YAGI, Kazuo (1918-1979)

Drifting

1961
stoneware
h40.0 w24.0 d22.0cm

漆工

Lacquerwares

服部峻昇(1943-)

耀貝二曲屏風 水面に映る陽光

平成19年
漆、蒔絵、螺鈿
160.0×130.0cm
第39回改組日展(国立新美術館、2007年)
寄贈
Lc0262

HATTORI, Syunsho (1943-)

Two-fold screen, "Sunlight Reflected on Water Surface", *maki-e*

2007
lacquer, *maki-e*, *raden*
160.0×130.0cm

増村紀一郎(1941-)

乾漆朱輪花鉢

昭和56年
漆、乾漆
h9.8 D37.6cm
第28回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、1981年)
購入
Lc0263

MASUMURA, Kiichiro (1941-)

Floral-shaped bowl, cinnabar lacquer, *kanshiisu*

1981
lacquer, *kanshiisu*
h9.8 D37.6cm

松田権六(1896-1986)

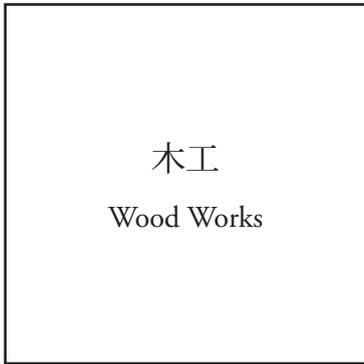
三保の富士蒔絵棗

昭和52年
漆、蒔絵、卵殻
h8.9 D8.7cm
第24回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、1977年)
購入
Lc0264

MATSUDA, Gonroku (1896-1986)

Tea caddy, "Looking up Mt. Fuji from Miho Pine Beach", *maki-e* and *rankaku*

1977
lacquer, *maki-e*, *rankaku*
h8.9 D8.7cm



鈴木光爾(1942-)

チーク八角食籠

昭和63年
木(チーク)
h11.6 D26.0cm
第35回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、1988年)
寄贈
Wd0073

SUZUKI, Koji (1942-)

Octagonal food container, teakwood
1988
wood (teak), joining
h11.6 D26.0cm

鈴木光爾(1942-)

樺拭漆切子面箱 天星・朧朧

平成17年
木(樺)、象嵌
h12.5 w26.5 d26.5cm
第52回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、2005年)
寄贈
Wd0074

SUZUKI, Koji (1942-)

Polyhedral box, "Tensei-roro", clear lacquer on zelkova wood
2005
wood (zelkova), joining
h12.5 w26.5 d26.5cm

須田賢司(1954-)

胡桃寄木造印筒 紫微垣

平成元年
木(胡桃)、指物
h20.0 w21.3 d21.3cm
第36回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、1989年)
寄贈
Wd0075

SUDA, Kenji (1954-)

Seal box "Shibien (The Constellation of the Lord)", mosaic of walnut wood
1989
wood (walnut), joining
h20.0 w21.3 d21.3cm

須田賢司(1954-)

黒柿拭漆小筆筒

平成6年
木(黒柿)、指物
h13.3 w37.0 d10.4cm
第41回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、1994年)
購入
Wd0078

SUDA, Kenji (1954-)

Box of drawers, clear lacquer on black persimmon wood
1994
wood (black persimmon), joining
h13.3 w37.0 d10.4cm

須田賢司(1954-)

楓造拭漆嵌装箱 湖上月夜

平成13年
木(楓)、象嵌
h13.5 w56.0 d12.5cm
第48回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、2001年)
寄贈
Wd0076

SUDA, Kenji (1954-)

Box, "Kajo-getsuya (Moon over a lake)", moon design in inlay, clear lacquer on maple wood
2001
wood (maple), joining, inlay
h13.5 w56.0 d12.5cm

須田悦弘(1969-)

葉

平成19年
木(朴)、木彫、彩色
h1.5 ~ 2.3 w9.5 ~ 11.3 d4.0 ~ 5.2cm
「工芸の力ー21世紀の展望」展(東京国立近代美術館工芸館、2007年)
購入
Wd0079

SUDA, Yoshihiro (1969-)

Leaves
2007
wood (Japanese magnolia), wood carving, painted
h1.5-2.3 w9.5-11.3 d4.0-5.2cm

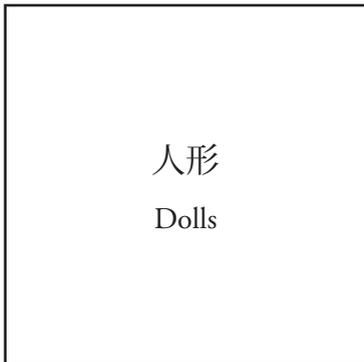
藤寄一正(1943-)

樺拭漆削貫稜線筒

平成21年
木(樺)、削貫
h14.0 w35.0 d20.0cm
第56回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、2009年)
寄贈
Wd0077

FUJISAKI, Kazumasa (1943-)

Box with ridge, clear lacquer on zelkova wood
2009
wood (zelkova wood), scooping
h14.0 w35.0 d20.0cm



野口光彦(1896-1977)

太陽の子

昭和42年
桐、木彫、胡粉仕上げ
h34.0cm
寄贈
DI0083

NOGUCHI, Mitsuhiro (1896-1977)

Child of the Sun
1967
paulownia, *gofun* (powdered shell), carving, polished
h34.0cm

野口光彦(1896-1977)

富士雛 清浄・暁光

昭和43年
桐、木彫、胡粉仕上げ、布
男雛：h26.2；女雛：h22.2cm
寄贈
DI0084

NOGUCHI, Mitsuhiro (1896-1977)

Hina Doll, "Purity", "Dawn Light"
1968
paulownia, *gofun* (powdered shell), carving, polished, cloth
man: h26.2 ; woman: h22.2cm

野口光彦(1896-1977)

童心洋々

昭和52年頃
桐、木彫、胡粉仕上げ
h23.0cm
寄贈
DI0085

野口光彦(1896-1977)

歡喜童子

制作年不詳
桐、木彫、胡粉仕上げ、布
h20.0cm
寄贈
DI0081

野口光彦(1896-1977)

朝露

制作年不詳
桐、木彫、胡粉仕上げ
h20.5cm
寄贈
DI0082

NOGUCHI, Mitsuhiko (1896-1977)

Limitless Innocence

c.1977
paulownia, *gofun* (powdered shell), carving, polished
h23.0cm

NOGUCHI, Mitsuhiko (1896-1977)

Rejoicing Child

unknown
paulownia, *gofun* (powdered shell), carving, polished,
cloth
h20.0cm

NOGUCHI, Mitsuhiko (1896-1977)

Morning Dew

unknown
paulownia, *gofun* (powdered shell), carving, polished
h20.5cm

野口光彦(1896-1977)

立雛

制作年不詳
桐、木彫、胡粉仕上げ、紙
男雛：h29.3；女雛：h24.3cm
寄贈
DI0086

面屋庄甫(1947-)

祈りの舞

平成20年
桐、木彫、胡粉仕上げ、着せつけ
h31.0cm
個展(京都、高島屋、2008年)
購入
DI0087

NOGUCHI, Mitsuhiko (1896-1977)

Standing Hina Dolls

unknown
paulownia, *gofun* (powdered shell), carving, polished,
paper
man: h29.3 ; woman: h24.3cm

MENYA, Shoho (1947-)

Prayer Dance

2008
paulownia, *roso* (paulownia saudest paste), *gofun*
(powdered shell), cloth, costumed
h31.0cm

金工

Metal Works

大角幸枝(1945-)

銀打出花器 潜龍

平成21年
銀、金箔
h25.0 w25.0 d25.0cm
第56回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、
2009年)
購入
Mr0399

奥山峰石(1937-)

接合せ花器

平成5年
赤銅、銀、接合、鍛造
h19.0 D19.0cm
第40回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、
1993年)
寄贈
Mr0396

OSUMI, Yukie (1945-)

Silver vase, "Underwater Dragon"

2009
silver, gold leaf
h25.0 w25.0 d25.0cm

OKUYAMA, Hoseki (1937-)

Vase, joined and hammered *shakudo* and
silver

1993
shakudo (copper alloy with gold), silver, hammering
h19.0 D19.0cm

奥山峰石(1937-)

臚銀鉢 2000

平成12年
臚銀、鍛造
h15.5 D22.3cm
第47回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、
2000年)
寄贈
Mr0397

奥山峰石(1937-)

打込象嵌花器 新緑

平成13年
臚銀、赤銅、打込象嵌、鍛造
h32.7 D30.2cm
第48回日本伝統工芸展(東京、日本橋三越本店、
2001年)
寄贈
Mr0398

畠山耕治(1956-)

六つの面

平成22年
青銅鑄造、焼色、銀箔
h34.0 w36.5 d19.0cm
個展(東京、エキジブション・スペース、2010年)
購入
Mr0400

OKUYAMA, Hoseki (1937-)

Bowl, *rogin*

2000
rogin (copper alloy with silver), hammering
h15.5 D22.3cm

OKUYAMA, Hoseki (1937-)

Flower vase, "Fresh Verdure", beat-inlaid
trees design

2001
rogin (copper alloy with silver), *shakudo*, beat-inlay, hammering
h32.7 D30.2cm

HATAKEYAMA, Koji (1956-)

Six Faces

2010
bronze, casting
h34.0 w36.5 d19.0cm

畠山耕治(1956-)

八つの面

平成22年

青銅鑄造、焼色、銀箔

h34.0 w37.0 d16.0cm

個展(東京、エキジビション・スペース、2010年)

購入

Mr0401

HATAKEYAMA, Koji (1956-)

Eight Faces

2010

bronze, casting

h34.0 w37.0 d16.0cm

工芸資料

Reference Materials

石黒宗麿(1893-1968)

手紙

昭和34年

紙本墨書、軸装

寄贈

Rf0029

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Letter

1959

sumi ink, paper, scroll

工業デザイン

Industrial Design

栄木正敏(1944-)

手描きの食器

昭和46年

半磁器

カップ: h6.5 w7.2 d10.2; ソーサー: h1.8 D14.5cm

製作: 新留製陶所、加正製陶所

寄贈

Id0143

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Hand-drawn tableware

1971

semiporcelain

cup: h6.5 w7.2 d10.2; saucer: h1.8 D14.5cm

栄木正敏(1944-)

Jシリーズ「ブラウン・フラワー」

昭和48年

半磁器

皿(大): h2.6 w29.7 d29.5; ティーポット: h13.0 w21.0

d12.0cm、皿(中、小)、深皿、長角皿、カップ(大、小、デミタス)、

ソーサー(大、小、デミタス)、シュガーポット、クリーマー

製作: 新留製陶所、加正製陶所

寄贈

Id0144

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Brown Flower, J Series

1973

semiporcelain

plate(large): h2.6 w29.7 d29.5; tea pot: h13.0 w21.0 d12.0cm, plate(middle, small), bowl plate,

large square plate, cup(large, small, demitasse), saucer (large, small, demitasse), sugar bowl, creamer

栄木正敏(1944-)

Jシリーズ「ブルー・フラワー」

昭和48年

半磁器

皿(特大): h2.6 w29.7 d29.5cm; 皿(大、小)、長

深皿、カップ(大、小)、ソーサー(大、小)

製作: 新留製陶所、加正製陶所

寄贈

Id0145

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Blue Flower, J Series

1973

semiporcelain

plate(super large): h2.6 w29.7 d29.5cm; plate(large, small), bowl plate, cup(large, small), saucer(large, small)

栄木正敏(1944-)

天目ディナーウェア

昭和54年

ストーンウェア

皿(大): h4.3 w38.3 d32.4cm、皿(中、小)、片手付

皿、深皿、丸深皿(小)、薬味入、キャセロール

製作: 霞仙陶苑

寄贈

Id0146

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Dinnerware in the *Temmoku* style

1979

stoneware

plate(large): h4.3 w38.3 d32.4cm, plate(middle, small),

dish with handle, bowl plate, roundbowl plate(small),

spice box, casserole

栄木正敏(1944-)

片口組みボール

昭和54年

半磁器

(特大): h8.3 w25.1 d22.6; (大): h7.0 w21.1 d18.8;

(中): h5.8 w15.1 d13.0; (小): h5.0 w10.9 d9.3; (特

小) h4.3 w7.2 d6.0cm

製作: 加正製陶所

寄贈

Id0147

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

A set of lipped bowls

1979

semiporcelain

(superlarge): h8.3 w25.1 d22.6; (large): h7.0 w21.1 d18.8; (middle): h5.8

w15.1 d13.0; (small): h5.0 w10.9 d9.3; (special small)h4.3 w7.2 d6.0cm

栄木正敏(1944-)
白マット茶器セット

昭和54年
半磁器
土瓶：h18.5 w16.5 d11.5；急須(大)：h11.0 w17.3 d15.0；急須(中)：9.5 w15.5 d13.0；急須(小)：8.0 w15.0 d12.5；汲出：h6.0 D8.5cm
製作：加正製陶所
寄贈
Id0148

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

A matte glazed tea set
1979
semiporcelain
tea pot with bamboo handle: h18.5 w16.5 d11.5; tea pot(large): h11.0 w17.3 d15.0;
tea pot(middle): 9.5 w15.5 d13.0; tea pot(small): 8.0 w15.0 d12.5; cup: h6.0 D8.5cm

栄木正敏(1944-)

WAVE

昭和61-62年
アイボリー磁器
タンブラー(大)：h9.0 D8.0；タンブラー(中)：h7.5 D7.0；タンブラー(小)：h4.6 d5.8；水差(大)：h16.8 w11.5 d8.3cm
製作：伊富製陶
寄贈
Id0151

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Wave
1986-87
ivory porcelain
tumbler(large): h9.0 D8.0; tumbler(middle): h7.5 D7.0;
tumbler(small): h4.6 d5.8; pitcher(large): h16.8 w11.5 d8.3cm

栄木正敏(1944-)
組み合わせプレート

平成11年
磁器
(正角)：h2.2 w21.5 d21.5；(半月)：h2.2 w21.9 d22.0cm
製作：陶楽園製陶所
寄贈
Id0154

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Combination plates
1999
porcelain
square plate: h2.2 w21.5 d21.5; half-moon-shaped
plate: h2.2 w21.9 d22.0cm

栄木正敏(1944-)
ブルーライン

昭和58年
半磁器
皿(大)：h3.0 w25.7 d22.6；ポット：h11.8 w18.0 d11.0cm、皿(中、小)、カップ(大、小)、ソーサー、シュガーポット、クリーマー、キッチンポット(大、中、小、特小)
製作：栄木正敏デザイン研究所
寄贈
Id0149

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Blue Line
1983
semiporcelain
plate(large): h3.0 w25.7 d22.6; pot: h11.8 w18.0 d11.0cm, plate(middle, small),
cup(large, small), saucer, sugar bowl, creamer, container(large, middle, small, special small)

栄木正敏(1944-)

CLAY WAVE

昭和62年
ストーンウェア
皿(特大)：h3.0 w30.0 d30.0；ボール(特大)：h10.2 w31.4 d31.1cm、皿(大、中、小)、ボール(大、中、小、特小)
製作：共同セラミック
寄贈
Id0152

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Clay Wave
1987
stoneware
plate(super large): h3.0 w30.0 d30.0; bowl(super large): h10.2 w31.4 d31.1cm, plate(large, middle, small), bowl(large, middle, small, special small)

栄木正敏(1944-)

マグカップ

平成16年
半磁器
各h9.0 w12.5 d8.7cm
製作：新留製陶所
寄贈
Id0155

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Mugs
2004
semiporcelain
each h9.0 w12.5 d8.7cm

栄木正敏(1944-)

COMPACT

昭和58-59年
磁器または半磁器
カップ：h6.2 w11.0 d8.3；ソーサー：h1.5 w15.1 d14.7；ポット：h13.0 w17.8 d9.5；シュガーポット：h7.0 w10.5 d8.3；クリーマー：h6.5 w8.4 d6.0；スプーン：h1.7 w11.8 d3.2cm
製作：栄木正敏デザイン研究所、伊富製陶
寄贈
Id0150

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Compact
1983-84
porcelain or semiporcelain
cup: h6.2 w11.0 d8.3; saucer: h1.5 w15.1 d14.7; pot: h13.0 w17.8 d9.5; sugar
bowl: h7.0 w10.5 d8.3; creamer: h6.5 w8.4 d6.0; spoon: h1.7 w11.8 d3.2cm

栄木正敏(1944-)

ハンドルの器シリーズ

平成6-15年
半磁器
ポット(大)：h11.0 w19.4 d11.5；ポット(小)：h10.0 d9.4 w16.7；クリーマー：h12.6 w14.0 d8.4cm
製作：新留製陶所
寄贈
Id0153

SAKAEGI, Masatoshi (1944-)

Handle Vessel Series
1994-2003
semiporcelain
pot(large): h11.0 w19.4 d11.5; pot(small): h10.0 d9.4
w16.7; creamer h12.6 w14.0 d8.4cm

平成23年度に修理した美術作品は次のとおり。

日本画3件、油彩その他10件、版画6件、水彩・素描18件、彫刻(立体造形) 1件、資料4件

◆日本画

J-110 松林桂月《春宵花影図》

表装の仕立て直し

J-526 徳岡神泉《赤松》

しみの除去、絵具層の剥落止め、新規裏打ち

J-584 橋本明治《赤い椅子》

絵具層の亀裂、浮き上がり部分の固着

◆油彩 その他

O-82 古賀春江《庭先》

絵具層の亀裂接着

O-121 古賀春江《花》

絵具層の亀裂接着

O-132 古賀春江《農夫の家族》

額の調整

O-176 居串佳一《採水風景》

絵具層の亀裂接着、キャンバスの張りを調整、木枠の整形

O-179 佐分真《午後》

絵具層の亀裂接着、剥落部分の固着と充填補彩

O-366 佐分真《画室》

画面洗浄、剥落部分の固着と充填補彩、キャンバスの張りを調整

O-589 瑛九《赤い輪》

絵具層の亀裂、浮き上がり部分の固着、剥落部分の固着と充填補彩、裏面の洗浄、木枠分離

O-977 瑛九《れいめい》

絵具層の亀裂、浮き上がり部分の固着

O-839 田中敦子《作品 66 - SA》

絵具層の亀裂、浮き上がり部分の固着

O-1073 三岸好太郎《雲の上を飛ぶ蝶》

絵具層の亀裂接着

◆版画

P-47-34 織田一磨《「大阪風景」より 京町橋(夜景)》

画面洗浄、しみ・斑点・テープ痕の除去

P-265 川西祐三郎《積雪》

水洗処理、斑点部分の漂白

P-342 海老原喜之助《蝶》

浮き上がり接着

P-1076 藤牧義夫《墓(雪)初作》

台紙から分離、ヒンジ固定

P-1088 藤牧義夫《郊外の道》

台紙から分離、本紙の変形を伸張

P-1907 谷中安規《青春の蝶》

台紙から分離、ヒンジ固定

◆水彩・素描

D-8 森田恒友《冬田》

脱酸処理、斑点の除去

M-71-12 古賀春江《風景》
絵具の浮き上がり部分の接着、付着物の除去
M-80A 古賀春江《遊園地》
絵具の浮き上がり部分の接着、本紙の変形を伸張
D-50 戸張孤雁《素描》
画面洗浄、テープ接着剤の除去
D-51 戸張孤雁《素描(女の顔)》
画面洗浄、ラベルの分離
D-52 戸張孤雁《素描》
画面洗浄、周縁の補強
D-53 戸張孤雁《素描》
画面洗浄、ラベルの分離
D-54 戸張孤雁《素描(綱渡り)》
画面洗浄、テープ接着剤の除去
D-55 戸張孤雁《素描》
画面洗浄、テープ接着剤の除去
D-56 戸張孤雁《素描(玉乗り)》
画面洗浄、テープ接着剤の除去
D-57 戸張孤雁《素描(綱渡り)》
画面洗浄、テープ接着剤の除去
D-58 戸張孤雁《素描(ブランコ曲芸)》
画面洗浄、テープ接着剤の除去
D-59 戸張孤雁《素描(女義太夫)》
画面洗浄、テープ接着剤の除去
D-60 戸張孤雁《素描(千住大橋の雨)》
画面洗浄、テープ接着剤の除去、ラベルの分離
D-61 戸張孤雁《素描》
画面洗浄
D-65 戸張孤雁《素描(曲芸)》
画面洗浄、テープ接着剤の除去
D-494 ミシヨー、アンリ《墨》
台紙から分離、本紙の変形を伸張
W-214 ミシヨー、アンリ《グアッシュ》
絵具の浮き上がり部分の固着

◆彫刻

S-148 ノグチ、イサム《門》
ケレン・清掃処理、錆止め塗装、塗装

◆資料

M-632 岸田劉生《随筆(明治44年)》
脱酸処理、綴じ糸の補強、破損頁の補強
M-632 岸田劉生《日記(大正8年8月5日-8月10日、12月12日)》
脱酸処理、綴じ糸の補強、破損頁の補強
M-632 岸田劉生《日誌(明治40年2月1日-明治41年6月12日)》
脱酸処理、綴じ糸の補強、破損頁の補強
M-632 岸田劉生《博文館当用日記 大正11年》
脱酸処理、綴じ糸の補強、破損頁の補強

平成23年度に修理した美術作品は次のとおり。

漆工1件、染織1件

◆漆工

Lc0043 松田権六《蒔絵螺鈿有職文飾箱》 昭和35年
汚れ除去、塗面の漆固め・養生、擦傷修復等の現状保存修復

◆染織

Tx0148 木村雨山《縮緬地友禅梅文訪問着》 昭和46年
洗い張り、シミ、カビの除去、焼け修復等の現状保存修復

1 展覧会 Exhibitions

1-1 入館者数

平成23年度入館者数(人)

	所蔵作品展	企画展	合計
本館	176,371	397,150	573,521
工芸館	47,925	65,589	113,514
入館者総数	224,296	462,739	687,035

回数	展覧会名	入館者数(人)
472 (工93)	ガラス★高橋禎彦	16,856人 (1日平均482人) (平成22年度中 4,449人 合計21,305人)
473	生誕100年 岡本太郎展	134,688人 (1日平均3,848人) (平成22年度中 26,896人 合計161,584人)
474 (工94)	増田三男 清爽の彫金——そして、富本憲吉	7,573人 (1日平均210人)
475	パウル・クレー—おわらないアトリエ	125,092人 (1日平均2,274人)
476	レオ・ルビンファイン 傷ついた街	17,620人 (1日平均280人)
477	イケムラレイコ うつりゆくもの	13,320人 (1日平均247人)
478 (工95)	イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師 —ゲッリーノ・トラモンティ展	8,885人 (1日平均159人)
479	ヴァレリオ・オルジャティ展	23,298人 (1日平均475人)
480	ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945	23,446人 (1日平均469人)
481 (工96)	原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見えてくるもの	25,258人 (1日平均486人) (平成24年度中 24,762人 合計 50,020人)
482 (工97)	「織」を極める人間国宝 北村武資	7,017人 (1日平均143人) (平成24年度中 5,625人 合計 12,642人)
483	生誕100年 ジャクソン・ポロック展	59,686人 (1日平均1,298人) (平成24年度中63,615人 合計 123,301人)

	回数	展覧会名	
昭和27年度[1952]	1	日本近代美術展：近代絵画の回顧と展望 Modern Japanese Art: Retrospective and Perspective of Modern Painting	
	2	近代美術展：近代洋画の歩み(西洋と日本) Development of Modern Western-style (Oil) Painting: Europe and Japan	
昭和28年度[1953]	3	世界のポスター展 World Posters	
	4	近代日本絵画展：日本画の流れ(系譜と展開) Mainstream of Japanese-style Painting: Its Schools and Development	
	5	近代彫塑展：日本と西洋 Modern Sculpture: Europe and Japan	
	6	現代写真展：日本とアメリカ The Exhibition of Contemporary Photography: Japan and America	
	7	四人の画家：中村彝 小茂田青樹 萬鉄五郎 土田麦僊 Exhibition of Four Painters: Tsune Nakamura, Seiju Omoda, Tetsugoro Yorozu, Bakusen Tsuchida	
	8	抽象と幻想：非写実絵画をどう理解するか Abstraction and Fantasy: How to Understand Non-figurative (Non-realistic) Painting	
	9	近代の肖像画 Exhibition of Modern Japanese Portraiture	
	10	第27回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展：出品作品国内展示 Preview Exhibition of the 27th Venice Biennial Exhibits from Japan	
	11	国吉康雄遺作展 The Memorial Art Exhibition of the Works of Yasuo Kuniyoshi	
	昭和29年度[1954]	12	大正期の画家 The Exhibition of the Painting of the Taisho Era
		13	グロピウスとバウハウス Gropius and Bauhaus
14		黒田清輝展 Exhibition of Seiki Kuroda	
15		水彩と素描 Exhibition of Water Colors and Drawings	
16		世界の児童画 Exhibition of World Children's Art	
17		4人の画家：佐伯祐三 前田寛治 村上華岳 広島晃甫 Exhibition of Four Painters: Yuzo Saeki, Kanji Maeta, Kagaku Murakami, Koho Hiroshima	
18		現代の眼：日本美術史から Today's Focus: On the History of Japanese Art	

- 19 19人の作家：戦後の絵画・彫刻
同時開催 第3回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展：出品作品国内展示
Living Nineteen Japanese Artists: Painting and Sculpture in the Past Ten Years
Preview Exhibition of the 3rd São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 20 松方コレクション：国立美術館建設協賛展
Exhibition in Liaison with the Establishment of The National Museum of Western Art
- 21 明治初期洋画：近代リアリズムの展開
Western-style Painting of the Early Meiji Era

昭和**30**年度[1955]

- 22 日米抽象美術展
Abstract Art Exhibition: Japan and U.S.A.
- 23 巨匠の二十代
Great Masters in Their Twenties
- 24 日米水彩画展
Joint Exhibition of American and Japanese Water Colours
- 25 現代日本の書・墨の芸術：ヨーロッパ巡回展覧作品 国内展示会
Contemporary Japanese Calligraphy: Art in Sumi
- 26 晩期の鉄斎
Tessai in His Last Period
- 27 四人の作家：下村観山 鬚光 荻原守衛 橋本平八
Exhibition of Four Artists: Kanzan Simomura, Aimitsu, Morie Ogiwara, Heihachi Hashimoto
- 28 現代の眼：アジアの美術史から
Today's Focus: Eastern Art Seen through Eyes of the Present
- 29 明治以後の風俗画
Genre-printing in the Meiji, Taisho and Showa Eras
- 30 第28回ベニス・ビエンナーレ展：出品作国内展示
Preview Exhibition of the 28th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**31**年度[1956]

- 31 安井曾太郎遺作展
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 32 現代の版画：日本とエコール・ド・パリ
Contemporary Prints: Japanese Artists and l'École de Paris
- 33 今日の写真：日本とフランス
Contemporary Photography: Japan and France
- 34 日本の風景
Japanese Scenery
- 35 日本の彫刻：上代(埴輪・金銅仏・伎楽面)と現代
Exhibition of Japanese Sculpture: Contemporary versus Haniwa, Bronze Buddhist Statues, and Mask of the Asuka and the Nara Period
- 36 菊池契月遺作展
Posthumous Exhibition of Keigetsu Kikuchi
- 37 日本の風刺絵画
Japanese Satirical Painting (Cartoons)

- 38 近代日本の名作
Masterpieces of Modern Japanese Painting
- 39 第4回サンパウロ・ビエンナーレ展：日本側出品
Preview Exhibition of the 4th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 40 20世紀のデザイン展：ヨーロッパとアメリカ
Exhibition of 20th Century Design in Europe and America

昭和**32**年度[1957]

- 41 墨の芸術：中国と日本の絵画
Suiboku Paintings of China and Japan
- 42 前衛美術の15人
特別陳列 アメリカ現代美術
15 Vanguard Artists
The Special Showing of 8 Contemporary American Artists
- 43 第1回東京国際版画ビエンナーレ展
特別陳列 歌麿と北斎
1^{ère} Exposition Biennale Internationale de Gravure à Tokio
Exhibition of Utamaro and Hokusai
- 44 四人の作家：平福百穂 小林徳三郎 三岸好太郎 武井直也
Exhibition of Four Artists: Hyakusui Hirafuku, Tokusaburo Kobayashi,
Kotaro Migishi, Naoya, Takei
- 45 最近のドイツ版画
Deutsche Druckgraphik der Letzten Jahre
- 46 17人の作家：現代の絵画・彫刻シリーズ
Living Seventeen Japanese Artists: Series of Today's Painting and Sculpture
- 47 第1回安井賞候補新人展
The 1st Yasui Award Exhibition
- 48 近代日本絵画の歩み
Development of Modern Japanese Painting

昭和**33**年度[1958]

- 49 近代日本における名作の展望：絵画と彫刻
Masterpieces of Modern Japanese Art: Painting and Sculpture
- 50 抽象絵画の展開
Development of Japanese Abstract Painting
- 51 四人の作家：小川芋銭 梶田半古 佐分真 北脇昇
Exhibition of Four Artists : Ogawa Usen, Kajita Hanko, Saburi Makoto, Kitawaki Noboru
- 52 オーストラリア、ニュージーランド巡回日本現代美術展：国内展示
Preview Exhibition of Contemporary Japanese Art Exhibition to Be Circulated in Australia and New Zealand
- 53 川合玉堂遺作展
Posthumous Exhibition of Gyokudo Kawai
- 54 白隠の芸術：水墨画と書
Hakuin's Art: Suiboku Painting and Calligraphy
- 55 第2回安井賞候補新人展
The 2nd Yasui Award Exhibition

昭和**34**年度[1959]

- 56 近代日本美術の常時陳列
A Survey of Modern Japanese Art: Permanent Exhibition
- 57 戦後の秀作
Postwar Outstanding Works of Art
- 58 近代日本の静物画
同時開催 ブラジル近代建築：新首都建設
Still-life in Modern Japanese Painting
Brasilia, the New Capital: Brazilian Modern Architecture
- 59 第5回サンパウロ・ビエンナーレ展：日本側出品
Preview Exhibition of the 5th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 60 近代木彫の流れ
Development of Modern Sculpture in Wood
- 61 現代日本の陶芸
Contemporary Japanese Ceramic Art
- 62 横山大観遺作展
Posthumous Exhibition of Taikan Yokoyama
- 63 棟方志功展：ヨーロッパ巡回 国内展示
Preview Exhibition of Shiko Munakata Exhibition to Be Circulated in Europe
- 64 第3回安井賞候補新人展
The 3rd Yasui Award Exhibition
- 65 近代日本美術の常時陳列
A Survey of Modern Japanese Art: Permanent Exhibition
- 66 現代写真展1959年
特別陳列 抽象光画：ハインツ・ハイエク＝ハルケ作品
Contemporary Japanese Photographies 1959
Deutsche Lichtgrafik Werke von Heinz Hajek-Halke
- 67 近代日本の素描：アメリカ巡回
特別陳列 マリノ・マリーニのリトグラフ
Japanese Drawings in XXth Century: Preview of the Travelling Exhibition in U.S.A.
Lithographs by Marino Marini
- 68 日本画の新世代
Recent Development in Japanese Style Painting
- 69 第30回ベニス・ビエンナーレ国際美術展：国内展示
Preview Exhibition of the 30th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**35**年度[1960]

- 70 超現実絵画の展開
同時開催 ブラジルのポエマ・コンクレート
Development of Japanese Surrealistic Painting
Brazilian Poema Concrete
- 71 四人の作家：菱田春草 瑛九 上阪雅人 高村光太郎
Exhibition of Four Artists: Shunso Hishida, Ei-kyu, Gajin Kosaka, Kotaro Takamura
- 72 現代の眼：原始美術から
Today's Focus: Primitive Art Seen through Eyes of the Present

- 73 近代日本美術の常時陳列
A Survey of Modern Japanese Art: Permanent Exhibition
- 74 日本人の手：現代の伝統工芸
同時開催 芸術としての写真：メトロポリタン美術館選定
Contemporary Japanese Handicrafts: Contemporary Traditional Craft
Photography in the Fine Arts
- 75 小林古徑遺作展
Posthumous Exhibition of Kokei Kobayashi
- 76 第2回東京国際版画ビエンナーレ展
The 2nd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 77 第4回安井賞候補新人展
The 4th Yasui Award Exhibition
- 78 現代写真展1960年
同時開催 アニメーションの芸術
Contemporary Japanese Photographies 1960
Animation Art
- 79 現代スペイン絵画展
Exposicion: Contrastes en la Pintura Española de Hoy
- 80 第6回サンパウロ・ビエンナーレ展：日本側出品
同時開催 現代日本の版画
Preview Exhibition of the 6th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
Contemporary Japanese Prints

昭和**36**年度[1961]

- 81 文部省新収品を中心とする常時陳列
Permanent Exhibit: Mainly New Acquisitions of The Ministry of Education
- 82 現代美術の実験
Adventure in Today's Art of Japan
- 83 近代日本の名作展：日本画・洋画
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 84 近代日本油絵の流れ
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 85 近代日本の名作展
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 86 近代日本彫刻の流れ
Development of Sculpture in Modern Japan
- 87 近代日本画の流れ
Development of Japanese-style Painting in Modern Japan
- 88 近代日本の洋画：国立近代美術館所蔵
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 89 第5回安井賞候補新人展
The 5th Yasui Award Exhibition
- 90 現代日本の版画
Contemporary Japanese Prints
- 91 現代絵画の展望
Prominent Works of Contemporary Japanese Painting

昭和**37**年度[1962]

- 92 近代日本の造形：油絵と彫刻
Oil Painting and Sculpture in Modern Japan
- 93 近代日本の造形：絵画と彫刻
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 94 近代の屏風絵
Painting on Folding Screen in Modern Japan
- 95 第3回東京国際版画ビエンナーレ展
特別陳列 写楽
The 3rd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
Sharaku
- 96 四人の作家：近藤浩一路 坂田一男 野田英夫 藤川勇造
同時開催 フランス映画史展
Posthumous Exhibition of Four Artists: Kondo Koichiro, Sakata Kazuo, Noda Hideo, Fujikawa Yuzo
History of French Films
- 97 第6回安井賞候補新人展
The 6th Yasui Award Exhibition
- 98 現代写真展1961-62年
Contemporary Japanese Photographies 1961-1962
- 99 近代日本の絵画と彫刻
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 100 須田国太郎遺作展
Posthumous Exhibition of Kunitaro Suda
- 101 現代の油絵と版画
Contemporary Oil Painting and Prints

昭和**38**年度[1963]

- 102 ビュッフェ展：その芸術の全貌
同時開催 現代の日本画
Bernard Buffet: Exposition au Japon 1963
Contemporary Japanese-style Paintings
- 103 彫刻の新世代
New Generation of Japanese Sculptors
- 104 現代の眼：暮らしの中の日本の美
同時開催 近代の日本画
Today's Focus: Traditional Daily Implements of Japan Seen through Eyes of the Present
Modern Japanese-style Paintings
- 105 近代日本の絵画と彫刻
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 106 近代日本美術における1914年
同時開催 近代日本の素描
1914: The Beginning of an Era in Modern Japanese Art
Modern Japanese Drawings
- 107 北大路魯山人の芸術
同時開催 日本の抽象絵画
The Art of Rosanjin Kitaoji: Ceramics, Lacquer, Calligraphy, Painting, etc.
Japanese Abstract Painting

- 108 第7回安井賞候補新人展
同時開催 マヤ芸術の拓本展
The 7th Yasui Award Exhibition
Takuhon: Rubbed Prints of Mayan Art
- 109 滞欧作とその後
同時開催 織田一磨の版画
Japanese Artists: A Contrast Seen before and after Sojourning in Europe or America
Kazuma Oda's Prints
- 110 近代作家の回顧：富田溪仙 太田聰雨 佐藤玄々 石井柏亭 中西利雄
同時開催 第32回ベニス・ビエンナーレ国際美術展：国内展示
Posthumous Exhibition of Five Artists: Keisen Tomita, Chou Ota, Gengen Sato, Hakutei Ishii, Toshio Nakanishi
Preview Exhibition of the 32nd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**39**年度 [1964]

- 111 児島善三郎遺作展
Posthumous Exhibition of Zenzaburo Kojima
- 112 ピカソ展
Pablo Picasso Exhibition: Japan, 1964
- 113 京都の日本画：円山応挙から現代まで
Japanese Painting in Kyoto: From Okyo Maruyama to Present Generation
- 114 現代国際陶芸展
同時開催 本館所蔵の日本画
International Exhibition of Contemporary Ceramic Art
Japanese-style Paintings from The Museum Collection
- 115 近代日本の名作：オリンピック東京大会芸術展示
Masterpieces of Modern Japanese Art: Art Exhibition during Tokyo Olympics
- 116 第4回東京国際版画ビエンナーレ展
特別陳列 広重
The 4th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
Hiroshige
- 117 第8回安井賞候補新人展
同時開催 新収集の日本画：東京国立博物館よりの管理換を中心として
The 8th Yasui Award Exhibition
New Pieces of Japanese-style Paintings in The Museum Collection
- 118 戦中世代の画家
Painters of the "Senchu" Generation
- 119 戦後の絵画：所蔵作品を中心として
同時開催 第8回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展：出品作品国内展示
同時開催 古賀春江の水彩
Postwar Japanese Paintings: Mainly from the Collection of The Museum
Preview Show for the 8th Biennial Exhibition of São Paulo
Water Colors of Harue Koga

昭和**40**年度 [1965]

- 120 近代における文人画とその影響：日本と中国
Modern 'Bunjin-ga' of China and Japan and Its Influence

- 121 近代日本の裸体画
同時開催 新収集の油絵と彫刻
Paintings of Nudes in Modern Japan
New Pieces of The Museum Collection: Oil Painting and Sculpture
- 122 近代作家の回顧：小杉放庵 木村荘八 前川千帆 藤井浩祐
同時開催 ユーゴスラビア現代版画展
Posthumous Exhibition of Four Artists: Kosugi Hoan, Kimura Shohachi, Maekawa Senpan, Fujii Koyu
Exhibition of Contemporary Prints in Yugoslavia
- 123 近代日本の油絵：所蔵作品による
Modern Japanese Oil Paintings: From The Museum Collection
- 124 院展芸術の歩み：戦前
The Retrospective Exhibition of the Inten: The Prewar Period
- 125 在外日本作家展：ヨーロッパとアメリカ
Exhibition of Japanese Artists Abroad: Europe and America
- 126 第1回日本芸術祭：国内展示
The 1st Preliminary Show of Japan Art Festival
- 127 第9回安井賞候補新人展
同時開催 2人のアメリカの写真作家
The 9th Yasui Award Exhibition
Two American Photographers
- 128 現代美術の新世代
New Generation of Contemporary Art
- 129 近代の日本画：国立近代美術館所蔵作品による
同時開催 第33回ベニス・ビエンナーレ展：出品作品国内展示
Modern Japanese-style Paintings: From The Museum Collection
Preview Exhibition of the 33rd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**41**年度[1966]

- 130 現代の眼：東洋の幻想
Today's Focus: Fantasy of the Orient Seen through Eyes of the Present
- 131 近代作家の回顧：岸田劉生
Posthumous Exhibition of Kishida Ryusei
- 132 ポーランドのポスター
同時開催 現代写真の10人
Posters of Poland
Ten Artists of Contemporary Japanese Photography
- 133 ミロ展
Joan Miró Exhibition: Japan, 1966
- 134 現代アメリカ絵画展
Two Decades of American Painting
- 135 第5回東京国際版画ビエンナーレ展
The 5th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 136 第10回安井賞候補新人展
特別陳列 安井賞の作家たち 受賞作品とその後
The 10th Yasui Award Exhibition
Yasui Award Artists: Their Awards and Later Works

昭和42年度 [1967]

- 137 所蔵作品による近代日本の美術：大正から昭和前期の絵画
同時開催 第9回サンパウロ・ビエンナーレ展：出品作品国内展示
Modern Japanese Paintings: From The Museum Collection—Paintings from
Taisho to Early Showa Eras
Preview Exhibition of the 9th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 138 グラフィックアート USA
Graphic Arts USA
- 139 近代日本の版画
Modern Japanese Prints
- 140 第2回日本芸術祭：国内展示
The 2nd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 141 近代日本の水彩と素描
Modern Japanese Water Colors and Drawings
- 142 現代イタリア美術展
Exhibition of Contemporary Italian Art
- 143 ソ連絵画50年展
50 Years of Painting U.S.S.R.
- 144 第11回安井賞候補新人展
特別陳列 安井曾太郎の遺作
The 11th Yasui Award Exhibition
Special Show Sotaro Yasui
- 145 近代日本の油絵：大正・昭和(戦前)を中心として 昭和(戦後)を中
心として
同時開催 第34回ベニス・ビエンナーレ展：出品作品国内展示
Modern Japanese Oil Paintings: Mainly from Taisho and Showa (Prewar) Eras /
Mainly from the Postwar Showa Era
Preview Exhibition of the 34th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和43年度 [1968]

- 146 現代陶芸の新世代
New Generation of Ceramic Art in Japan
- 147 第3回日本芸術祭：国内展示
The 3rd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 148 ダダ展：世界のダダ運動の記録
同時陳列 日本におけるダダイスムからシュルレアリスムへ
Dada
Dadaism to Surrealism in Japan
- 149 韓国現代絵画展
Contemporary Korean Painting
- 150 東西美術交流展
Mutual Influences between Japanese and Western Arts
- 151 第6回東京国際版画ビエンナーレ展
The 6th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo

昭和44年度 [1969]

- 152 現代世界美術展：東と西の対話
Contemporary Art: Dialogue between the East and the West

- 153 ヘンリー・ムーア展
Henry Moore Exhibition in Japan, 1969
- 154 現代ドイツ建築展
Bauen in Deutschland
- 155 第4回ジャパン・アート・フェスティバル(日本芸術祭)：国内展示
The 4th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 156 フランス現代タピスリー展
Tapisserie Française d'Aujourd'hui
- 157 ピカソ近作版画展
Picasso's Recent Works in Prints

昭和45年度[1970]

- 158 富本憲吉遺作展
Posthumous Exhibition of Kenkichi Tomimoto
- 159 ベン・シャーン展
Ben Shahn
- 160 第5回ジャパン・アート・フェスティバル(日本芸術祭)：国内展示
The 5th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 161 1970年8月：現代美術の一断面
August 1970: Aspects of New Japanese Art
- 162 現代イギリス美術展
Contemporary British Art
- 163 現代インド絵画展
Contemporary Indian Painting
- 164 第7回東京国際版画ビエンナーレ展
The 7th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 165 バウハウス50年展
Bauhaus 50 Years

昭和46年度[1971]

- 166 近代日本美術における1930年
Around 1930 in Modern Japanese Art
- 167 ルネ・マグリット展
Rétrospective René Magritte
- 168 第6回ジャパン・アート・フェスティバル：国内展示
The 6th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 169 新収蔵作品の展示：日本画 版画 工芸 書
New Pieces of The Museum Collection: Japanese-style Painting, Prints, Crafts, Calligraphy
- 170 近代作家の回顧 山口薫
Posthumous Exhibition of Yamaguchi Kaoru
- 171 現代ドイツ美術展
Zeitgenössische Deutsche Kunst
- 172 現代の陶芸：アメリカ・カナダ・メキシコと日本
Contemporary Ceramic Art: Canada, U.S.A., Mexico and Japan

	173	戦後日本美術の展開：具象表現の変貌 Development of Postwar Japanese Art: Figurative Art
	174	新収蔵作品の展示：洋画・彫刻 New Pieces of The Museum Collection: Western-style Painting, Sculpture
昭和 47 年度 [1972]	175	現代スウェーデン美術展 Swedish Art 1972: A Contemporary Theme
	176	近代イタリア美術の巨匠たち：ジャンニ・マッティオーリ・コレクションより Masters of Modern Italian Art: From the Collection of Gianni Mattioli
	177	昭和46年度新収蔵作品の展示 同時陳列 本館所蔵の素描 New Pieces of The Museum Collection 1971 Drawings from The Museum Collection
	178	現代の眼：近代日本の美術から 開館20年記念 Today's Focus: On Modern Japanese Art
	179	第8回東京国際版画ビエンナーレ展 The 8th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
	180	ヨーロッパの日本作家 Japanese Artists in Europe
	181	平櫛田中展 The Retrospective Exhibition of Denchu Hirakushi
昭和 48 年度 [1973]	182	現代ユーゴスラヴィア美術展 Contemporary Yugoslav Art
	183	戦後日本美術の展開：抽象表現の多様化 Development of Postwar Japanese Art: Abstract and Non-figurative
	184	新収蔵作品の展示 同時陳列 東京国立博物館より移管の日本画 New Acquisitions Japanese Paintings Transferred from The Tokyo National Museum
	185	近代日本美術史におけるパリと日本 Modern Japanese Art and Paris
	186	ジャコモ・マンズー展 Exhibition of Giacomo Manzu
	187	アメリカの日本作家 Japanese Artist in the Americas
	188	近代作家の回顧：新海竹蔵 福田豊四郎 Modern Japanese Artists in Retrospect: Takezo Shinkai / Toyoshiro Fukuda
昭和 49 年度 [1974]	189	アンドリュー・ワイエス展 Works of Andrew Wyeth
	190	徳岡神泉遺作展 Posthumous Exhibition of Shinsen Tokuoka

- 191 15人の写真家
Fifteen Photographers Today
- 192 現代メキシコ美術展
Contemporary Mexican Art
- 193 第9回東京国際版画ビエンナーレ展
The 9th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 194 近代日本の美術
Modern Japanese Art
- 195 福田平八郎遺作展
Posthumous Exhibition of Heihachiro Fukuda

昭和50年度[1975]

- 196 ポール・デルボー展
Paul Delvaux
- 197 前田青郵展
The Retrospective Exhibition of Seison Maeda
- 198 香月泰男遺作展
Posthumous Exhibition of Yasuo Kazuki
- 199 昭和48・49年度新収蔵作品の展示
同時陳列 ソ連寄贈：福田平八郎作品展
New Pieces of The Museum Collection 1973-1974
Exhibition of the Works by Heihachiro Fukuda: Donation from the Union of Soviet Socialist Republics
- 200 シュルレアリスム展
Surrealism
- 201 フランス工芸の美：15世紀から18世紀のタピスリー
Merveilles de la Tapisserie Française
- 202 ドイツ・リアリズム 1919-1933：ドイツ民主共和国所蔵 絵画・彫刻・版画
Realistische Tendenzen—Deutscher Kunst 1919-1933: Eine Ausstellung aus Museen der DDR

昭和51年度[1976]

- 203 ルフィーノ・タマヨ展
Exhibition Rufino Tamayo
- 204 安田靫彦展
The Retrospective Exhibition of Yukihiro Yasuda
- 205 恩地孝四郎と「月映」
Koshiro Onchi and 'Tsukuhae'
- 206 シャガール展
Exposition Marc Chagall: Japon 1976
- 207 キュービズム展
Cubism
- 208 第10回東京国際版画ビエンナーレ展
The 10th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo

	209	今日の造形「織」：ヨーロッパと日本 Fiber Works: Europe and Japan
	210	昭和50年度新収蔵作品の展示：購入 受贈作品 New Pieces of The Museum Collection: Purchases and Gifts 1975
昭和 52 年度 [1977]	211	浜田庄司展 The Retrospective Exhibition of Shoji Hamada
	212	素朴な画家たち Exposition Peintres Naïfs
	213	新収蔵作品の展示：昭和51年度収蔵作品 昭和50年度文化庁管理換 作品 New Pieces of The Museum Collection: New Acquisitions 1976, Works Transferred from The Agency for Cultural Affairs 1975
	214	フォンタネージ、ラゲーザと明治前期の美術 Fontanesi, Ragusa e l'Arte Giapponese nel Primo Periodo Meiji
	215	工1 現代日本工芸の秀作：東京国立近代美術館工芸館 開館記念展 Masterpieces of Contemporary Japanese Crafts: Commemorative Exhibition for Opening of The Crafts Gallery
	216	今日の造形「織」：アメリカと日本 Fiber Works: Americas and Japan
	217	フリードリッヒとその周辺 Friedrich und Sein Kreis
昭和 53 年度 [1978]	218	マリノ・マリーニ展 Exhibition Marino Marini
	219	斎藤義重展 Saito Yoshishige Exhibition 1978
	220	工2 松田権六展 Gonroku Matsuda Exhibition
	221	没後50年記念 佐伯祐三展 Yuzo Saeki Exhibition: 50th Year Posthumous Exhibition
	222	スキャンディナヴィアの工芸：世界現代工芸展 World Contemporary Crafts Exhibition: Scandinavian Crafts
	223	ヨーロッパのポスター：その源流から現代まで L'Affiche: En Occident de Ses Origines à Nos Jours
	224	工3 近代日本の色絵磁器 Enamelled Porcelain of Modern Japan
	225	新収蔵美術作品の展示：昭和52年度収蔵美術作品 絵画 素描 版画 彫刻 New Pieces of The Museum Collection: New Acquisition 1977 Paintings, Drawings, Prints and Sculpture
昭和 54 年度 [1979]	226	没後50年記念 岸田劉生展 Ryusei Kishida: 50th Year Posthumous Exhibition

- 227 第11回東京国際版画ビエンナーレ展
The 11th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 228 ■I4 昭和52, 53年度収蔵工芸作品の展示：
陶磁 漆工 竹工 金工 ガラス 染織 その他
The Permanent Exhibition "Modern Japanese Crafts"
- 229 ■I5 近代日本の漆芸
Lacquer Art of Modern Japan
- 230 ドローネー展：ロベールとソニア
Robert / Sonia Delaunay
- 231 ブリジット・ライリー展：1959年から1978年までの作品
Bridget Riley: Works 1959-78

昭和**55**年度[1980]

- 232 新収蔵美術作品の展示：昭和53, 54年度収蔵美術作品
絵画 水彩 素描 版画 彫刻 陶磁 染織 漆工
New Pieces of The Museum Collection: New Acquisition 1978 & 1979—
Paintings, Water-colors, Drawings, Prints, Sculpture, Ceramics, Dyeing, and
Lacquer Ware
- 233 山口長男 堀内正和展
Exhibition Yamaguchi Takeo & Horiuti Masakazu
- 234 ■I6 日本の型染：伝統と現代
Katazome / Japanese Stencil and Print Dyeing: Tradition and Today
- 235 ポンピドゥ・センター：20世紀の美術
Le Musée National d'Art Moderne Centre Georges Pompidou: L'Art du 20^e Siècle
- 236 ■I7 現代ガラスの美：ヨーロッパと日本
Contemporary Glass: Europe & Japan

昭和**56**年度[1981]

- 237 マチス展
Matisse Exhibition
- 238 ■I8 石黒宗麿展：陶芸の心とわざ
The Creative Spirit of His Ceramic Art: Ishiguro Munemaro Exhibition
- 239 ■I9 八木一夫展
The Ceramic Artist Kazuo Yagi
- 240 20世紀カナダ絵画展
Twentieth Century Canadian Painting
- 241 東山魁夷展
Higashiyama Kaii 1981
- 242 ムンク展
Munch Exhibition
- 243 ■I10 現代ガラスの美：オーストラリア、カナダ、アメリカと日本
Contemporary Glass: Australia, Canada, U.S.A. & Japan
- 244 1960年代：現代美術の転換期
The 1960's: A Decade of Change in Contemporary Japanese Art
- 245 ■I11 現代の食器：注ぐ
Contemporary Vessels: How to Pour

昭和57年度 [1982]

- 246 坂本繁二郎展
Hanjirō Sakamoto Exhibition
- 247 近代日本の美術：1945年以後 所蔵作品による全館陳列
開館30周年記念展 1
The 30th Anniversary Exhibition from The Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 1 [1945-]
- 248 **E12** 近代日本の工芸：所蔵作品による開館30周年記念展
陶磁 ガラス 漆工 木竹工 金工 染織
Modern Japanese Crafts: The 30th Anniversary Exhibition from The Museum Collection: Ceramics, Glass Ware, Lacquer Ware, Wood and Bamboo Work, Metal Work, and Textiles
- 249 アメリカに学んだ日本の画家たち：国吉・清水・石垣・野田とア
メリカン・シーン絵画
Japanese Artists Who Studied in U.S.A. and the American Scene
- 250 近代日本の美術：1945年以前 所蔵作品による全館陳列
開館30周年記念展 2
The 30th Anniversary Exhibition from The Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 2 [1900-1945]
- 251 **E13** 近代日本のガラス工芸：明治初期から現代まで
Modern Japanese Glass: Early Meiji to Present
- 252 ベルギー象徴派展
Symbolisme en Belgique
- 253 **E14** イギリスのニードルワーク
British Needlework
- 254 **E15** 黒田辰秋展：木工芸の匠
Kuroda Tatsuaki: Master Wood Craftsman

昭和58年度 [1983]

- 255 ピカソ展：その芸術の軌跡
Picasso: Masterpieces from Marina Picasso Collection and from Museums in U.S.A. and U.S.S.R.
- 256 フランシス・ベーコン
Francis Bacon: Paintings 1945-1982
- 257 **E16** 伝統工芸30年の歩み
30 Years of Modern Japanese Traditional Crafts
- 258 現代美術における写真：1970年代の美術を中心として
Photography in Contemporary Art
- 259 **E17** モダニズムの工芸家たち：金工を中心にして
Modernism and Craftsmen: The 1920's to the 1930's
- 260 20世紀アメリカのポスター：ニューヨーク近代美術館所蔵品による
The Modern American Poster: From the Graphic Design Collection of The Museum of Modern Art, New York
- 261 村上華岳展
Kagaku Murakami Exhibition

昭和59年度 [1984]

- 262 近代絵画の展開：ティッセン・コレクション名作展
Modern Masters from the Thyssen-Bornemisza Collection

- 263 三次元性：ドイツ彫刻の現在
Dreidimensional: Aktuelle Kunst aus der Bundesrepublik Deutschland
- 264 **E18** 河井寛次郎展：近代陶芸の巨星
Kawai Kanjiro: Master of Modern Japanese Ceramics
- 265 構成主義と幾何学的抽象
Constructivism and the Geometric Tradition
- 266 **E19** 今日のジュエリー：世界の動向
Contemporary Jewellery: The Americas, Australia, Europe and Japan
- 267 メタファーとシンボル：現代美術への視点
Metaphor and/or Symbol: A perspective on Contemporary Art
- 268 新収蔵品展：昭和58・59年度
New Acquisition 1983 and 1984
- 269 **E20** 竹の工芸：近代における展開
Modern Bamboo Craft
- 270 棟方志功展
Shiko Munakata

昭和**60**年度[1985]

- 271 **E21** 現代染織の美：森口華弘 宗廣力三 志村ふくみ
Kimono as Art: Modern Textile Works by Kako Moriguchi, Rikizo Munehiro, and Fukumi Shimura
- 272 モディリアーニ展
Modigliani
- 273 洋風表現の導入 江戸中期から明治初期まで：写実の系譜 1
Development of Western Realism in Japan [: Realistic Representation I]
- 274 現代デザインの展望：ポストモダンの地平から
Contemporary Landscape from the Horizon of Postmodern Design
- 275 19世紀ドイツ絵画名作展：プロイセン文化財団ベルリン国立美術館所蔵
Meisterwerke Deutscher Malerei des 19. Jahrhunderts aus der Nationalgalerie Berlin-Staatliche Museen Stiftung Preußischer Kulturbesitz
- 276 **E22** 人形工芸：昭和期を中心にして
Modern Japanese Dolls

昭和**61**年度[1986]

- 277 松本竣介展
Shunsuke Matsumoto Exhibition 1986
- 278 近代日本の美術：所蔵作品による全館陳列
Modern Japanese Art from The Museum Collection
- 279 近代の見なおし：ポストモダンの建築1960-1986
Revision der Moderne: Postmoderne Architektur 1960-1986
- 280 大正期の細密描写：写実の系譜 2
An Eye for Minute Details: Realistic Painting in the Taisho Period [: Realistic Representation II]
- 281 京都の日本画1910-1930：大正のころ・革新と創造
Nihonga, the Kyoto School 1910-1930

	282	工23 1960年代の工芸：昂揚する新しい造形 Forms in Aggression: Formative Uprising of the 1960s
	283	昭和60・61年度：新収蔵作品展 New Pieces of The Museum Collection: New Acquisitions 1985 & 1986
	284	ゴーギャン展 Paul Gauguin: In Search of Paradise
昭和 62 年度[1987]	285	カンディンスキー展 Kandinsky
	286	工24 木工芸：明治から現代まで Modern Woodcraft
	287	杉山寧展 Yasushi Sugiyama Exhibition
	288	工25 加守田章二展：現代陶芸の美 Kamoda Shoji: A Prominent Figure in Contemporary Ceramics
	289	若林奮展：今日の作家 Isamu Wakabayashi
	290	難波田龍起展：今日の作家 Tatsuoki Nambata
	291	ヨーロッパのレース：ブリュッセル王立美術歴史博物館所蔵 Dentelles Européennes
	292	梅原龍三郎遺作展 Ryuzaburo Umehara Retrospective
昭和 63 年度[1988]	293	ルネ・マグリット展 René Magritte
	294	近代美術にみる人間像：所蔵作品による全館陳列 The Image of Man in Modern Japanese Art from The Museum Collection
	295	工26 図案の変貌：1868-1945 Design in Transition
	296	明治中期の洋画：写実の系譜3 Painting in Japan 1884-1907: Realistic Representation III
	297	工27 現代イギリスの工芸 Contemporary British Crafts
	298	オディロン・ルドン展 Odilon Redon
平成 元 年度[1989]	299	高山辰雄展 Tatsuo Takayama
	300	昭和の美術：所蔵作品による全館陳列 Art of the Showa Period: From The Museum Collection
	301	工28 生命のかたち：熊倉順吉の陶芸 Organs That Provoke: Ceramic Works of Junkichi Kumakura

	302	色彩とモノクローム：現代美術への視点 2 Color and/or Monochrome: A Perspective on Contemporary Art 2
	303	工29 能弁なオブジェ：現代アメリカ工芸の展開 The Eloquent Object: The Evolution of American Art in Craft Media since 1945
平成2年度[1990]	304	工30 ヴァン・ド・ヴェルド展 Van de Velde
	305	文展の名作[1907-1918] Masterpieces from the Bunten Exhibition 1907-1918
	306	手塚治虫展 Osamu Tezuka Exhibition
	307	写真の過去と現在 The Past and the Present of Photography
	308	工31 グラフィックデザインの今日 Graphic Design Today
	309	移行するイメージ：1980年代の映像表現 Images in Transition: Photographic Representation in the Eighties
平成3年度[1991]	310	工32 富本憲吉展 Tomimoto Kenkichi
	311	荒川修作の実験展：見る者がつくられる場 Constructing the Perceiver—Arakawa: Experimental Works
	312	工33 アフリカの染織：大英博物館所蔵品による African Textiles
	313	古賀春江：創作のプロセス 東京国立近代美術館所蔵作品を中心に Harue Koga: The Creative Process—A Show Built around The Museum Collection
	314	イサム・ノグチ展 Isamu Noguchi Retrospective 1992
平成4年度[1992]	315	ルネ・ラリック展 René Lalique
	316	形象のはざまに：現代美術への視点 3 Among the Figures: A Perspective on Contemporary Art 3
	317	アボリジニの美術：伝承と創造 オーストラリア大地の夢 Crossroads—Toward A New Reality: Aboriginal Art from Australia
	318	セバスチャン・サルガド：人間の大地 Sebastião Salgado: In Human Effort
	319	工34 塗りの系譜 Nuances in Laquer: 70 Years of Innovations
	320	フォーヴィスムと日本近代洋画 Fauvism and Modern Japanese Painting

平成5年度 [1993]

- 321 小川芋銭展
Ogawa Usen Retrospective
- 322 柳原義達展
Yoshitatsu Yanaguihara: A Retrospective
- 323 **工35** 山陰の陶窯 出西窯：現代の陶芸
Shussai-Kiln, Folk Craft in San'in Area: Contemporary Japanese Ceramic
- 324 国画創作協会回顧展
Kokuga-Sosaku-Kyokai Retrospective
- 325 黒田アキ：廻廊＝メタモルフォーゼ
Aki Kuroda: Corridor = Metamorphosis
- 326 **工36** 現代の型染：くりかえすパターン
Contemporary Stencil Dyeing and Printing: The Repetition of Patterns
- 327 山本丘人展
Yamamoto Kyujin Retrospective

平成6年度 [1994]

- 328 木村忠太展
Chuta Kimura
- 329 **工37** イスラエルの工芸：アリックス・ド・ロスチャイルド財団のコレクションを中心にして
Israeli Contemporary Crafts: Featuring the Collection of the Alix de Rothschild Foundation
- 330 「絵画」の成熟 1930年代の日本画と洋画：写実の系譜 4
Master Paintings in Japan in the 1930s: Realistic Representation IV
- 331 **工38** 素材の領分
The Domain of the Medium: New Approaches to the Medium in Art, Craft, Design
- 332 日本の美：伝統と近代
The Traditional Beauty in Japanese Art
- 333 **工39** 現代の彫漆
Choshitsu (Carved Lacquer) Today
- 334 若林奮展：素描という出来事
Isamu Wakabayashi: Works on Paper
- 335 抽象表現主義 紙の上の冒険：メトロポリタン美術館所蔵
同時開催 アメリカ抽象表現主義の名作展：国内所蔵
Abstract Expressionism: Works on Paper—Selections from The Metropolitan Museum of Art
Abstract Expressionism: Masterpieces from Japanese Collections
- 336 **工40** 板谷波山展：珠玉の陶芸
Itaya Hazan Retrospective

平成7年度 [1995]

- 337 東京国立近代美術館と写真 1953-1995
Photography and The National Museum of Modern Art, Tokyo 1953-1995
- 338 **工41** コンテンポラリー・ジュエリー：日本の作家30人による
Contemporary Jewellery: Exploration by Thirty Japanese Artists

- 339 **工42** アール・デコのポスター
Art Deco Posters
- 340 辰野登恵子：1986-1995
Toeko Tatsuno 1986-1995
- 341 **工43** 生活のなかの工芸：1950-1960年代のモダン・クラフト
Crafts in Everyday Life in the 1950s and 1960s
- 342 絵画、唯一なるもの：現代美術への視点 4
Painting—Singular Object: A Perspective on Contemporary Art 4
- 343 ドナウの夢と追憶：ハンガリーの建築と応用美術
Panorama: Architecture and Applied Arts in Hungary 1896-1916
- 344 **工44** 現代世界のポスター：東京国立近代美術館所蔵品より
Contemporary Posters from Museum's Collection
- 345 石元泰博展：現在の記憶
Yasuhiro Ishimoto: Remembrance of Things Present
- 346 身体と表現1920-1980：ポンピドゥーセンター所蔵作品から
La Dimension du Corps 1920-1980

平成8年度[1996]

- 347 岸田劉生 作品と資料
同時開催 新収蔵作品展：日本画 油彩その他 水彩 素描 版画
彫刻 写真
Kishida Ryusei: Works and Archives from The Museum Collection
New Acquisitions: Japanese-style Paintings, Oil and Other Paintings, Watercolors,
Drawings, Prints, Sculptures, Photographs
- 348 交差するまなざし：ヨーロッパと近代日本の美術
東京国立近代美術館、国立西洋美術館所蔵作品による
The Crossing Visions: European and Modern Japanese Art: From The Collection
of The National Museum of Western Art & The National Museum of Modern
Art, Tokyo
- 349 **工45** 亀倉雄策のポスター：時代から時代へ 1953年-1996年の軌跡
Yusaku Kamekura Poster Exhibition
- 350 **工46** 磁器の表現：1990年代の展開
New Expression in Porcelain: Development in the 1990s
- 351 90年代の韓国美術から：等身大の物語
An Aspect of Korean Art in the 1990s
- 352 東松照明写真展：インターフェイス
Shomei Tomatsu: Interface
- 353 プロジェクト・フォー・サバイバル：1970年以降の現代美術再訪
プロジェクトティブ[意志的・投企的]な実践の再発見に向けて
Project for Survival
- 354 北脇昇展
Noboru Kitawaki: A Retrospective
- 355 **工47** 藤井達吉展：近代工芸の先駆者
Tatsukichi Fujii: A Pioneer in Modern Crafts
- 356 モダニズムの光跡：恩地孝四郎 椎原治 瑛九
Traces of Light in Modernism: Koshiro Onchi, Osamu Shiihara and Ei-kyu

平成9年度[1997]

- 357 萬鐵五郎展：絵画の大地を揺り動かした画家
Yorozu Tetsugoro Retrospective
- 358 モダンデザインの父 ウィリアム・モリス
William Morris
- 359 **Ⅰ48** 福田繁雄のポスター：視覚の遊気
Posters of Fukuda Shigeo: An Artist of Visual Wit
- 360 アルフレッド・スティーグリッツと野島康三
Alfred Stieglitz and Yasuzo Nojima
- 361 土田麦僊展
Bakusen Tsuchida: A Retrospective
- 362 **Ⅰ49** 増村益城展：漆の美・塗の造形
Masumura Mashiki: Intrinsic and Formal Beauty of Lacquer
- 363 村岡三郎展：熱の彫刻 物質と生命の根源を求めて
Saburo Muraoka: Salt, Heat, Oxygen
- 364 **Ⅰ50** トーネ・ヴィーゲラン：ノルウェーの現代アートジュエリー
Tone Vigeland: Norwegian Art Jewelry
- 365 鉄斎とその師友たち：文人画の近代
Destination of Literary School Painting in Modern Ages: Tessai, His Teachers and Friends
- 366 距離の不在：写真の現在
The Absence of Distance: Photography Today
- 367 加山又造展
Matazo Kayama Exhibition

平成10年度[1998]

- 368 **Ⅰ51** 竹内碧外展：木工芸・わざと風雅
Elegance of Woodwork: Art of Takeuchi Hekigai
- 369 所蔵作品による20世紀の「線描」：「生成」と「差異」
Making It Visible: Graphic Elements in 20th Century Art
- 370 **Ⅰ52** 永井一正ポスター展[Life]
Posters of Kazumasa Nagai [Life]
- 371 土谷武展
Takeshi Tsuchitani: A Retrospective
- 372 **Ⅰ53** 「かたち」の領分：機能美とその転生
The Domain of the Form: Functional Beauty and Its Transmigration
- 373 京都の工芸1910-1940：伝統と変革のはざまに
Crafts Reforming in Kyoto 1910-1940: A Struggle between Tradition and Renovation
- 374 大辻清司写真实験室
Kiyoji Ohtsuji Retrospective: Experimental Workshop of Photography
- 375 **Ⅰ54** 鈴木治の陶芸：詩情のオブジェ
Ceramic Art of Suzuki Osamu: Poetry in Ceramic Works
- 376 鏑木清方展
Kaburaki Kiyokata: A Retrospective

平成11年度[1999]

- 377 ■E55 本野東一の染色：自由への旗印
Motono Toichi: A Retrospective
- 378 横山操展
Misao Yokoyama: A Retrospective
- 379 ■E56 田中一光ポスター展：伝統への接点
Beyond Tradition: An Exhibition of Ikko Tanaka's Posters
- 380 ■E57 加藤土師萌展：近代陶芸の精華
Kato Hajime: The Quintessence of Modern Japanese Ceramic Art
- 381 石内都：モノクローム一時の器
Miyako Ishiuchi: Time Textured in Monochrome
- 382 顔：絵画を突き動かすもの
Visage: Painting and Human Face in 20th-century Art

平成12年度[2000]

- 383 ■E58 杉浦非水展：都市生活のデザイナー
Hisui Sugiura: A Retrospective
- 384 ■E59 うつわをみる：暮らしに息づく工芸
"Utsuwa": Thoughts on Contemporary Vessels
- 385 トーマス・シュトゥルット：マイ・ポートレート
Thomas Struth: My Portrait
- 386 ■E60 ドイツ陶芸の100年：アール・ヌーヴォーから現代作家まで
Deutsche Keramik 1900-2000: Geschichte und Positionen des Jahrhunderts
- 387 美術館を読み解く：表慶館と現代の美術
Reading the Art Museum: Hyokeikan and Art of Today

平成13年度[2001]

- 388 ■E61 1930年代日本の印刷デザイン：大衆社会における伝達
Japanese Posters and Handbills in the 1930s: Communication in Mass Society
- 389 ■E62 現代の布：染と織の造形思考
Contemporary Textiles: Weaving and Dyeing: Ways of Formative Thinking
- 390 ■E63 京都の工芸1945-2000
Crafts in Kyoto 1945-2000
- 391 未完の世紀：20世紀美術がのこすもの
The Unfinished Century: Legacies of 20th Century Art
- 392 カンディンスキー展
Kandinsky

平成14年度[2002]

- 393 サイト一場所と光景：写真の現在 2
[sáit] Site / Sight: Photography Today 2
- 394 ■E64 森正洋：陶磁器デザインの革新
Masahiro Mori: A Reformer of Ceramic Design
- 395 小倉遊亀展
Yuki Ogura: A Retrospective
- 396 ■E65 昭和の桃山復興：陶芸近代化の転換点
Modern Revival of Momoyama Ceramics: Turning Point toward Modernization of Ceramics

- 397 連続と侵犯：現代美術への視点 5
Continuity / Transgression: A Perspective on Contemporary Art 5
- 398 ヴォルフガング・ライブ展
Wolfgang Laib
- 399 **工66** [クッションから都市計画まで]ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相
Hermann Muthesius und der Deutsche Werkbund: Modern Design in Deutschland, 1900-1927—Vom Sofakissen zum Städtebau
- 400 青木繁と近代日本のロマンティシズム
Shigeru Aoki and Romanticism in Modern Japanese Art
- 401 **工67** 今日の人形芸術：想念の造形
Contemporary Dolls: Formative Art of Human Sentiment

平成15年度[2003]

- 402 牛腸茂雄展
Shigeo Gocho: A Retrospective
- 403 **工68** オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて
Light Black: Three Contemporary Australian Craftspersons
- 404 地平線の夢：昭和10年代の幻想絵画
Dreams of the Horizon: Fantastic Paintings in Japan 1935-1945
- 405 **工69** 三代宮田藍堂展
Miyata Rando III: A Retrospective
- 406 野見山暁治展
Gyoji Nomiyama: A Retrospective
- 407 **工70** 現代の木工家具：スローライフの空間とデザイン
Contemporary Furniture and Woodworks in Japan
- 408 旅：「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン
Traveling: Towards the Border
- 409 **工71** あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻
Akari: Light Sculpture by Isamu Noguchi
- 410 ヨハネス・イッテン：造形芸術への道
Johannes Itten: Wege zur Kunst
- 411 国吉康雄展：アメリカと日本、ふたつの世界のあいだで
Yasuo Kuniyoshi

平成16年度[2004]

- 412 ブラジル：ボディ・ノスタルジア
Brazil: Body Nostalgia
- 413 琳派：Rimpa
Rimpa
- 414 **工72** 非情のオブジェ：現代工芸の11人
Cool & Light: New Spirit in Craft Making
- 415 木村伊兵衛展
Ihei Kimura: The Man with the Camera

- 416 草間彌生
Yayoi Kusama
- 417 **E73** 人間国宝の日常のうつわ：もう一つの富本憲吉
Daily Vessels by Kenkichi Tomimoto: The Master of Ceramic Art
- 418 痕跡：戦後美術における身体と思考
Traces: Body and Idea in Contemporary Art
- 419 **E74** 河野鷹思のグラフィックデザイン：都会とユーモア
Graphic Designs of Takashi Kono: Humor & City
- 420 ゴッホ展：孤高の画家の原風景 ファン・ゴッホ美術館
クレラー＝ミュラー 美術館所蔵
Van Gogh in Context: Collection from the Van Gogh Museum, Amsterdam and the Kröller-Müller Museum, Otterlo

平成17年度[2005]

- 421 **E75** 伊砂利彦：型染の美
Isa Toshihiko: Beauty of Stencil Dyeing
- 422 小林古径展
Kokei Kobayashi, 1883-1957
- 423 アジアのキュビズム：境界なき対話
Cubism in Asia: Unbounded Dialogues
- 424 **E76** 日本のアール・ヌーヴォー 1900-1923：工芸とデザインの新時代
Art Nouveau in Japan, 1900-1923: The New Age of Crafts and Design
- 425 ドイツ写真の現在：かわりゆく「現実」と向かいあうために
Zwischen Wirklichkeit und Bild: Positionen Deutscher Fotografie der Gegenwart
- 426 アウグスト・ザンダー展
August Sander: Face of Our Time
- 427 須田国太郎展
Suda Kunitaro
- 428 **E77** 渡辺力：リビング・デザインの革新
Riki Watanabe: Innovating in Modern Living
- 429 生誕120年 藤田嗣治展：パリを魅了した異邦人
Léonard Foujita

平成18年度[2006]

- 430 生誕100年記念 吉原治良展
Jiro Yoshihara: A Centenary Retrospective
- 431 **E78** 人間国宝三輪壽雪の世界：萩焼の造形美
Jusetsu Miwa: A Retrospective
- 432 モダン・パラダイス：大原美術館＋東京国立近代美術館
東西名画の饗宴
Modern Paradise: Japanese and Western Masterpieces from Ohara Museum of Art and The National Museum of Modern Art, Tokyo
- 433 **E79** ジュエリーの今：変貌のオブジェ
Transfiguration: Japanese Art Jewelry Today
- 434 臨界をめぐる6つの試論：写真の現在 3
Resolution / Dissolution: Photography Today 3

- 435 揺らぐ近代：日本画と洋画のはざまに
Modern Art in Wanderings: In between the Japanese- and Western-style Paintings
- 436 **工80** 人間国宝 松田権六の世界
Matsuda Gonroku: Master of Lacquer Art and Living National Treasure
- 437 都路華香展
Tsuji Kakō Exhibition
- 438 **工81** 柳宗理：生活のなかのデザイン
Sori Yanagi: Design in Everyday Life
- 439 **工82** 岡部嶺男展：青磁を極める
Mineo Okabe: A Retrospective
- 440 生誕100年 鬚光展
Ai-mitsu

平成19年度 [2007]

- 441 アンリ・カルティエ＝ブレッソン：知られざる全貌
De Qui S'agit-il?: Rétrospective de Henri Cartier-Bresson
- 442 アンリ・ミショー：ひとのかたち
Henri Michaux: Emerging Figures
- 443 平山郁夫：祈りの旅路
Ikuo Hirayama: A Retrospective—Pilgrimage for Peace
- 444 **工83** 30年のあゆみ：開館30周年記念展 I
30 Years of The Crafts Gallery
- 445 日本彫刻の近代
Modern Age in Japanese Sculpture: From Its Beginnings through the 1960s
- 446 **工84** 工芸の力 21世紀の展望：開館30周年記念展 II
The Power of Crafts: Outlook for the 21st Century
- 447 わたしいまめまいしたわ：現代美術にみる自己と他者
Self / Other
- 448 生誕100年 東山魁夷展
Kaii Higashiyama: A Retrospective—Commemorating the 100th Anniversary of Artist's Birth

平成20年度 [2008]

- 449 建築がうまれるとき：ペーター・メルクリと青木淳
Architectural Creation: Peter Märkli and Jun Aoki
- 450 **工85** カルロ・ザウリ展：イタリア現代陶芸の巨匠
Carlo Zauli: A Retrospective
- 451 エモーショナル・ドローイング：現代美術への視点6
Emotional Drawing: A Perspective on Contemporary Art 6
- 452 **工86** かたちのエッセンス：平松保城のジュエリー
Yasuki Hiramatsu—Jewelry: The Essence of Form
- 453 **工87** 小松誠：デザイン＋ユーモア
Makoto Komatsu Exhibition: Design + Humour
- 454 沖縄・プリズム 1872-2008
Okinawa Prismed 1872-2008

- 455 高梨豊：光のフィールドノート
Yutaka Takanashi: Field Notes of Light
- 456 ヴィデオを待ちながら：映像, 60年代から今日へ
Waiting for Video: Works from the 1960s to Today

平成21年度[2009]

- 457 ゴーギャン展
Paul Gauguin
- 458 **E88** 染野夫妻陶芸コレクション：リーチ 濱田 豊藏 壽雪
Bernard Leach, Hamada Shoji, Arakawa Toyozo and Miwa Jusetsu from Mr. and Mrs. Someno's Ceramics Collection
- 459 権鎮圭展
Kwon Jinkyu
- 460 河口龍夫展：言葉・時間・生命
Kawaguchi Tatsuo: Language, Time, Life
- 461 **E89** 装飾の力：現代工芸への視点
The Power of Decoration: A Viewpoint on Contemporary *Kōgei* (Studio Crafts)
- 462 ウィリアム・ケントリッジ 歩きながら歴史を考える：そしてドローイングは動き始めた...
William Kentridge — What We See & What We Know: Thinking about History while Walking, and Thus the Drawings Began to Move...
- 463 **E90** 早川良雄：“顔”と“形状”
Hayakawa Yoshio: “The Face” and “The Form”
- 464 生誕120年 小野竹喬展
Ono Chikkyo: 120 Years after His Birth

平成22年度[2010]

- 465 建築はどこにあるの？ 7つのインスタレーション
Where Is Architecture? Seven Installations by Japanese Architects
- 466 上村松園展
Uemura Shoen
- 467 **E91** 茶事をめぐって：現代工芸への視点 2
About the Tea Ceremony: A Viewpoint on Contemporary *Kōgei* (Studio Crafts) 2
- 468 鈴木清写真展：百の階梯、千の来歴
Suzuki Kiyoshi: Hundred Steps and Thousand Stories
- 469 麻生三郎展
Aso Saburo
- 470 「日本画」の前衛 1938-1949
The Avant-Garde of “Nihonga”
- 471 **E92** 栄木正敏のセラミック・デザイン：リズム&ウェーブ
Ceramic Design of Sakaegi Masatoshi: Rhythm and Waves
- 472 **E93** ガラス★高橋禎彦展
Takahashi Yoshihiko Goes to the Glass
- 473 生誕100年 岡本太郎展
Okamoto Taro: The 100th Anniversary of His Birth

- 474 **Ⅰ94** 増田三男：精爽の彫金 そして、富本憲吉
Masuda Mitsuo's Bracing Metal Chasing — and Tomimoto Kenkichi
- 475 パウル・クレー：おわらないアトリエ
Paul Klee: Art in the Making 1883-1940
- 476 レオ・ルビンファイン：傷ついた街
Leo Rubinfien: Wounded Cities
- 477 イケムラレイコ：うつりゆくもの
Leiko Ikemura: Transfiguration
- 478 **Ⅰ95** グェッリーノ・トラモンティ展：イタリア・ファエンツァ
が育んだ色の魔術師
Guerrino Tramonti, the Magician of Color, Raised in Faenza, Italy, Exhibition
- 479 ヴァレリオ・オルジャティ展
Valerio Olgiati
- 480 むぐ絵画：日本のヌード 1880-1945
Undressing Paintings: Japanese Nudes 1880-1945
- 481 **Ⅰ96** 原弘と東京国立近代美術館：デザインワークを通して見え
てくるもの
Hara Hiromu and The National Museum of Modern Art, Tokyo: What One
Discovers Through Design Work
- 482 **Ⅰ97** 「織」を極める：人間国宝 北村武資
Kitamura Takeshi: Master of Contemporary Weaving
- 483 生誕100年 ジャクソン・ポロック展
Jackson Pollock: A Centennial Retrospective

474 (工94) 増田三男 清爽の彫金——そして、富本憲吉

2009年、100歳の天寿をまっとうして世界した金工家で、重要無形文化財「彫金」の保持者(人間国宝)にも認定された増田三男(1909-2009)のはじめての回顧展。増田三男の手元に残されていた作品が、没後、ご遺族から当館と早稲田大学にまもって寄贈された。これを記念して、当館と早稲田大学會津八一記念博物館では、「増田三男 清爽の彫金——そして、富本憲吉」というタイトルのもとに、1つの展覧会として2会場で開催、展覧会カタログについても共同で編集した。早稲田大学會津八一記念博物館は、寄贈を受けた作品だけを展示したが、当館では、今回寄贈された作品に、うらわ美術館や東京藝術大学など他館から借用した作品を加え、増田三男の代表的な作品で金工家としての生涯の歩みをたどるとともに、増田の師である陶芸家富本憲吉(1886-1963)との交友を物語る作品や関連資料を紹介した。

Masuda Masuo's Bracing Metal Chasing: and Tomimoto Kenkichi

This was the first retrospective of Masuda Mitsuo (1909-2009), a living national treasure or a holder of an Important Intangible Cultural Property in metal chasing who lived out his life span of 100 years. After his death, many of his pieces that had remained to him were donated by the bereaved family to our museum and Waseda University. Commemorating the donation, the MOMAT and Aizu Museum of Waseda University organized the retrospective given at the two venues under the title *Masuda Mitsuo's Bracing Metal Chasing: and Tomimoto Kenkichi*. The exhibition catalogue was also jointly edited. While Aizu Museum made no additions to the donated pieces, we included in the exhibits, besides the donated ones, Masuda's works borrowed from other institutions including Urawa Art Museum and Tokyo University of the Arts to trace the metal chaser's career through his important works. The exhibits also included pieces and materials illustrating his friendship with Tomimoto Kenkichi (1886-1963), a ceramist and Masuda's mentor.

会期
平成23年5月17日～平成23年6月26日 (36日間)
会場
東京国立近代美術館工芸館
主催
東京国立近代美術館、 早稲田大学會津八一記念博物館
出品点数
65点
入場者数
7,573人(1日平均210人)
新聞・雑誌等における掲載記事
The Japan Times 6月2日 「Chasing dreams in gold and silver」(C.B. Liddel)
公明新聞 6月8日 「増田三男展と三浦 景生展」(藤田一人)
毎日新聞 6月14日夕刊 「自然の姿を超 えた造形」(岸桂子)
チャイム銀座 5月号 「近代工芸の名作 第83回」(木田拓也)
陶説702 「関東の陶芸展」(外館和子)
現代の眼 587号 「増田先生のこと」(山 田禮子)「増田先生の思い出」(内藤五瑠)



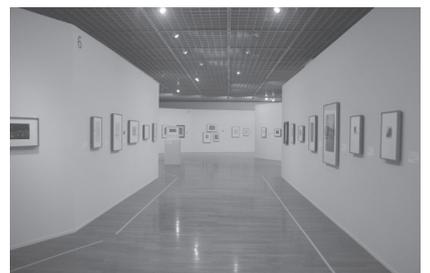
会 期
平成23年5月31日～平成23年7月31日 (55日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主 催
東京国立近代美術館、日本経済新聞社
後 援
スイス大使館
協 賛
NEC、損保ジャパン、大日本印刷、 東レ、りそな銀行
協 力
パウル・クレー・センター(ベルン)、 スイスインターナショナルエアライ ンズ、日本航空、スイス政府観光局
助 成
スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団
出品点数
171点
入場者数
125,092人(1日平均2,274人)
新聞・雑誌等における掲載記事
産経新聞 5月22日 「パウル・クレーは どう作ったか 明かされる制作プロセ ス」(黒沢綾子) 朝日新聞 6月15日 「抽象絵画の実験的 精神に迫る」(新谷祐一) 日本経済新聞 6月20日 「魅惑のパウ ル・クレー展 上 山への衝動」(辻井喬) 日本経済新聞 6月21日 「魅惑のパウ ル・クレー展 中 プルンのモザイク」 (前橋汀子) 日本経済新聞 6月22日 「魅惑のパウ ル・クレー展 下 ぼろきれお化け」(大 竹伸朗) The Daily Yomiuri 7月1日 「Klee possessing colors」(Robert Reed) 東京新聞 7月8日夕刊 「パウル・クレー 『おわらないアトリエ』展 新たな刺激の ための試行」(古谷利裕) 毎日新聞 7月19日夕刊 「パウル・ク レー おわらないアトリエ 思索の跡た どる構成」(岸桂子) Brutus 6月15日号 「目ではない。脳が 見ている。美は脳をどう刺激するのか。」 (Semir Zeki) びあ 6月23日号 「パウル・クレーの制 作現場」(木谷節子) Casa BRUTUS 6月号 「パウル・クレー がいた場所」(茂木健一郎) クロワッサンPremium 7月号 「パウル・ クレーの秘密」(森村泰昌) 装苑 7月号 「パウル・クレー——おわ らないアトリエ」(中島良平) 現代の眼 587号 「回れ、絵画——アト リエのパウル・クレー」(野田吉郎)「絵画 は目の前にある」(瀬山真樹夫)

475 パウル・クレー——おわらないアトリエ

スイス生まれの画家パウル・クレー(1879-1940)の作品を、「アトリエ」と「創作の技法」という切り口から紹介。スイスのパウル・クレー・センターが所蔵する作品を中心に、ヨーロッパ・アメリカ・国内所蔵の日本初公開作品を数多く含む171点で構成された。クレーが独自に開発した「油彩転写」技法、いったん仕上げた作品を鋏などで切断し、断片の上下や左右を入れかえ新たな作品とする「切断・再構成」の試み、一枚の支持体の両面に描かれたイメージが呼応しあう「両面の作品」といった表現に注目し、これまでクローズアップされてこなかった「クレーの作品が物理的にどのように作られたか」を明らかにした。

PAUL KLEE: Art in the Making 1883-1940

This show shed light on the work of Swiss-born painter Paul Klee (1879-1940) with the keywords “atelier” and “technique.” It presented 171 pieces primarily from Zentrum Paul Klee, Bern in Switzerland, including many pieces from collections in Europe, the USA and Japan that were shown for the first time in Japan. In order to illustrate how Klee’s works were physically made—a point that has not been deeply investigated—the show focused on Klee’s methods such as: his original technique called “oil transfer”; “cut-up and rearrangement” in which finished works were cut into two or more parts, for instance using scissors, interchanged or moved from left to right, then reconstructed to create new works; and “double-sided works” where images drawn on both sides of a support responded to each other.



会 期
平成23年8月12日～平成23年10月23日 (63日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 2階ギャラリー4
主 催
東京国立近代美術館
出品点数
35点
入場者数
17,620人(1日平均280人)
新聞・雑誌等における掲載記事
毎日新聞 8月30日夕刊 「街ゆく人々の表情が語る 『レオ・ルビンファイン 傷ついた街』展／鬼海弘雄写真展『東京ポートレイト』」(岸桂子)
日本経済新聞 9月8日 「平野啓一郎が見た美術展『レオ・ルビンファイン 傷ついた街』」(平野啓一郎)
産経新聞 9月11日 「心に抱えた不安」(無署名)
読売新聞 10月1日夕刊 「不安な表情に映るもの 米写真家が展覧会」(ヨミウリ・ジュニア・プレス取材班)
朝日新聞 10月5日夕刊 「テロで傷ついた心17カ国・地域で撮った写真展」(無署名)
日経ビジネスAssocie 235号(8月16日) 「9・11を間近に見た写真家の視線」(タカザワケンジ)
芸術新潮 10月号 「レオ・ルビンファインの雑踏する写真たち」(無署名)
PHOTO TECHNICAL DIGITAL 10月号 「レオ・ルビンファイン 傷ついた街」(鳥原学)
アサヒカメラ 10月号 「今日の写真2011 大事件に対する写真表現の方法」(ホンマタカシ、光田由里)
Nikkor club 219号(12月5日) 「写真から始まる対話 第7回 顔と写真」(竹内万里子)
現代の眼 589号 「私のレオ・ルビンファイン論」(谷口昌良) 「レオ・ルビンファイン『傷ついた街』展によせて」(生井英考)

476 レオ・ルビンファイン 傷ついた街

アメリカ同時多発テロをニューヨークの自宅で間近に体験した写真家レオ・ルビンファインが、事件をうけて翌年より6年をかけて取り組んだ連作による個展。ルビンファインは1953年アメリカ、シカゴに生まれ、1970年代末より写真家として活動を始めた。カラー写真による新しい表現の潮流の担い手のひとりとして早くから評価され、以後、アメリカを中心に各国で作品を発表する一方、評論・執筆活動でも知られる。

本展は2008年以降、アメリカや中国などで開催された同連作による個展を、当館での開催にあたり未発表の作品を加えて再構成したものである。本展を構成する〈傷ついた街(原題: Wounded Cities)〉と題された作品はすべて、近年何らかのテロ事件の起きた世界各地の都市の街頭で撮影されたストリート・ポートレイトで、2008年には本作の写真と長文のテキストによる同題の写真集が刊行された。本展カタログではそのテキストの一部を和訳して掲載した。

Leo Rubinfien: Wounded Cities

This solo show of photographer Leo Rubinfien who experienced the 9.11 terrorist attacks in 2001 at his home near the World Trade Center presented a series of photographs that took him six years from 2002. Born in 1953 in Chicago, Rubinfien began his career as a photographer in the late 1970s. Having come to prominence early in his career as one of the photographers who explored new color techniques, Rubinfien has shown his works in many countries besides the USA, while publishing reviews and essays.

This show was a reconstruction of a series of solo exhibitions given under the same title at various venues in the USA and China, with some additions of pieces that had never been shown. All the exhibits were street portraits titled "Wounded Cities" taken in cities around the world recently attacked by terrorists. Those photographs were compiled, with the photographer's extensive text, into a book under the same title in 2008. The exhibition catalogue contained Japanese translation of excerpts of the text.



会 期
平成23年8月23日～平成23年10月23日 (54日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主 催
東京国立近代美術館、三重県立美術館
協 力
ルフトハンザ カーゴ AG
出品点数
126点
入場者数
13,320人(1日平均247人)

新聞・雑誌等における掲載記事

毎日新聞 9月8日 「イケムラレイコ展 靈感や含み宿した作品世界」(三田晴夫)
 朝日新聞 9月21日 「イケムラレイコ うつりゆくもの展 うつろな器 満たす歩み」(大西若人)
 新美術新聞 10月1日 「東近美・個展への想い うつりゆくものとその背景」(イケムラレイコ)
 読売新聞 10月13日 「イケムラレイコ展 あいまいな境界を行き来」(高野清見)
 京都新聞 10月22日 「イケムラレイコ 『横たわる少女』はかない人間の存在 普遍的に表出」(中井康之)
 ブルータス 9月1日号 「イケムラレイコの絵画と彫刻はあなたに何を語ってくれるか。」(無署名)
 クロワッサンプレミアム 9月号 「話題のアーティストに会いに。イケムラレイコ うつりゆくもの展」(浦江由美子)
 週刊新潮 9月8日号 「巫女『イケムラレイコ』が誘う異空間」(無署名)
 芸術新潮 10月号 「横たわる少女から上昇する人体へ イケムラレイコの世界軸」(平出隆)
 美術の窓 10月号 「立ち現れる原初としての黒 イケムラレイコ展で見つけた黒の世界」(無署名)
 Figaro Japon 10月号 「東洋と西洋のエッセンスが混在、摩訶不思議な精霊たち。」(住吉智恵)
 美術手帖 11月号 「アーティスト・インタビュー イケムラレイコ」(聞き手：保坂健二郎)
 月刊ギャラリー 11月号 「イケムラレイコ うつりゆくもの 世界文明が生んだ収獲」(名古屋覚)
 SPUR 11月号 「宇宙へとつながっているすべてたえまぬ動きの中で」(白坂ゆり)
 現代詩手帖 2012年3月号 「『詩的』なるものについて イケムラレイコの詩的営為をめぐって」(田野倉康一)
 現代の眼 589号 「うみをこいしがるおもうい」(林洋子)「歪んだ鏡——イケムラレイコの絵画と彫刻」(堀元彰)

477 イケムラレイコ うつりゆくもの

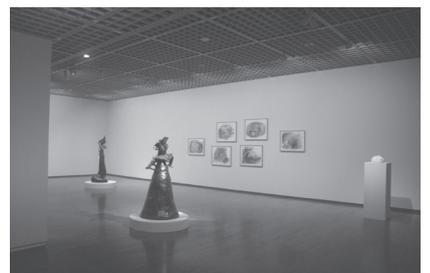
三重県津市に生まれたイケムラレイコは、大阪外国語大学でスペイン語を学んだ後、72年スペインに渡り、セビーリャ美術大学で学び、その後、チューリヒ、ニュルンベルク、ケルンと移り住み、現在(当時)はベルリンとケルンの二箇所を拠点に活動している。また、国立であるベルリン芸術大学(UdK)の教授も務めている。その活動の評価は最近増す一方で、2008年にはアウグスト・マッケ賞を受賞し、2013年にはカールスルーエ(ドイツ)の公立美術館での個展が予定されている。

本展には、絵画、彫刻、ドローイング、写真、総数126点が、1300平方メートルの空間の中に展示された。半分以上がドイツのアトリエからの出品であり、新作も展示された。イケムラレイコの、世界初となる本格的な回顧展として、その活動の全貌と特徴を伝えるべく、時代を逆行する順路、明暗の対比のある展示室、詩作や挿絵の仕事の紹介など、独自の構成を試みた。

Leiko Ikemura: Transfiguration

Born in Tsu city, Mie Prefecture, Ikemura Leiko studied Spanish language at Osaka University of Foreign Studies. In 1972 she went to Spain to study at the Academy of Fine Arts of Seville. Then she moved to Zurich, Nuremberg and Cologne, and was based in Berlin and Cologne at the time of this exhibition. She is also a professor at the Berlin University of Fine Arts (UdK) in Germany. Her prominence just keeps on increasing, helping her win the August Macke Prize in 2008. Her solo show is scheduled for 2013 at a public museum in Karlsruhe, Germany.

The 126 exhibits comprised of paintings, sculptures, drawings and photographs, including new works, were shown in a space of 1,300 square meters. More than half of the exhibits were from Ikemura's atelier in Germany. In order to present a full view and characteristics of Ikemura's work, the world's first full-scale retrospective of the artist incorporated original attempts such as a regular route tracing back to the past, exhibition rooms with light-dark contrast, and a room showing her poetry and illustrations.



会 期
平成23年9月10日～平成23年11月13日 (56日間)
会 場
東京国立近代美術館工芸館
主 催
東京国立近代美術館、 ファエンツァ市、 グェッリーノ・トラモンティ財団、 NHK、NHKプロモーション
後 援
イタリア文化省、イタリア外務省、 イタリア議会下院、ラヴェンナ県、 ラヴェンナ商工会議所、 イタリア大使館、イタリア文化会館
協 力
CEVICO、GNUDI、VILLA
企画協力
NHKプラネット中部
出品点数
153点
入場者数
8,885人(1日平均159人)
新聞・雑誌等における掲載記事
The Japan Times 9月23日 「Guerrino Tramonti, the Magician of Color Raised in Faenza, Italy: A Retrospective」(Mike Hamilton) 陶業時報 9月25日 「日本初の回顧展 グェッリーノ・トラモンティ展」(無記名) 朝日新聞 9月28日夕刊 「美・博ピック アップ 多彩な表現の変遷たどる」(塩田 麻衣子) チャイム銀座 9月号 「近代工芸の名作 第86回」(唐澤昌宏) 読売新聞 10月4日夕刊 「ぎやらりい モール 『猫と文字』」(唐澤昌宏) 文化庁月報516 「イタリア・ファエン ツァが育んだ色の魔術師 グェッリー ノ・トラモンティ展」(唐澤昌宏) 文部科学時報 9月号 「展覧会さんば イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔 術師 グェッリーノ・トラモンティ展」 (唐澤昌宏) チャイム銀座 10月号 「近代工芸の名 作 第87回」(唐澤昌宏)

478 (工95) イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師 グェッリーノ・トラモンティ展

色彩の豊かなマヨリカ焼の産地として知られるイタリア・ファエンツァ出身の芸術家、グェッリーノ・トラモンティの本格的な回顧展を日本で初めて開催した。

トラモンティ(1915-1992)が生み出した作品は、彫刻、テラコッタ、陶芸、絵画と多岐にわたる。なかでも、マヨリカ焼の技法を駆使して作り出された色鮮やかな額皿や、彫刻的な量感のあるフォルムに結晶釉を施した器物、そして、豊かな色彩と厚手のガラス釉を組み合わせた陶盤などは、トラモンティ独自の制作スタイルを見て取ることができる。また、活動の後半期に取り組んだ絵画は、身近なモチーフを黒色で縁取りする独特の表現方法を取り入れて、陶芸作品に共通する詩的な雰囲気を感じさせる。

展覧会では、これらの作品を生み出した年代や傾向により七つの章を立て、その特徴を示す作品群とともに、一人の芸術家の初期から最晩年までの多彩な活動を紹介し、日本において断片的にしか紹介されてこなかった創作活動の全貌を明らかにした。またこれにより、イタリアと日本における作家活動の差異をあらためて感じ取り、工芸分野における日本での創作活動の特異性をも探る手がかりにもなるものと考えた。

Guerrino Tramonti, the Magician of Color, Raised in Faenza, Italy, Exhibition

This was the first full-scale retrospective in Japan of Guerrino Tramonti (1915-1992), an Italian artist born in Faenza known for richly colorful maiolica pottery.

Tramonti manifested his talent in diverse works ranging from sculpture and terracotta to ceramics and paintings. Particularly expressive of his original style are: colorful decorative plates made with free use of the maiolica techniques; crystalline-glazed vessels in sculptural voluminous form; and ceramic plates combining rich colors with thick glass glaze. His paintings that the artist produced in the second half of his career adopt his unique technique in which familiar motifs are fringed in black, creating a poetic atmosphere common with his ceramics.

The show was divided into seven chapters according to the production dates and tendencies of his works. Presenting Tramonti's works showing distinctive characteristics, it illustrated diverse activities throughout his career to provide a full view of his art that had been introduced only fragmentarily in Japan. In doing so, we hoped also that the exhibition would help us appreciate anew the differences between activities of Japanese and Italian artists, affording a clue to exploring the peculiarity of the creative activities in the world of Japanese crafts.



会 期
平成23年11月1日～平成24年1月15日 (62日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 2階ギャラリー4
主 催
東京国立近代美術館、スイス連邦工科大学チューリヒ校建築理論・建築史研究所
助 成
スイス大使館科学技術部、スイス連邦内務省教育研究局、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、スイス連邦工科大学チューリヒ校建築学科
出品点数
模型9点、モックアップ3点、 写真資料10点
入場者数
23,298人(1日平均376人)
新聞・雑誌等における掲載記事
両毛新聞 10月28日 「ヴァレリオ・オルジャティ展 東京国立近代美術館」(無署名) Sankei Express 12月4日 「Composition Valerio Olgiati」(Maya Michimaru) 新建築 12月号 「ヴァレリオ・オルジャティ展」(無署名) 装苑 1月号 「ヴァレリオ・オルジャティ展」(中島良平) フローリスト 1月号 「世界で活躍する建築家のインスピレーションを覗くヴァレリオ・オルジャティ展」(無署名) 現代の眼 590号 「ヴァレリオ・オルジャティへのインタビュー」(保坂健二郎)「思考の必然性を超えた魅力」(五十嵐淳)

479 ヴアレリオ・オルジャティ展

ヴァレリオ・オルジャティは1958年スイスのクールに生まれた。1996年自らの事務所をチューリヒに開設、2008年以降は、故郷のフリムスを拠点としている。

本展は、オルジャティ本人との密接なやりとりのもと、スイス連邦工科大学チューリヒ校建築理論・建築史研究所のローラン・シュトルダー准教授(当時)によって企画された。同校から出発し、ロンドンの英国王立建築家協会(RIBA)などを経て、当館が最終会場になった。

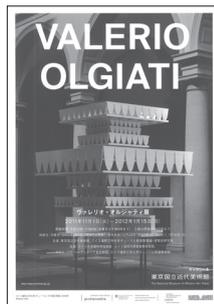
本展には模型9点とそれぞれの建物の図面と映像(写真あるいはレンダリング)、モックアップや材料のサンプルなどが3点、そしてオルジャティが「図像学的自伝」と呼ぶところの、建物や庭園や空間や絵画などのイメージが10点展示された。なお展示作品のうち模型2点とモックアップ3点は、日本展をオリジナルヴァージョンとして開催するべく追加されたものである。

Valerio Olgiati

Valerio Olgiati was born in 1958 in Chur, Switzerland. He opened his own practice in 1996 in Zurich. Since 2008 he has been based in Flims, his birthplace.

This exhibition was organized by Dr. Laurent Stalder, then associate professor at the Institute for the History and Theory of Architecture (gta), Swiss Federal Institute of Technology (ETH Zürich), who had close exchanges with Olgiati himself. The MOMAT was the final stop for the exhibition, which began at the ETH Zürich before making stops at several venues including the Royal Institute of British Architects in London.

On display in the show were: nine models; the plans for, and images (photographs or rendering) of, the respective buildings; three mock-ups and material samples; and a group of many images showing buildings, gardens, spaces and paintings that Olgiati referred to as an "Iconographic Autobiography." Two models and three mock-ups were added to the exhibits to give originality to the Japanese exhibition.



会期
平成23年11月15日～平成24年1月15日 (50日間)
会場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主催
東京国立近代美術館
出品点数
98点
入場者数
23,446人(1日平均469人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 11月30日夕刊 「裸を追う裸を問う」(大西若人)
毎日新聞 12月8日夕刊 『『裸体画』が語る近代 浮き彫りになる社会的意味』(高階秀爾)
読売新聞 12月8日 「近代日本 曲折の裸体画史」(井上晋治)
河北新報 1月19日 「日本の裸体画 進化検証」(福住廉)
MEN'S CLUB 610号(10月24日) 「日本人の“萌え”の原点がわかる絵画展」(柘植響)
婦人公論 1336号(11月) 「ぬぐ絵画」(木谷節子)
週刊ポスト 12月9日号 「裸婦像の系譜」(無署名)
週刊エコノミスト 12月19日 「ぬぐ絵画—日本のヌード 1890-1945」(石川健次)
中央公論 1535号(1月号) 『『ぬぐ絵画』展』(住友文彦)
SWITCH 262号(1月号) 「日本人にとってのはだかの美とは？」(宮村周子)
月刊ギャラリー 321号(1月号) 「新・学芸員の企画術 第59回 蔵屋美香」(斉藤博美)
UP 471号(1月号) 「料理長殿、御用心」(佐藤康宏)
芸術家 441号(2月号) 「脱除的絵画」(鄭涵云)
美術手帖 965号(4月号) 「ヌードの道のり」(北澤憲昭)
現代の眼 590号 「究極のヌード——《智・感・情》をめぐる黒田清輝の戦略」(喜多崎親) 「日本洋画最初期の裸婦像——百武兼行《臥裸婦》」(植野健造)

480 ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945

今日も盛んに描かれ、絵画における一種のステレオタイプとなっている裸体画。しかし、全裸(またはそれに近い半裸)の人物を表し、それを公共の場で鑑賞するという風習のなかった日本では、明治中期に裸体画の取り入れが本格化し、昭和初期に定着するまでの間、美術家、鑑賞者、取締り側の三者をめぐるさまざまな葛藤が生じた。

この展覧会では、おもに1880年代から1940年代までに制作された裸体画の中から、時代を画した代表的な油彩作品約100点を選んで展示した。上述の葛藤がどのような裸体像を生み出したのか、習作など関連資料も交え、各作品の画面に即して具体的に明らかにした。これらの歴史的検証を通し、今日における裸体表現がどのようにして生まれ、明治期からどのような問題を引き継いでいるのか、来館者に考えるきっかけを得てもらうことを目指した。

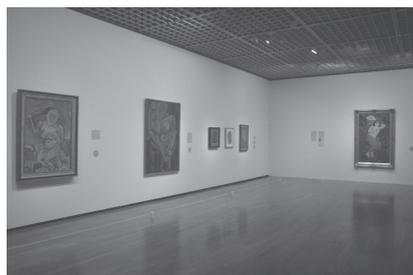
全体は3章構成とし、「I はだかを作る」では明治期の裸体画移入の様子と黒田清輝の諸作品を、「II はだかを壊す」では、萬鉄五郎、村山槐多、古賀春江、熊谷守一など次の世代の試みを、「III もう一度、はだかを作る」では昭和戦前期に裸体画が日本に定着した様子を安井曾太郎、小出栖重などの作品を通し、それぞれ紹介した。

Undressing Paintings: Japanese Nudes 1880-1945

Paintings of naked figures are still being produced widely as a stereotype. But Japanese people did not have the custom of depicting and publicly appreciating naked and semi-naked human bodies before the middle of the Meiji period (1868-1912) when such custom was introduced in works of art. Until the nude painting was established in the early Showa period (1926-1989), it caused disputes between artists, art lovers and the police.

This show presented 100 epoch-making oil nudes selected from those produced primarily between the 1880s and 1940s. The exhibits included related studies and materials to specifically illustrate, in the context of the respective works, how the disputes produced the nudes. Through the historical examination, we aimed to provide the visitors with opportunities to think about how today's nude expression had been brought forth, and what issues have been taken over since the Meiji period.

The show comprised three chapters: I. "Creating the Nude" illustrating the introduction of the nude in the Meiji period, and presenting Kuroda Seiki's works; II. "Deconstructing the Nude" focusing on the attempts by the subsequent generation including Yorozu Tetsugoro, Murayama Kaita, Koga Harue and Kumagai Morikazu; and III. "The Nude Anew" showing how the nude established itself in Japan in the prewar Showa period through pieces by Yasui Sotaro, Koide Narashige and others.



会 期
平成24年2月3日～平成24年5月6日 (85日間、うち平成23年度52日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 2階ギャラリー4
主 催
東京国立近代美術館
協 力
特種東海製紙株式会社、株式会社竹尾
出品点数
249点
入場者数
25,258人(平成24年度を含む50,020人) (平成23年度1日平均486人)
新聞・雑誌等における掲載記事
信濃毎日新聞 3月23日 「グラフィックデザイン 開拓の軌跡」(植草学) 毎日新聞 4月17日夕刊 「無名性にひそむセンス」(岸桂子) 朝日新聞 4月25日夕刊 「文字の力かすデザイン」(西岡一正) Pen 4/1号 「ポスターで振り返る、原弘のグラフィックの理念。」(赤坂英人) o-cube157 「原弘が手がけた近代美術館の展覧会ポスターを一挙公開」(長井美暁) 現代の眼 592号 「思い出のなかの原弘先生」(小西啓介)「一九六四年の頃、原弘先生と…」(山崎登)「近美専属のアートディレクター的役割を果たされた原弘先生」(富山秀男) 現代の眼 593号 「講演会『パウハウスとグラフィックデザイン』」(原弘)

481 (工96) 原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見えてくるもの

原弘が当館のために制作したポスターを通して、グラフィックデザイナーと美術館との関係を考えるというのがこの展覧会のねらいである。国立近代美術館が京橋に開館した1952年から1975年まで、じつに23年間にわたって、原弘は当館の展覧会ポスターをほぼ一貫して手がけた。原弘が当館の展覧会のためにデザインした展覧会ポスターはおよそ200点を数え、戦後の原弘の仕事の重要な一角を占めている。原弘は、当館のポスター以外にも、招待状、展覧会カタログの表紙、機関誌『現代の眼』などの印刷物のデザインを手がけており、いわば当館専属のアートディレクターとしての役割を果たしていたといえる。この展覧会では、原弘の国立近代美術館のためのポスターの仕事をもとめて紹介するとともに、戦前期の代表作であるパリ万博(1937)の写真壁画や対外宣伝誌『FRONT』、そして、戦後のブックデザインなどもあわせて展示し、そこに流れる原弘のデザイン理念を探った。

Hara Hiromu and The National Museum of Modern Art, Tokyo: What One Discovers Through Design Work

Presenting posters that Hara Hiromu produced for our museum, this exhibition aimed to think about the relationships between the museum and graphic designers. Hara Hiromu designed most of the posters for our exhibitions for 23 years since our inauguration in Kyobashi in 1952 until 1975. Hara produced no less than 200 exhibition posters for our exhibitions that constitute an important part of his postwar work. In addition to posters, the designer produced many other printed materials including invitation letters, covers of exhibition catalogues, and museum bulletin Gendai No Me, working as the virtual art director of our museum. This show presented his prewar important photographic mural for the 1937 Paris International Exposition, "FRONT," a pictorial magazine for external promotion, postwar book designs as well as exhibition posters for our museum to explore Hara's vision for design.



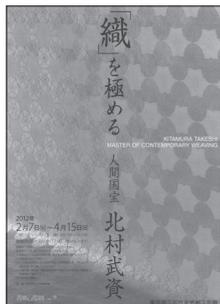
会 期
平成24年2月7日～平成24年4月15日 (63日間、うち平成23年度49日間)
会 場
東京国立近代美術館工芸館
主 催
東京国立近代美術館
出品点数
130点
入場者数
7,017人(平成24年度を含む12,642人) (平成23年度1日平均143人)
新聞・雑誌等における掲載記事
京都新聞 3月3日 「極めた織りの技、語る」(勝聡子) 東京新聞 3月16日夕刊 『人間国宝・北村武資』展 究極の美に潜む危機感」(藤田一人) 月刊展覧会ガイド 2月号 『織』を極める 人間国宝 北村武資」(今井陽子) チャイム銀座 3月号 「近代工芸の名作第81回」(今井陽子) ミセス 4月号 『織』を極める 人間国宝 北村武資」(渡辺尚子) 和楽 4月号 「heritage 次世代に残したいもの、ことば」(古澤史朗) 花saku 4月号 『織』を極める 人間国宝 北村武資」(望月久美子) 美しいキモノ 春号 『織』を極める 人間国宝 北村武資」(今井陽子) TEXTILE VIEW2 magazine12 Summer 2012 「KITAMURA TAKESHI: MASTER OF CONTEMPORARY WEAVING」(無記名) チャイム銀座 4月号 「近代工芸の名作第82回」(今井陽子) 現代の眼 592号 「北村武資—経錦」(今井陽子)

482 (工97) 「織」を極める 人間国宝 北村武資

北村武資(1935-)は京都に生まれ、中世以降日本の染織史の粋を築いてきた京都・西陣で織物の修業をした。独立後はその高度な織技と豊富な知見を生かした作品を発表、1995年に「羅」、2000年に「経錦」の技術で重要無形文化財保持者に認定され、日本のみならず世界で高く評価されている染織作家である。「羅」も「経錦」も中国・漢代に完成された織物であるが、非常に高度な技術が要求されると同時に、織物の原点ともいえる経糸の操作を制作の要とするストイックな表現を特色とするために、日本では経錦は奈良時代に、羅も中世以降衰微した。しかしながら織物の組織そのものが表現と考える北村は、これら二つに織物の技術の必然性と可能性を見出して探求し続けたのである。北村の造形思考は、今日注目されている工芸の独自性の再評価にとってきわめて重要であり、その仕事の現代性を描出することが本展の目的である。上記二つの技術に加え、北村が自らの作家性を模索した時代に取り組んだ「変り織」をあわせて展観した。

Kitamura Takeshi: Master of Contemporary weaving

Born in Kyoto in 1935, Kitamura Takeshi got his training in weaving in Nishijin, Kyoto, a center that has created the cream of Japanese textiles since the middle ages. After becoming a freelance, he produced pieces demonstrating his superb craftsmanship and wide knowledge. Having been designated a holder of Important Intangible Cultural Property for his mastery over the techniques called *ra* (complex gauze) in 1995 and *tatenishiki* (warp-faced, compound weave brocade) in 2000, the craftsman is now highly regarded at home and abroad. Both having been perfected in China in the Han Dynasty (202 B.C. to 220 A.D.), *ra* and *tatenishiki* are technically very demanding, and characterized by stoic expression that attaches great importance to the warp manipulation, the basics of woven fabric. Because of such nature of the two techniques, *ra* and *tatenishiki* declined after the middle ages and in the Nara period (710-794) respectively. Believing that the texture of woven fabric was artistic expression itself, Kitamura discovered necessity and possibility in the techniques and continued his exploration. Because his belief is of extreme importance for the re-evaluation of independence of crafts that is drawing much attention, this exhibition aimed to highlight the contemporary significance of Kitamura's work. In addition to the two techniques, the show also included "fancy weave" that the craftsman produced in the days when he explored his individuality as an artist.



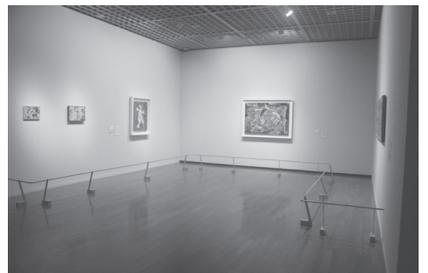
会 期
平成24年2月10日～平成24年5月10日 (79日間、うち平成23年度46日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主 催
東京国立近代美術館、読売新聞社、 日本テレビ放送網
特別助成
アメリカ大使館
協 賛
テラ・アメリカ美術基金、みずほ銀行、 光村印刷
後 援
イラン大使館
協 力
日本航空、ルフトハンザ カーゴ AG、 ルフトハンザ ドイツ航空会社
出品点数
64点
入場者数
59,686人(平成24年度を含む123,301人) (平成23年度1日平均1,298人)
新聞・雑誌等における掲載記事
読売新聞 11月8日 「イラン秘蔵の絵画 日本へ」(五十嵐弘一) 新美術新聞 1270号(2月1日)「ポロック の謎」(中林和雄) 読売新聞 2月14日 「内なる不安を描 く」(前田恭二) 読売新聞 2月15日 「色と形 混然」(前田恭二) 読売新聞 2月16日 「線の宇宙 創造」 (前田恭二) 読売新聞 2月17日 「未完の革新」(前田恭二) The Daily Yomiuri 2月17日 「Jackson Pollock: A Centennial Retrospective」(Robert Reed) 読売新聞 3月15日 「ポロック展に寄せ て『網の目』に宇宙・自然の姿」(藤枝晃雄) 朝日新聞 3月21日夕刊 「ジャクソン・ポロ ック展 息をのむすごみと独創」(大西若人) しんぶん赤旗 3月21日 「『ジャクソン・ ポロック展』を見る 伝説の画家の軌跡 と傑作」(森下泰輔) 産経新聞 3月25日 「美の扉 現代美術 のバイオニア」(渋谷和彦) 日本経済新聞 4月12日 「生誕100年 ジャクソン・ポロック展」(平野啓一郎) 東京新聞 4月26日 [コラム] (筆洗) 新美術新聞 1283号(6月21日)「ポロック は潑墨の画家」(島尾新) 週刊新潮 11月17日号 「故パーレビ国王が 愛でたいわくの『ポロック』初公開」(無署名) 現代の眼 592号 「Reading Jackson Pollock, Literally」(尾崎信一郎)、「日本初の回顧展 という役割」(中西園子)

483 生誕100年 ジャクソン・ポロック展

20世紀美術史の最重要作家の一人アメリカのジャクソン・ポロック(1912-1956)の日本で初となる回顧展。美術の中心がヨーロッパからニューヨークに移っていく過程を象徴するこの作家はこれまで日本において頻繁に語られ続けてきたものの、実際の作品が系統的に展覧されたことはなかった。回顧展の開催により、ここで改めてこの画家の実作と虚心坦懐に向き合い、その今日的可能性をあらたに問うことの意義は大きい。ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、テート、テヘラン現代美術館ほか各国の主要美術館から各時代の重要作品を借用するとともに、日本国内に所蔵されていることが判明しているポロック作品全28点を全て出品し、この画家の画業の展開を通覧できるものを目指した。生涯の時代ごとの4つの章から構成し、ポロックの様式の変遷を見やすく示すことを試みた。

JACKSON POLLOCK: A Centennial Retrospective

This was the first retrospective in Japan of Jackson Pollock (1912-1956), an American painter and one of the most important artists in the history of 20th-century art who represented the process in which the center of art moved from Europe to New York. Although having been frequently referred to in Japan, his works had never been shown systematically. It is of great significance for us to face his genuine works with an open mind at the retrospective, and to explore their present-day possibility. In addition to the loans from overseas art museums including the Museum of Modern Art, New York, the Metropolitan Museum of Art, New York, Tate, and Tehran Museum of Contemporary Art, we included in the show all the 28 works by Pollock that were known to be housed in Japan to offer an overview on the painter's career. The show was divided into four chapters representing the stages of his life in an attempt to help trace the changes in Pollock's style.



所蔵作品展「近代日本の美術」

読売新聞 都内版 4月29日 「『近代美術の眼』河野通勢『好子像』」(鈴木勝雄)

読売新聞 都内版 5月20日 「『近代美術の眼』岸田劉生『道路と土手と堀(切通之写生)』」(蔵屋美香)

読売新聞 都内版 6月10日 「『近代美術の眼』下村観山『唐茄子畑』」(鶴見香織)

読売新聞 都内版 7月15日 「『近代美術の眼』海老原喜之助『殉教者』」(都築千重子)

読売新聞 都内版 9月9日 「『近代美術の眼』村上華岳『海鳥暮景之図』」(鶴見香織)

読売新聞 都内版 10月21日 「『近代美術の眼』神原泰「スクリアピンの『エクスタシーの詩』に題す」(榎田倫宏)

読売新聞 都内版 11月11日 「『近代美術の眼』藤井浩祐『潭(ふち)』」(鈴木勝雄)

読売新聞 都内版 12月9日 「『近代美術の眼』三好耕三『See-Saw』より Twin Christmas」(増田玲)

読売新聞 都内版 12月23日 「『近代美術の眼』谷中安規『母と子(自転車)』」(都築千重子)

読売新聞 都内版 2月10日 「『近代美術の眼』堂本右美『kanashi-11』」(保坂健二郎)

読売新聞 都内版 3月16日 「『近代美術の眼』清宮質文『さまよう蝶』」(榎田倫宏)

現代の眼 590号 「『特集展示 神原泰』詩と絵画の平行現象」(榎田倫宏)

現代の眼 591号 「『作品研究』重力と女性像：日本近代彫刻の転換点」(鈴木勝雄)

現代の眼 592号 「『特集展示』描かれたダリヤ」(保坂健二郎)

日経おとなのOFF 7月6日号 「美術館の1枚 レオナルド・フジタ『五人の裸婦』」(無記名)

Precious 8月号 「今月の感じる 名画・名作鑑賞指南 福田平八郎の『雨』」(猪本典子)

婦人画報 9月号 「日本の宝が待つ美術館へ この人が愛してやまないこの美術館、この名作」(無記名)

セコムライフ 2011秋号 「ザ・ミュージアム03 東京国立近代美術館」(無記名)

Marisol 12月号 「この美女を見よ！」(宮下規久朗、KAORU)

ゆずりは 27号 「知っているようで、知らない。皇居周辺散策」(無記名)

日本経済新聞 11月27日 「美の美 神護寺三像・上 (安田鞞彦『黄瀬川陣』右隻)」(田村広済)

東京大学新聞 3月10日 「火よう美術館 東京国立近代美術館『近代日本の美術』和と洋の融合」(藤田和志)

1-4-1 本館

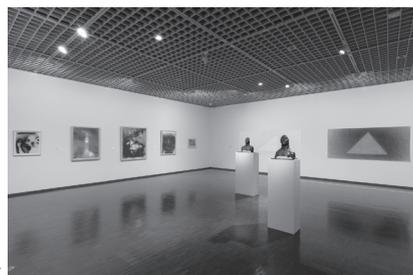
所蔵作品展「近代日本の美術」では、10,000点を超える所蔵作品の中から絵画・彫刻・水彩・素描・版画・写真など、毎回170点から200点を選び、20世紀初頭から現代に至る日本の近・現代美術の流れが概観できるよう展示した。

平成23年度は大規模な特集展示を試みたことが特記できる。東日本大震災を受け急遽立ち上げた「特集 東北を思う」と、10月末からの「ぬぐコレクション」は、いずれも各ジャンルから選んだテーマに沿った作品を所蔵作品展(4-2階)の全フロアに適宜組み入れたもので、前者では充実した解説を添え、後者では企画展(1階)「ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945」展に連動させた特集として、特色ある試みとなった。「東北を思う」はシリーズ化し、小規模な展示を含めつつ一年を通して継続させた。

◆平成23年2月22日～平成23年5月8日(41日間／うち平成23年度25日間、東日本大震災の影響により平成22年度会期中18日間休館)
 テーマで歩こう(4F-2F)：マチエール(画肌)の魅力
 特集展示(4F)：草土社の作家にとつての〈草〉と〈土〉
 版画コーナー(3F)：沈黙の雄弁
 写真コーナー(3F)：表現者たち
 小企画(2Fギャラリー 4)：空虚の形態学
 出品点数：226点(うち重要文化財5点、登録美術品1点)
 入場者数：25,851人(平成22年度含む30,276人)

◆平成23年5月17日～平成23年7月31日(67日間)
 特集展示(4F-2F)：特集 東北を思う
 特集展示(4F)：海老原喜之助
 特集展示(3F)：株式会社ニコン寄贈 奈良原一高「王国」
 版画コーナー(3F)：ヨハネス・イッテン
 写真コーナー(3F)：石元泰博「桂」
 小企画(2Fギャラリー 4)：路上
 出品点数：188点(うち重要文化財4点)
 入場者数：54,591人

◆平成23年8月6日～平成23年10月23日(68日間)
 テーマで歩こう(4F-2F)：奇景
 特集展示(4F)：神原泰
 版画コーナー(3F)：マックス・ペヒシュタイン 版画集「われらの父」
 写真コーナー(3F)：北へー北井一夫、須田一政、森山大道
 出品点数：184点(うち重要文化財3点)
 入場者数：24,559人



「空虚の形態学」会場風景

緊急企画「東北を思う」

読売新聞 5月11日 「文化 『東北を思う』展17日から」(無記名)

夕刊たなぐら 5月17日 「『特集 東北を思う』開催」(無記名)

毎日新聞 5月20日夕刊 「ゆったりアート 東北の景色に魅せられ」(岸桂子)

陸奥新報 5月23日 「東京で『特集 東北を思う』展」(無記名)

岩手日報 5月28日 「東北の美術 再認識 震災で緊急企画展 萬、松本らの39点」(無記名)

新美術新聞 6月1日 「特集 東北を思う」(無記名)

多摩川新聞 6月12日 「緊急企画展 東北を思う 東北出身作家の作品 モデルが東北出身の作品 東北の風景を描いた作品」(無記名)

産経新聞 6月19日 「美の扉 被災地支援の企画展『東北に思う』 『道』に託した未来への希望」(渋沢和彦)

美術の窓 7月号「インタビュー 『東北を思う』保坂健二郎」(無記名)

小企画「路上」

アサヒカメラ 8月号 「今日の写真 2011」(ホンマタカシ、榎木野衣)

BEAUTY INNOVATOR vol.3 「ART EFFECTS」(蔵屋美香)

◆平成23年10月29日～平成24年1月15日(64日間)

特集展示(4F-2F)：ぬぐコレクション

特集展示(4F)：重力と女性像

版画コーナー(3F)：ぬぐ版画ー日常生活におけるはだか

写真コーナー(3F)：ぬぐ写真ーレンズの前のヌード

出品点数：190点(うち重要文化財3点)

入場者数：31,823人

◆平成24年1月24日(火)～平成24年5月6日(94日間/うち平成23年度61日間)

特集展示(4F)：描かれたダリヤ

特集展示(2F)：東北を思うー記憶・再生・芸術

版画コーナー(3F)：はかなきものの強(したた)かさ

写真コーナー(3F)：高梨豊「東京人」

出品点数：194点(うち重要文化財1点)

入場者数：39,547人(平成24年度含む75,884人)



「路上」会場風景

Modern Japanese Art from the Museum Collection

Presenting 170 to 200 pieces including paintings, sculptures, watercolors, drawings, prints and photographs selected from our collection comprising more than ten thousand pieces, the collection exhibition Modern Japanese Art from the Museum Collection was designed to provide an overview of the history of modern Japanese art from the beginning of the 20th century to the present.

Of special note for fiscal 2011 are some large special shows. *Thinking About Tohoku* started soon after the Great East Japan Earthquake and *Nudes in the Collection* from October were both incorporated into the whole collection exhibition on the fourth to second floors, with the exhibits of various genres selected according to the respective themes. The two attempts were special in that the former provided detailed comments, and the latter accompanied the special exhibition *Undressing Paintings: Japanese Nudes 1880-1945* on the first floor. *Thinking About Tohoku* was made into a series that lasted throughout the year including small shows.

◆April 1 to May 8 (41 days, of which 25 days were in fiscal 2011, museum was closed for 18 days owing to the Great East Japan Earthquake)
Let's Browse with Topical Focus (4th to 2nd floors): Fascination of Matière
Topic in Focus (4th floor): Grass and Earth for the Artists at Sodoshia
Prints Section (3rd floor): Eloquence of Silence
Photograph Section (3rd floor): Artist Portraits
Exhibition primarily from the Museum Collection (Gallery 4, 2nd floor): Morphology of Emptiness
Number of the exhibits: 226 (including 5 Important Cultural Properties and 1 Enrolled Art Object)
Number of visitors: 25,851 (30,276, in total with the visitors in fiscal 2010)

◆May 17 to July 31 (67 days)
Topic in Focus (4th to 2nd floors): Thinking About Tohoku
Topic in Focus (4th floor): Ebihara Kinosuke
Topic in Focus (3rd floor): Narahara Ikko: Domains—Gift of Nikon Corporation
Prints Section (3rd floor): Johannes Itten
Photograph Section (3rd floor): Ishimoto Yasuhiro: Katsura
Exhibition primarily from the Museum Collection (Gallery 4, 2nd floor): On the Road
Number of the exhibits: 188 (including 4 Important Cultural Properties)
Number of visitors: 54,591

◆Augst 6 to Oct. 23 (68 days)
Let's Browse with Topical Focus (4th to 2nd floors): Marvelous Scenes
Topic in Focus (4th floor): Kambara Tai
Prints Section (3rd floor): Max Pechstein, *The Lord's Prayer*
Photograph Section (3rd floor): Toward the North: Kitai Kazuo, Suda Issei, Moriyama Daido
Number of the exhibits: 184 (including 3 Important Cultural Properties)
Number of visitors: 24,559

◆Oct. 29 to Jan. 15 (64 days)

Topic in Focus (4th to 2nd floors): Nudes in the Collection

Topic in Focus (4th floor): Gravity and Female Figures

Prints Section (3rd floor): Undressing Prints: Nudity in Everyday Life

Photograph Section (3rd floor): Undressing Photographs: Nudes through the Lens

Number of the exhibits: 190 (including 3 Important Cultural Properties)

Number of visitors: 31,823

◆Jan. 24 to March 31 (94 days, of which 61 days were in fiscal 2011)

Topic in Focus (4th floor): Dahlias in Art

Topic in Focus (2nd floor): Thinking About Tohoku: Memory, Rebirth and Art

Prints Section (3rd floor): Toughness in Fragility

Photograph Section (3rd floor): Takanashi Yutaka "Tokyoites"

Number of the exhibits: 9 (including 5 Important Cultural Properties and 1 Enrolled Art Object)

Number of visitors: 25,851 (30,276, in total with the visitors in fiscal 2012)

所蔵作品展「新収蔵作品展2008-2010」

チャイム銀座 「近代工芸の名作 第82回」(内藤裕子)

所蔵作品展「しまシマ工芸館」

文化庁月報513 「鑑 文化芸術へのいざない 所蔵作品展 こども工芸館／おとな工芸館 イロ×イロ」(北村仁美)

チャイム銀座 7-8月号 「近代工芸の名作 第85回」(北村仁美)

現代の眼 591号 「二人三脚による場の創造—こどもタッチ&トークを中心に」(齊藤佳代)

所蔵作品展「人間国宝と近代工芸の名品」

陶業時報 12月15日 「人間国宝のわざ 作品と映画で」(無記名)

文化庁月報518 「鑑 文化芸術へのいざない 所蔵作品展 人間国宝と近代工芸の名品」(諸山正則)

チャイム銀座 11-12月号 「近代工芸の名作 最終回」(諸山正則)

メトロポリス 12月10日 「Try this unsung treasure of Tokyo art museums」(Dan Grunebaum)

現代の眼 591号 「文化庁による工芸技術記録と作家たち」(諸山正則)

平成23年度は、企画展との併催展もあわせて4本の所蔵作品展を開催した。春の恒例的な企画となっている「近代工芸の名品」展では、同時開催の「高橋禎彦展」の出品作家が、これまで個展として取り上げてきた各作家と比較して50歳代と若いことから、開催時に60歳以下の作家による仕事を展観し、現代の動向を検証した。「新収蔵作品展2008-2010」では、新たにコレクションに加わった約290点の作品のなかから、今回はじめて展示することになる作品を中心に、陶磁、ガラス、漆工、木工、染織、人形、金工、工業デザインなど、約45点の作品を展示した。また、人間国宝・巨匠コーナーにおいて、震災復興への思いを込めて「特集『東日本』」を開催した。この他「しまシマ工芸館」、「人間国宝と近代工芸の名品」を実施した。このうち、「人間国宝と近代工芸の名品」では、フィルムセンターが文化庁と共催して、文化庁がこの40年間に製作してきた「工芸技術記録映画」全本編を特集上映するのにあわせ、それらの映画に関係する重要な作品を特集陳列した。

◆平成23年3月1日～平成23年5月8日(57日間／うち平成23年度35日間、ただし東日本大震災の影響により平成22年度会期中6日間休館)

近代工芸の名品

人間国宝・巨匠コーナー

出品点数：50点

入場者数：16,856人(平成22年度含む21,305人)

◆平成23年5月17日～平成23年6月26日(36日間)

新収蔵作品展2008-2010

人間国宝・巨匠コーナー「特集『東日本』」

出品点数：46点

入場者数：7,573人

◆平成23年7月5日～平成23年8月31日(51日間)

しまシマ工芸館

出品点数：158点

入場者数：10,987人

◆平成23年11月22日～平成24年1月29日(56日間)

人間国宝と近代工芸の名品

人間国宝・巨匠コーナー

出品点数：113点

入場者数：12,509人



In fiscal 2011 the Crafts Gallery gave four collection exhibitions including ones accompanying special exhibitions. *Modern Japanese Crafts from the Museum Collection* that has become an annual event in every spring focused on contemporary trends presenting pieces by artists under sixty years of age, because the special exhibition *Takahashi Yoshihiko Goes to the Glass* held simultaneously featured a craftsman in his fifties, relatively younger than those had given solo shows at our gallery. *New Acquisitions 2008-2010* presented 45 pieces, most of them shown for the first time at our gallery, including ceramics, glass, lacquerware, woodwork, textiles, dolls, metalwork and industrial designs selected from the 290 new acquisitions. The *Works of Living National Treasures and Great Masters* section featured *East Japan* in hope for earthquake reconstruction. In addition, we held *Stripes: Modern Crafts from the Museum Collection and Masterpieces of Modern Crafts and Living National Treasures from the Museum Collection*. The latter presented important pieces related to the *Documentary Films on Craft Techniques*, a film series that the Agency for Cultural Affairs had produced during the past 40 years, to accompany the joint project by the agency and the National Film Center to screen all the feature films in the series.

◆March 1 to May 8 (57 days, of which 35 days were in fiscal 2011, museum was closed for 6 days owing to the Great East Japan Earthquake)
Masterpieces of Modern Crafts from the Museum Collection
Number of the exhibits: 50
Number of visitors: 16,856 (21,305, in total with the visitors in fiscal 2010)

◆May 17 to June 26 (36 days)
New Acquisitions of Modern Crafts: 2008-2010
Number of the exhibits: 46
Number of visitors: 7,573

◆July 5 to August 31 (51 days)
Stripes: Modern Crafts from the Museum Collection
Number of the exhibits: 158
Number of visitors: 10,987

◆Nov. 22 to Jan. 29, 2012 (56 days)
Masterpieces of Modern Crafts and Living National Treasures from the Museum Collection
Number of the exhibits: 113
Number of visitors: 12,509

平成18年12月から、本館・工芸館の所蔵作品展、フィルムセンターの展示室を1,000円で1年間、何度でも観覧できる「MOMATパスポート」の販売を開始した。プレスリリースやホームページにより広報を行い、平成23年度は500枚を販売した。

The MOMAT Passport was launched in December 2006. The passport allows the holder to visit the Film Center gallery and the Museum Collection exhibitions in the Main Building and Crafts Gallery as often as desired during a 12-month period for just 1,000 yen. Information on the Passport was provided to the public through press releases and website notices. Unit sales totaled 500 in fiscal 2010 (ending in March 2012).

会 期
平成23年8月6日～平成23年9月19日 (37日間)
会 場
江別市セラミックアートセンター
主 催
東京国立近代美術館、 北海道教育委員会、江別市
協 賛
北海道新聞社
入館者数
2,651人
出品点数
109点

会 期
平成23年10月1日～平成23年11月27日 (56日間)
会 場
瀬戸市美術館
主 催
東京国立近代美術館、 愛知県教育委員会、瀬戸市
入館者数
2,942人
出品点数
108点

新聞・雑誌等における掲載記事

(江別会場)

北海道新聞 8月7日 「名匠の陶器 江別で公開」(渡辺賢治)

北海道新聞 8月25日 「日本の現代陶芸—伝統と新風の精美— 明治から平成の展開を俯瞰」(大野日出明)

(瀬戸会場)

中日新聞 10月25日 「国立美術館巡回展 日本の現代陶芸—伝統と新風の精美— 現代陶芸の入門編」(大長智広)

中日新聞・県内版 10月25日 「人間国宝陶芸家32人含む展覧会」(水越直哉)

美術の窓 338号 「日本の現代陶芸—伝統と新風の精美—」

1-5 東京国立近代美術館工芸館所蔵作品巡回展等

1-5-1 国立美術館巡回展

平成23年度国立美術館巡回展 日本の現代陶芸—伝統と新風の精美

日本の陶芸は、明治時代以降、産業と技術における近代化が急速に促進されていくなかで、個人の創作を主張して自由な表現をうたう個人作家の系譜が発展してきた。それは、伝統や民藝をふまえた、あるいは創作表現を主に強調してきた陶芸や、オブジェに連なる現代的な造形表現といった多種多様な展開を遂げ、日本の優れた芸術として国際的にも高い評価を受けてきた。本展では、江別と瀬戸という歴史的な二つの窯業地において、東京国立近代美術館と京都国立近代美術館の所蔵作品の中から、そうした日本の近現代陶芸の発展と芸術を代表する作品109点を厳選して多様な作品を紹介した。

Supreme Beauty of Traditions and New Perspectives: Contemporary Japanese Ceramics

Amid the rapid modernization in industry and technology after the Meiji period (1868-1912), Japanese ceramics have developed a genealogy of individual artists advocating individual creation. Its diverse developments have included ceramic arts based on traditions or *Mingei* (folk craft), those focusing on original expression, and those demonstrating modern form creation that links to artistic objects, earning international acclaim as high art of this country. Held in Ebetsu and Seto, two of historical ceramic centers, this exhibition presented 109 pieces selected from the collections of the National Museums of Modern Art in Tokyo and Kyoto to illustrate the developments and art of modern Japanese ceramics.



江別会場



瀬戸会場



会 期

平成23年10月8日～平成23年12月4日
(48日間)

会 場

福井県陶芸館

主 催

福井県陶芸館、東京国立近代美術館

入館者数

3,484人

出品点数

51点

新聞・雑誌等における掲載記事

福井新聞 10月9日 「巨匠の名品ずらり
県陶芸館(越前町)特別展」(無記名)

朝日新聞 11月19日『『お気に入り』探し
にきて』(新井英之)

1-5-2 工芸館巡回展

東京国立近代美術館工芸館名品展 近代陶芸 51人の巨匠たち

古窯の里である越前の地においてはなかなか見ることのできない近代陶芸の名品を多くの方にご覧いただく機会となるよう、工芸館陶芸コレクションのなかから51作家による51点の作品を選び、明治時代以降現代までの陶芸史を彩る代表的作品を展示した。

51 Ceramic Art works from the Collection of Crafts Gallery, MOMAT

To offer an opportunity to appreciate masterpieces of modern ceramics that are rarely shown in Echizen Province (now part of Fukui Prefecture), a home of ancient kilns, this show presented 51 pieces by 51 ceramists that highlighted the history of modern Japanese ceramics from the Meiji period (1868-1912) to the present.



2 作品貸与・特別観覧・プリントスタディ

2-1 本館

- ①貸 与 60件(300点)
- ②特別観覧 91件(474点)
- ③プリントスタディ(写真作品観覧制度) 2件(18名, 123点)

2-2 工芸館

- ①貸 与 21件(190点)
- ②特別観覧 36件(64点)

◆一條彰子

論文「夏休み！こども美術館」―「鑑賞＋表現」プログラムの位置づけ／『現代の眼』591号

論文(共著)『東京国立近代美術館解説ボランティア MOMATガイドスタッフ活動の記録2002-2011 トーキング・トーキンビ』

報告(共著)「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」／科研費研究(B)平成21-23年度

発表「子どもと見るアート―美術館を活用した鑑賞教育について」／せとうち美術館ネットワーク(会場：香川県立ミュージアム、2011年10月22日)

◆大谷省吾

論文「古賀春江の《海》はどここの海？」／『現代の眼』588号

論文「日本におけるキュビズムの受容」／『ふらんす』86巻7号(白水社、2011年7月)

告知記事「東京国立近代美術館 開館60周年記念事業のご案内」／『現代の眼』592号

展覧会カタログ「文筆家としての瑛九」／『生誕100年 瑛九展』(宮崎県立美術館ほか、2011年7月)

◆蔵屋美香

報告「平成22年度の新収蔵作品(美術作品)について」／『現代の眼』588号

論文「時評―2 三. 一―によせて」／『視覚の現場：四季の綻び』9号(醍醐書房、2011年6月)

論文「劉生と麗子と麗子像―麗子像はなぜ不気味に見えるのか?」, 「評伝 鶴沼時代」, 「鶴沼時代の静物画」／『別冊太陽 岸田劉生 独りゆく画家』(平凡社、2011年7月)

論文「ART EFFECTS」『BEAUTY INNOVATOR』vol.3(資生堂、2011年秋冬)

告知記事 展覧会予告「はだかの絵画―日本のヌード 1890-1945 [仮称]」／『現代の眼』589号

作品解説「近代美術の眼 岸田劉生《道路と土手と塀(切通之写生)》」／『読売新聞』(都内版、2011年5月20日)

作品解説／『「美人画」の系譜 心で感じる「日本絵画」の見方』(小学館、2011年11月)

展覧会カタログ「路上」プロージャ／「路上」展

展覧会カタログ「はじめに」、章解説、メインテキスト、年表、参考文献／「ぬぐ絵画―日本のヌード 1880-1945」展

発表「ポートフォリオ指導会」／武蔵野美術大学(会場：武蔵野美術大学、2011年11月28日)

発表「展覧会『ぬぐ絵画』について」／女子美術大学(会場：女子美術大学、2011年12月1日)

発表「岸田劉生と《切通之写生》」／「歴史連続講座 渋谷で活躍した美術家たち」第4回(会場：渋谷区立上原社会教育会館、2012年2月2日)

◆鈴木勝雄

論文「国吉の魂の陶(下)」／『沖縄タイムス』(2011年4月21日)

論文「圧倒的な影響力—草土社結成」／『岸田劉生：独りゆく画家』(平凡社、2011年7月)

論文「重力と女性像—日本近代彫刻の転換点」／『現代の眼』591号

作品解説「近代美術の眼 河野通勢《好子像》」／『読売新聞』(都内版、2011年4月8日)

作品解説「近代美術の眼 藤井浩祐《譚》」／『読売新聞』(都内版、2011年11月11日)

◆都築千重子

論文「マチエールの背後に見えるもの—香月泰男の《告別》を中心に」／『現代の眼』587号

論文「安井曾太郎と梅原龍三郎 彼らを『日本の油絵』に駆り立てたもの」／『花美術館』23号(花美術館、2011年12月)

作品解説「近代美術の眼 海老原喜之助《殉教者》」／『読売新聞』(都内版、2011年7月15日)

作品解説「近代美術の眼 谷中安規《母と子(自転車)》」／『読売新聞』(都内版、2011年12月23日)

◆鶴見香織

論文「作品研究 細川護立氏「談話『作品と人』」再読—菱田春草晩年作に関して」／『現代の眼』589号

論文「吉川霊華の箱書き」／『視覚の現場・四季の綻び』10号(醍醐書房、2011年9月)

論文「日本画の巨匠三山展 リレー展評 杉山寧編」／『北日本新聞』(2011年9月21日)

論文(共著)「『修復・表現』について」／『現代の眼』591号

作品解説「松林桂月《春宵花影図》」／『月刊 水墨画』265号(ユーキャン、2011年4月)

作品解説「幸野楳嶺《溪頭棲鷺図》」／『月刊 水墨画』266号(ユーキャン、2011年5月)

作品解説「近代美術の眼 下村観山《唐茄子畑》」／『読売新聞』(都内版、2011年6月10日)

作品解説「近代美術の眼 村上華岳《海鳥暮景之図》」／『読売新聞』(都内版、2011年9月9日)

作品解説「横山大観《或る日の太平洋》」／『月刊 水墨画』271号(ユーキャン、2011年10月)

◆中林和雄

論文「輪郭と時間—アンリ・マティス《ルネ、緑のハーモニー》について」／『現代の眼』590号

展覧会カタログ「引込み線と現代美術」／「引込み線」展(所沢ビエンナーレ実行委員会、2011年10月)

展覧会カタログ「ジャクソン・ポロック Good Art」、作品解説／「生誕百年 ジャクソン・ポロック」展

◆中村麗子

論文「前田青邨、安田鞞彦と古径」／『花美術館』24号(花美術館、2012年2月)
論文「資料紹介 上村松園の作品における落款について」／『東京国立近代美術館研究紀要』第16号

◆保坂健二郎

論文 連載「美術」／『すばる』(集英社、2011年4月～2012年3月)
論文 連載「視線」／『朝日新聞』(全国版、4月3日、5月8日、6月12日、7月17日、9月11日、10月16日、11月20日、1月8日、2月12日、3月18日)
論文「フランシス・ベーコン」「アルベルト・ジャコメッティ」「ヴィト・アコンチ」／『美術手帖』(美術出版社、2011年5月)
論文「写真家のアトリエと寝ること (の反対)」／『ヤン&エヴァ・シュヴァンクマイエル展 映画とその周辺』展(パッドレンコーポレーション、2011年8月)
論文 構成・文責「ヴァレリオ・オルジャティへのインタビュー」／『現代の眼』590号
論文「私の知っているイケムラさん」／『Hill Wind 三重県立美術館ニュース』29号(三重県立美術館、2011年11月)
論文「パトスと『弱さ』 1984年以降の日本の絵画について」／『Pathos and Small Narratives』展(Gana Art Gallery, Seoul、2011年11月)
論文 聞き手・構成「アーティストインタビュー イケムラレイコ」／『美術手帖』(美術出版社、2011年11月)
論文「鱸万里絵の絵画と『器官なき身体』」／『鱸万里絵』(RAW VISION、2011年12月)
論文「特集展示 描かれたダリヤ」／『現代の眼』592号
論文「建築的な、あまりに建築的な」「長谷川豪展 スタディとリアル」展覧会レポート／(『TOTOギャラリー・間』(ウェブサイト)、2012年2月)
告知記事 展覧会予告「イケムラレイコ うつりゆくもの」／『現代の眼』588号
告知記事 展覧会予告「ヴァレリオ・オルジャティ」／『現代の眼』589号
作品解説「近代美術の眼 堂本右美《Kanashi-11》」／『読売新聞』(都内版、2012年2月10日)
展覧会カタログ 編集・構成・文責「イケムラレイコへのロング・インタビュー」「なぜ彼女たちは甸甸するのか?『古事記』とエコロジーを手がかりに」／「イケムラレイコ うつりゆくもの」展
展覧会カタログ 構成・翻訳「ヴァレリオ・オルジャティへのインタビュー」「インタビューを終えて」／「ヴァレリオ・オルジャティ」展
展覧会カタログ “Double Vision” “Japanese Contemporary Art: Imagination Focused on Publicness” 「作家解説」／「Double Vision: Contemporary Art from Japan」展(Moscow: Maier、2012年3月)
発表 公開鼎談「クートラスというプリズム」／公開研究会多摩美術大学芸術人類学研究所(会場:ラボラトリオ、2011年4月30日)
発表「1820年代のロマン主義から、1890年代の印象派までの絵画史」／NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ(会場:AIT代官山、2011年5月19日)
発表「アヴァンギャルドの現在」／公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団(会場:森下文化センター、2011年6月11日)

発表「キュビズムから抽象へ向かう、20世紀前半の絵画」/NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ(会場：AIT代官山、2011年6月12日)

発表 聞き手「アール・ブリュットをめぐるトークシリーズ」/ボーダレス・アートミュージアム NO-MA、滋賀県社会福祉事業団、滋賀県(会場：ヴォーリズ平和礼拝堂他、2011年6月18日、9月3日、9月24日、10月1日、11月19日、11月26日、2012年1月28日、2月18日)

発表 対談「アート・インスパイア・デザイン」/「倉俣史朗とエットレ・ソットサス展 夢見る人が夢見たデザイン」(会場：21_21 DESIGN SIGHT、2011年7月9日)

発表 公開対談「アール・ブリュットときららアートの間に・・・」/「きららアートサミット2011」(会場：岩手県公会堂大ホール、2011年9月4日)

発表 公開討論「CCAキュレーター・ミーティング 2011 レッツ・トーク・アバウト・アート」(会場：現代美術センターCCA北九州、2011年10月7日～9日)

発表「アール・ブリュットの魅力と今後」/「アール・ブリュット 生の芸術— 人の無限の創造性を探求する」/社会福祉法人愛成会(会場：中野サンプラザ・アネモルーム、2011年11月5日)

発表 特別講義「アートの今後 建築と福祉の観点から」/京都造形芸術大学(会場：京都造形芸術大学東京芸術学舎、2011年11月12日)

発表 特別講義「建築から見た絵画、絵画からみた建築」/多摩美術大学(会場：多摩美術大学油画研究室、2011年11月25日)

発表「日本におけるアウトサイダー・アート」/NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ(会場：AIT代官山、2011年11月30日)

発表 公開鼎談「ポコラート全国公募展vol.2」/アーツ千代田3331(会場：アーツ千代田3331、2011年12月23日)

発表 コーディネーター「シンポジウム 美術館は誰のもの?」/「アメニティーネットワークフォーラム16」(会場：天津プリンスホテルコンベンションホール淡海、2012年2月4日)

発表「日本のアール・ブリュット」/日米文化教育会議(会場：東京文化財研究所、2012年3月27日)

◆増田玲

報告「平成22年度の新収蔵作品(美術作品)について」/『現代の眼』588号

論文「土田ヒロミの「ベルリンの壁」をめぐるって」/土田ヒロミ写真集『BERLIN』(平凡社、2011年11月)

論文「ヘタウマ写真家のまなざし」/『芸術新潮』(新潮社、2012年1月号)

告知記事 展覧会予告「レオ・ルビンファイン 傷ついた街」/『現代の眼』588号

作品解説「近代美術の眼 三好耕三《「See-Saw」より Twin Christmas》」/『読売新聞』(都内版、2011年12月9日)

展覧会カタログ「『彼ら』と『私たち』」/「レオ・ルビンファイン 傷ついた街」展

発表「“アメリカ写真”と題された写真集をめぐる一写真家ウォーカー・エヴァンズとその周辺—」/「現代アメリカ論『アメリカン・イメージ』」(会場：群馬県立女子大学、2011年11月29日)

◆榎田倫広

論文「『／』のトポグラフィー」／『美術手帖』(美術出版社、2011年4月)

論文「光について」／『美術手帖』(美術出版社、2011年10月)

論文「[特集展示]神原泰 詩と絵画の平行現象」／『現代の眼』590号

論文「想起のための場所」／『美術手帖』(美術出版社、2011年11月)

論文「この目が嘘をついている目か」／『美術手帖』(美術出版社、2011年12月)

論文「映像、軽いのか重いのか」／『美術手帖』(美術出版社、2012年1月)

論文「空隙としてのチューブ」／『美術手帖』(美術出版社、2012年2月)

論文「ともにあること」／『美術手帖』(美術出版社、2012年3月)

作品解説「近代美術の眼 神原泰 『スクリアピンの『エクスタシーの詩』に題す』」／『読売新聞』(都内版、2011年10月21日)

作品解説「近代美術の眼 清宮質文 『さまよう蝶』」／『読売新聞』(都内版、2012年3月16日)

◆松本透

論文「K. ホネフ氏に会って思い出したことなど(下)」／『インボス』vol.4 (カスヤの森現代美術館、2011年5月)

展覧会カタログ「彫刻とフィギュア——岡本太郎の場合」／「引込み線」展(所沢ビエンナーレ実行委員会、2011年10月)

展覧会カタログ(翻訳)「マイエン・ベックマン『光と影』ほか3篇」／「イケムラレイコ うつりゆくもの」展

◆水谷長志

論文「MLA連携のフィロソフィー—連続と侵犯—という」／『情報の科学と技術』61巻6号(情報科学技術協会、2011年6月)

論文「研究文献レビュー MLA連携—アート・ドキュメンテーションからのアプローチ」／『国立国会図書館カレントアウェアネス』308号(国立国会図書館、2011年6月)

論文「デジタルアーカイブとMLA連携—原理の整理の試みとして、あるいは『情報学は雄カマキリである』を想起して」／『アーカイブズ学研究』15号(日本アーカイブズ学会、2011年11月)

論文(書評)『図書館・博物館・文書館の連携』『つながる図書館・博物館・文書館 デジタル化時代の知の基盤づくりへ』『デジタル文化資源の活用 地域の記憶とアーカイブ』／『日本図書館情報学会誌』57巻4号(日本図書館情報学会、2011年12月)

論文「基調報告4」／『ART ARCHIVES-one 継承と活用：アート・アーカイブの「ある」ところ 記録集』(Art Archives Project、2012年1月)

論文「国際会議参加報告」新しい美術書誌情報の潮流—美術図書館横断検索(artlibraries.net / NYARC)と刷新される二次情報ツール(FAB / IBA)のこと／『現代の眼』588号

発表「デジタルアーカイブとMLA連携 原理の整理の試みとして」／アーカイブズ学会(会場：学習院大学、2011年4月24日)

発表「震災復興とMLA」／総務省 知のデジタルアーカイブに関する研究会(第3回)(会場：三田共用会議所、2011年6月8日)

発表「美術館におけるデジタルアーカイブとその課題」／総務省 知のデジ

タルアーカイブに関する研究会(第4回)(会場：金融庁共用会議室、2011年7月21日)

発表「日本の美術館の現状と課題から」/シンポジウム「文化情報の整備と活用～デジタル文化財が果たす役割と未来像」一般財団法人デジタル文化財創出機構(会場：丸の内・コンファレンススクエア エムプラス、2011年7月22日)

発表「総論 美術情報・資料の活用法—提供と利用のはざまにおいて」「第Ⅲ講 今日図書館から俯瞰する美術館の資料活動」「第Ⅳ講 電子的リソース(二次資料)」/全国美術館会議情報・資料研究部企画セミナーⅢ「美術情報・資料の活用法—展覧会カタログからWeb まで」(会場：奈良国立博物館、2011年12月16-17日)

発表「C分科会 アーカイブズ アート・ミュージアムからの課題の提起」/第5回21世紀ミュージアムサミット 100人で語るミュージアムの未来～人々をつなぐミュージアム(会場：湘南国際村センター、2012年2月4日)

◆三輪健仁

論文「線と色彩の総合—パウル・クレーの「油彩転写」技法について」/『版画芸術』No.152 (阿部出版、2011年6月)

論文「(表)面的思考 | 「1970年8月 現代美術の一断面」展について」/『なにかいってほしいま さがす—半影のモンタージュ』報告書(港区アート・アーカイヴ=地域芸術資源採掘プロジェクト MARM事務局、2011年)

論文(共著)「『修復・表現』について」/『現代の眼』591号

展覧会カタログ「言葉の問題——《2-9-1について》」/『PLATFORM2011 浜田涼・小林耕平・鮫島大輔—距離をはかる—展(練馬区立美術館、2011年4月)

展覧会カタログ「辰野登恵子の抽象を読む、具体的に」/『辰野登恵子展 抽象—明日への問いかけ』(資生堂 企業文化部、2011年9月)

発表「辰野登恵子氏との対談」/エコール資生堂 宣伝制作学部(会場：東京銀座資生堂ビル、2011年10月4日)

◆柴原聡子

論文「地域の蔵がなくなる 被災地の文化財の現在——尾形家再建プロジェクト、雄勝町まちづくりをとおして」/『建築雑誌』(日本建築学会、2011年11月)

◆藤田百合

論文(共著)『東京国立近代美術館解説ボランティア MOMATガイドスタッフ活動の記録2002-2011 トーキング・トーキンビ』

◆渡邊美喜

論文「日本の美術界における年史編纂物—東京国立近代美術館アートライブラリ所蔵図書にみる」/『東京国立近代美術館研究紀要』第16号

翻訳 ケイティ・ローガン、シャーロット・マッカーシー「第5章 アーカイブズを展示することによる商業上の効果」/渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター編『世界のビジネス・アーカイブズ—企業価値の源泉』(日外アソシエーツ、2012年3月)

発表「マクミラン社グローヴ世界美術大事典にみるアート・アーカイブズの類型とその実例」/アート・ドキュメンテーション学会(会場：東京国立

2 工芸館

◆今井陽子

論文 展覧会予告「『織』を極める 人間国宝 北村武資」／『現代の眼』第590号

論文「北村武資の仕事—経錦」／『現代の眼』第592号

論文「『織』を極める 人間国宝 北村武資展」／『美しいキモノ』、2012年春号、ハースト婦人画報社

作品解説「しまシマ工芸館」及び「しまシマ工芸館 活用のヒント」／『所蔵作品展 しまシマ工芸館』

展覧会カタログ「ラディカルな織—北村武資の羅と造形思考」、「用語解説」／『『織』を極める 人間国宝 北村武資展』

◆唐澤昌宏

論文「安陪寿恵の絵絣—心象の形を織り込む」／『絵絣 安陪寿恵作品集Ⅲ』(安陪寿恵、2011年6月16日)

論文「前田正博の色絵磁器—色彩と模様のハーモニー」／『陶説』700号(日本陶磁協会、2011年7月1日)

告知記事 展覧会予告「グェッリーノ・トラモンティ展」／『現代の眼』第587号

報告「平成22年度の新収蔵作品(工芸作品)について」／『現代の眼』第588号

論文「『イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展』によせて」／『現代の眼』第589号

展覧会カタログ「『嶺男 天目』展に寄せて」／『嶺男 天目』展(中長小西、2011年4月)

展覧会カタログ「『茶陶—造形と意匠にみる現在性Ⅱ 2011』にあたって」／『茶陶—造形と意匠にみる現在性Ⅱ 2011』展(多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス、2011年4月)

展覧会リーフレット「『白磁』—井上康徳の想いの造形」／『井上康徳展』(SOGO広島、2011年5月)

展覧会カタログ「グェッリーノ・トラモンティの陶作品から得られるものとは—イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展によせて」、「章解説」／『イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展』

展覧会カタログ「『日本×ファエンツァ やきものの現在—ファエンツァ国際陶芸展日本人歴代受賞作家展』によせて」／『日本×ファエンツァ やきものの現在—ファエンツァ国際陶芸展日本人歴代受賞作家展』(イタリア文化会館、2011年9月)

展覧会カタログ「再見、岡部嶺男」／『一宿命— 岡部嶺男』展(銀座 黒田陶苑、2011年10月3日)

展覧会リーフレット「伊藤栄傑さんの初個展に寄せて」／『伊藤栄傑展』リーフレット(日本橋三越、2011年10月)

発表「イギリスの明治工芸」／東洋陶磁学会平成23年度第4回研究会(会場:東京国立近代美術館、2012年2月26日)

発表 講演会「日本の現代陶芸—その歩みと展開—」／瀬戸市美術館（会場：瀬戸市文化センター、2011年11月3日）

発表 講演会「日展の工芸美術を考える」／日展（会場：国立新美術館講堂、2011年11月5日）

発表 講演会「近代陶芸について」／福井県陶芸館（会場：福井県陶芸館茶苑 大広間、2011年11月20日）

発表 講演会「ゲッリーノ・トラモンティの創作活動について」／山口県立萩美術館・浦上記念館（会場：山口県立萩美術館・浦上記念館講堂、2011年12月10日）

発表 講演会「Kogei とクラフト」／日本クラフトデザイン協会（会場：丸ビル コンファレンススクエア、2011年12月26日）

発表 シンポジウム「現在の茶陶を考える」／多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス（会場：多治見市文化工房ギャラリーヴォイス、2011年4月16日）

発表 シンポジウム「陶における表現とは」／多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス（会場：多治見市文化工房ギャラリーヴォイス、2011年10月8日）

発表 対談「作家と語る①—備前焼の今と未来 金重有邦×唐澤昌宏」／菊池寛実記念 智美術館（会場：菊池寛実記念 智美術館、2012年2月18日）

◆木田拓也

論文「国井喜太郎の固有工芸論：1930年代における『日本的なもの』とモダンデザイン」／『デザイン史学』第9号（デザイン史学研究会、2011年7月15日）

論文「[作品研究] 鈴木長吉の《十二の鷹》——なぜ、日本の鷹狩りは世界無形文化遺産に登録されなかったのか……」／『現代の眼』第588号

展覧会カタログ「増田三男 命ある模様を刻む」／『増田三男 清爽の彫金——そして、富本憲吉』展

論文「原弘と東京国立近代美術館：デザインワークを通して見えてくるもの」／『原弘と東京国立近代美術館：デザインワークを通して見えてくるもの』展

発表「大河内正敏と奥田誠一 陶磁器研究会／彩壺会／東洋陶磁研究所—大正期を中心に—」／東洋陶磁学会第39回大会（会場：根津美術館、2011年11月26日）

発表「アメリカ西海岸の明治工芸コレクション」／東洋陶磁学会平成23年度第4回研究会（東京国立近代美術館、2012年2月26日）

発表 Japanese Crossing Border: Asia as Dreamed by Craftspeople 1910s-1945, "Oriental Modernity: Modern Design Development in East Asia", (会場: York Centre for Asia Research, York University, 2012年3月19日)

発表「1950年代の日米文化交流のなかの工芸とデザイン：ロックフェラー3世の日本旅行とアメリカの『ソフト・パワー』」／コロキウム プロパガンダと芸術（会場：東京国立近代美術館、2012年3月25日）

◆北村仁美

論文 展覧会予告「所蔵作品展 しまシマ工芸館」／『現代の眼』第587号

論文「工芸家たちのユートピア」／Deco Japan展（アメリカ、ジャパン・ソサエティ他で開催、2012年3月）

展覧会カタログ 「参考文献」／『織を極める 人間国宝 北村武資』展

発表「戦後日本の“Craft”」／「アジア・デザイン・エンサイクロペディアの構築」(会場：国際高等研究所、2011年11月5日)

発表「フランスの明治工芸」／東洋陶磁学会平成23年度第4回研究会（会場：東京国立近代美術館、2012年2月26日）

◆諸山正則

展覧会カタログ「黒田辰秋：生命の木工芸術」／KURODA TATSUAKI（ドイツ・漆芸博物館、2011年10月）

論文「文化庁による工芸技術記録と作家たち」／『現代の眼』591号

論文「記録映画『日本の美術工芸』に表された日本工芸の抒情」／「NFCニューズレター」第100号

発表「アメリカ東部の明治工芸」／東洋陶磁学会平成23年度第4回研究会（会場：東京国立近代美術館、2012年2月26日）

◆内藤裕子

論文〔作品研究〕ルーシー・リー《コーヒー・セット》／『現代の眼』第587号

論文「近代工芸の名作：所蔵作品展「新収蔵作品展2008-2010」」／『チャイム銀座』通号331（2011年6月）

論文「一九四六年の頃、原弘先生と・・・」／『現代の眼』第592号

展覧会カタログ「解説」、「年譜」、「主要参考文献」／『原弘と東京国立近代美術館：デザインワークを通して見えてくるもの』展

◆齊藤佳代

作品解説「しまシマ工芸館」及び「しまシマ工芸館 活用のヒント」／『所蔵作品展 しまシマ工芸館』

論文「二人三脚による場の創造—子どもタッチ&トークを中心に」／『現代の眼』591号

作品解説『スコープ アートカード集 vol.2』美術出版サービスセンター

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Art Libraries and Other Reference Materials

[本館]

①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	319	848	119	1,286	27,249
洋図書	101	175	56	332	11,424
国内展覧会カタログ	14	2,227	10	2,251	50,894
国外展覧会カタログ	68	387	2	457	29,530
計	502	3,637	187	4,326	119,097

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和雑誌	—	—	—	107	3,442
洋雑誌	—	—	—	43	997

注)雑誌はタイトル数を計上

②アーツライブラリ(本館2階)公開活動

開室日数	219日
公開件数	9,109件
入室者数	2,510人
公開請求件数	1,624件

[工芸館]

①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	83	399	88	570	7,348
洋図書	10	126	0	136	1,041
国内展覧会カタログ	3	573	13	589	12,087
国外展覧会カタログ	0	39	0	39	1,526
計	96	1,137	101	1,334	22,002

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和雑誌	—	—	—	46	1,117
洋雑誌	—	—	—	2	114

注) 1. 雑誌はタイトル数を計上

2. 収集点数の合計と収蔵総点数の合計に雑誌タイトル数は含まない

②図書閲覧室(工芸館1階)公開活動

開室日数	169日
公開件数	640件
入室者数	322人
公開資料件数	161件

1-2 児童生徒を対象とした事業

1-2-1 本館

◆小・中・高等学校の授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成23年6月1日	千代田区立九段小学校	48人
平成23年6月3日	千代田区立番町小学校	74人
平成23年6月10日	文京区立本郷小学校	75人
平成23年7月6日	豊島区立長崎小学校	18人
平成23年9月13日	杉並区立天沼小学校	59人
平成23年10月13日	文京区立金富小学校	40人
平成23年11月22日	港区立港陽小学校	49人
平成23年12月21日	荒川区立第一日暮里小学校	26人
平成24年2月10日	昭和女子大学附属昭和小学校	101人
平成24年2月14日	港区立高輪台小学校	78人
平成24年2月15日	千代田区立お茶の水小学校	59人
平成24年2月16日	江戸川区立南小岩小学校	60人
平成24年2月21日	港区立御田小学校	57人
平成24年2月23日	文京区立小日向台小学校	41人
平成24年2月28日	東京都市大学付属小学校	78人
平成24年2月29日	新宿区立落合第六小学校	28人
平成24年3月9日	品川区立立会小学校	97人

平成23年6月22日	和洋九段女子中学校	250人
平成23年7月27日	富士吉田市立吉田中学校	18人
平成23年9月16日	文京区立第十中学校	70人
平成24年2月15日	共立女子中学高等学校	162人
平成24年2月16日	共立女子中学高等学校	122人
平成24年2月17日	共立女子中学高等学校	190人
平成24年2月18日	共立女子中学高等学校	40人
平成24年2月21日	共立女子中学高等学校	81人
平成24年2月23日	共立女子中学高等学校	41人
平成24年2月24日	共立女子中学高等学校	39人

平成23年8月30日	都立王子総合高等学校	8人
平成23年10月1日	東京都立葛飾聾学校	11人

◆学校教職員の研修会等への協力

平成23年6月23日	杉並教育研究会 図画工作部	23人
平成24年3月15日	墨田区図工部 教員研修	18人

◆学校教職員を対象とした研究会

「パウル・クレー展」先生のための鑑賞講座

【講演】

日時：平成23年6月11日 13時00分～14時30分 聴講者数：54人

講師：三輪健仁(当館研究員)、濱口由美(福井大学准教授)

【特別観覧日】

日時：平成23年6月11日、6月12日 観覧者数：104人

「ジャクソン・ポロック展」先生のための鑑賞講座

【講演】

日時：平成24年2月19日 13時00分～15時00分 聴講者数：110人

講師：中林和雄(当館企画課長)、山田和弘(千代田区立お茶の水小学校教諭)・榮美樹(港区立高輪台小学校教諭)、河瀬昇(東京都立向丘高等学校非常勤講師)

【特別観覧日】

日時：平成24年2月18日、2月19日 観覧者数：154人

◆小・中学生向けプログラム

「夏休み！こども美術館」(対象：小学1年生～4年生)

日時：8月27日	午前の部(10時30分～12時00分)	参加者数：18人
	午後の部(14時00分～15時30分)	参加者数：19人
8月28日	午前の部(10時30分～12時00分)	参加者数：19人
	午後の部(14時00分～15時30分)	参加者数：15人

「夏休みトークラリー」(対象：小学5年生～中学3年生)

日時：7月21日	10時00分～13時00分	参加者数：131人
7月22日	10時00分～13時00分	参加者数：142人

◆MOMATコレクションセルフガイド

小・中学生を対象として、所蔵作品展に関連したこどもセルフガイドを作成し、来館した小・中学生に配布した。

◆「東京国立近代美術館のスクール・プログラム」

主に教員を対象として、学校対象のプログラム(ギャラリートーク受け入れ、セルフガイド、アートカード、トークラリー、教員研修)紹介冊子を作成し、年間カレンダーとともに学校等へ送付した。

◆KIDS★MOMAT2011

夏休み企画として、本館・工芸館・フィルムセンターの子ども向けプログラム情報を集約したチラシを作成し、都内近県の小・中学校の協力を得て配布し、ホームページに掲載した。

◆小・中・高等学校の授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成23年4月26日	東京富士高等学校附属中学校	128人
平成23年6月24日	東京都立大江戸高等学校	11人
平成23年7月27日	練馬区立石神井東中学校	22人
平成23年10月28日	東京都立若葉総合高等学校	12人
平成23年12月22日	神奈川県立弥栄高等学校	23人

◆小・中・高等学校の授業等への協力(タッチ&トーク)

平成23年6月21日	神奈川県立小田原城北工業高等学校	78人
平成23年7月21日	江東区立大島西中学校	17人
平成23年7月23日	大田区久原小学校	16人
平成23年7月27日	恵泉女学園中学高等学校	11人
平成23年8月3日	江戸川区立清新第三小学校	42人
平成23年8月3日	千代田区立千代田小学校	12人
平成23年10月1日	東京都葛飾ろう学校	13人
平成23年12月12日	文京区立柳町小学校	51人
平成23年12月19日	文京区立本郷小学校	82人
平成24年3月13日	江戸川区立平井西小学校	44人
平成24年3月13日	江戸川区立平井西小学校	40人

◆学校教職員を対象とした研究会

平成23年8月25日	北区教育研究会 小学校図画工作部	15人
平成24年3月14日	江戸川区 小学校図工教諭研究会	8人

◆小・中学生向けプログラム

「しまシマ×ワークショップ」(対象：小学4年生～中学3年生)

日時：8月7日	午前の部(10時00分～11時30分)	参加者数：15人
	午後の部(13時00分～14時30分)	参加者数：16人

◆未就学児から小学生向けプログラム

「こどもタッチ&トーク」(対象：3歳～小学3年生)

日時：7月24日	参加者数：18人
日時：7月26日	参加者数：19人

「しまシマ×絵本」(対象：3歳～小学3年生)

日時：8月27日	15時～	参加者数：5人
日時：8月27日	16時～	参加者数：6人
日時：8月28日	15時～	参加者数：6人
日時：8月28日	16時～	参加者数：7人

◆こどもセルフガイド

平成23年7月5日～8月31日

中学生以下を対象として、所蔵作品展「しまシマ工芸館」に関連したこどもセルフガイドを作成し、来館した小・中学生に無料配布した(先着2000人)。また、教職員向けの指導案として、「しまシマ工芸館 活用のヒント」を作成・配布した。

◆「パウル・クレー—おわらないアトリエ」展講演会

「ウラのウラを読む—パウル・クレーの両面作品」

日時：平成23年6月4日 13時00分～14時30分

講師：柿沼万理江(チューリヒ大学)

聴講者数：157人

「パウル・クレーと自然のアトリエ」

日時：平成23年7月16日 13時00分～14時30分

講師：奥田修(パウル・クレー・センター研究員)

聴講者数：154人

◆「パウル・クレー—おわらないアトリエ」展対談+朗読会

「クレーをめぐるお話と詩の朗読」

日時：平成23年6月26日 13時00分～14時00分

講師：谷川俊太郎(詩人)、岡崎乾二郎(美術家)

聴講者数：154人

◆「パウル・クレー—おわらないアトリエ」展コンサート

日時：平成23年6月12日 13時00分～13時30分

講師：申愛聖(バイオリン)+三間早苗(チェロ)

聴講者数：170人

日時：平成23年6月25日 13時00分～13時30分

講師：申愛聖(バイオリン)+三間早苗(チェロ)

聴講者数：155人

◆「パウル・クレー—おわらないアトリエ」展トークショー

「茂木健一郎のクレーを巡る旅

パウル・クレーが<画家>になった瞬間」

日時：平成23年6月24日 19時00分～20時30分

講師：茂木健一郎(脳科学者)

聞き手：鈴木芳雄(エディター、クリエイティブ・ディレクター)

会場：日経ビル6階・日経カンファレンスルーム

聴講者数：280人

◆「レオ・ルビンファイン 傷ついた街」展講演会

日時：平成23年9月10日 14時00分～15時30分

講師：レオ・ルビンファイン(出品作家)

聴講者数：103人

日時：平成23年10月8日 14時00分～15時30分

講師：増田玲(美術課主任研究員、本展企画者)

聴講者数：39人

◆「イケムラレイコ うつりゆくもの」展シンポジウム

「芸術におけるエコロジー」

日時：平成23年8月27日 13時00分～15時00分

講師：イケムラレイコ(出品作家)、加須屋明子(京都市立芸術大学准教授)、
保坂健二郎(美術課主任研究員、本展企画者)

聴講者数：146人

◆「イケムラレイコ うつりゆくもの」展ギャラリートーク

日時：平成23年9月17日 13時00分～14時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員、本展企画者)

聴講者数：32人

日時：平成23年10月15日 13時00分～14時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員、本展企画者)

聴講者数：40人

日時：平成23年10月22日 13時00分～14時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員、本展企画者)

聴講者数：45人

◆「ヴァレリオ・オルジャティ展」講演会

「75分間」

日時：平成23年11月1日 19時00分～20時15分

講師：ヴァレリオ・オルジャティ(出品作家)

聴講者数：132人

◆「ヴァレリオ・オルジャティ展」ギャラリートーク

日時：平成23年11月5日 14時00分～15時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員、本展企画者)

聴講者数：30人

日時：平成23年12月9日 18時00分～19時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員、本展企画者)

聴講者数：44人

◆「ぬぐ絵画—日本のヌード1880-1945」展講演会

「ヌードは難しくて解らない」

日時：平成23年11月26日 14時00分～15時30分

講師：横尾忠則(美術家)

聴講者数：109人

「皮膚を脱ぎ、^{はらわた}臓腑を放つ。」

日時：平成23年12月3日 14時00分～15時30分

講師：岡崎乾二郎(美術家)

聴講者数：92人

「ぬぐ絵画」

日時：平成23年12月10日 14時00分～15時30分

講師：蔵屋美香(美術課長、本展企画者)

聴講者数：87人

◆「ぬぐ絵画—日本のヌード1880-1945」展 ギャラリートーク

「黒田清輝とヌード」

日時：平成23年11月20日 14時00分～15時00分

講師：山梨絵美子(東京文化財研究所)

聴講者数：45人

「萬鉄五郎とヌード」

日時：平成23年12月11日 14時00分～15時00分

講師：根本亮子(岩手県立美術館)

聴講者数：37人

「古賀春江とヌード」

日時：平成23年12月17日 14時00分～15時00分

講師：大谷省吾(企画課主任研究員)

聴講者数：42人

「〈ぬぐ絵画〉について」

日時：平成24年1月6日 18時00分～19時00分

講師：蔵屋美香(美術課長、本展企画者)

聴講者数：90人

「安井曾太郎とヌード」

日時：平成24年1月7日 14時00分～15時00分

講師：貝塚健(石橋財団ブリヂストン美術館)

聴講者数：67人

◆「生誕100年 ジャクソン・ポロック展」シンポジウム

「PAINTERS' ROUND-TABLE: WHAT IS JP? 画家たちのポロック」

日時：平成24年2月12日 13時00分～16時00分

講師：堂本右美(画家)、岡村桂三郎(画家)、小林正人(画家)

モデレーター：中林和雄(企画課長、本展企画者)

聴講者数：125人

「今ポロックの何を見るのか」

日時：平成24年3月24日 13時00分～16時00分

講師：池上裕子(美術史)、沢山遼(美術批評)、林道郎(美術史)

モデレーター：中林和雄(企画課長、本展企画者)

聴講者数：147人

◆「生誕100年 ジャクソン・ポロック展」講演会

「ポロックとは何か」

日時：平成24年4月22日 14時00分～15時30分

講師：中林和雄(企画課長、本展企画者)

聴講者数：141人

◆キュレーター・トーク

「路上」

日時：平成23年5月22日 11時00分～12時00分

講師：蔵屋美香(美術課長)

聴講者数：22人

日時：平成23年7月2日 11時00分～12時00分

講師：蔵屋美香(美術課長)

聴講者数：20人

「明治・大正の日本画家と西洋美術」

日時：平成23年6月18日 11時00分～12時00分

講師：中村麗子(企画課研究員)

聴講者数：10人

「神原泰」

日時：平成23年9月18日 11時00分～12時00分

講師：榊田倫広(美術課研究員)

聴講者数：11人

「奇景」

日時：平成23年10月16日 11時00分～12時00分

講師：鶴見香織(美術課主任研究員)

聴講者数：16人

「重力と女性像」

日時：平成23年11月19日 11時00分～12時00分

講師：鈴木勝雄(美術課主任研究員)

聴講者数：14人

「古賀春江《海》を中心に」

日時：平成23年12月16日 18時00分～19時00分

講師：大谷省吾(企画課主任研究員)

聴講者数：17人

「画家たちの戦後」

日時：平成24年2月26日 11時00分～12時00分

講師：都築千重子(美術課主任研究員)

聴講者数：25人

「運動について」

日時：平成24年4月14日 11時00分～12時00分

講師：三輪健仁(企画課主任研究員)

聴講者数：10人

◆研究員による所蔵品ガイド

日時：平成23年5月21日 14時00分～15時00分

講師：保坂健二郎(美術課主任研究員)

聴講者数：36人

日時：平成23年8月6日 14時00分～15時00分
講師：鈴木勝雄(美術課主任研究員)
聴講者数：44人

日時：平成23年10月29日 14時00分～15時00分
講師：都築千重子(美術課主任研究員)
聴講者数：52人

日時：平成24年1月28日 14時00分～15時00分
講師：榊田倫広(美術課研究員)
聴講者数：33人

◆アーティスト・トーク

日時：平成23年6月5日 13時00分～14時00分
講師：戸谷成雄(彫刻家)
聴講者数：60人

日時：平成23年11月11日 18時30分～19時30分
講師：三好耕三(写真家)
聴講者数：51人

◆「所蔵作品展 テーマで歩こう〈奇景〉」にちなむトークイベント

「ありそうでありえない風景、鉄斎の描く真景図」
日時：平成23年10月7日 18時00分～19時00分
講師：笠嶋忠幸氏(出光美術館 学芸課 課長代理)
聴講者数：52人

◆「ガラス★高橋禎彦」展ギャラリートーク

日時：平成24年4月24日 14時00分～15時00分

講師：今井陽子(主任研究員)

聴講者数：11人

◆「増田三男 清爽の彫金——そして、富本憲吉」展ギャラリートーク

日時：平成23年6月12日 14時00分～15時00分

講師：木田拓也(主任研究員)

聴講者数：28人

◆「イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展」ギャラリートーク

日時：平成23年9月10日 14時00分～15時00分

講師：ヨスネ・ルイス・デ・インファンテ(美術史家)

聴講者数：38人

◆「イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展」講演

日時：平成23年9月11日 14時00分～16時00分

講師：ヨスネ・ルイス・デ・インファンテ(美術史家)

聴講者数：41人

◆「イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展」ギャラリートーク

日時：平成23年10月2日 14時00分～15時00分

講師：木田拓也(主任研究員)

聴講者数：11人

◆「イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展」ギャラリートーク

日時：平成23年10月16日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課長)

聴講者数：31人

◆「イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展」ギャラリートーク

日時：平成23年11月6日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課長)

聴講者数：38人

◆「原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見えてくるもの」展
ギャラリートーク

日時：平成24年2月19日 15時00分～16時00分

講師：木田拓也(主任研究員)

聴講者数：23人

日時：平成24年2月19日 15時00分～16時00分
講師：内藤裕子(客員研究員)
聴講者数：19人

◆「『織』を極める人間国宝 北村武資」展ギャラリートーク

日時：平成24年2月12日 14時00分～15時00分
講師：今井陽子(主任研究員)
聴講者数：44人

日時：平成24年3月25日 14時00分～15時00分
講師：今井陽子(主任研究員)
聴講者数：33人

◆「『織』を極める人間国宝 北村武資」展アーティスト・トーク

日時：平成24年2月26日 14時00分～15時00分
講師：北村武資(出品作家)
聴講者数：154人

日時：平成24年3月18日 14時00分～15時00分
講師：北村武資(出品作家)
聴講者数：232人

◆所蔵作品展「新収蔵作品展2008-2010」展ギャラリートーク

日時：平成23年5月22日 14時00分～15時00分
講師：内藤裕子(客員研究員)
聴講者数：19人

◆所蔵作品展「しましま工芸館」展ギャラリートーク

日時：平成23年7月10日 14時00分～15時00分
講師：北村仁美(主任研究員)
聴講者数：8人

日時：平成23年8月21日 14時00分～15時00分
講師：齊藤佳代(研究補佐員)
聴講者数：27人

◆所蔵作品展「人間国宝と近代工芸の名品」展ギャラリートーク

日時：平成23年11月27日 14時00分～15時00分
講師：諸山正則(主任研究員)
聴講者数：23人

日時：平成23年12月18日 14時00分～15時00分
講師：唐澤昌宏(工芸課長)
聴講者数：26人

日時：平成24年1月15日 14時00分～15時00分
講師：齊藤佳代(研究補佐員)
聴講者数：31人

1-4 大学等との連携

1-4-1 本館

◆インターンシップ

参加者数：6名

研修内容：コレクション・企画展・美術館教育・図書資料の4分野における基本的な日常業務の補助、および研修者の目的に沿った個別事業への参加。

◆大学の授業等への協力（ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入）

平成23年6月7日	東京造形大学	53人
平成23年7月7日	東洋美術学校	17人
平成23年9月13日	青山学院大学	43人
平成23年10月4日	東京造形大学	20人
平成24年2月12日	福島大学人間発達文化科学類	11人
平成24年3月4日	玉川大学リベラルアーツ学部	34人

◆生涯学習施設等への協力

平成23年7月16日 納得研究会(生涯学習団体) 30人

1-4-2 工芸館

◆インターンシップ

参加者数：7名(うち1名は22年度からの更新、1名は年度途中で辞退)

研修内容：展覧会の準備(カタログ執筆・展示撤収作業含む)、作品貸借立会、所蔵作品の状態管理、広報・普及活動等、学芸業務全般の補助

◆博物館実習

受入期間：平成23年7月21日～7月26日(5日間)

開催場所：工芸館

参加者数：4名

担当した研究員数：4名

実習内容：業務の状況や工芸作品について学とともに、作品・資料の取り扱いを実習した。

◆大学の授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成22年5月25日	東京芸術大学	20人
平成22年10月14日	お茶の水学院	10人
平成22年11月26日	東洋美術学校	17人
平成23年2月7日	京都造形芸術大学	7人
平成23年2月10日	京都造形芸術大学	7人

◆生涯学習施設等への協力

平成22年7月6日	マルシェモア	10人
平成22年7月7日	マルシェモア	15人
平成23年1月27日	NS会	24人

1-5 ボランティア

1-5-1 本館

フォローアップ研修(5月)では、講師に浅見俊哉氏を迎えてコピーアートペーパーのワークショップを実施し、夏休みの小学生向けプログラム「こども美術館」で実践した(8月)。また、開館60周年記念事業の一環として、MOMATガイドスタッフのこれまでの活動をまとめた「東京国立近代美術館 解説ボランティア MOMATガイドスタッフ活動の記録 2002-2011 トーキング・トーキンビ」を発行した(3月)。

ボランティアの登録人数 41人

◆MOMATガイドスタッフによる所蔵作品ガイド

平成23年5月17日～7月31日	66回／1041人
平成23年8月6日～10月23日	67回／549人
平成23年10月29日～平成24年1月15日	63回／625人
平成24年1月24日～5月8日	93回／1083人

◆ハイライト・ツアー

平成23年6月5日	35人
平成23年7月3日	30人
平成23年8月7日	22人
平成23年9月4日	35人
平成23年10月2日	45人
平成23年11月6日	20人
平成23年12月4日	23人
平成24年2月5日	27人
平成22年3月4日	24人

学校等団体見学の受入れ機会が増加していることから、特に児童・生徒への鑑賞教育に強い関心を持つボランティアガイドを募集し、5ヶ月間の養成研修もこれを重点的に行った。また、既存のボランティアガイドに対しても、対話型トークのスキルアップを目的とする研修を徹底的に行った結果、来館者の満足度とともにボランティア自身の意欲も向上し、団体対応等への積極的な参加が見られた。

ボランティアの登録人数 25人

◆タッチ&トーク

「ガラス★高橋禎彦」展
実施回数：9回／113人

「増田三男 清爽の彫金——そして富本憲吉」展
実施回数：12回／124人

「所蔵作品展 しましま工芸館」
実施回数：17回／237人

「イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師 グェッリーノ・トラモンティ」展
実施回数：19回／217人

「所蔵作品展 人間国宝と近代工芸の名品」
実施回数：18回／208人

「『織』を極める 人間国宝 北村武資」展
実施回数：16回／291人

◆タッチ&トーク(英語)

「『織』を極める 人間国宝 北村武資」展
実施回数：2回／15人

6年目にあたり、これまでの2日半の日程を見直し、2日間のプログラムに改変して行った。具体的には、10の小グループに分かれて行うグループワーク、ワールドカフェ（全体討議）、講演はこれまでと同様に行い、事例紹介を「ポスターセッション」へ、ギャラリートーク実演を「ギャラリートーク分析」へ移行させることによって、より深く鑑賞教育を理解できるよう再構成した。なお、昨年を引き続いて「平成23年度教員免許状更新講習」を実施した。

主 催：独立行政法人国立美術館

共 催：文部科学省

会 場：国立西洋美術館、国立新美術館

日 時：平成23年8月1日(月)～8月2日(火)

参加者数：101名

(小学校教諭34名、中学校教諭42名、指導主事6名、学芸員18名、
養護学校教諭1名)

教員免許状更新講習：受講者22名

修了者22名

2-1 企画展覧会カタログ

2-1-1 本館

パウル・クレー おわらないアトリエ 日本語版

23×19cm / 439p

編著者：池田祐子、三輪健仁、ヴォルフガング・ケルステン、柿沼万里江、奥田修、ベッティ
ナ・ゴツケル

出版者：日本経済新聞社

出版年：©2011

パウル・クレー おわらないアトリエ ドイツ語版

23×19cm / 127p

編著者：Wolfgang Kersten, Yuko Ikeda, Kenjin Miwa, Marie Kakinuma, Osamu Okuda, Bettina
Gockel

出版者：Nikkei Inc.

出版年：©2011

レオ・ルビンファイン 傷ついた街

26×32cm / 79p

編著者：増田玲、大谷省吾

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2011

イケムラレイコ うつりゆくもの

28×23cm / 255p

編著者：中村麗子、保坂健二郎、原舞子、毛利伊知郎、イケムラレイコ、カタリーナ・ヴィ
ネケス、建島哲、ラインホルト・ネヴェン・デュモン、マイエン・ベックマン、フ
リーデマン・マルシュ

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2011.8



ヴァレリオ・オルジァティ展

26×19cm / 39p

編著者：保坂健二郎

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2011.11



ぬぐ絵画 日本のヌード1880-1945

22×13cm / 231p

編著者：蔵屋美香、三輪健仁

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2011.11

生誕100年 ジャクソン・ポロック展

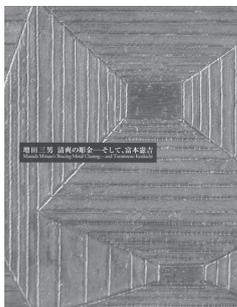
31×21cm / 219p

編著者：ヘレン・A・ハリソン、大島徹也、中西園子、塩津青夏、副田一穂、中林和雄

出版者：読売新聞東京本社

出版年：©2011-2012





増田三男 清爽の彫金——そして、富本憲吉

26×20.1cm / 126p

編著者：唐澤昌宏、木田拓也、丹尾安典、内藤裕子、町田つかさ

出版者：東京国立近代美術館、早稲田大学會津八一記念博物館

出版年：©2011

イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—ゲッリーノ・トラモンティ

20×20.3cm / 224p

編著者：唐澤昌宏、木田拓也、石崎泰之、吉田南都子、大西亜希、伊藤亮祐

出版者：NHKプラネット中部

出版年：©2011



原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見えてくるもの

30×22cm / 136p

編著者：唐澤昌宏、木田拓也、内藤裕子

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2012

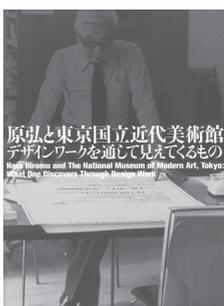
「織」を極める 人間国宝 北村武資

25.7×18.2cm / 260p

編著者：松原龍一、中尾優衣(京都国立近代美術館)、今井陽子、北村仁美

出版者：京都国立近代美術館、東京国立近代美術館

出版年：©2011





2-2 目録・ガイド等

2-2-1 本館

路上

22×17cm (折りたたみ11×17cm)、11×137cm (折りたたみ11×23cm) / 2枚

編著者：蔵屋美香、上崎千

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2011



奇景

15×64cm (折りたたみ15×9cm) / 1枚

編著者：鶴見香織

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2011



MOMATを知りつくそう! : 美術館活用ガイド

15×70cm (折りたたみ15×14cm) / 1枚

出版者：[東京国立近代美術館]

出版年：[2012.3]





2-2-2 工芸館

しましま工芸館

17×13.3cm / 6p

編著者：今井陽子、北村仁美、齊藤佳代

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2011

しましま工芸館活用のヒント

29.7×21cm / 4p

編著者：今井陽子、齊藤佳代

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2011





東京国立近代美術館研究紀要 第16号

24×19cm／97p

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2012.3

平成22年度 東京国立近代美術館活動報告

26×19cm／241p

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2012.3



平成23年度 東京国立近代美術館概要

30×21cm／28p





2-4 その他の刊行物

2-4-1 本館

トーキング・トーキンピ：東京国立近代美術館解説ボランティアMOMAT
ガイドスタッフ活動の記録2002-2011

26×19cm / 28p

編著者：一條彰子、藤田百合、細谷美宇

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2012.3



30×21cm／15p

編集・出版：東京国立近代美術館

No.587 2011年4-5月号

特集1：パウル・クレー展 おわらないアトリエ

特集2：増田三男清爽の彫金—そして、富本憲吉

出版年：2011.4



No.588 2011年6-7月号

特集：平成22年度の新収蔵品

出版年：2011.6



No.589 2011年8-9月号

特集1：ぬぐ絵画 日本のヌード1880-1945

特集2：ヴァレリオ・オルジャティ展

出版年：2011.10

No.591 2011年12月-2012年1月号

特集1：修復・表現

特集2：所蔵作品展「人間国宝と近代工芸の名品」

出版年：2011.12



No.592 2012年2-3月号

特集1：誕生100年 ジャクソン・ポロック展

特集2：原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見えてくるもの

特集3：「織」を極める 人間国宝 北村武資

出版年：2012.2



「平成23年度展覧会案内」(ミュージアム・カレンダー)を和英で作成したほか、展覧会ごとにプレスリリースを作成して報道各機関に送付、展覧会前日に記者内見会を開催した。展覧会ごとにポスター、チラシを作成、送付し、JR、地下鉄、京王線等の主要駅にポスターを掲出した。

インターネットを介した広報にも力を注ぎ、「パウル・クレー」展、「イケムラレイコ」展、「ヴァレリオ・オルジャティ展」、「ぬぐ絵画」展、「ジャクソン・ポロック展」では特設ホームページを作成して、ここでしか読めない作家インタビューなど、豊富なコンテンツを用意した。

さらに「北の丸公園文化ゾーンマップ」の作成や「ぐるっとパス」への参加などを周辺機関と協力して広報に努めた。

本館・工芸館の所蔵作品展やフィルムセンターの展示室を年間を通じて観覧できるMOMATパスポートについては、ホームページやチラシにより広報を行い、その普及に努めた。

本館の所蔵作品展については、『読売新聞』都内版に毎月1回「近代美術の眼」を連載し、幅広く所蔵作品を紹介するようにした。

工芸館では、香港、台湾、韓国の各国ガイドブックおよびブログへの記事広告を通して、対アジア地域へ向けての情報提供強化に努めた。

その他、特筆すべき点として、2012年の開館60周年を記念して、デザイナー平野敬子氏に60周年シンボルマークのデザインを依頼し、これをもとに美術館外壁へのサイン設置、地下鉄の電飾看板、地下鉄車内の動画広告、記念バッジ、マーク入り封筒など、さまざまに広報展開して、次年度に向けて周知をはかった。

国立美術館5館全体においてVPN(暗号化された通信網)を採用し、情報ネットワークの安定かつ高速化を実現するとともに、VPNを用いたグループウェアおよびテレビ会議システムを継続して稼働させた。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムは引き続きデータの追加更新を行うとともに、画像掲載の増加を図るため、昨年度許諾を得た写真作品1,730点の画像を掲載するとともに、水彩・素描他の許諾処理をしてこなかったジャンル(工芸を除く)についての著作権許諾の手続きを開始した。

平成20年に国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)に登録して国立国会図書館ならびに関連機関作成のデジタルアーカイブとの横断検索を可能にしている国立美術館所蔵作品総合目録検索システムのデータの新規登録分を更新した。なお、国立国会図書館PORTAは平成24年1月、国立国会図書館サーチ(NDL Search)へ発展継承されている。

平成22年度に策定の独立行政法人国立美術館の情報資産の安全な運用に努めるための基本方針ならびに管理規則として「国立美術館情報資産安全対策基本方針」「国立美術館情報資産安全管理規則」を踏まえ、施行細則の検討を行った。東京国立近代美術館所蔵作品管理システムならびに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新とインターフェースの改良を、他国立美術館と連携して着手した。

欧米主要美術図書館横断検索システムであるartlibraries.net (http://artlibraries.net/index_en.php)と国立美術館の図書検索システム(東京国立近代美術館および国立西洋美術館)の連携可能性について、国立情報学研究所と連携して調査研究した。

- (1) ホームページのアクセス件数
12,933,927件(本館・工芸館・フィルムセンター含む)
- (2) インターネットによる調査研究成果の公表
『研究紀要』第13号(2009年)より、収録論文全文のホームページへの掲載を開始した。また、『研究紀要』『現代の眼』および自館ならびに国立西洋美術館開催展覧会カタログなどの目次情報をホームページにおいて公開するとともに、図書検索システム(OPAC)からもこれら目次検索を従来通り可能にしている。
- (3) インターネットを用いた広報
 - ①メールマガジン
原則として毎月1回、イベントに合わせて速報も含め計21号を発行した。
 - ②美術館情報システムによる広報活動
平成19年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム(CMS)を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化した。
独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品が総掲載を進めるため、許諾を得た写真作品1,730点の画像を掲載するとともに、水彩・素描他の許諾処理をしてこなかったジャンル(工芸を除く)についての著作権許諾の手続きを開始した。
 - ③特徴的な取り組み
「イケムラレイコ うつりゆくもの」、「ヴァレリオ・オルジャティ展」、「ぬぐ絵画」展などにおいて特設サイトを設けて、関係コンテンツを拡充工夫して広報に努めた。また、平成23年12月22日には次年度60周年を迎えるにあたり60周年記念サイト(<http://www.momat.go.jp/momat60/>)を開設し、「ポスター・アーカイブ」の公開を始めるなど、継続してコンテンツを充実させながら、60周年記念事業の広報に力を注いだ。

フィルムセンターは、当館の映画部門であるが、その収集方針については、芸術的評価を第一義とする選択的なアート・ミュージアム・ポリシーではなく、我が国唯一の国立映画機関として映画の歴史を全て集積させることを努力目標に掲げるアーカイバル・ポリシーを重視しており、年代、製作国及びフォーマットなどを問わずあらゆる映画フィルムを収集している。中でも、日本映画については、最優先で網羅的な収集を目指しているが、この方針は各国のナショナル・フィルム・アーカイブが自国映画遺産の安全保護と次世代への確実な継承に責任を負うべきだという国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の精神にも合致している。

また、経年劣化や劣悪な環境に置かれていたため分解、腐朽が懸念されるフィルム、廃棄、滅失等による散逸が懸念されるフィルムや国内外で残存することが判明した作品を優先して収集する一方、文化的、歴史的、美学的に重要な作品も積極的に収集することとしている。

上映事業との関連では、とりわけ企画上映に必要となるフィルム、国際交流に必要な作品などのプリント作成を優先的に行っている。

平成23年度の購入については、上映企画に合わせたものとして、『竜虎伝』(1947)など森一生監督作品6作品15本、溝口健二監督『近松物語』(1954)など香川京子主演作品14作品33本、次年度の上映企画に合わせ、『砂糖菓子が増えるとき』(1967)など今井正監督作品4作品8本、木下恵介監督作品8作品22本を購入した。ビネガーシンドロームや褪色の危険性が高い1950年代後半から60年代にかけての作品については、中村登、中島貞夫、工藤栄一監督作品、日活製作による大ヒット作品等のプリント購入を行った。企業等の管理下に置かれていないため、散逸や劣化の危険性が著しい非商業映画については、石井聰互監督の初期の代表作『狂い咲きサンダーロード』(1980)、記録映画作家である佐藤真監督『阿賀の記憶』(2004)等のプリントを購入した。また、日本アニメーション映画については、木下恵介監督が監修したテレビ用アニメーション映画「赤い鳥のこころ 日本名作童話シリーズ」(1979)全26作品の16ミリプリントや、近年のアニメーション映画の代表作、今敏監督『PERFECT BLUE』(1998)の35ミリプリントを購入した。

寄贈については、松本俊夫監督より『薔薇の葬列』(1969)ほか全67本、安藤紘平監督より『通り過ぎる電車のように』(1978)ほか全44本、塚本晋也監督が代表を務める海獣シアターより『鉄男Ⅱ BODY HAMMER』(1992)ほか全10本等、日本を代表する実験映像作家、インディペンデント映画作家からの寄贈を受け入れた。映画史上貴重な発見としては、溝口健二監督による無声映画『慈悲心鳥』(1927)の可燃性プリントの断片、1912年の日活創立にあたりトラストを結成した四社の一つで、これまでフィルムの残存が確認されていなかった福寶堂撮影部製作による『明治四十五年四月四日 藤田男爵 葬式の實況』(1912)の可燃性プリント等がある。また、日本文化・記録映画の原版寄贈については、新たな事例として、有限会社海工房から門田龍太郎監督『チェチェメニ号の冒険』(1976)ほか105本の寄贈受入等が行われた。

平成23年度映画フィルム収集本数

種別(genre)	購入(purchase)	寄贈(donation)	所蔵総本数(total)
劇映画(feature)	183	119	302
文化・記録映画(documentary)	47	76	123
アニメーション映画(animation)	61	5	66
ニュース映画(newsreel)	0	1,197	1,197
テレビ映画(television film)	0	82	82
計(total)	291	1,479	1,770

Although National Film Center is the film division of the National Museum of Modern Art, Tokyo, it regards the archival policy more importantly than the art museum policy in its collecting activities. By the art museum policy we mean the selective method that uses the artistic value of the work in question as the foremost criteria. In contrast, the archival policy sets its goal in accumulating the entire film history towards which NFC makes its efforts as the only national film institution in Japan. As such, NFC collects all kinds of films regardless of the year, the country, and the format the film was made in. Especially prioritized are the Japanese films that NFC strives to collect comprehensively. This policy matches the spirit of the International Federation of Film Archives (FIAF) that maintains that the national film archive of each country should be responsible for protecting the film heritage of that country and for its secure inheritance to the next generations.

In collecting films, NFC makes it a point, first, to prioritize the films that might start the decomposition process any time owing to the fact that they have been stored in an extremely poor condition and/or for a very long time, the films that are at the risk of being discarded and/or lost, and the films that had long been considered lost but were found within and outside of Japan. NFC also makes it a point to actively collect films that are important from the cultural, historical, and aesthetic viewpoints.

In relation to the screening activities, NFC prioritizes in making viewing copies and intermediary pre-print elements of the films that are necessary for the screening programs and for the international exchange.

In relation to the screening programs of this year, NFC purchased 15 films for six films titles of director Mori Kazuo including *Ryukoden* (1947), 33 films for 14 titles starring Kagawa Kyoko such as *Chikamatsu monogatari* (dir. Mizoguchi Kenji, 1967). In addition, to prepare for the screening programs of the following year, NFC purchased eight films for four titles directed by Imai Tadashi such as *Satogashi ga kowareru toki* (1967) and 22 films for eight titles directed by Kinoshita Keisuke. As for the films made between the late 1950s and the 1960s that are at the high risk of vinegar syndrome and dye fading, NFC purchased the prints of box-office hits in this period produced by Nikkatsu as well as the works directed by Nakamura Noboru, Nakajima Sadao and Kudo Eiichi. The independently produced, non-commercial films are at the tremendous risk of getting dispersed and lost since they are not under the corporate or any institutional management. NFC purchased prints of such film titles as well. The examples are director Ishii Sogo's early important film *Kuruizaki sanda rodo* (1980) and *Aga no kioku* (2004) directed by documentary filmmaker

late Sato Makoto. As for Japanese animation films, NFC purchased 16mm prints for the entire 26 made-for television animation films entitled *Akai tori no kokoro nihon meisaku dowa series* (1979) supervised by Kinoshita Keisuke and the 35 mm print of PERFECT BLUE (dir. Kon Satoshi, 1998), one of the most important animation films of the recent years.

NFC received donations from important experimental filmmakers and independent film directors as follows. The total of 67 films including *Barano soretsu* (1967) from director Matsumoto Toshio, the total of 44 films including *Torisugiru denshano yoni* (1978) from Ando Kohei, and the total of 10 films including *Tetsuo II BODY HAMMER* (1992) from Kaiju Theater, headed by director Tsukamoto Shinya. NFC also acquired some valuable discoveries of film history. The examples are, first, the fragment of a nitrate print of silent film *Jibi shincho* (dir. Mizoguchi Kenji, 1927), and second, a nitrate print of *Meiji 45 nen 4 gatu 4 ka Fujita danshaku soshiki no jikkyo* (1912) produced by the shooting department of Fukuhodo. Fukuhodo was one of the four companies that established the trust when Nikkatsu was launched in 1912, and all the films produced at this company had previously been considered lost. As a new example of the original film materials of Japanese culture and documentary films being donated, NFC received the donation of 105 films from Umikobo LLC including *Chechemeni-go no Boken* (dir. Monden Ryutaro, 1976).

映画関連資料についても、映画史を集積させるアーカイバル・ポリシーを目標に掲げて網羅的な収集に努めている。ただし、映画関係者の死去が相次ぎ、映画技術にも急速な変化が訪れている現状では、古い資料の散逸が危惧されている。国内に映画専門の機関が限られていることもあり、国内のそうした機関との連携や情報交換を進めながら、可能な限り寄贈資料の受け入れを行っている。また潤滑な収集を実現するために、収蔵場所の整備や登録等の整理態勢をさらに充実させたい。

寄贈 10,321点

- (1) 水谷佐紀氏より寄贈された映画美術監督水谷浩デスマスク石膏型 1点
 - (2) ぴあ株式会社から寄贈された映画ポスター、映画祭カタログなど 1,660点
 - (3) 中島一雄氏より寄贈された映画プロデューサー永島一朗の旧蔵資料 2,149点
 - (4) 藤岡和賀夫氏より寄贈された戦後期映画自主上映資料 9点
 - (5) 石井輝男プロダクションから寄贈された石井輝男監督旧蔵資料 379点
 - (6) 小杉佳寿美氏より寄贈された映画ポスターなど 271点
 - (7) 畑暉男氏より寄贈された錦輝館『紅葉狩』チラシ 1点
 - (8) 並木琢美氏より寄贈された短篇映画監督中村麟子、衣笠十四三旧蔵資料 4,520点
 - (9) 田村忠幸氏より寄贈されたスチル写真、プレス資料、大映社内資料など 1,279点
- 他

Regarding the non-film materials, NFC also sets the archival policy of accumulating film history as a goal and makes efforts to achieve a comprehensive collection. It is feared, however, that the old materials are at the risk of being scattered and lost in the present situation in which many filmmakers pass away in succession and the filmmaking technologies are going under rapid changes. As the number of the institutions specializing in film is limited in Japan, NFC is promoting the network and the exchange of information with such institutions so as to receive as many donated materials as possible. In order to further facilitate its collection activities, NFC wishes to keep the space for storage in a good condition and to strengthen the system of registering and sorting out the collected items.

可燃性フィルムからの不燃化作業については、村田安司監督『漫画 二つの世界』(1929)、木村白山監督『漫畫 魚の國』(1928)の染色プリントからネガ及び再染色版プリントの作成を行った。また、上映企画「映画女優 香川京子」に際し、家城巳代治監督『ともしび』(1951)の可燃性ネガからマスター・ポジ、音ネガ及びプリントの作成を行った。複製化については、上映企画、共催事業に合わせた作業が中心となった。「日本の文化・記録映画選 文化庁『工芸技術記録映画』の特集」では、『蒔絵 松田権六のわざ』(1971)他全27本の35ミリプリント作成を行った。「映画女優 香川京子」では、成瀬巳喜男監督『銀座化粧』(1951)の35ミリ画ネガ、音ネガ、プリントの作成を行った。また、第30回ボルデノーネ無声映画祭におけるチネテカ・デル・フリウリ(FIAF加盟機関)との共催事業「アニメの誕生—日本アニメーション映画の先駆者たち」では、山本早苗監督『教育線画 娼捨山』(1926)他全12作品について、英語字幕用に35ミリプリントの作成を行った。一方、デジタル技術を用いた復元では、政岡憲三監督『くもとちゅうりっぷ』(1943)において、アニメーション映画における本格的な復元に取り組んだ。また、映画会社との共同事業により復元を行った衣笠貞之助監督『地獄門』(1953)では、三色分解マスターポジからのカラー復元、川島雄三監督『幕末太陽傳』(1957)では音の復元をアメリカの復元専門ラボに発注し、特異なサウンドトラックをレーザーによって読み取りデジタル化し、修復を施した。

修復件数

映画フィルムデジタル復元	10本
ノイズリダクション等	33本
不燃化作業	15本
映画フィルム洗浄	0本

Regarding the work of making negatives and prints out of nitrate films, NFC did a number of projects this year. For example, as for *Manga futatsu no sekai* (dir. Murata Yasuji, 1929) and *Manga sakana no kuni* (dir. Kimura Hakuzan, 1928), NFC made negatives and re-tinted prints using the tinted nitrate prints. In addition, at the time of the screening program “Kagawa Kyoko Retrospective” NFC made a master positive, a sound negative, and a print out of the nitrate negative of *Tomoshihi* (dir. Ieki Miyoji, 1951). NFC conducted duplication projects mainly in relation to the screening programs and co-organized events. For “Japanese Craft Techniques on Screen: Documentary Film Series by Agency for Cultural Affairs”, NFC made a total of 27 35mm prints. For “Kagawa Kyoko Retrospective,” NFC made a 35mm picture negative, sound negative, and a print of *Ginza kgesho* (dir. Naruse Mikio, 1951). For “The Birth of *Anime*: Pioneers of Japanese Animation”, the program that NFC co-organized with Cineteca del Friuli (FIAF member) at the 30th Pordenone Silent Film Festival, NFC made 35mm prints for the total of 12 films including *Kyoiku senga: Ubasuteyama* (dir. Yamamoto Sanae, 1926) so as to put English subtitles on them. As for the restoration work using digital technologies, NFC engaged in the full-scale restoration efforts on *Kumo to churippu* (1943), an animation film by director Masaoka Kenzo. NFC also worked on restoration projects in cooperation with film companies. One example is the project on *Jigoku-*

mon (dir. Kinugasa Teinosuke, 1953) in which color restoration was done from the master positives using the color separation system. Regarding the restoration project of *Bakumatsu taiyo-den* (dir. Kawashima Yuzo, 1957), NFC ordered the specialty laboratory in the US to restore the sound. The laboratory read the peculiar soundtrack by laser, digitized the soundtrack, and restored it.

The number of restoration projects	
Digital restoration of films	10
Noise reduction, etc.	33
Making safety duplicates from the nitrate films	15
Cleaning films	0

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、文化庁主導で民間へ委託することで運営管理を行っている。当館としては平成23年度も会議への出席並びに資料提供等を行っているが、次年度以降の協力体制については、慎重に検討していく。

	公開レコード数	累計公開件数
日本映画情報システム	3,654本	42,334件
所蔵映画フィルム検索システム	401件	6,028件

As for the Japanese Cinema Database implemented by the Agency for Cultural Affairs, the Agency has taken the leadership in entrusting the system to the private organization that runs and maintains it. NFC continued to participate in the meetings and to provide the reference materials in the fiscal year 2011 as well, but NFC will carefully consider how it will support the system next year and beyond.

Japanese Cinema Database / National Film Center Database	
The number of records open to the public	3,654 / 401
The cumulative total	42,334 / 6,028

II 公衆への観覧

1 上映会等 Screening Programs and Exhibitions

1-1 入場者数 Number of Visitors

	上映日数	上映回数	上映作品数	プログラム数	1回平均入場者数	入場者数	
上映会(大ホール)	284日	621回	364作品	326プログラム	161人	100,233人	
上映会(小ホール)	39日	78回	68作品	39プログラム	63人	4,930人	
上映会計	323日	699回	432作品	365プログラム	150人	105,163人	
入場者内訳	一般	シニア	学生	小人	障害者等	無料	キャンパスメンバーズ
	50.00%	30.56%	1.76%	0.04%	0.03%	14.55%	3.06%
	開催日数			1日平均入場者数	入場者数		
展覧会(展示室)	278日			62人	17,301人		
上映会と展覧会計	601日				122,464人		

1-1-1 上映会 Screening Programs

回数	上映会名	入場者数(人)	会場
316	生誕百年 映画監督 吉村公三郎	10,287人	大ホール
317	よみがえる日本映画vol.2【東映篇】 —映画保存のための特別事業費による	6,243人	大ホール
318	《京橋映画小劇場 No.21》 映画の教室2011	1,627人	小ホール
319	EUフィルムデーズ2011	7,893人	大ホール
320	《京橋映画小劇場 No.22》 アンコール特集：2010年度上映作品より	1,479人	小ホール
321	生誕百年 映画監督 森一生	10,320人	大ホール
322	特集・逝ける映画人を偲んで 2009-2010	13,330人	大ホール
323	シネマの冒険 闇と音楽 2011	2,452人	大ホール
324	第33回PFFぴあフィルムフェスティバル	3,853人	大ホール
325	再映： よみがえる日本映画—映画保存のための特別事業費による／ 生誕百年 映画監督 吉村公三郎	6,795人	大ホール
326	映画女優 香川京子	16,805人	大ホール
327	日本の文化・記録映画選 文化庁「工芸技術記録映画」の特集	1,824人	小ホール
328	よみがえる日本映画 vol.3【新東宝篇】 —映画保存のための特別事業費による	9,942人	大ホール
329	現代フランス映画の肖像 2 —ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより	12,313人	大ホール

1-1-2 展覧会 Visitors to Exhibitions

回数	展覧会名	入場者数(人)
31	フィルムセンター設立40周年企画 展示室リニューアル記念 NFC映画展覧会の15年 1995-2010	1,029人
32	映画パンフレットの世界	5,670人
33	映画女優 香川京子	4,412人
34	日本の映画ポスター芸術	6,190人

1-2 上映会 Screening Programs

1-2-1 上映会一覧(開館より平成22年度まで)
Screenings from the Opening Programs in Fiscal 1970 until 2010

	回数	企画名
昭和45年度[1970]	1	アメリカ古典映画の回顧 Retrospective of American Classic Films
	2	成瀬巳喜男監督の特集 Films of Mikio Naruse
	3	シナリオライター野田高梧をしのぶ In Memory of the Scriptwriter Kogo Noda
	4	フランス映画の歴史 History of French Films
	5	ドイツ映画の回顧 Retrospective of German Films
昭和46年度[1971]	6	田中絹代特集——女優の歩みに見る日本映画史 Kinuyo Tanaka-Japanese Film History as Seen by an Actress
	7	内田吐夢監督の回顧上映 Retrospective of Tomu Uchida
	8	フランス映画の特集 French Film Program
	9	アニメーション映画の回顧 Retrospective of Animation Film
	10	小津安二郎監督の特集 Films of Yasujiro Ozu
昭和47年度[1972]	11	ベルギー映画の特集 Belgian Film Program
	12	占領下の日本映画 Japanese Films under the Occupation
	13	音楽映画の特集 Music Film Program
	14	新収蔵映画の上映 Newly Acquired Films
	15	金語楼映画の特集 Kingoro Yanagiya, Film Comedian
	16	ポーランド映画の回顧 Retrospective of Polish Films
	17	日本の記録映画特集—戦前篇— Japanese Documentary Films: The Prewar Era

昭和48年度[1973]

- 18 イタリア映画の特集
Italian Film Program
- 19 溝口健二監督の特集
Films of Kenji Mizoguchi
- 20 飯田蝶子特集
Choko Iida, Film Actress
- 21 1930年代ヨーロッパ映画特集
European Films in the 1930s
- 22 1930年代ヨーロッパ映画特集(再上映)
European Films in the 1930s (Reprise)
- 23 収蔵映画未公開作品の上映
Unshown Films from Our Collection
- 24 現代ブルガリア映画の展望
Review of Contemporary Bulgarian Films
ジョン・フォード監督の回顧上映
In Memory of John Ford

昭和49年度[1974]

- 25 五所平之助監督特集
Films of Heinosuke Gosho
- 26 特集・逝ける映画人を偲んで
In Memory of Film Figures We Lost
- 27 日本の記録映画特集—戦後篇
Japanese Documentary Films: The Postwar Era
- 28 監督研究—清水宏と石田民三
Directors Research: Hiroshi Shimizu and Tamizo Ishida
- 29 島津保次郎監督特集
Films of Yasujiro Shimazu
- 30 フランス映画を創った人たち—第1期
People who Made French Film (1)
- 31 ハンガリー映画祭—ハンガリー映画の30年
Hungarian Film Festival: 30 Years of Hungarian Films
- 土曜特集 映画史上の名作
Saturday Special: Masterpieces of Film History
第9回東京国際アマチュア映画コンクール入賞作品披露上映
Awarded Films at the 9th Tokyo International Amateur Film Competition

昭和50年度[1975]

- 32 収蔵映画未公開作品の上映(戦前の時代劇を集めて)
Unshown Films in Our Collection
- 33 —エリザベス女王来日記念—英国映画の史的展望
Historical Review of British Films
- 34 特集・逝ける映画人を偲んで 1974-1975
In Memory of Film Figures We Lost 1974-1975

35 昭和50年度(第30回記念)芸術祭協賛 芸術祭大賞映画の回顧
Awarded Films at the Arts Festival of the Agency for Cultural Affairs

36 フランス映画を創った人たち—第2期
People who Made French Film (2)

37 小津安二郎監督特集
Films of Yasujiro Ozu

土曜特集 映画史上の名作
Saturday Special: Masterpieces of Film History

昭和51年度[1976]

38 戦後日本映画の流れ(1946-62) 収蔵映画未上映作品から
“Mainstreams of Postwar Japanese Film (1946-62)” - from Unshown Films
in Our Collection

39 戦前ドイツ・オーストリア映画の回顧 1919-1937
A Retrospective Screening of Prewar German and Austrian Films (1919-
1937)

40 監督研究 衣笠貞之助
Director Research: Teinosuke Kinugasa

41 特集・逝ける映画人を偲んで 1975-1976
In Memory of Film Figures We Lost in 1975-1976

42 70年代ポーランド映画の展望
Review of Polish Cinema in the 70s

43 建国200年記念 アメリカ映画の史的展望 1894-1936
The American Bicentennial - Panorama of American Cinema (1894-1936)

44 木下恵介監督特集
Keisuke Kinoshita Special Series

45 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays

土曜特集 映画史上の名作
Saturday Special: Masterpieces of Film History
第10回アマチュア映画コンクール入賞作品披露上映
The 10th Tokyo International Amateur Film Contest - Screening of Prize
Winning Films

昭和52年度[1977]

46 文化功労者記念—黒澤明監督特集
Special Series – Akira Kurosawa (In Commemoration of Kurosawa's
receiving the Cultural Order of Merit)

47 監督研究 伊藤大輔
Director Research: Daisuke Ito

48 現代ブルガリア映画の展望
Review of Contemporary Bulgarian Films

49 恐怖と幻想の映画特集
Films of Terror and Fantasy

50 長篇ドキュメンタリー映画10選
10 Long Documentary Films

- 51 夏休み少年少女名作鑑賞
Famous Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 52 特集・逝ける映画人を偲んで 1976-1977
Memories of Film Figures We Lost in 1976-1977
- 53 映画に見る昭和十年代
The Second Decade of Showa (1935-1945) as Reflected in Films
- 54 日本映画技術の発展—戦後30年—
Development of Japanese Movie Techniques – During 30 Years after the World War II
- 55 カナダ映画の史的展望
Historical Review of Canadian Films
- 56 ソ連映画の史的展望 1923-1946
Historical Review of Soviet Films
- 57 日本のアニメーション映画(1924-1958)
Japanese Animated Films (1924-1958)
- 58 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
- 土曜特集 土曜特集
Saturday Special Film Series

昭和**53**年度[1978]

- 59 日本映画の流れ(1961-1966) 収蔵映画未上映作品より
Stream of Japanese Films (1961-66) – from Unshown Films in Our Collection
- 60 映画史上の名作(第1集)
Masterpieces of Film History (Part 1)
- 61 溝口健二監督特集
Kenji Mizoguchi Retrospective
- 62 夏休み少年少女名作鑑賞
The Best Films for Boys and Girls during the Summer Holidays
- 63 特集・逝ける映画人を偲んで 1977-1978
Memories of Deceased Film World Personalities 1977-1978
- 64 一生誕100年記念—マキノ省三とその人脈—
– The 100th Anniversary– Shozo Makino and his followers
- 65 映画史上の名作(第2集)
Masterpieces of Film History (Part 2)
- 66 チャップリン初期短篇特集—キーストン, エッサネイ, ミューチュアル,
ファースト・ナショナル時代—
Chaplin's Early Film – Keystone, Essanay, Mutual and First-National Period
- 67 デンマーク映画の史的展望
Panorama of Danish Films
- 68 田坂具隆監督特集
Tomotaka Tasaka Retrospective

昭和54年度[1979]

69 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays

土曜特集
土曜特集
Saturday Special Film Series

短篇・文化・記録映画特集
Special Series for Short Films, Cultural Films and Documentary Films

70 長谷川一夫特集
Special Series of Kazuo Hasegawa

71 映画史上の名作
Masterpieces of Film History

72 特集・逝ける映画人を偲んで 1978-1979
In Memory of Film Figures We Lost in 1978-1979

73 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays

74 成瀬巳喜男監督特集
Mikio Naruse Retrospective

75 現代ベルギー映画の展望
Panorama of Contemporary Belgian Films

76 牛原虚彦監督特集
Kiyohiko Ushihara Retrospective

77 豊田四郎監督特集
Shiro Toyoda Retrospective

78 戦後フランス映画秀作集 1945-1954
The Collection of the Best Postwar French Films (1945-1954)

79 監督研究 ジャン・ルノワール
Special Series of Jean Renoir

80 オーストラリア映画の史的展望
Historical Panorama of Australian Films

81 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays

土曜特集
土曜特集
Saturday Special Film Series

短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和55年度[1980]

82 戦後日本映画の流れ(1967-1971)
Stream of the Japanese Postwar Cinema (1967-1971)

83 監督研究 クロード・ジュトラ
Director Study: Claude Jutra

84 映画史上の名作
Masterpieces of Film History

- 85 特集・逝ける映画人を偲んで 1979-1980
In Memory of Film Figures We Lost in 1979-1980
- 86 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 87 監督研究 吉村公三郎と新藤兼人
- The 30th Anniversary of Kindai Eiga Kyokai- Directors Study: Kozaburo Yoshimura and Kaneto Shindo
- 88 戦後フランス映画秀作集 1955-1960
Collection of the Best Postwar French Films (1955-1960)
- 89 小津安二郎監督特集
Yasujiro Ozu Retrospective
- 90 マーティン・スコセッシ監督特集
Martin Scorsese Retrospective
- 91 スイス映画の史的展望 1941-1979
Historical Overview of Swiss Films (1941-1979)
- 92 一国際障害者年協賛一春休み少年少女名作鑑賞
- An International Year of the Handicapped Project - Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
- 土曜特集 土曜特集
Saturday Special Film Series
- 短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和56年度[1981]

- 93 サドゥール賞受賞作選集
Winners of Georges Sadoul Prize
- 94 映画史上の名作
Masterpieces of Film History
- 95 稲垣浩監督特集
Retrospective of Hiroshi Inagaki
- 96 特集・逝ける映画人を偲んで 1980-1981
In Memory of Film Figures We Lost in 1980-1981
- 97 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 98 1920年代のドイツ映画
German Films of the 1920s
- 99 日本のトーキー：誕生から確立へ
Japanese Talking Pictures: From Birth to Establishment
- 100 イタリア古典映画選集
Classic Italian Films
- 101 日本映画史研究(1) 東映映画30年の歩み
Japanese Film History Research (1) - Thirty Years of Toei Movies
- 102 フィンランド映画の史的展望 1940-1977
Historical Overview of Finnish Films (1940-1977)

- 103 収蔵映画未上映作品集(外国篇)
Unscreened Foreign Films from the Film Center Collection
- 104 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
- 土曜特集 短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films
- 土曜特集
Saturday Special Film Series

昭和**57**年度[1982]

- 105 映画史上の名作
Masterpieces of Film History
- 106 D.W.グリフィス監督特集
D. W. Griffith Retrospective
- 107 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 108 特集・逝ける映画人を偲んで 1981-1982
In Memory of Film Figures We Lost in 1981-1982
- 109 日本映画史研究(2) 東宝映画50年の歩み
Japanese Film History Research (2) – Fifty Years of Toho Movies
- 110 現代イギリス映画の展望
Overview of Contemporary British Films
- 111 スウェーデン映画の史的展望 1910-1969
Historical Overview of Swedish Films 1910-1969
- 112 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
- 短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和**58**年度[1983]

- 113 映画史上の名作
Masterpieces of Film History
- 114 ジョン・フォード監督特集<1917-1946>
John Ford Retrospective (1917-1946)
- 115 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays
- 116 特集・逝ける映画人を偲んで<1982-1983>
In Memory of Film Figures We Lost in 1982-1983
- 117 フランス映画の回顧 1930-1946 (1)
French Film Retrospective (1930-1946) Part 1
- 118 今井正監督特集
Tadashi Imai Retrospective
- 119 フランス映画の回顧 1930-1946 (2)
French Film Retrospective (1930-1946) Part 2

120 春休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Spring Holidays
短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和**59**年度[1984]

121 フィルムセンター所蔵映画選集(1)
Selected Films from the Collection of the Film Center, Part I

122 1920年代のドイツ映画—表現主義と新即物主義の間
German Films of the 1920s – Between Expressionism and New Objectivity

123 撮影監督 宮川一夫特集
Retrospective of Kazuo Miyagawa, Director of Photography

124 夏休み少年少女名作鑑賞
Best Films for Boys and Girls for Summer Holidays

125 特集・逝ける映画人を偲んで 1983-1984
In Memory of Film Figures We Lost in 1983-1984

126 スペイン映画の史的展望 1951-1977
Historical Review of Spanish Films (1951-1977)

127 フィルムセンター所蔵外国映画選集
Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
短篇・文化・記録映画特集
Special Series of Short Films, Cultural Films and Documentary Films

昭和**60**年度[1985]

128 フィルムセンター所蔵日本映画選集—名優の魅力—
Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center –
Outstanding Supporting Players

129 中国映画の回顧 1922-1952
Retrospective of Chinese Films (1922-1952)

130 所蔵外国映画選集Ⅱ
〈フィルムセンター焼失フィルムのための募金の会寄贈による〉
Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center, Part II

131 フィルムセンター所蔵日本映画選集—映画カメラマンの魅力
〈1921-1944〉
Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center –
Outstanding Cameramen (1921-1944)

132 特集・逝ける映画人を偲んで 1984-1985
In Memory of Film Figures We Lost in 1984-1985

昭和**61**年度[1986]

133 フィルムセンター所蔵外国映画選集
Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center

134 日本映画史研究(3) —蒲田映画の世界〈1921-1936〉
Japanese Film History Research (3) - The World of Kamata Film 1921-1936

135 アメリカ映画の名匠たち—ラオール・ウォルシュとその時代
〈1914-1939〉
Masters of American Film – Retrospective of Raoul Walsh and Others
1914-1939

	136	現代スイス映画の展望 Survey of Contemporary Swiss Film
昭和62年度[1987]	137	蒲田映画の若き日—小津・清水・成瀬 When Kamata Film was Young – Early Works by Ozu, Shimizu and Naruse
	138	フィルムセンター所蔵外国映画選集 Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
	139	特集・逝ける映画人を偲んで〈1986-1987〉 In Memory of Film Figures We Lost in 1986-1987
	140	中国映画の回顧〈1932-1964〉 Retrospective of Chinese Films, 1932-1964
	141	フィルムセンター所蔵外国映画選集 Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
	142	フィルムセンター所蔵日本映画選集(1) Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center 1
昭和63年度[1988]	143	フィルムセンター所蔵日本映画選集(2) Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center 2
	144	特集・逝ける映画人を偲んで〈1987-1988〉 In Memory of Film Figures We Lost in 1987-1988
	145	フィルムセンター所蔵映画選集—日本のアニメーション Selected Japanese Animation Films from the Collection of the Film Center
	146	フィルムセンター所蔵外国映画選集 D.W.グリフィスとその時代 D. W. Griffith and His Age - Selected Foreign Films from the Collection of the Film Center
平成元年度[1989]	147	フィルムセンター所蔵日本映画選集 新興キネマの時代 Selected Japanese Films from the Film Center Collection – The World of <i>Shinko Kinema</i>
	148	フランス映画の黄金時代 The Golden Age of French Film
	149	日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters
	150	戦後ヨーロッパ映画秀作選 Selected Postwar European Film Masterpieces
平成2年度[1990]	151	シナリオ作家 依田義賢特集 Retrospective of Yoshikata Yoda, Screenwriter
	152	特集・「ポーランド派」の映画(1948-1963) Selected Postwar Polish Films 1948-1963
	153	特集・逝ける映画人を偲んで〈1988-1989〉 In Memory of Film Figures We Lost in 1988-1989 特集上映 日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters

平成3年度[1991]	154	発掘された映画たち—小宮登美次郎コレクション Cinema: Lost and Found – From the Collection of Tomijiro Komiya
	155	特集・逝ける映画人を偲んで<1990-1991> In Memory of Film Figures We Lost in 1990-1991 特集上映 日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters
平成4年度[1992]	156	内田吐夢監督特集 Retrospective of Tomu Uchida
	157	孫瑜監督と上海映画の仲間たち 中国映画の回顧 Sun Yu and His Shanghai Colleagues – Retrospective of Chinese Films
	158	フィルムセンター所蔵日本映画選集 Selected Japanese Films from the Collection of the Film Center 特集上映 日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters 「忠次旅日記」特別上映会 Special Screening of <i>Chuji Tabi Nikki</i>
平成5年度[1993]	159	知られざるアメリカ映画 American Films – The Little Known
	160	特集・逝ける映画人を偲んで<1991-1993> In Memory of Film Figures We Lost in 1991-1993 特集上映 日本映画の系譜 Selected Works of Japanese Film Masters
平成6年度[1994]	161	サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて Silent Film Renaissance
平成7年度[1995]	162	フィルムは魅了する：銀幕の体験 Reviving the Enchantment of Cinema A Special Program for the Opening of the New National Film Center
	163	フィルムは記録する：日本の文化・記録映画作家たち Glimpses of Nippon: A Japanese Documentary Tradition A Special Program for the Opening of the New National Film Center
	164	マキノ雅広の世界：「次郎長三國志」と「日本侠客伝」 <i>Jirocho-sangokushi</i> and <i>Nihon-kyokaku-den</i> : Two Movie Series by Masahiro Makino
	165	インド映画の魅力 A Passage to 'Film India': From Rekha to Ghatak
	166	1930年代ヨーロッパ映画10選 Diversity in Europe: Ten Films from the '30s
	167	女優 山田五十鈴 Isuzu Yamada, Our Actress
	168	特集・逝ける映画人を偲んで 1993-1994 In Memory of the Film Figures We Lost in 1993-1994

- 169 第8回東京国際映画祭協賛企画 特集上映 日本映画の系譜
Selected Works of Japanese Film Masters
A 1995 Tokyo International Film Festival Sponsored Event
- 170 特別企画上映／映画生誕百周年記念 シネマの冒険 闇と音楽
Silent Film Renaissance 1995
A Program for the Centenary of Cinema at the NFC
- 171 コニカラー：甦る国産カラー・プロセス「緑はるかに」特別上映会
Special Screening of a Restored Konicolor Feature: *Midori Harukani / Far off in the Green*
A Program for the Centenary of Cinema at the NFC
- 172 映画生誕百周年記念 ゴーモン映画の100年 フランス映画の100年
Gaumont Presents: A Century of French Cinema
A Program for the Centenary of Cinema at the NFC
- 173 映画生誕百周年記念 ジョルジュ・メリエス 夢と魔法の王国
Georges Méliès: In the Kingdom of Dreams and Magic
A Program for the Centenary of Cinema at the NFC
- 174 ゴーモン映画秀作選
Gaumont Presents More
- 175 1950年代の青空と太陽
Brighter Summer Days: Films by Yasuzo Masumura and Ko Nakahira in the late '50s

平成8年度[1996]

- 176 日本映画の発見Ⅰ：無声映画時代
Rediscovering Our National Film Heritage (I): The Silent Years
- 177 日本映画の発見Ⅱ：トーキーの開始と戦前の黄金時代
Rediscovering Our National Film Heritage (II): The Advent of Sound and the Prewar Golden Age
- 178 芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽1996
Silent Film Renaissance 1996
- 179 ジャン・ルノワール、映画のすべて。
Le Grand Théâtre de Jean Renoir
- 180 フィルムは記録する'97：日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon '97: A Japanese Documentary Tradition

平成9年度[1997]

- 181 日本映画の発見Ⅲ：戦争の時代
Rediscovering Our National Film Heritage (III): During the War Years
- 182 特集・逝ける映画人を偲んで1995-1996
In Memory of the Film Figures We Lost in 1995-1996
- 183 芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽1997
Silent Film Renaissance 1997
- 184 NFC所蔵外国映画選集 1970年代映画の一断面
Films in the 1970s: A Profile
- From the Foreign Film Collection of the National Film Center -
- 185 フィルムは記録する'98：日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon '98: A Japanese Documentary Tradition

平成10年度[1998]

- 186 日本映画の発見Ⅳ：占領下のNIPPON
Rediscovering Our National Film Heritage (IV): Nihon Eiga under the Occupation
- 187 特集・逝ける映画人を偲んで1997
In Memory of the Film Figures We Lost in 1997
- 188 シネマの冒険 闇と音楽1998
Silent Film Renaissance 1998
- 189 憧憬のフランス映画—1930年代を中心に—
En souvenir du cinema français

平成11年度[1999]

- 190 日本映画の発見Ⅴ：栄光の'50年代
Rediscovering Our National Film Heritage (V): The Glorious 1950s
- 191 発掘された映画たち1999
Cinema: Lost and Found 1999
- 192 ハリウッド伝説 ハワード・ホークス映画祭
Legend of Hollywood: A Howard Hawks Retrospective
- 193 シネマの冒険 闇と音楽：フリッツ・ラング選集
Silent Film Renaissance - Featuring Fritz Lang

平成12年度[2000]

- 194 特別追悼特集 偉大なる“K” (1)：小林正樹
Homage to Three Great “K”s - Part 1: Masaki Kobayashi
- 195 特別追悼特集 偉大なる“K” (2)：黒澤明
Homage to Three Great “K”s - Part 2: Akira Kurosawa
- 196 特別追悼特集 偉大なる“K” (3)：木下恵介
Homage to Three Great “K”s - Part 3: Keisuke Kinoshita
- 197 シネマの冒険 闇と音楽：オランダの無声映画
Silent Film Renaissance: Dutch Silent Cinema
- From the Collection of Nederlands Filmmuseum -
- 198 フィルムは記録する2001：日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon 2001: A Japanese Documentary Tradition
- 199 発掘された映画たち2001：ロシア・ゴスフィルムフォンドで発見された日本映画
Cinema: Lost and Found - The Treasure of Japanese Cinema Returns from Russia

平成13年度[2001]

- 200 中国映画史の流れ：無声後期からトーキーへ
A Study of Chinese Cinema: From Silent to Sound
- 201 日本映画の発見Ⅵ：1960年代
Rediscovering Our National Film Heritage (VI): 1960s
- 202 日本におけるイタリア2001 イタリア映画大回顧
Grande Retrospectiva del Cinema Italiano: dal muto agli anni 80
- 203 フィルムで見る20世紀の日本
Twentieth Century Japan as Captured by Film

平成14年度 [2002]

- 204 NFC所蔵外国映画選集 追憶のスター女優たち
Remembering Star Actresses - From the Foreign Film Collection of the National Film Center -
- 205 日本映画の発見Ⅶ：1970年代
Rediscovering Our National Film Heritage (VII): 1970s
- 206 こども映画館
Kids★Cinema
- 207 2002年日韓国民交流記念事業 韓国映画—栄光の1960年代
Korean Films – The Glorious 1960s
- 208 シネマの冒険 闇と音楽 D・W・グリフィス選集
Silent Film Renaissance - Featuring D. W. Griffith
- 209 特集・逝ける映画人を偲んで1998-2001
In Memory of the Film Figures We Lost in 1998-2001
- 210 こども映画館：2003年の春休み
Kids★Cinema

平成15年度 [2003]

- 211 発掘された映画たち2003
Cinema: Lost and Found 2003
- 212 映画監督 市川崑
Kon Ichikawa Retrospective
- 213 社団法人映像文化製作者連盟創立50周年記念 短編映像メディアに見る現代日本
Contemporary Japan as Seen by Documentary Films
- 214 日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在
Turkish Cinema Now
- 215 聖なる映画作家, カール・ドライヤー
The Art of Carl Th. Dreyer
- 216 小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術
Yasujiro Ozu: Japanese Film Master
- 217 第4回東京フィルメックス 特集上映 清水宏 生誕100年
The 4th TOKYO FILMeX Special Program: The 100th Anniversary of Shimizu Hiroshi's Birth
- 218 シリーズ・日本の撮影監督(1)
Master Cinematographers of Japan Part1

平成16年度 [2004]

- 219 日本・キューバ外交関係樹立75周年記念 キューバ映画への旅
Voyage to Cuban Cinema
- 220 アジア映画—“豊穡と多様” 福岡市総合図書館フィルム・アーカイブ所蔵
アジア映画コレクションより
Asian Cinemas: “Fertile and Diverse”
From the Asian Film Collection of the Fukuoka City Public Library Film Archive
- 221 日本アニメーション映画史
A History of Japanese Animation

- 222 映画女優 高峰秀子
Hideko Takamine, Film Actress
- 223 第5回東京フィルメックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負
The 5th TOKYO FILMeX: Seriously Entertaining: The Battle for Uchida Tomu's Film Style
- 224 特集・逝ける映画人を偲んで2002-2003
In Memory of the Film Figures We Lost in 2002-2003
- 225 シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ無声映画傑作選
Silent Film Renaissance: An American Tradition
- 226 フィルムは記録する2005：日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon 2005: A Japanese Documentary Tradition

平成17年度[2005]

- 227 生誕百年特集 映画監督 稲垣浩
Hiroshi Inagaki Retrospective at his Centenary
- 228 生誕百年特集 映画監督 豊田四郎
Shiro Toyoda Retrospective at his Centenary
- 229 発掘された映画たち2005
Cinema: Lost and Found 2005
- 230 生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男
Mikio Naruse Retrospective at his Centenary
- 231 ポーランド映画, 昨日と今日
Polish Film, Yesterday and Today
- 232 生誕百年特集 映画監督 斎藤寅二郎と野村浩将
Torajiro Saito and Hiromasa Nomura: Retrospective at their Centenary
- 233 第6回東京フィルメックス特集上映 生誕百年特集 中川信夫—地獄のアルチザン—
The 6th TOKYO FILMeX: Nobuo Nakagawa Retrospective at his Centenary
- 234 日韓友情年2005 韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆^{ユヒョンモク}監督特集
Japan-Korea Friendship Year 2005
Yu Hyeon-Mok Retrospective: The Pathfinder of Korean Realism
- 235 シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち
Silent Film Renaissance: Masters at their Centenary
- 236 松竹創業110周年記念 松竹映画探索 1960-70年代
Shochiku Company at 110: A Quest of Shochiku Films in the 1960s and 1970s
- 237 日本におけるドイツ2005/2006 NFC所蔵外国映画選集
ドイツ・オーストリア映画名作選
Deutschland in Japan
A Study of German and Austrian Cinema: From the National Film Center Collection

平成18年度[2006]

- 238 シナリオ作家 新藤兼人
Written by Kaneto Shindo

- 239 《京橋映画小劇場 No.1》 映画の教室2006
Kyobashi-za No.1: Film Class of 2006
- 240 NFC所蔵外国映画選集 フランス古典映画への誘い
Invitation to French Cinema Classics From the National Film Center Collection
- 241 ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭
Russian and Soviet Film Festival
- 242 《京橋映画小劇場 No.2》 アンコール特集：平成17年度上映作品より
Kyobashi-za No.2: Back by Popular Demand: From the Programs of 2005
- 243 日本映画史横断① 日活アクション映画の世界
Cross-section of Japan's Cinematic Past [Part 1]
Nikkatsu Action Film
- 244 《京橋映画小劇場 No.3》 生誕100周年記念 美術監督 水谷浩作品選集
Kyobashi-za No.3: Pioneering Art Director: Hiroshi Mizutani at His Centenary [Film Screening]
- 245 日豪交流年2006 オーストラリア映画祭
Australian Film Festival
2006 Australia-Japan Year of Exchange
- 246 《京橋映画小劇場 No.4》 シネマの冒険 闇と音楽2006
Kyobashi-za No.4: Silent Film Renaissance 2006
- 247 没後50年 溝口健二再発見
Kenji Mizoguchi Retrospective
- 248 第7回東京フィルメックス 特集上映 岡本喜八 日本映画のダンディズム
The 7th TOKYO FILMeX: Okamoto Kihachi Retrospective
- 249 日本映画史横断② 歌謡・ミュージカル映画名作選
Cross-section of Japan's Cinematic Past [Part 2]
Song and Dance Tradition
- 250 シリーズ・日本の撮影監督(2)
Master Cinematographers of Japan Part 2
- 251 《京橋映画小劇場 No.5》 CHANBARA① 市川右太衛門
Kyobashi-za No.5: Chanbara, the Art of Japanese Sword Fight Part 1: Utaemon Ichikawa

平成19年度[2007]

- 252 追悼特集 映画監督 今村昌平と黒木和雄
Retrospective in Memory of Shohei Imamura and Kazuo Kuroki
- 253 EUフィルムデーズ2007
EU Film Days 2007
- 254 映画監督 川島雄三
Yuzo Kawashima Retrospective
- 255 《京橋映画小劇場 No.6》 映画の教室2007
Kyobashi-za No.6: Film Class of 2007
- 256 特集・逝ける映画人を偲んで 2004-2006
In Memory of Film Figures We Lost in 2004-2006

- 257 《京橋映画小劇場 No.7》 アンコール特集：2006年度上映作品より
Kyobashi-za No.7: Back by Popular Demand: From the Programs of 2006
- 258 日本・ポーランド国交回復50周年記念 ポーランド短篇映画選
ウッチ映画大学の軌跡
Polish Short Film Selection: Masterpieces of the Łódź Film School
- 259 日本・ウズベキスタン国交樹立15周年記念 ウズベキスタン映画祭
Uzbekistan Film Festival
- 260 日印交流年 インド映画の輝き
Japan-India Friendship Year 2007: Indian Film Festival
- 261 スウェーデン・ドキュメンタリー新作選
Swedish Documentary Now
- 262 第8回東京フィルメックス 特集上映 山本薩夫監督特集
一ザッツ<社会派>エンタテインメントー
The 8th TOKYO FILMeX Special Program Satsuo Yamamoto
- 263 NFC所蔵外国映画選集 ヨーロッパ映画名作選
European Film Classics : From the National Film Center Collection
- 264 《京橋映画小劇場 No.8》 日本の文化・記録映画選：芸術を記録する
Kyobashi-za No.8: A Selection of Japanese Documentary Film: Arts on Screen
- 265 生誕百年 映画監督 マキノ雅広
Masahiro Makino Retrospective
- 266 《京橋映画小劇場 No.9》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究①
Kyobashi-za No.9: A Survey of American Film History Part 1: From the
National Film Center Collection

平成20年度[2008]

- 267 「ルノワール+ルノワール展」開催記念 ジャン・ルノワール映画の世界
ジャン・ルノワール監督名作選
L'univers cinématographique de Jean Renoir
Rétrospective Jean Renoir
- 268 《京橋映画小劇場 No.10》 映画の中の日本文学Part 1
Kyobashi-za No.10: Japanese Literature in Film Part 1
- 269 発掘された映画たち2008
Cinema : Lost and Found 2008
- 270 EUフィルムデーズ2008
EU Film Days 2008
- 271 スターと監督 長谷川一夫と衣笠貞之助
Kazuo Hasegawa and Teinosuke Kinugasa
- 272 日本インディペンデント映画史シリーズ① PFF30回記念
ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.1
The History of Japanese Independent Cinema I
Retrospective of Pia Film Festival vol.1
- 273 生誕100年 川喜多かしことヨーロッパ映画の黄金時代
Madame Kawakita: L'Ambassadrice cinématographique du film européen
- 274 《京橋映画小劇場 No.11》 アンコール特集：2007年度上映作品より
Kyobashi-za No.11: Back by Popular Demand: From the Programs of 2007

- 275 生誕110周年 スターと監督 大河内傳次郎と伊藤大輔
Denjiro Okochi and Daisuke Ito
In Celebration of the 110th Anniversary of their Birth
- 276 《京橋映画小劇場 No.12》 映画の教室2008
Kyobashi-za No.12: Film Class of 2008
- 277 第9回東京フィルメックス特集上映 蔵原惟繕監督特集—狂熱の季節—
The 9th TOKYO FILMeX Special Program: Kurahara Koreyoshi
Retrospective
- 278 生誕百年 映画監督 亀井文夫
Fumio Kamei Retrospective at his Centenary
- 279 日本映画史横断③ 怪獣・SF映画特集
Cross-Section of Japan's Cinematic Past [Part 3]
Monster and Science Fiction Film
- 280 日本オランダ年2008-2009 オランダ映画祭2009
Nederland in Japan 2008-2009
Holland Film Festival 2009
- 281 カナダ・アニメーション映画名作選
A Selection of Canadian Animation: From the Collection of la
Cinémathèque québécoise
- 282 《京橋映画小劇場 No.13》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究②
Kyobashi-za No.13: A Survey of American Film History Part2: From the
National Film Center Collection

平成21年度 [2009]

- 283 映画の中の日本文学 Part 2
Japanese Literature in Film Part 2
- 284 発掘された映画たち2009
Cinema: Lost and Found 2009
- 285 日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 ブルガリア映画特集
50 Years of Reestablishment of Diplomatic relations between Bulgaria and
Japan
Bulgarian Film Week
- 286 日本映画史横断④ 怪獣・SF映画特集Part 2
Cross-section of Japan's Cinematic Past [Part 4]
Monster and Science Fiction Film II
- 287 EUフィルムデーズ2009
EU Film Days 2009
- 288 特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008
In Memory of Film Figures We Lost in 2007-2008
- 289 日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェス
ティバルの軌跡 vol.2
The History of Japanese Independent Cinema II: Retrospective of Pia Film
Festival vol.2
- 290 第31回 ぴあフィルムフェスティバル
31st Pia Film Festival
- 291 《京橋映画小劇場 No.14》 ドキュメンタリー作家 土本典昭
Kyobashi-za No.14: Noriaki Tsuchimoto: a Documentary Filmmaker

- 292 《京橋映画小劇場 No.15》 映画の教室2009
Kyobashi-za No.15: Film Class of 2009
- 293 生誕百年 映画監督 山中貞雄
Sadao Yamanaka Retrospective at his Centenary
- 294 生誕百年 映画女優 田中絹代
Film Actress Kinuyo Tanaka at her Centenary
- 295 《京橋映画小劇場 No.16》 アンコール特集：2008年度上映作品より
Kyobashi-za No.16: Back by Popular Demand: From the Programs of 2008
- 296 映画監督 大島渚
Nagisa Oshima Retrospective
- 297 川喜多かこ生誕100年記念事業 川喜多賞受賞監督作品選集
“A Wreath for Madame Kawakita” in Tokyo
- 298 アンコール特集：1995-2004年度の上映作品より
Back by Popular Demand: From the Programs of 1995-2004
- 299 映画監督 篠田正浩
Masahiro Shinoda Retrospective
- 300 《京橋映画小劇場 No.17》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究③
Kyobashi-za No.17: A Survey of American Film History Part3: From the National Film Center Collection

平成22年度[2010]

- 301 映画の中の日本文学 Part 3
Japanese Literature in Film Part 3 [Film Screening]
- 302 《京橋映画小劇場 No.18》 映画の教室2010
Kyobashi-za No.18: Film Class of 2010
- 303 フィルムセンター開館40周年記念① 発掘された映画たち2010
The 40th Anniversary of National Film Center Part 1
Cinema: Lost and Found 2010
- 304 EUフィルムデーズ2010
EU Film Days 2010
- 305 フィルムセンター開館40周年記念②
フィルム・コレクションに見るNFCの40年
The 40th Anniversary of National Film Center Part 2
To the Sources of the NFC Film Collection
- 306 日本インディペンデント映画史シリーズ③
ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.3
The History of Japanese Independent Cinema III: Retrospective of Pia Film Festival vol.3
- 307 第32回PFF ぴあフィルムフェスティバル
32nd Pia Film Festival
- 308 《京橋映画小劇場 No.19》 アニメーションの先駆者 大藤信郎
Kyobashi-za No.19: Noburo Ofuji: Pioneer of Japanese Animation
[Film Screening]

- 309 日本ポルトガル修好通商条約150周年 ポルトガル映画祭2010
 マノエル・ド・オリヴェイラとポルトガル映画の巨匠たち
 The 150th Anniversary of the Peace, Friendship and Trade Treaty between
 Portugal and Japan(1860-2010) Portuguese Cinema Festival 2010
- 310 《京橋映画小劇場 No.20》 アンコール特集：2009年度上映作品より
 Kyobashi-za No.20: Back by Popular Demand: From the Programs of 2009
- 311 映画監督五十年 吉田喜重
 Kiju Yoshida Retrospective
- 312 生誕百年 映画監督 黒澤明
 Akira Kurosawa Retrospective at his Centenary
- 313 日本—南アフリカ交流100周年記念 シネマアフリカ2010
 Cinema Africa 2010
 Celebrating the Centennial of Official South Africa-Japan Relations
- 314 現代フランス映画の肖像—ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより
 Une petite découverte du cinéma français d'aujourd'hui dans la donation de
 l'Unifrance
- 315 フィルムセンター開館40周年記念③
 よみがえる日本映画—映画保存のための特別事業費による
 The 40th Anniversary of National Film Center Part3
 The Little Known Japanese Cinema - NFC's Newly Acquired Collection
 from Major Film Studios

会 期

平成23年4月5日～平成23年5月1日
(24日間)

会 場

大ホール

主 催

東京国立近代美術館フィルムセンター

作品数・上映回数

36作品／36プログラム／53回上映
(当初予定72回 東日本大震災の影響により変更)

入場者数

10,287人(1回平均194人)

新聞・雑誌等における掲載記事

東京新聞 3月8日夕刊 36本特集上映の
記事日本経済新聞 3月9日夕刊 吉村公三郎
監督の特集上映

公明新聞 4月1日 映画監督 吉村公三郎

しんぶん赤旗日曜版 4月3日 映画監督
吉村公三郎映像新聞 4月4日 吉村公三郎監督 生
誕100年の上映企画

読売新聞 4月5日夕刊 スクリーン欄

316 生誕百年 映画監督 吉村公三郎

吉村公三郎監督の生誕百年を記念して、1939年の『五人の兄妹』から遺作となった1974年の『襤褸の旗』まで、計36本の上映を行った。企画の開催にあたり、『間諜未だ死せず』(1942)、『戦火の果て』(1950)など13本の作品を購入してフィルムセンターの収蔵作品に加えるとともに、ニュー・プリントで上映を行うことができた。

Yoshimura Kozaburo Retrospective at his Centenary

Commemorating the centenary of director Yoshimura Kozaburo's birth, this program screened the total of 36 films by him from *Gonin no kyodai* (1939) to his last film *Ranru no hata* (1974). NFC purchased 13 films including *Kancho imada shisezu* (1942) and *Senka no hate* (1950) for this program so the audience was able to enjoy the screenings with new prints, which were eventually added to the NFC collection.



※…震災の影響により上映を中止した回。

1
4/5(火)1:00pm 4/22(金)7:00pm※

五人の兄妹(93分・16mm・白黒)
'39(松竹大船)(監督)吉村公三郎

2
4/5(火)4:00pm 4/24(日)11:00am

暖流(132分・35mm・白黒)
'39(松竹大船)(監督)吉村公三郎

3
4/5(火)7:00pm※ 4/29(金・祝)11:00am

間諜未だ死せず(117分・35mm・白黒)
'42(松竹大船)(監督)吉村公三郎

4
4/6(水)1:00pm 4/21(木)7:00pm※

象を喰った連中(84分・35mm・白黒)
'47(松竹大船)(監督)吉村公三郎

5
4/6(水)4:00pm 5/1(日)5:00pm

安城家の舞踏會(89分・35mm・白黒)
'47(松竹大船)(監督)吉村公三郎

6
4/6(水)7:00pm※ 4/30(土)2:00pm

誘惑(85分・35mm・白黒)
'48(松竹大船)(監督)吉村公三郎

7
4/7(木)1:00pm 4/29(金・祝)5:00pm

わが生涯のかゞやける日(101分・35mm・白黒)
'48(松竹大船)(監督)吉村公三郎

8
4/7(木)4:00pm 4/20(水)1:00pm

姦劇 嫉妬(87分・35mm・白黒)
'49(松竹大船)(監督)吉村公三郎

9
4/7(木)7:00pm※ 4/26(火)4:00pm

森の石松(97分・35mm・白黒)
'49(松竹京都)(監督)吉村公三郎

10
4/8(金)1:00pm 4/24(日)5:00pm

眞晝の円舞曲(109分・35mm・白黒)
'49(松竹大船)(監督)吉村公三郎

11
4/8(金)4:00pm 4/27(水)7:00pm※

春雪(87分・35mm・白黒)
'50(松竹大船)(監督)吉村公三郎

12
4/8(金)7:00pm※ 4/23(土)2:00pm

戦火の果て(90分・35mm・白黒)
'50(大映京都)(監督)吉村公三郎

13
4/12(火)1:00pm 4/28(木)7:00pm※

偽れる盛装(103分・35mm・白黒)
'51(大映京都)(監督)吉村公三郎

14
4/9(土)11:00am 4/19(火)7:00pm※

自由学校(104分・35mm・白黒)
'51(大映東京)(監督)吉村公三郎

15
4/12(火)4:00pm 4/20(水)7:00pm※

源氏物語(124分・35mm・白黒)
'51(大映京都)(監督)吉村公三郎

16
4/12(火)7:00pm※ 4/27(水)1:00pm

西陣の姉妹(110分・35mm・白黒)
'52(大映京都)(監督)吉村公三郎

17
4/9(土)2:00pm 4/20(水)4:00pm

千羽鶴(110分・35mm・白黒)
'53(大映京都)(監督)吉村公三郎

18
4/9(土)5:00pm※ 4/21(木)0:30pm

慾望(116分・35mm・白黒)
'53(大映京都)(監督)吉村公三郎

19
4/10(日)10:30am 4/21(木)3:30pm

夜明け前(142分・35mm・白黒)
'53(近代映画協会=劇団民藝)(監督)吉村公三郎

20
4/10(日)2:00pm 4/22(金)1:00pm

足摺岬(107分・35mm・白黒)
'54(近代映画協会)(監督)吉村公三郎

21

4/10(日)5:00pm※ 4/19(火)4:00pm

銀座の女(109分・35mm・白黒)
'55(日活)(監督)吉村公三郎

22

4/13(水)1:00pm 4/26(火)7:00pm※

歌舞伎十八番 鳴神 美女と怪龍(99分・35mm・白黒)
'55(東映京都)(監督)吉村公三郎

23

4/13(水)4:00pm 4/23(土)5:00pm

嫁ぐ日(89分・35mm・白黒)
'56(近代映画協会)(監督)吉村公三郎

24

4/13(水)7:00pm※ 4/29(金・祝)2:00pm

夜の河(104分・35mm・カラー)
'56(大映京都)(監督)吉村公三郎

25

4/14(木)1:00pm 4/30(土)5:00pm

四十八歳の抵抗(108分・35mm・白黒)
'56(大映東京)(監督)吉村公三郎

26

4/14(木)4:00pm 4/23(土)11:00am

夜の蝶(90分・35mm・カラー)
'57(大映東京)(監督)吉村公三郎

27

4/14(木)7:00pm※ 5/1(日)2:00pm

地上(98分・35mm・カラー)
'57(大映東京)(監督)吉村公三郎

28

4/15(金)1:00pm 4/24(日)2:00pm

一粒の麦(109分・35mm・カラー)
'58(大映東京)(監督)吉村公三郎

29

4/15(金)4:00pm 4/30(土)11:00am

夜の素顔(121分・35mm・カラー)
'58(大映東京)(監督)吉村公三郎

30

4/15(金)7:00pm※ 5/1(日)11:00am

女の坂(107分・35mm・カラー)
'60(松竹京都)(監督)吉村公三郎

31

4/16(土)11:00am 4/27(水)4:00pm

女の勲章(110分・35mm・カラー)
'61(大映東京)(監督)吉村公三郎

32

4/16(土)2:00pm 4/26(火)1:00pm

その夜は忘れない(95分・35mm・白黒)
'62(大映東京)(監督)吉村公三郎

33

4/16(土)5:00pm※ 4/28(木)1:00pm

越前竹人形(101分・35mm・白黒)
'63(大映京都)(監督)吉村公三郎

34

4/17(日)11:00am 4/22(金)4:00pm

こころの山脈(104分・35mm・白黒)
'66(福島県本宮町本宮方式映画製作の会)(監督)吉村公三郎

35

4/17(日)2:00pm 4/28(木)4:00pm

眠れる美女(96分・35mm・白黒)
'68(近代映画協会)(監督)吉村公三郎

36

4/17(日)5:00pm※ 4/19(火)1:00pm

^{らん}襤の旗(112分・35mm・白黒)
'74(襤褸の旗製作委員会)(監督)吉村公三郎

会 期
平成23年5月3日～平成23年5月22日 (18日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
20作品／18プログラム／36回上映
入場者数
6,243人(1回平均173人)
新聞・雑誌等における掲載記事
公明新聞 4月15日 よみがえる日本映画「東映篇」
映像新聞 4月25日 「よみがえる日本映画」第2弾は東映作品に焦点
日経スタイルマガジン 4月28日 開館40周年の映画の殿堂が東京のど真ん中に！
しんぶん赤旗日曜版 5月1.8合併号 文化短信
ぶらり美術館 5月13日

317 よみがえる日本映画 vol.2【東映篇】 —映画保存のための特別事業費による

平成21年度補正予算から映画保存のための特別事業費を得て、フィルムセンターが取り組んできた原版素材の整備の成果をまとめて紹介するシリーズ企画で、第2回目となる今回は東映の作品を特集した。特別事業では、これまでにフィルムセンターが収集した貴重な映画作品159作品の原版作成などを行う一方、ネガが失われ久しくスクリーンでの鑑賞が困難であった日本映画を中心に、巨匠、名匠による作品、各映画会社の歴史上特筆される作品など173作品を対象にネガとニュー・プリントの作成を行った。本企画では、後者のうち東映株式会社からの購入作品を取り上げ、同社の前身にあたる東横映画時代を含む初期作品や、同社が得意とするシリーズもの、著名監督による秀作など、20本を18プログラムにまとめて上映した。

The Little Known Japanese Cinema vol.2 —NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios

NFC acquired special working expenses for film preservation from the supplementary budget of the fiscal year 2009 and organized the large-scale project for securing master film materials. This event focused on Toei films as the second installment of the series that presents the achievements of such preservation efforts. As part of the special project, NFC made the inter negatives of the 159 rare film titles in its collection. In addition, among the Japanese films which had long been unavailable for screening due to the loss of the negatives, NFC made dupe negatives and new prints for 173 film titles that are especially important for such reasons as the fame and the critical acclaim of the directors and the significance for the history of each film studio. This event featured the films in the latter category, that is, the early films made at Toei studio including at Toyoko eiga, the precursor to Toei, Toei's signature "series" films and strong films by famous directors. The total of 20 films were shown in 18 programs.



1
5/3(火・祝)1:00pm 5/13(金)7:00pm

にっぽんGメン 第二話 難船崎の血闘(90分・35mm・白黒)
'50(東横映画)(監督)松田定次

2
5/3(火・祝)4:00pm 5/18(水)3:00pm

乱れ星荒神山(77分・35mm・白黒)
'50(東横映画)(監督)萩原遼

3
5/4(水・祝)1:00pm 5/17(火)7:00pm

千石纏^{まとい}(83分・35mm・白黒)
'50(東横映画)(監督)マキノ雅弘

4
5/4(水・祝)4:00pm 5/19(木)3:00pm

女賊と判官(86分・35mm・白黒)
'51(東横映画)(監督)マキノ雅弘、萩原遼

5
5/5(木・祝)1:00pm 5/18(水)7:00pm

赤穂城(81分・35mm・白黒)
'52(東映京都)(監督)萩原遼

6
5/5(木・祝)4:00pm 5/20(金)3:00pm

續 赤穂城(101分・35mm・白黒)
'52(東映京都)(監督)萩原遼

7
5/6(金)3:00pm 5/21(土)1:00pm

女問者秘聞 赤穂浪士(128分・35mm・白黒)
'53(東映京都)(監督)佐々木康

8
5/6(金)7:00pm 5/15(日)1:00pm

大菩薩峠(111分・35mm・白黒)
'53(東映京都)(監督)渡辺邦男

9
5/7(土)1:00pm 5/17(火)3:00pm

大菩薩峠 第二部 壬生と島原の巻 三輪神杉の巻
(89分・35mm・白黒)
'53(東映京都)(監督)渡辺邦男

10
5/7(土)4:00pm 5/19(木)7:00pm

大菩薩峠 第三部 龍神の巻 間の山の巻(90分・35mm・白黒)
'53(東映京都)(監督)渡辺邦男

11
5/8(日)1:00pm 5/20(金)7:00pm

早稲田大學(117分・35mm・白黒)
'53(東映東京)(監督)佐伯清

12
5/8(日)4:00pm 5/13(金)3:00pm

花と龍 第一部 洞海湾の乱斗(123分・35mm・白黒)
'54(東映東京)(監督)佐伯清

13
5/10(火)7:00pm 5/14(土)1:00pm

花と龍 第二部 愛情流転(118分・35mm・白黒)
'54(東映東京)(監督)佐伯清

14
5/10(火)3:00pm 5/22(日)0:00pm

雪之丞変化 復讐の恋(53分・35mm・白黒)
'54(東映京都)(監督)河野壽一

雪之丞変化 復讐の舞(58分・35mm・白黒)
'54(東映京都)(監督)河野壽一

雪之丞変化 復讐の剣(51分・35mm・白黒)
'54(東映京都)(監督)河野壽一

15
5/11(水)3:00pm 5/22(日)4:00pm

悪の愉しさ(110分・35mm・白黒)
'54(東映東京)(監督)千葉泰樹

16
5/11(水)7:00pm 5/14(土)4:00pm

女給(105分・35mm・白黒)
'55(東映東京)(監督)千葉泰樹

17
5/12(木)3:00pm 5/15(日)4:00pm

母子像(87分・35mm・白黒)
'56(東映東京)(監督)佐伯清

18
5/12(木)7:00pm 5/21(土)4:00pm

千両獅子(91分・35mm・白黒)
'58(東映京都)(監督)内田吐夢

会 期
平成23年5月6日～平成23年5月22日 ※金、土、日のみ上映(9日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
16作品／9プログラム／18回上映
入場者数
1,627人(1回平均90人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 4月19日夕刊 映画の教室 2011 しんぶん赤旗日曜版 5月1日 秀作16本 を上映 週刊金曜日 5月13日 映画の教室2011 ぶらり美術館 5月13日

318 《京橋映画小劇場 No.21》 映画の教室2011

《京橋映画小劇場》第21回目の企画で、本シリーズは6年目を迎えた。今回は、所蔵作品の中から世界と日本の映画史を学ぶ上で重要な外国映画13本、日本映画3本の計16作品(9プログラム)を選んで上映し、無声映画の上映にも力を入れた。

Kyobashi-za No.21: Film Class of 2011

This 21st installment of <<Kyobashi-za>> marked the 6th year since the beginning of the series. From its collection, NFC selected the total of 16 films (13 foreign and three Japanese films) and screened them in nine programs based on their importance for the students of the histories of world and Japanese cinema.



1

5/6(金)2:00pm 5/14(土)3:00pm

十誡(134分・24fps・35mm・無声・白黒)
THE TEN COMMANDMENTS
'23(アメリカ)(監督)セシル・B・デミル

2

5/6(金)6:00pm 5/15(日)0:00pm

母(85分・20fps・35mm・無声・白黒)
MATH
'26(ソ連)(監督)フセヴォロド・プドフキン

3

5/7(土)0:00pm 5/15(日)3:00pm

自由を我等に(88分・35mm・白黒)
À NOUS LA LIBERTÉ
'31(フランス)(監督)ルネ・クレール

4

5/7(土)3:00pm 5/20(金)2:00pm

出来ごころ(114分・21fps・35mm・無声・白黒)
'33(松竹蒲田)(監督)小津安二郎

5

5/8(日)0:00pm 5/20(金)6:00pm

国境の町(96分・35mm・白黒)
OKPAИHA
'33(ソ連)(監督)ボリス・バルネット

6

5/8(日)3:00pm 5/21(土)0:00pm

風の中の子供(86分・35mm・白黒)
'37(松竹大船)(監督)清水宏

7

5/13(金)2:00pm 5/21(土)3:00pm

ぼくの伯父さん(116分・35mm・カラー)
MON ONCLE
'58(フランス=イタリア)(監督)ジャック・タチ

8

5/13(金)6:00pm 5/22(日)0:00pm

裸の島(96分・35mm・白黒)
'60(近代映画協会)(監督)新藤兼人

9

5/14(土)0:00pm 5/22(日)3:00pm

外国アニメーション映画小特集(計45分)

ファントーシュたちの恋のさやあて
(4分・18fps・35mm・無声・白黒)
DRAME CHEZ LES FANTOCHES
'08(フランス)(監督)エミール・コール

魔法使の弟子(5分・35mm・白黒)

STUDIE 8 (L'APPRENTI SORCIER)
'31(ドイツ)(監督)オスカー・フィッシンガー

ハンガリアン・ダンス6番(3分・35mm・白黒)

STUDIE 9 (UNGARISCHER TANZ No.6)
'31(ドイツ)(監督)オスカー・フィッシンガー

アイダのバレエ音楽(5分・35mm・白黒)

STUDIE 10 (BALLET MUSIK AUS AIDA)
'32(ドイツ)(監督)オスカー・フィッシンガー

モーツァルトのメヌエット(5分・35mm・白黒)

STUDIE 11 (MENUETT VON MOZART)
'32(ドイツ)(監督)オスカー・フィッシンガー

ルビンシュタインの光の踊り(5分・35mm・白黒)

STUDIE 12 (LICHTERTANZ)
'32(ドイツ)(監督)オスカー・フィッシンガー

算数あそび(9分・16mm・白黒)

RYTHMETIC
'56(カナダ)(監督)ノーマン・マクラレン

カノン(9分・16mm・白黒)

CANON
'64(カナダ)(監督)ノーマン・マクラレン

会 期
平成23年5月27日(金)～ 平成23年6月19日(日)(21日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 駐日欧州連合代表部、 EU加盟国大使館・文化機関
作品数・上映回数
23作品／22プログラム／44回上映
入場者数
7,893人(1回平均179人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日マリオン 5月20日 公明新聞 5月20日 EUフィルデー ズ2011 東京新聞 5月24日 ゆめぼっけ 赤旗 5月25日 毎日新聞 5月25日 EUフィルデー ズ2011 27日から23作品上映 Japantimes 5月27日 情報プレス 5月30日 日刊ジャーナル 6月2日 赤旗 6月5日 読売新聞 6月7日 映画テレビ技術 6月号 EU22カ国から 話題の映画を紹介 キネマ旬報 6月上旬号 キネマ旬報 6月下旬号 ビデオサロン 6月号 スクリーン 7月号 人と自然 6月号

319 EUフィルムデーズ2011

駐日欧州連合代表部およびEU加盟国大使館・文化機関との共同主催により、現代ヨーロッパ社会・文化の多様性を紹介する上映企画の第9回目である。第5回より主催者にフィルムセンターが加わり、今回は22カ国から日本初公開作品6本を含む23本(短篇1本を含む)を集め、22プログラムに構成して上映した。

EU Film Days 2011

Co-organized with the Delegation of the European Union to Japan and the Embassies and the cultural institutions of the EU member nations, this was the ninth installment of the screening series that introduces Japanese viewers to the diversity of European societies and cultures. Since the fifth installment, NFC became the co-organizer. This year, 23 films (including one short) from 22 countries were screened in 22 programs. Six of them were Japan premieres.



1

6/10(金)3:00pm 6/11(土)1:00pm

[アイルランド]

ブレندانとケルズの秘密(79分・35mm・カラー)

THE SECRET OF KELLS

2009(フランス=ベルギー=アイルランド)(監督)トム・ムーア

2

5/29(日)2:00pm 6/1(水)3:00pm

[イタリア]

副王家の一族(122分・35mm・カラー) I VICERE

2007(イタリア=スペイン)(監督)ロベルト・ファエンツァ

3

6/15(水)7:00pm 6/16(木)3:00pm

[英国]

アース(109分・35mm・カラー) EARTH

2007(英国=ドイツ)(監督)アラスデア・フォザーギル、マーク・リンフィールド

4

6/10(金)7:00pm 6/12(日)1:00pm

[エストニア]

聖トニの誘惑(114分・35mm・白黒)

PÜHA TÖNU KIUSAMINE

2009(エストニア=フィンランド=スウェーデン)

(監督)ヴェイコ・オウンプー

5

6/17(金)7:00pm 6/19(日)4:00pm

[オーストリア]

トト(133分・35mm・白黒) TOTÓ

2007-2009(オーストリア)(監督)ペーター・シュライナー

6

6/3(金)3:00pm 6/7(火)7:00pm

[オランダ]

ドウスカ(117分・35mm・カラー) DUSKA

2007(オランダ=ロシア=ウクライナ)(監督)ヨス・ステリング

7

6/15(水)3:00pm 6/18(土)4:00pm

[ギリシャ]

エル・グレコ(117分・35mm・カラー) EL GRECO

2007(ギリシャ=スペイン=ハンガリー)

(監督)ヤニス・スマラグディス

8

5/28(土)11:00am 6/1(水)7:00pm

[スウェーデン]

プリンセス マヤ(94分・35mm・カラー) PRINCESSA

2009(スウェーデン=アイルランド)(監督)テレサ・ファビク

9

5/31(火)3:00pm 6/3(金)7:00pm

[スペイン]

それでも恋するバルセロナ(97分・35mm・カラー)

VICKY, CRISTINA, BARCELONA

2008(スペイン=アメリカ)(監督)ウディ・アレン

10

6/4(土)4:00pm 6/9(木)3:00pm

[チェコ]

ドライブ(95分・35mm・カラー) JÍZDA

'94(チェコ)(監督)ヤン・スヴィエラーク

11

6/17(金)3:00pm 6/19(日)1:00pm

[ドイツ]

冬の贈りもの(129分・35mm・カラー) IM WINTER EIN JAHR

2008(ドイツ=アメリカ)(監督)カロリーネ・リンク

12

6/5(日)11:00am 6/8(水)3:00pm

[ハンガリー]

コロラド・キッド(99分・35mm・カラー) KOLORADO KID

2010(ハンガリー=英国)

(監督)ヴァーグヴルジ・B・アンドラーシュ

13

6/2(木)3:00pm 6/4(土)1:00pm

[フィンランド]

ツイステッド・ルーツ(96分・35mm・カラー)

JÄÄRÄT JUURET

2009(フィンランド)(監督)サーラ・サーレラ

14

5/29(日)5:00pm 5/31(火)7:00pm

[フランス]

アタ(27分・35mm・カラー) ATA

2008(フランス)

(監督)チャーラ・ゼンジルジ、ギヨーム・ジョヴァネッティ

シックス(28分・HDCAM・カラー) SIX

2009(日本=フランス)

(監督)チャーラ・ゼンジルジ、ギヨーム・ジョヴァネッティ

15

5/29(日)11:00am 6/2(木)7:00pm

[ブルガリア]

ソフィアの夜明け(89分・35mm・カラー)

ИЗТОЧНИ ПИЕСИ

2009(ブルガリア)(監督)カメン・カレフ

16

6/5(日)2:00pm 6/14(火)7:00pm

[ベルギー]

あきれた日常(108分・35mm・カラー)

DE HELAASHEID DER DINGEN

2009(ベルギー=オランダ)

(監督)フェリックス・ヴァン・ヒュルーニンゲン

17

5/27(金)7:00pm 5/28(土)5:00pm

[ポーランド]

アンナと過ごした4日間(94分・35mm・カラー)

CZTERY NOCE Z ANNA

2008(ポーランド=フランス)(監督)イエジー・スコリモフスキ

18

6/7(火)3:00pm 6/9(木)6:30pm

[ポルトガル]

私たちの好きな八月(150分・35mm・カラー)

AQUELE QUERIDO MÊS DE AGOSTO

2008(ポルトガル=フランス)(監督)ミゲル・ゴメス

19

6/5(日)5:00pm 6/8(水)7:00pm

[ラトビア]

雨夜 香港コンフィデンシャル(92分・35mm・カラー) AMAYA

2010(ラトビア=中国)(監督)マリス・マルティンソンス

20

5/27(金)3:00pm 6/11(土)4:00pm

[リトアニア]

渦(144分・35mm・白黒) DUBURYS

2009(リトアニア)(監督)ギーティス・ルクシャス

21

6/16(木)7:00pm 6/18(土)1:00pm

[ルーマニア]

あとは沈黙(138分・35mm・カラー) RESTUL E TĂCERE

2007(ルーマニア)(監督)ナエ・カランフィル

22

6/12(日)4:00pm 6/14(火)3:00pm

[ルクセンブルク]

ダスト(89分・35mm・カラー) DUST

2009(ルクセンブルク=オーストリア)(監督)マックス・ジャコビー

会 期
平成23年6月3日～平成23年6月19日 ※金、土、日のみ上映(9日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
10作品／9プログラム／18回上映
入場者数
1,479人(1回平均82人)
新聞・雑誌等における掲載記事
読売新聞 5月31日夕刊 シティライフ ぶらり美術館 6月1日 スクリーン 7月号

320 《京橋映画小劇場 No.22》 アンコール特集：2010年度上映作品より

平成22年度に上映して満席を記録した作品など、とくに人気が高かった作品を再上映する企画で、今年で6回目を迎えた。平成22年度の上映データを検討して10作品を選定し9プログラムに構成して、それぞれ2回の上映を行った。

Kyobashi-za No.22: Back by Popular Demand: From the Programs of 2010

This series re-screen the especially popular films such as the titles that gained full-house audiences from the programs of the previous year. For the sixth installment, NFC examined the screening data of 2010, chose 10 films, and organized them into nine programs and showed each program twice.



1

6/3(金)2:00pm 6/11(土)3:00pm

秋津温泉(112分・35mm・カラー)
'62(松竹大船)(監督)吉田喜重

2

6/3(金)6:00pm 6/12(日)0:00pm

羅生門[デジタル復元版](88分・35mm・白黒)
'50(大映京都)(監督)黒澤明

3

6/4(土)0:00pm 6/12(日)3:00pm

獣の宿(85分・35mm・白黒)
'51(松竹京都)(監督)大曾根辰夫

4

6/4(土)3:00pm 6/17(金)1:30pm

七人の侍(206分・35mm・白黒)
'54(東宝)(監督)黒澤明

5

6/5(日)0:00pm 6/17(金)6:00pm

天国と地獄(143分・35mm・パートカラー)
'63(黒沢プロ=東宝)(監督)黒澤明

6

6/5(日)3:30pm 6/18(土)0:00pm

マチューの受難(106分・35mm・カラー) SELON MATTHIEU
2000(監督)ゲザヴィエ・ポーヴォワ

7

6/10(金)2:00pm 6/18(土)3:00pm

原色パリ凶鑑2(109分・35mm・カラー)
LA VÉRITÉ SI JE MENS 2
2001(監督)トマ・ジル

8

6/10(金)6:00pm 6/19(日)0:00pm

すべての道はオーベルヴィリエへ続く(13分・35mm・カラー)
TOUS LES CHEMINS MÈNENT À AUBERVILLERS
'96(監督)マリー=エレーヌ・リュデル

恐れ慄いて(107分・35mm・カラー)
STUPEUR ET TREMBLEMENTS
2002(監督)アラン・コルノー

9

6/11(土)0:00pm 6/19(日)3:00pm

斧(122分・35mm・カラー) LE COUPERET
2004(監督)コスタ=ガヴラス

会 期
平成23年6月21日～平成23年7月17日 (24日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
33作品／31プログラム／72回上映
入場者数
10,320人(1回平均143人)
新聞・雑誌等における掲載記事
公明新聞 6月10日 戦前・戦後に日本映画の黄金期を支えた故森一生監督の生誕100周年を記念した上映会 産経新聞 6月10日 生誕100年の森一生監督の特集上映 東京新聞 6月16日 ゆめぼっけ ビデオサロン 6月20日 昭和の日本映画を支えた監督・森一生の特集上映 常陽藝文 6月号、7月号

321 生誕百年 映画監督 森一生

森一生監督の生誕100周年を記念して、『薄桜記』(1959)、『不知火檢校』(1960)、『ある殺し屋』(1967)などの代表作を含む計33本(31プログラム)を上映した。「映画保存のための特別事業費」で入手した4作品をプログラムに含めたほか、『狙われた女』(1948)、『酔いどれ二刀流』(1954)など7本の作品を新たに購入してフィルムセンターの収蔵作品に加えるとともに、ニュー・プリントで上映を行うことができた。

Mori Kazuo Retrospective at his Centenary

Commemorating the centenary of the birth of director Mori Kazuo, this program screened 33 films including his representative works such as *Hakuo ki* (1959), *Shiranui Kengyo* (1960), *Aru koroshiya* (1967) in 31 programs. Four of the programmed films had been acquired with “special working expenses for film preservation.” In addition, NFC purchased seven films including *Nerawareta onna* (1948) and *Yoidore nitoryu* (1954) so as to screen these films with new prints and also to add them to the NFC collection.



1

6/21(火)1:00pm 7/2(土)5:00pm

仇討膝栗毛[不完全](62分・35mm・白黒)
'36(新興京都)(監督)森一生

旅籠屋騒動[『お伊勢詣り』改題](56分・35mm・白黒)
'39(新興京都)(監督)森一生

2

6/21(火)4:00pm 7/3(日)2:00pm

鬼あざみ[部分](14分・35mm・白黒)
'39(新興京都)(監督)森一生

祐天吉松[不完全](68分・35mm・白黒)
'37(新興京都)(監督)森一生

3

6/21(火)7:00pm 7/9(土)11:00am

大阪町人(69分・35mm・白黒)
'42(大映京都)(監督)森一生

4

6/22(水)1:00pm 7/5(火)7:00pm

槍おどり五十三次(78分・35mm・白黒)
'46(大映京都)(監督)森一生

5

6/22(水)4:00pm 7/2(土)2:00pm 7/6(水)7:00pm

龍虎伝(74分・35mm・白黒)
'47(大映京都)(監督)森一生

6

6/22(水)7:00pm 7/3(日)11:00am

山猫令嬢(86分・35mm・白黒)
'48(大映京都)(監督)森一生

7

6/23(木)1:00pm 7/3(日)5:00pm 7/15(金)7:00pm

狙われた女(78分・35mm・白黒)
'48(大映京都)(監督)森一生

8

6/23(木)4:00pm 7/2(土)11:00am

わたしの名は情婦(88分・16mm・白黒)
'49(大映京都)(監督)森一生

9

6/23(木)7:00pm 7/5(火)1:00pm

銭形平次(83分・35mm・白黒)
'51(大映京都)(監督)森一生

10

6/24(金)1:00pm 7/14(木)4:00pm

荒木又右エ門 決闘鍵屋の辻(81分・35mm・白黒)
'52(東宝)(監督)森一生

11

6/24(金)4:00pm 7/10(日)11:00am 7/13(水)1:00pm

銭形平次捕物控 からくり屋敷(87分・35mm・白黒)
'53(大映京都)(監督)森一生

12

6/24(金)7:00pm 7/7(木)1:00pm

近世名勝負物語 花の講道館(102分・35mm・白黒)
'53(大映京都)(監督)森一生

13

7/12(火)7:00pm 7/13(水)4:00pm 7/16(土)2:00pm

酔いどれ二刀流(88分・35mm・白黒)
'54(大映京都)(監督)森一生

14

6/25(土)11:00am 7/7(木)4:00pm 7/12(火)1:00pm

風雪講道館(96分・35mm・白黒)
'55(大映東京)(監督)森一生

15

6/25(土)2:00pm 7/5(火)4:00pm 7/14(木)1:00pm

長崎の夜(88分・35mm・白黒)
'55(大映京都)(監督)森一生

16

6/25(土)5:00pm 7/6(水)1:00pm

銭形平次捕物控 人肌蜘蛛(82分・35mm・カラー)
'56(大映京都)(監督)森一生

17

7/13(水)7:00pm 7/15(金)1:00pm 7/17(日)2:00pm

あばれ鳶(89分・35mm・白黒)
'56(大映京都)(監督)森一生

18

6/26(日)11:00am 7/1(金)7:00pm

しゅじゃくもん
朱雀門(100分・35mm・カラー)
'57(大映京都)(監督)森一生

19

6/28(火)1:00pm 7/15(金)4:00pm

日露戦争勝利の秘史 敵中横断三百里(83分・35mm・白黒)
'57(大映東京)(監督)森一生

20

6/26(日)2:00pm 7/6(水)4:00pm

若き日の信長(97分・35mm・白黒)

'59(大映京都)(監督)森一生

21

6/26(日)5:00pm 7/8(金)1:00pm

次郎長富士(104分・35mm・カラー)

'59(大映京都)(監督)森一生

22

6/28(火)4:00pm 7/9(土)2:00pm 7/14(木)7:00pm

薄桜記(109分・35mm・カラー)

'59(大映京都)(監督)森一生

23

6/28(火)7:00pm 7/10(日)2:00pm

不知火検校(91分・35mm・白黒・英語字幕付)

'60(大映京都)(監督)森一生

24

6/29(水)1:00pm 7/9(土)5:00pm

忠直卿行状記(94分・35mm・白黒)

'60(大映京都)(監督)森一生

25

6/29(水)4:00pm 7/8(金)4:00pm 7/16(土)11:00am

大菩薩峠 完結篇(98分・35mm・カラー)

'61(大映京都)(監督)森一生

26

6/29(水)7:00pm 7/17(日)11:00am

怪談 蚊喰鳥(78分・35mm・白黒)

'61(大映京都)(監督)森一生

27

6/30(木)1:00pm 7/8(金)7:00pm

新・悪名(98分・35mm・カラー)

'62(大映京都)(監督)森一生

28

6/30(木)4:00pm 7/10(日)5:00pm

続・座頭市物語(72分・35mm・白黒)

'62(大映京都)(監督)森一生

29

6/30(木)7:00pm 7/12(火)4:00pm

大魔神逆襲(87分・35mm・カラー)

'66(大映京都)(監督)森一生

30

7/1(金)1:00pm 7/7(木)7:00pm 7/17(日)5:00pm

ある殺し屋(82分・35mm・カラー)

'67(大映京都)(監督)森一生

31

7/1(金)4:00pm 7/16(土)5:00pm

座頭市御用旅(90分・35mm・カラー)

'72(勝プロ)(監督)森一生

会 期
平成23年7月19日～平成23年9月4日 (41日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
48作品／41プログラム／82回上映
入場者数
13,330人(1回平均163人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 7月8日 特集・逝ける映画人を偲んで2009-2010
読売新聞 7月15日夕刊 池部、森繁の出世上映
shotmagazine 7月19日
東京新聞 7月21日 ゆめぼっけ
ぶらり美術館 7月28日
毎日新聞 8月4日夕刊 逝ける映画人 偲ぶ特集上映
東京メトロ 沿線だより 8月号

322 特集・逝ける映画人を偲んで2009-2010

フィルムセンターのコレクションを生かして、近年逝去した映画関係者の業績をその代表作で偲び、回顧する恒例企画である。今回は平成21年1月1日から平成22年12月31日までの期間に亡くなった監督、俳優、技術スタッフなどを対象とした。井上梅次、西河克己、高峰秀子、池部良、森繁久彌をはじめ、42名の映画人の携わった48作品、41番組を上映してその逝去を惜しんだ。また、各映画人のフィルモグラフィー上重要な作品の一部については新規購入のプリントもプログラムしながら日本映画史の厚みを示した。

In Memory of Film Figures We Lost in 2009-2010

This regular series aims to remember and retrospect the achievements of the recently deceased filmmakers through their representative works. This time, NFC featured directors, actors, technical specialists and other film professionals who passed away between January 1, 2009 and December 31, 2010. By screening the total of 48 films in 41 programs, NFC lamented the demise of 42 film professionals including Inoue Umetsugu, Nishikawa Katsumi, Takamine Hideko, Ikebe Ryo and Morishige Hisaya. The films were mainly selected from the NFC collection, but as for the works that are especially important in the particular film professional's filmography, NFC purchased new prints so as to present the richness of the history of Japanese cinema.



■太字は追悼対象となった映画人

1

7/19(火)3:00pm 8/12(金)7:00pm

三等重役(98分・35mm・白黒)

'52(東宝)(出演)小林桂樹、森繁久彌、藤間紫(監督)春原政久

2

7/19(火)7:00pm 8/13(土)1:00pm

東京のえくぼ(87分・35mm・白黒)

'52(新東宝)(監督)松林宗恵(出演)高峰秀子、小林桂樹

3

7/20(水)3:00pm 8/13(土)4:00pm

現代人(111分・35mm・白黒)

'52(松竹大船)(出演)池部良(監督)澁谷實

4

7/20(水)7:00pm 8/19(金)3:00pm

或る女(134分・35mm・白黒)

'54(大映東京)(美術)木村威夫(出演)長岡輝子(監督)豊田四郎

5

7/21(木)3:00pm 8/16(火)6:30pm

二十四の瞳(155分・35mm・白黒)

'54(松竹大船)(美術)中村公彦(出演)高峰秀子(監督)木下恵介

6

7/21(木)7:00pm 8/14(日)4:00pm

人間魚雷 回天(106分・16mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)松林宗恵

7

7/22(金)3:00pm 8/20(土)4:00pm

浮雲(122分・35mm・白黒)

'55(東宝)(出演)高峰秀子(監督)成瀬巳喜男

8

7/22(金)7:00pm 8/16(火)3:00pm

太陽の季節(89分・35mm・白黒)

'56(日活)(製作)水の江滝子(出演)南田洋子(監督)古川卓巳

9

7/26(火)3:00pm 8/17(水)7:00pm

壁あつき部屋(110分・35mm・白黒)

'56(新鋭プロ)(美術)中村公彦(出演)浜田寅彦(監督)小林正樹

10

7/26(火)7:00pm 8/18(木)3:00pm

蜘蛛巣城(109分・35mm・白黒)

'57(東宝)(美術)村木與四郎(監督)黒澤明

11

7/24(日)1:00pm 8/18(木)7:00pm

大菩薩峠(119分・35mm・カラー)

'57(東映京都)(出演)長谷川裕見子(監督)内田吐夢

12

7/24(日)4:00pm 8/17(水)3:00pm

夜の牙(102分・35mm・カラー)

'58(日活)(監督)井上梅次(美術)中村公彦

13

7/27(水)3:00pm 8/14(日)1:00pm

キクとイサム(117分・35mm・白黒)

'59(大東映画)(助監督)橋祐典(出演)北林谷榮、長岡輝子(監督)今井正

14

7/27(水)7:00pm 8/21(日)1:00pm

黒い画集 あるサラリーマンの証言(95分・35mm・白黒)

'60(東宝)(出演)小林桂樹、中丸忠雄(監督)堀川弘通

15

7/28(木)3:00pm 8/21(日)4:00pm

打倒 KNOCK DOWN(82分・35mm・カラー)

'60(日活)(監督)松尾昭典(美術)木村威夫

16

7/28(木)7:00pm 8/20(土)1:00pm

地の涯に生きるもの(103分・35mm・カラー)

'60(東宝=森繁プロ)(製作)(出演)森繁久弥(監督)久松静児

17

7/29(金)3:00pm 8/27(土)1:00pm

月の出の血闘(77分・35mm・白黒)

'60(大映京都)(照明)中岡源権(監督)伊藤大輔

18

7/29(金)7:00pm 8/28(日)4:00pm

サラリーマン忠臣蔵(100分・35mm・カラー)

'60(東宝)(美術)村木与四郎(出演)森繁久弥、小林桂樹、池部良(監督)杉江敏男

19

8/2(火)3:00pm 8/25(木)7:00pm

俺の故郷は^{ウェスタン}大西部(63分・35mm・カラー)

'60(日活)(監督)(脚本)西河克己

20

8/4(木)3:00pm 8/23(火)7:00pm

花影(99分・35mm・カラー)

'61(東京映画)(出演)池内淳子、池部良(監督)川島雄三

21

8/2(火)7:00pm 8/24(水)3:00pm

黒蜥蜴(101分・35mm・カラー)

'62(大映京都)(監督)井上梅次(出演)大木実

22

7/30(土)4:00pm 8/23(火)3:00pm

恋と十手と巾着切(66分・35mm・白黒)

'63(東映京都)(出演)山城新伍、千原しのぶ(監督)井沢雅彦

23

7/31(日)1:00pm 8/19(金)7:00pm

てなもんや三度笠(81分・35mm・白黒)

'63(東映京都)(出演)藤田まこと(監督)内出好吉

24

8/3(水)3:00pm 8/26(金)7:00pm

関東無宿(92分・35mm・カラー)

'63(日活)(美術)木村威夫(監督)鈴木清順

25

8/3(水)7:00pm 8/25(木)3:00pm

図々しい奴(94分・35mm・カラー)

'64(東映)(出演)谷啓(監督)瀬川昌治

26

7/31(日)4:00pm 8/30(火)7:00pm

白昼の通り魔(99分・35mm・白黒)

'66(創造社)(出演)佐藤慶、川口秀子、矢野宣(監督)大島渚

27

7/30(土)1:00pm 8/26(金)3:00pm

怪竜大決戦(85分・35mm・カラー)

'66(東映京都)(監督)山内鉄也

28

8/4(木)7:00pm 8/30(火)3:00pm

みな殺しの拳銃(89分・35mm・白黒)

'67(日活)(監督)長谷部安春(脚本)藤井鷹史(美術)木村威夫

29

8/5(金)3:00pm 9/3(土)4:00pm

囁きのジョー(91分・35mm・白黒)

'67(斎藤プロ)(監督)(脚本)(撮影)(音楽)斎藤耕一

30

8/5(金)7:00pm 8/28(日)1:00pm

日本の青春(129分・35mm・白黒)

'68(東京映画)(出演)藤田まこと、佐藤慶(監督)小林正樹

31

8/6(土)1:00pm 8/31(水)7:00pm

昆虫大戦争(84分・35mm・カラー)

'68(松竹大船)(脚本)高久進(監督)二本松嘉瑞

32

8/6(土)4:00pm 9/1(木)7:00pm

津軽じょんがら節(102分・35mm・カラー)

'73(斎藤プロ=ATG)(監督)(脚本)斎藤耕一(出演)東恵美子

33

8/7(日)1:00pm 9/1(木)3:00pm

よみがえる金色堂(45分・16mm・カラー)

'70(日映科学映画製作所)(監督)(脚本)中村麟子

教室^{にいまご}205号(69分・35mm・カラー)

'74(青銅プロ)(監督)橘祐典

34

8/9(火)3:00pm 8/24(水)7:00pm

伊豆の踊子(82分・35mm・カラー)

'74(東宝=ホリプロ)(監督)西河克己

35

8/7(日)4:00pm 8/31(水)3:00pm

獄門島(141分・35mm・カラー)

'77(東宝)(出演)大原麗子(監督)市川崑

36

8/9(火)7:00pm 8/27(土)4:00pm

狂い咲きサンダーロード(98分・35mm・カラー)

'80(狂映舎=ダイナマイトプロ)(出演)山田辰夫(監督)石井聰互

37

8/10(水)3:00pm 9/2(金)3:00pm

はえ(8分・16mm・白黒)

'54(日映科学映画製作所)(監督)(脚本)中村麟子

となりのトトロ(86分・35mm・カラー)

'88(徳間書店)(原画)金田伊功(声)北林谷栄(監督)宮崎駿

38

8/10(水)7:00pm 9/3(土)1:00pm

PERFECT BLUE(82分・35mm・カラー)

'98(レックスエンタテインメント)(監督)今敏

39

8/11(木)3:00pm 9/2(金)7:00pm

ウォーターボーイズ(91分・35mm・カラー)

2001(アルタミラピクチャーズ=フジテレビジョン)

(製作)佐々木芳野(出演)谷啓(監督)矢口史靖

8/11(木)7:00pm 9/4(日)1:00pm

たそがれ清兵衛(129分・35mm・カラー)

2002(松竹=日本テレビ=住友商事=博報堂=日販=衛星劇場)

(照明)中岡源権(監督)山田洋次

8/12(金)3:00pm 9/4(日)4:00pm

川本喜八郎のアニメーション映画集

花折り(14分・16mm・カラー)

'68(監督)(脚本)(人形)(動画)川本喜八郎

旅(12分・35mm・カラー)

'73(監督)(脚本)(動画)川本喜八郎

詩人の生涯(19分・35mm・カラー)

'74(監督)(動画)川本喜八郎

道成寺(19分・35mm・カラー)

'76(監督)(脚本)(人形)(動画)川本喜八郎

火宅 能「求能」より(19分・35mm・カラー)

'79(監督)(脚本)(人形)(動画)川本喜八郎

いばら姫またはねむり姫(21分・35mm・カラー)

'90(川本プロ=今日=クラートキーフィルム・プラハ=イジィ・トルンカスタジオ)(監督)(脚本)(人形)川本喜八郎

会 期
平成23年9月13日～平成23年9月18日 (6日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
6作品／6プログラム／12回上映
入場者数
2,452人(1回平均204人)
新聞・雑誌等における掲載記事
shotmagazine 8月18日 ビデオサロン 8月20日 伴奏と弁士の 語りと共に無声映画の名作を堪能する 映画と。 9月1日 ぶらり美術館 9月2日 読売新聞 9月6日 公明新聞 9月9日 文化短信 映像新聞 9月12日 無声映画の名作 語りと音で体験 まいにちサライ 9月13日 無声映画に ピアノ伴奏や弁士の語りをつけて上映す る恒例イベント FINE テレビ東京 9月14日 澤登さんの 初日にリハーサルを撮影 バラカンモーニング 9月14日 kiss and hug J-WAVE 9月17日 小学生 レポーターによる柳下さんインタビュー & 鑑賞

323 シネマの冒険 闇と音楽2011

無声映画の名作を弁士の語りや音楽伴奏付きの上映で紹介するシリーズ企画である（弁士・伴奏付きプログラムは各日とも2回目の上映で実施）。『ファウスト』(1926)、『掟によって』(1926)、『アッシャー家の末裔』[染色版](1928)の3作品は、新たに日本語字幕を作成したプリントで上映を行った。

Silent Film Renaissance 2011

This series aims to introduce the audience to the masterpieces of silent films through the screenings accompanied by live performances of *benshi* (silent film narrators) and musicians. (Each day, the second screening was accompanied by *benshi* and musicians. NFC newly made subtitled prints for three films, namely, *La Chute de la Maison Usher* (1928), *Faust* (1926), and *IIO Oand* (1926) for this program.



★印の回は、弁士・伴奏付き上映(特別料金)

1

9/13(火)3:00pm 9/17(土)4:00pm★

嵐の孤児(150分・20fps・35mm・白黒)

ORPHANS OF THE STORM

'21(アメリカ)(監督)D・W・グリフィス

2

9/14(水)2:30pm 9/18(日)4:00pm★

鉄路の白薔薇(160分・20fps・35mm・白黒)

LA ROUE

'23(監督)アベル・ガンス

3

9/15(木)3:00pm 9/16(金)7:00pm★

ファウスト(102分・20fps・35mm・白黒)

FAUST

'26(監督)F・W・ムルナウ

4

9/14(水)7:00pm★ 9/17(土)1:00pm

掟によって(80分・18fps・35mm・白黒)

ΠΟ 3 a KOHY

'26(監督)レフ・クレシヨフ

5

9/13(火)7:00pm★ 9/16(金)3:00pm

アッシャー家の末裔(57分・20fps・35mm・染色)

LA CHUTE DE LA MAISON USHER

'28(フランス)(監督)ジャン・エプステイン

6

9/15(木)7:00pm★ 9/18(日)1:00pm

裁かるゝジャンヌ(91分・20fps・35mm・白黒)

LA PASSION DE JEANNE D'ARC

'28(監督)カール・Th. ドライヤー

会 期
平成23年9月20日～平成23年9月30日 (10日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 PFFパートナーズ(ぴあ、ホリプロ)、 公益財団法人ユニジャパン
作品数・上映回数
27作品／17プログラム／26回上映
入場者数
3,853人(1回平均148人)
新聞・雑誌等における掲載記事
公明新聞 9月7日 第33回ぴあフィルム フェスティバル 朝日新聞 9月9日夕刊 PFF 20日開幕 映像新聞 9月12日 コンペ部門 PFFア ワードは17作品を紹介 読売新聞 9月16日夕刊 作品充実、映画 のミライに希望

324 第33回PFFぴあフィルムフェスティバル

今年第33回を迎えた「ぴあフィルムフェスティバル」(PFF)をフィルムセンターとPFFパートナーズ、公益財団法人ユニジャパンの共同主催で開催した。フィルムセンターでの開催は3度目となる。世界最大の自主映画コンペティション「PFFアワード」、同アワード受賞監督による第21回「PFFスカラシップ」作品のプレミア上映のほか、恒例となっている「招待作品部門」では、白黒映画を特集した「BLACK and WHITEの誘惑」、映画人をゲストに招き映画づくりの具体的方法について学ぶ「映画のレッスン」、PFF出身監督の最新作を上映する「特別プレビュー」からなる多彩なプログラムを実施した。

The 33rd Pia Film Festival

The 33rd “Pia Film Festival (PFF)” was co-organized by NFC, PFF Partners, and UNIJAPAN. This was the third time PFF was held at NFC. A wide variety of programs were shown including “PFF Award Competition,” the biggest competition of independent films in the world, and the premiere screening of the 21st “PFF Scholarship Film” directed by the award winner of the previous year. In the regular “Invited Works” category, various programs were held including “Temptation of BLACK and WHITE” featuring black and white films, “Cinema Lessons” in which participants learn practical ways to make films from the guest filmmakers, and “Special Preview” in which the latest works by the directors who won PFF Awards in the past were shown.



コンペティション部門

◆PFFアワード2011

A

9/22(木)11:00am 9/28(水) 6:15pm

パッション(92分・カラー)
(監督)南部充俊

偶像讃歌(35分・カラー)
(監督)和田彩

B

9/22(木) 2:15pm 9/27(火)6:00pm

ニュータウンの青春(95分・カラー)
(監督)森岡龍

PICARO(40分・カラー)
(監督)野上鉄見

C

9/23(金・祝)11:00am 9/29(木)2:30pm

僕らの未来(75分・カラー)
(監督)飯塚花笑

オードリー(67分・カラー)
(監督)勝又悠

D

9/24(土)11:00am 9/28(水)11:00am

反芻(117分・カラー)
(監督)狩野嵩大

untitled(19分・カラー)
(監督)岩永洋

E

9/24(土)2:30pm 9/27(火)2:30pm

チルドレン(108分・カラー)
(監督)武田真悟

101(30分・カラー)
(監督)酒巻大樹

F

9/25(日)11:00am 9/29(木)11:00am

ケージ(57分・カラー)
(監督)石井慎吾

春夏秋冬くるぐる(45分・カラー)
(監督)日原進太郎

チョッキン堪忍袋(33分・カラー)
(監督)天野千尋

G

9/25(日)2:30pm 9/27(火)11:00am

Recreation(78分・カラー)
(監督)永野義弘

山犬(61分・カラー)
(監督)佐藤考太郎

H

9/25(日)6:00pm 9/28(水)2:30pm

ダムライフ(84分・カラー)
(監督)北川仁

蟲籠 (TAITO)(70分・カラー)
(監督)緑朗

◆表彰式とグランプリ上映

9/30(金)4:30pm

ダムライフ(84分・カラー)
(監督)北川仁

招待作品部門

◆特別プレビュー 石井裕也監督最新作

9/20(火)6:00pm

ハラがコレなんで(109分・35mm・カラー)
2011(監督)石井裕也

◆第21回PFFスカラシップ作品お披露目

9/29(木)6:30pm

恋に至る病(116分・HD・カラー)
2011(監督)木村承子

◆BLACK and WHITEの誘惑
[ルビッチでハッピー!]

9/20(火)0:00pm

陽気な中尉さん(61分・16mm・白黒)
'31(監督)エルンスト・ルビッチ

9/20(火)2:00pm [ピアノ伴奏・柳下美恵]

限りなき舗道(87分・35mm・白黒)
'34(監督)成瀬巳喜男

陽気な巴里っ子(67分・16mm・白黒)
'26(監督)エルンスト・ルビッチ

[タル・ペーラに痺れる]

9/21(水)0:00pm

サタンタンゴ(438分・35mm・白黒)

'94(監督)タル・ペーラ

◆CINEMA LESSON 映画のレッスン

[塚本晋也、「何がなんでも黒澤明！」]

9/22(木)5:30pm

七人の侍(206分・35mm・白黒)

'54(監督)黒澤明

[岩井俊二、長谷川和彦に映画を聞く！]

[映画監督とは、映画製作とは]

9/23(金・祝)2:30pm

青春の蹊鉄(85分・35mm・カラー)

'74(監督)神代辰巳

[『太陽を盗んだ男』を観て、長谷川和彦に聞く！]

9/23(金・祝)5:30pm

太陽を盗んだ男(147分・35mm・カラー)

'79(監督)長谷川和彦

[黒沢清、廣原暁に個人レッスンする！]

[映画に風景をどう撮るか]

9/24(土)6:00pm

シェイディー・グローヴ(99分・35mm・カラー)

'99(監督)青山真治

会 期
平成23年10月1日～平成23年10月28日 (24日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
43作品／42プログラム／48回上映
入場者数
6,795人(1回平均142人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 9月6日夕刊 再映：よみがえ る日本映画／吉村公三郎 読売新聞 10月11日 スクリーン欄

325 再映： よみがえる日本映画—映画保存のための特別事業費による／ 生誕百年 映画監督 吉村公三郎

3月に開催された「よみがえる日本映画—映画保存のための特別事業費による」、4月に開催された「生誕百年 映画監督 吉村公三郎」の上映プログラムのうち、震災の影響で上映を中止した回の再上映を行った。

Coming Back: The Little Known Japanese Cinema —NFC’s Newly Acquired Collection from Major Film Studios Yoshimura Kozaburo Retrospective at his Centenary

Due to the earthquake, some screenings were cancelled in March and April when the following two programs were scheduled, “The Little Known Japanese Cinema —NFC’s Newly Acquired Collection from Major Film Studios” and “Yoshimura Kozaburo Retrospective at his Centenary.” They were re-screened in this program.



◆再映：よみがえる日本映画—映画保存のための特別
事業費による

A-1

10/6(木)7:00pm

肉体の暴風(92分・18fps・35mm・白黒・無声)

'31(松竹蒲田)(監督)重宗務

A-2

10/13(木)7:00pm

島の娘(62分・35mm・白黒・サウンド版)

'33(松竹蒲田)(監督)野村芳亭

A-3

10/1(土)1:00pm

少年航空兵(100分・35mm・白黒)

'36(松竹大船)(監督)佐々木康

A-4

10/7(金)3:00pm 10/15(土)4:00pm

故郷(84分・35mm・白黒)

'37(J.O.)(監督)伊丹万作

A-5

10/1(土)4:00pm

白薔薇は咲けど(77分・35mm・白黒)

'37(P.C.L.)(監督)伏水修

A-6

10/2(日)1:00pm

母の曲[総集篇](91分・35mm・白黒)

'37(東宝東京)(監督)山本薩夫

A-7

10/9(日)1:00pm 10/14(金)3:00pm

なつかしの顔(34分・35mm・白黒)

'41(東宝京都)(監督)成瀬巳喜男

母を讀める歌(53分・35mm・白黒)

'39(松竹大船)(監督)原研吉

A-8

10/2(日)4:00pm 10/7(金)7:00pm

空想部落(79分・35mm・白黒)

'39(南旺映画)(監督)千葉泰樹

A-9

10/8(土)1:00pm 10/11(火)3:00pm

多基古村(63分・35mm・白黒)

'40(東宝京都)(監督)今井正

A-10

10/13(木)3:00pm

槍おどり五十三次(78分・35mm・白黒)

'46(大映京都)(監督)森一生

A-11

10/8(土)4:00pm

緑の小筐(80分・35mm・白黒)

'47(大映東京)(監督)島耕二

A-12

10/9(日)4:00pm

三本指の男(72分・35mm・白黒)

'47(東横映画)(監督)松田定次

A-13

10/14(金)7:00pm

幸福の限界(89分・35mm・白黒)

'48(大映京都)(監督)木村恵吾

A-14

10/5(水)3:00pm

麗春花(80分・35mm・白黒)

'51(新東宝=銀座ぶろだくしょん)(監督)島耕二

A-15

10/4(火)7:00pm

嫁ぐ今宵に(89分・35mm・白黒)

'53(新東宝=新映プロ)(監督)齋藤達雄

A-16

10/6(木)3:00pm

百万ドルの明星 陽気な天國(73分・35mm・白黒)

'55(近江プロ)(監督)古川緑波

A-17

10/5(水)7:00pm

うちのおばあちゃん(97分・35mm・白黒)

'55(日活)(監督)春原政久

A-18

10/12(水)3:00pm

沙羅の花の峠(112分・35mm・白黒)

'55(日活)(監督)山村聰

A-19

10/16(日)4:00pm

逆襲獄門砦(94分・35mm・白黒)

'56(東映京都)(監督)内田吐夢

A-20

10/4(火)3:00pm 10/15(土)1:00pm

霧の音(84分・35mm・白黒)
'56(大映京都)(監督)清水宏

A-21

10/12(水)7:00pm

沖縄の民(96分・35mm・白黒)
'56(日活)(監督)古川卓巳

A-22

10/11(火)7:00pm

純情部隊(84分・35mm・白黒)
'57(東映東京)(監督)マキノ雅弘

A-23

10/16(日)1:00pm

8時間の恐怖(77分・35mm・白黒)
'57(日活)(監督)鈴木清太郎

◆再映：生誕百年 映画監督 吉村公三郎

B-1

10/21(金)3:00pm

五人の兄妹(93分・16mm・白黒)
'39(松竹大船)(監督)吉村公三郎

B-2

10/28(金)3:00pm

間諜未だ死せず(117分・35mm・白黒)
'42(松竹大船)(監督)吉村公三郎

B-3

10/20(木)3:00pm

象を喰った連中(84分・35mm・白黒)
'47(松竹大船)(監督)吉村公三郎

B-4

10/20(木)7:00pm

誘惑(85分・35mm・白黒)
'48(松竹大船)(監督)吉村公三郎

B-5

10/19(水)3:00pm

森の石松(97分・35mm・白黒)
'49(松竹京都)(監督)吉村公三郎

B-6

10/19(水)7:00pm

春雪(87分・35mm・白黒)
'50(松竹大船)(監督)吉村公三郎

B-7

10/21(金)7:00pm

戦火の果て(90分・35mm・白黒)
'50(大映京都)(監督)吉村公三郎

B-8

10/27(木)3:00pm

偽れる盛装(103分・35mm・白黒)
'51(大映京都)(監督)吉村公三郎

B-9

10/27(木)7:00pm

自由学校(104分・35mm・白黒)
'51(大映東京)(監督)吉村公三郎

B-10

10/26(水)7:00pm

源氏物語(124分・35mm・白黒)
'51(大映京都)(監督)吉村公三郎

B-11

10/25(火)3:00pm

西陣の姉妹(110分・35mm・白黒)
'52(大映京都)(監督)吉村公三郎

B-12

10/22(土)1:00pm

慾望(116分・35mm・白黒)
'53(大映京都)(監督)吉村公三郎

B-13

10/23(日)1:00pm

銀座の女(109分・35mm・白黒)
'55(日活)(監督)吉村公三郎

B-14

10/25(火)7:00pm

歌舞伎十八番 鳴神 美女と怪龍(99分・35mm・白黒)
'55(東映京都)(監督)吉村公三郎

B-15

10/18(火)7:00pm 10/26(水)3:00pm

夜の河(104分・35mm・カラー)
'56(大映京都)(監督)吉村公三郎

B-16

10/18(火)3:00pm

地上(98分・35mm・カラー)
'57(大映東京)(監督)吉村公三郎

B-17

10/28(金)7:00pm

女の坂(107分・35mm・カラー)

'60(松竹京都)(監督)吉村公三郎

B-18

10/22(土)4:00pm

越前竹人形(101分・35mm・白黒)

'63(大映京都)(監督)吉村公三郎

B-19

10/23(日)4:00pm

らんる
襜褕の旗(112分・35mm・白黒)

'74(襜褕の旗製作委員会)(監督)吉村公三郎

会 期
平成23年11月8日～平成23年12月25日 (42日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
46作品／45プログラム／100回上映
入場者数
16,805人(1回平均168人)
新聞・雑誌等における掲載記事
月刊ギャラリー 9・10・11・12月号 美術館展覧会スケジュール欄
赤旗日曜版 10月16日 “女優人生つくった巨匠との出会い 映画賞受賞機に特集上映”
和の生活マガジン花saku 10月20日「Wa風生活」内「きものでおでかけ」情報 映画女優 香川京子
asahi.com 10月24日 <速報>香川京子がFIAF賞受賞式で感謝
毎日新聞 10月25日 国際フィルム・アーカイブ連盟賞を受賞 「ひと」
日経CNBC 10月27日 クローズアップにて
art-gene 10月27日
常陽芸文 10月号
TOKYO ART MONTH 11月1日
東京新聞 11月4日 映画女優 香川京子 作品上映
読売新聞 11月15日 スクリーン
産経新聞 12月3日 香川京子女優61年、「軸足、今も映画」
BRUTUS 12月15日 SB CONCIERGEの欄
定年時代 12月上旬号 上映会「映画女優 香川京子」
東京メトロ 沿線だより 12月号

326 映画女優 香川京子

映画女優・香川京子のFIAF（国際フィルム・アーカイブ連盟）賞受賞にあわせて、出演作46本を45プログラムに構成し、その歩みを回顧した。香川氏のデビュー作となった『窓から飛び出せ』や『君と行くアメリカ航路』『東京のヒロイン』（いずれも1950）など初期の作品から、近年の『赤い鯨と白い蛇』（2006）まで、過去最大規模のプログラムによって戦後日本映画を代表する女優の足跡をたどることができた。

また、本上映と関連して、フィルムセンター展示室では同名の展覧会を開催するとともに、東京国際映画祭では共催の特集上映「香川京都と巨匠たち」も開催し、同特集の初日にはFIAF賞の授賞式が行われた。

Kagawa Kyoko Retrospective

At the occasion of film actress Kagawa Kyoko receiving the FIAF (International Federation of Film Archives) award, this program surveyed her career through 46 films in 45 programs. This proved to be the largest retrospective of Kagawa, and was able to survey the footsteps of the actress who represents the post-war Japanese cinema. The films ranged from her debut work *Mado kara Tobidase*, her very early titles *Kimi to yuku amerikakoro*, and *Tokyo no hiroin* (all released in 1950) to her recent work *Akai kujira to shiroi hebi* (2006),

In conjunction with this screening program, the exhibition “Kagawa Kyoko, Film Actress” was held in the gallery of NFC. In addition, NFC organized the special screening, “Kyoko Kagawa Retrospective” at the Tokyo International Film Festival. On the opening day of the screening, the award ceremony for the FIAF Award was conducted.



1
11/8(火)3:00pm 11/20(日)5:00pm 12/21(水)7:00pm

窓から飛び出せ(88分・35mm・白黒)
'50(新東宝)(監督)島耕二

2
11/8(火)7:00pm 11/23(水・祝)2:00pm 12/17(土)11:00am

君と行くアメリカ航路(79分・35mm・白黒)
'50(新東宝)(監督)島耕二

3
11/9(水)3:00pm 11/26(土)11:00am 12/18(日)5:00pm

東京のヒロイン(94分・35mm・白黒)
'50(新東宝)(監督)島耕二

4
11/9(水)7:00pm 11/20(日)2:00pm

銀座化粧(87分・35mm・白黒)
'51(新東宝)(監督)成瀬巳喜男

5
11/10(木)3:00pm 11/17(木)3:00pm 11/23(水・祝)11:00am

高原の駅よさようなら(71分・35mm・白黒)
'51(新東宝)(監督)中川信夫

6
11/10(木)7:00pm 11/26(土)5:00pm

上海帰りのリル(81分・35mm・白黒)
'52(新東宝=綜芸プロ)(監督)島耕二

7
11/11(金)3:00pm 11/23(水・祝)5:00pm

おかあさん(98分・35mm・白黒)
'52(新東宝)(監督)成瀬巳喜男

8
11/11(金)7:00pm 11/27(日)11:00am

モンテパの夜は更けて(80分・35mm・白黒)
'52(新東宝)(監督)青柳信雄

9
12/14(水)3:00pm 12/23(金・祝)11:00am

稲妻(87分・35mm・白黒)
'52(大映東京)(監督)成瀬巳喜男

10
11/12(土)11:00am 11/22(火)3:00pm

ひめゆりの塔(127分・35mm・白黒)
'53(東映東京)(監督)今井正

11
11/12(土)5:00pm 11/24(木)7:00pm

愛慾の裁き(99分・35mm・白黒)
'53(松竹大船)(監督)大庭秀雄

12
12/1(木)7:00pm 12/11(日)2:00pm

東京物語(136分・35mm・白黒)
'53(松竹大船)(監督)小津安二郎

13
11/12(土)2:00pm 11/25(金)3:00pm

山椒大夫(124分・35mm・白黒)
'54(大映京都)(監督)溝口健二

14
11/13(日)11:00am 11/22(火)7:00pm

勲章(119分・35mm・白黒)
'54(俳優座)(監督)澁谷實

15
12/2(金)3:00pm 12/10(土)5:00pm

女の暦(100分・35mm・白黒)
'54(新東宝)(監督)久松静児

16
12/2(金)7:00pm 12/25(日)11:00am

ともしび(97分・35mm・白黒)
'54(キヌタ・プロ)(監督)家城巳代治

17
12/6(火)3:00pm 12/17(土)5:00pm

近松物語(102分・35mm・白黒)
'54(大映京都)(監督)溝口健二

18
11/13(日)5:00pm 11/24(木)3:00pm

愛すればこそ(82分・35mm・白黒)
'55(独立映画)第一話「花賣り娘」(監督)吉村公三郎/第二話「とび
こんだ花嫁」くに子(監督)今井正/第三話「愛すればこそ」(監督)山
本薩夫

19
11/13(日)2:00pm 11/29(火)3:00pm 12/16(金)7:00pm

獄門帳(131分・35mm・白黒)
'55(松竹京都)(監督)大曾根辰保

20
11/15(火)3:00pm 11/27(日)2:00pm 12/22(木)7:00pm

しいのみ学園(100分・35mm・白黒)
'55(新東宝)(監督)清水宏

21

11/15(火)7:00pm 12/3(土)11:00am

青銅の基督(108分・35mm・白黒)

'55(松竹京都)(監督)渋谷実

22

12/6(火)7:00pm 12/18(日)11:00am

驟雨(90分・35mm・白黒)

'56(東宝)(監督)成瀬巳喜男

23

11/16(水)3:00pm 11/27(日)5:00pm 12/24(土)11:00am

何故彼女等はそうなったか(81分・35mm・白黒)

'56(新東宝)(監督)清水宏

24

11/16(水)7:00pm 12/3(土)2:00pm 12/20(火)3:00pm

流轉(94分・35mm・カラー)

'56(松竹京都)(監督)大曾根辰保

25

12/7(水)3:00pm 12/18(日)2:00pm

猫と庄造と二人のをんな(104分・35mm・白黒)

'56(東京映画)(監督)豊田四郎

26

11/17(木)7:00pm 12/4(日)11:00am

大阪物語(96分・35mm・白黒)

'57(大映京都)(監督)吉村公三郎

27

12/7(水)7:00pm 12/24(土)4:30pm

どん底(125分・35mm・白黒)

'57(東宝)(監督)黒澤明

28

12/4(日)5:00pm 12/8(木)3:00pm

地上(98分・35mm・カラー)

'57(大映東京)(監督)吉村公三郎

29

12/10(土)2:00pm 12/20(火)7:00pm

女であること(100分・35mm・白黒)

'58(東京映画)(監督)川島雄三

30

12/8(木)7:00pm 12/23(金・祝)5:00pm

杏っ子(108分・35mm・白黒)

'58(東宝)(監督)成瀬巳喜男

31

12/9(金)3:00pm 12/25(日)5:00pm

赤い陣羽織(94分・35mm・カラー)

'58(歌舞伎座)(監督)山本薩夫

32

12/9(金)7:00pm 12/24(土)2:00pm

銭形平次捕物控 雪女の足跡(80分・35mm・カラー)

'58(大映京都)(監督)加戸敏

33

12/10(土)11:00am 12/13(火)7:00pm 12/21(水)3:00pm

かげろう笠(88分・35mm・カラー)

'59(大映京都)(監督)三隅研次

34

12/17(土)1:30pm 12/22(木)3:00pm

人間の壁(145分・35mm・白黒)

'59(山本プロ)(監督)山本薩夫

35

11/18(金)3:00pm 12/3(土)5:00pm

風雲児 織田信長(95分・35mm・カラー)

'59(東映京都)(監督)河野壽一

36

11/19(土)2:00pm 11/29(火)7:00pm

大江戸の俠児(87分・35mm・白黒)

'60(東映京都)(監督)加藤泰

37

12/11(日)11:00am 12/15(木)7:00pm

日本の美術工芸 その手わざと美(28分・35mm・カラー)

'63(桜映画社)(監督)村山英治

モスラ(101分・35mm・カラー)

'61(東宝)(監督)本多猪四郎

38

11/18(金)7:00pm 11/26(土)2:00pm 12/4(日)2:00pm

明日ある限り(113分・35mm・白黒)

'62(東京映画)(監督)豊田四郎

39

12/13(火)3:00pm 12/23(金・祝)1:30pm

天国と地獄(143分・35mm・パートカラー)

'63(黒沢プロ=東宝)(監督)黒澤明

40

12/1(木)3:00pm 12/14(水)6:00pm

赤ひげ(185分・35mm・白黒)

'65(黒沢プロ=東宝)(監督)黒澤明

41

11/19(土)11:00am 11/25(金)7:00pm

翼は心につけて(115分・35mm・カラー)

'78(翼プロ)(監督)堀川弘通

42

11/19(土)4:30pm 11/30(水)3:00pm

式部物語(113分・35mm・カラー)

'90(西友)(監督)熊井啓

43

12/15(木)3:00pm 12/25(日)2:00pm

まあだだよ(134分・35mm・カラー)

'93(大映=電通=黒澤プロ)(監督)黒澤明

44

11/20(日)11:00am 11/30(水)7:00pm

阿弥陀堂だより(128分・35mm・カラー)

2002(「阿弥陀堂だより」製作委員会)(監督)小泉堯史

45

12/11(日)5:00pm 12/16(金)3:00pm

赤い鯨と白い蛇(102分・35mm・カラー)

2006(クリーク・アンド・リバー社=東北新社)
(監督)せんぼんよしこ

会 期
平成23年11月25日～平成24年1月15日 ※金、土、日のみ上映(21日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
42作品／21プログラム／42回上映
入場者数
1,824人(1回平均43人)
新聞・雑誌等における掲載記事
POLAメールマガジン 10月25日 公明新聞 11月18日 工芸技術記録映画 の世界 人間国宝など無形文化を保存 ビデオサロン 11月19日 日本の優れた 伝統工芸技術を映像に残した記録映画を 上映 美しいキモノ 11月20日 伝統工芸の優 れたわざを記録したフィルムを一堂に上 映 信越放送レールに乗って 11月26日 映像新聞 11月28日 文化庁の工芸技術 記録映画を特集上映 新美術新聞 12月1号 文化庁「工芸技術 記録映画」、全42作品を特集上映 ペーパースカイ 12月5日 読売新聞 12月6日夕刊 江戸楽 12月20日 文化庁HP 12月23日 連載「鑑 文化 芸術へのいざない」 しんぶん赤旗 12月25日 文化庁「工芸 技術記録映画」特集上映 東京メトロ 沿線だより 12、1月号 POLA財団「工芸」 1月下旬

327 日本の文化・記録映画選 文化庁「工芸技術記録映画」の特集

重要無形文化財に指定された伝統工芸の優れたわざを記録して平成23年で40年目を迎えた文化庁の「工芸技術記録映画」の歩みを振り返る特集である。文化庁との共同主催により、昭和46年度の第1作『蒔絵—松田権六のわざ—』から平成22年度の最新作まで全42本（21プログラム）をオリジナルの35mmプリントで上映した。

Japanese Craft Techniques on Screen: Documentary Film Series by Agency for Cultural Affairs

In order to document the exceptional techniques of traditional crafts that are designated as important intangible cultural assets, the Agency for Cultural Affairs have produced documentary film series of living national treasures for 40 years. Co-organized by the Agency for Cultural Affairs, this program aims to review such films by screening the total of 42 films in 21 programs. The films ranged from the first title *Makie Matsuda Gonroku no waza* (1972) to the latest one made in 2010. Original 35mm prints were used for the projection.



1

12/2(金)2:00pm 1/14(土)3:00pm

時絵—松田権六のわざ—(31分・35mm・カラー)
'71年度(日経映画社)(監督)小谷田亘

色鍋島(29分・35mm・カラー)
'72年度(桜映画社)(監督)村山英治

2

12/2(金)6:00pm 12/24(土)0:00pm

有職織物—喜多川平朗のわざ—(30分・35mm・カラー)
'73年度(日本シネセル)(監督)山添哲

手漉和紙(31分・35mm・カラー)
'74年度(日経映画社)(監督)小谷田亘

3

12/3(土)0:00pm 1/6(金)6:00pm

日本刀—宮入行平のわざ—(35分・35mm・カラー)
'75年度(岩波映画製作所)(監督)山内登貴夫

伊勢型紙(30分・35mm・カラー)
'76年度(桜映画社)(監督)村山英治

4

12/3(土)3:00pm 1/15(日)0:00pm

柿右衛門—にごして—(30分・35mm・カラー)
'77年度(記録映画社)(監督)山添哲

彫漆—音丸耕堂のわざ—(30分・35mm・カラー)
'78年度(英映画社)(監督)山添哲

5

12/4(日)0:00pm 1/7(土)3:00pm

彫金—鹿島一谷のわざ—(31分・35mm・カラー)
'79年度(日経映画社)(監督)小谷田亘

越後上布(43分・35mm・カラー)
'80・'81年度(岩波映画製作所)(監督)時枝俊江

6

12/4(日)3:00pm 1/6(金)2:00pm

髹漆—増村益城のわざ—(32分・35mm・カラー)
'82年度(日経映画社)(監督)小谷田亘

茶の湯釜—角谷一圭のわざ—(31分・35mm・カラー)
'83年度(記録映画社)(監督)倉本忍

7

12/9(金)2:00pm 12/25(日)3:00pm

型染め—江戸小紋と長板中形—(30分・35mm・カラー)
'84年度(英映画社)(監督)山添哲

時絵—大場松風の平文のわざ—(32分・35mm・カラー)
'85年度(日経映像)(監督)小谷田亘

8

12/9(金)6:00pm 1/14(土)0:00pm

時絵—寺井直次の卵殻のわざ—(30分・35mm・カラー)
'87年度(日経映像)(監督)山添哲

友禅—森口華弘のわざ—(30分・35mm・カラー)
'88年度(桜映画社)(監督)山添哲

9

12/10(土)0:00pm 1/8(日)3:00pm

木工芸—大野昭和齋の指物のわざ—(30分・35mm・カラー)
'89年度(毎日映画社)(監督)石井敏朗

久留米緋(30分・35mm・カラー)
'90年度(記録映画社)(監督)山添哲

10

12/10(土)3:00pm 1/13(金)2:00pm

竹工芸—飯塚小珥齋のわざ—(30分・35mm・カラー)
'91年度(プロコムジャパン)(監督)山添哲

宮古上布(40分・35mm・カラー)
'92・'93年度(日経映像)(監督)黒崎洋一

11

12/11(日)0:00pm 1/13(金)6:00pm

鑄金—齋藤明のわざ—(30分・35mm・カラー)
'94年度(記録映画社)(監督)山添哲

小鹿田焼(34分・35mm・カラー)
'95年度(桜映画社)(監督)村山正実

12

12/11(日)3:00pm 12/23(金・祝)0:00pm

木工芸—中臺瑞真の割物—(30分・35mm・カラー)
'95年度(毎日映画社)(監督)石井敏朗

鍛金—奥山峰石のわざ—(30分・35mm・カラー)
'96年度(岩波映画製作所)(監督)松川八洲雄

13

12/16(金)2:00pm 12/24(日)3:00pm

蒔簞—太田儂のわざ—(43分・35mm・カラー)
'96・'97年度(日経映像)(監督)黒崎洋一

民芸陶器(縄文象嵌)—島岡達三のわざ—(37分・35mm・カラー)
'98年度(桜映画社)(監督)村山正実

14

12/16(金)6:00pm 12/25(日)0:00pm

ら きたむらたけし
羅 - 北村武資のわざー(33分・35mm・カラー)
'99年度(日経映像)(監督)黒崎洋一

ゆんたん ぎ はなうい よ なみねだ
読谷山花織 - 與那嶺貞のわざー(30分・35mm・カラー)
2000年度(シネマ沖繩)(監督)野村岳也

15

12/17(土)3:00pm 1/8(日)0:00pm

せきしゅうばんし
石州半紙(35分・35mm・カラー)
2001年度(日経映像)(監督)黒崎洋一

はぎやき しゅういちだい み わきゆうせつ おにはぎ
萩焼 - 十一代三輪休雪の鬼萩(37分・35mm・カラー)
2002年度(桜映画社)(監督)村山正実

16

11/25(金)2:00pm 11/26(土)3:00pm

ら でん きたむらしやうさい
螺鈿 - 北村昭齋のわざー(35分・35mm・カラー)
2003年度(日経映像)(監督)黒崎洋一

ししゅう ふく ぎ じゅう
刺繍 - 福田喜重のわざー(34分・35mm・カラー)
2004年度(桜映画社)(監督)村山正実

17

11/25(金)6:00pm 11/27(日)0:00pm

どら きんたいしやうざいらく
銅鑼 - 三代魚住為楽のわざー(34分・35mm・カラー)
2005年度(日経映像)(監督)黒崎洋一

とう ぎ にんぎやう はやしごまお
桐壺人形 - 林駒夫のわざー(37分・35mm・カラー)
2006年度(桜映画社)(監督)村山正実

18

11/26(土)0:00pm 11/27(日)3:00pm

もくこうげい なかがわきよつぐ
木工芸 - 中川清司のわざー(33分・35mm・カラー)
2007年度(日経映像)(監督)有泉寧

はくじ いのうえまんじ
白磁 - 井上萬二のわざー(35分・35mm・カラー)
2008年度(桜映画社)(監督)村山正実

19

12/17(土)0:00pm 1/15(日)3:00pm

ちんぎん まえふみお
沈金 - 前史雄のわざー(37分・35mm・カラー)
2009年度(桜映画社)(監督)村山正実

ゆうり きんさい よしたみ のり
釉裏金彩 - 吉田美統のわざー(32分・35mm・カラー)
2010年度(山陽映画)(監督)日下部水棹

20

12/18(日)3:00pm 1/7(土)0:00pm

てつゆうとう き
鉄釉陶器 - 原清のわざー(39分・35mm・カラー)
2010年度(桜映画社)(監督)村山正実

ちゅうぎん おおぞわこうみん
鑄金 - 大澤光民のわざー(36分・35mm・カラー)
2010年度(グループ現代)(監督)小泉修吉

21

12/18(日)0:00pm 12/23(金・祝)3:00pm

ちようぎん かつらもりひと
彫金 - 桂盛仁のわざー(34分・35mm・カラー)
2010年度(日経映像)(監督)有泉寧

たんぎん たぐちとしちか
鍛金 - 田口壽恒のわざー(31分・35mm・カラー)
2010年度(日経映像)(監督)有泉寧

会 期
平成24年1月6日～平成24年2月5日 (27日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
22作品/21プログラム/54回上映
入場者数
9,942人(1回平均184人)
新聞・雑誌等における掲載記事
ビデオサロン 12月20日
映像新聞 1月2日 よみがえる日本映画 第3弾は新東宝を特集
読売新聞 1月10日夕刊 よみがえる日 本映画「新東宝編」
山梨放送YBSラジオ 1月27日
一個人ネット 憧れのハワイ航路など新 東宝の貴重な作品を上映!

328 よみがえる日本映画 vol.3【新東宝篇】 —映画保存のための特別事業費による

平成21年度補正予算から映画保存のための特別事業費を得て、フィルムセンターが取り組んできた原版素材の整備の成果をまとめて紹介するシリーズ企画で、第3回目となる今回は新東宝の作品を特集した。

特別事業では、これまでにフィルムセンターが収集した貴重な映画作品159作品の原版作成などを行う一方、ネガが失われ久しくスクリーンでの鑑賞が困難であった日本映画を中心に、巨匠、名匠による作品、各映画会社の歴史上特筆される作品など173作品を対象にネガとニュー・プリントの作成を行った。後者の中から新東宝の作品を取り上げた今回は、同時代の世相や風俗を取り入れながら歌謡映画や戦争もの、喜劇、アクションなど多彩なジャンルの作品を生み出した同社の22本(21プログラム)を上映した。

The Little Known Japanese Cinema vol.3—NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios

NFC acquired special working expenses for film preservation from the supplementary budget of the fiscal year 2009 and organized the large-scale project for securing original film materials. This event focused on Shin-toho films as the third installment of the series that presents the achievements of such preservation efforts. As part of the special project, NFC made the inter negatives of the 159 rare film titles in its collection. In addition, among the Japanese films which had long been unavailable for screening due to the loss of the negatives, NFC made dupe negatives and new prints for 173 film titles that are especially important for such reasons as the fame and the critical acclaim of the directors and the significance for the history of each film studio. This event featured the films in the latter category in relation to Shin-toho, and presented films of various genres such as kayo (popular song), war, comedy, and action. NFC selected 22 such films and screened them in 21 programs in such a manner as to portray the contemporary social conditions and customs.



1

1/6(金)3:00pm 1/21(土)1:00pm 1/31(火)7:00pm

流星(82分・35mm・白黒)

'49(新東宝)(監督)阿部豊

2

1/6(金)7:00pm 1/22(日)4:00pm

湯の町悲歌^{エレジー}(60分・35mm・白黒)

'49(新東宝)(監督)野村浩将

恐怖のカービン銃(45分・35mm・白黒)

'54(新東宝)(監督)田口哲、浅野辰雄

3

1/7(土)1:00pm 2/1(水)7:00pm

帰国 ダモイ(90分・35mm・白黒)

'49(新東宝)(監督)佐藤武

4

1/7(土)4:00pm 1/18(水)7:00pm 2/2(木)3:00pm

憧れのハワイ航路(78分・35mm・白黒)

'50(新東宝)(監督)斎藤寅次郎

5

1/8(日)1:00pm 1/25(水)7:00pm 2/2(木)7:00pm

夜の緋牡丹(105分・35mm・白黒)

'50(製作=銀座ぷろだくしょん)(監督)千葉泰樹

6

1/8(日)4:00pm 1/19(木)7:00pm 1/27(金)3:00pm

桃の花の咲く下で(73分・35mm・白黒)

'51(新東宝)(監督)清水宏

7

1/10(火)3:00pm 1/22(日)1:00pm 2/3(金)7:00pm

惜春(97分・35mm・白黒)

'52(新東宝)(監督)木村恵吾

8

1/10(火)7:00pm 1/21(土)4:00pm 2/1(水)3:00pm

ハワイの夜(84分・35mm・白黒)

'53(新東宝=新生プロ)(監督)マキノ雅弘、松林宗恵

9

1/11(水)3:00pm 1/28(土)1:00pm

アジャパー天國(84分・35mm・白黒)

'53(新東宝)(監督)斎藤寅次郎

10

1/11(水)7:00pm 1/29(日)4:00pm 1/31(火)3:00pm

もぐら横丁(93分・35mm・白黒)

'53(新東宝)(監督)清水宏

11

1/12(木)3:00pm 1/20(金)7:00pm 1/29(日)1:00pm

戦艦大和(101分・35mm・白黒)

'53(新東宝)(監督)阿部豊

12

1/12(木)7:00pm 1/28(土)4:00pm 2/3(金)3:00pm

日本敗れず(102分・35mm・白黒)

'54(新東宝)(監督)阿部豊

13

1/13(金)3:00pm 1/19(木)3:00pm 2/4(土)1:00pm

忍術児雷也(80分・35mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)萩原遼、加藤泰

14

1/13(金)7:00pm 1/26(木)3:00pm 2/5(日)4:00pm

逆襲大蛇丸(70分・35mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)加藤泰

15

1/14(土)1:00pm 1/24(火)3:00pm

番場の忠太郎(86分・35mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)中川信夫

16

1/14(土)4:00pm 1/26(木)7:00pm

母の曲(98分・35mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)小石榮一

17

1/15(日)1:00pm 1/25(水)3:00pm

アツカマ氏とオヤカマ氏(85分・35mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)千葉泰樹

18

1/15(日)4:00pm 1/20(金)3:00pm 1/24(火)7:00pm

風流交番日記(91分・35mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)松林宗恵

19

1/17(火)3:00pm 2/5(日)1:00pm

リングの王者 栄光の世界(75分・35mm・白黒)

'57(新東宝)(監督)石井輝男

20

1/17(火)7:00pm 2/4(土)4:00pm

女の防波堤(87分・35mm・白黒)

'58(新東宝)(監督)小森白

1/18(水)3:00pm 1/27(金)7:00pm

黒線地帯(80分・35mm・白黒)
'60(新東宝)(監督)石井輝男

会 期
平成24年2月7日～平成24年3月31日 (47日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
60作品／47プログラム／94回上映
入場者数
12,313人(1回平均131人)
新聞・雑誌等における掲載記事
カンフェッティ 1月2日
東京新聞 1月10日 夕刊
ビデオサロン 1月20日 日本未配給の 貴重なフランス映画を挙紹介
東京新聞web 1月27日 交差点欄
映像新聞 1月30日 現代仏映画の魅力 堪能 長短編60本を上映
bon voyage 1-3月号 現代フランス映画 の肖像2
しんぶん赤旗 2月2日 特集上映「現代 フランス映画の肖像2」
東京新聞 2月2日 ゆめぼっけ
フランスネット 2月11日 映画ニュー スコーナー
朝日新聞 2月23日 貴重な日本未配給 のフランス映画60作品を紹介します。
ふらんす 2月号 上映企画「現代フラン ス映画の肖像2」
東京メトロ 沿線だより 2月号 上映会 情報
VOGUE.COM 3月1日
読売新聞 3月8日 シティライフ
エフエム小金井 3月17日

329 現代フランス映画の肖像2 —ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより

フランス映画の国外普及を促進する機関ユニフランス主催の「フランス映画祭」で上映され、その後同機関からフィルムセンターに寄贈された日本未配給作品を紹介する特集である。第2回目となる今回は1993～2005年に製作された60作品(短篇13本、長篇47本)を47プログラムにまとめて紹介した。

Une petite découverte du cinéma français d'aujourd'hui 2 dans la donation de l'Unifrance

This series showcases the films that were screened at the Festival du Film Francais au Japon, but were not given theatrical releases in Japan, and were later donated to NFC by its organizing institution, Unifrance. In this second installment, the total of 60 films (13 shorts and 47 features) that were made between 1993 and 2005 were shown in 47 programs.



1

2/7(火)7:00pm 3/4(日)1:00pm

我が名はヴィクトール(102分・35mm・カラー)
JE M'APPELLE VICTOR
'93(監督)ギィ・ジャック

2

2/7(火)3:00pm 3/10(土)3:30pm

ルイ、少年王(162分・35mm・カラー) LOUIS, ENFANT ROI
'93(監督)ロジェ・プランション

3

2/8(水)3:00pm 3/6(火)7:00pm

ブルー・ヘルメット(102分・35mm・カラー) CASQUE BLEU
'93(監督)ジェラルール・ジュニョー

4

2/8(水)7:00pm 3/10(土)1:00pm

サンマルタン運河(21分・35mm・カラー)
IL SUFFIRAIT D'UN PONT
'97(監督)ソルヴェイグ・ドマルタン

ジュリエットの年(86分・35mm・カラー) L'ANNÉE JULIETTE
'94(監督)フィリップ・ル・ゲイ

5

2/9(木)3:00pm 3/11(日)4:00pm

コナン大尉(132分・35mm・カラー) CAPITAINE CONAN
'96(監督)ベルトラン・タヴェルニエ

6

2/9(木)7:00pm 3/6(火)3:00pm

最高のお仕事!(105分・35mm・カラー)
LE PLUS BEAU MÉTIER DU MONDE
'96(監督)ジェラルール・ロジエ

7

2/10(金)3:00pm 3/17(土)4:00pm

ねじれた愛(100分・35mm・カラー)
L'HOMME EST UNE FEMME COMME LES AUTRES
'98(監督)ジャン＝ジャック・ジルベルマン

8

2/10(金)7:00pm 3/11(日)1:00pm

死人に耳あり(17分・35mm・カラー)
LES MORTS ONT DES OREILLES
'93(監督)ピエール＝フランソワ・ルブラン

ルール違反(95分・35mm・カラー) HORS JEU
'98(監督)カリム・ドリディ

9

2/14(火)3:00pm 3/7(水)7:00pm

カジモド(101分・35mm・カラー) QUASIMODO D'EL PARIS
'98(監督)パトリック・ティムシット

10

2/14(火)6:30pm 3/8(木)3:00pm

幸せな日々(146分・35mm・カラー)
NOS VIES HEUREUSES
'98(監督)ジャック・マイヨ

11

2/11(土・祝)1:00pm 3/8(木)7:00pm

愛しのシビル(111分・35mm・カラー) PETITE CHÉRIE
'98(監督)アンヌ・ヴィランセック

12

2/11(土・祝)4:00pm 3/7(水)3:00pm

ギャルソンヌ(106分・35mm・カラー) LE DERRIÈRE
'99(監督)ヴァレリー・ルメルシエ

13

2/12(日)1:00pm 3/9(金)7:00pm

スカッシュ(29分・35mm・カラー) SQUASH
2002(監督)リオネル・バイユー

父の跡をたどって(88分・35mm・カラー)
JE RÈGLE MON PAS SUR LE PAS DE MON PÈRE
'99(監督)レミ・ウォーターハウス

14

2/12(日)4:00pm 3/13(火)3:00pm

とびだした女(118分・35mm・カラー)
UNE FEMME D'EXTÉRIEUR
'99(監督)クリストフ・ブラン

15

2/15(水)3:00pm 3/13(火)7:00pm

カウントダウン(11分・35mm・カラー) LA VIE À REBOURS
'94(監督)ガエル・モレル

ふたりの教師(95分・35mm・カラー) LE PROF
2000(監督)アレクサンドル・ジャルダン

16

2/15(水)7:00pm 3/9(金)3:00pm

何も言わずに(10分・35mm・カラー) RIEN DIRE
'99(監督)ヴァンサン・ペレーズ

カオスの中で(96分・35mm・カラー)
LA CONFUSION DES GENRES
2000(監督)イラン・デュラン・コーエン

17

2/16(木)3:00pm 3/14(水)7:00pm

天国で殺しましょう(96分・35mm・カラー)

UN CRIME AU PARADIS

2000(監督)ジャン・ベッケル

18

2/16(木)7:00pm 3/18(日)1:00pm

ナイトシフト(97分・35mm・カラー) TROIS HUIT

2001(監督)フィリップ・ル・ゲイ

19

2/17(金)3:00pm 3/18(日)4:00pm

フリーキー・ラブ!(98分・35mm・カラー)

CARRÉMENT À L'OUEST

2001(監督)ジャック・ドワイヨン

20

2/17(金)7:00pm 3/17(土)1:00pm

栄光のあまりに狭き門(98分・35mm・カラー)

LES PORTES DE LA GLOIRE

2001(監督)クリスチャン・メレ=パルメール

21

2/18(土)1:00pm 3/15(木)7:00pm

父一息子(13分・35mm・カラー) TRAIT D'UNION

2000年(監督)ブリュノ・ガルシア

赤ちゃんに乾杯!—18年後(90分・35mm・カラー)

18 ANS APRES

2001(監督)コリーヌ・セロー

22

2/18(土)4:00pm 3/14(水)3:00pm

ぼくのパパは、きみのパパ(119分・35mm・カラー)

LES FEMMES... OU LES ENFANTS D'ABORD...

2002(監督)マニュエル・ポワリエ

23

2/21(火)3:00pm 3/16(金)7:00pm

ミドルエイジ協奏曲(106分・35mm・カラー)

LE COEUR DES HOMMES

2002(監督)マルク・エスポジト

24

2/19(日)4:00pm 3/15(木)3:00pm

男と女 アナザー・ストーリー(133分・35mm・カラー)

AND NOW... LADIES AND GENTLEMEN

2002(監督)クロード・ルルーシュ

25

2/19(日)1:00pm 3/16(金)3:00pm

見えない嘘(129分・35mm・カラー) L'ADVERSAIRE

2002(監督)ニコール・ガルシア

26

2/21(火)7:00pm 3/24(土)1:00pm

クロエの棲む夢(106分・35mm・カラー) LES DIABLES

2002(監督)クリストフ・リュジア

27

2/22(水)3:00pm 3/20(火・祝)4:00pm

僕のアイドル(112分・35mm・カラー) MON IDOLE

2002(監督)ギョーム・カネ

28

2/22(水)7:00pm 3/24(土)4:00pm

シュシュ、バリデビュー(105分・35mm・カラー) CHOUCHOU

2002(監督)メルザック・アルアーシュ

29

2/23(木)3:00pm 3/21(水)7:00pm

あなたを待つ人生(107分・35mm・カラー)

UNE VIE À T'ATTENDRE

2003(監督)ティエリー・クリファ

30

2/23(木)7:00pm 3/23(金)3:00pm

夢の中に君がいる(108分・35mm・カラー)

LAISSE TES MAINS SUR MES HANCHES

2003(監督)シャンタル・ロビー

31

2/24(金)3:00pm 3/25(日)1:00pm

優しい心(11分・35mm・カラー)

LE COEUR SUR LA MAIN

2002(監督)マリ=アンヌ・シャゼル

加速する肉体(96分・35mm・カラー)

LES CORPS IMPATIENS

2003(監督)ガザヴィエ・ジャノリ

32

2/24(金)7:00pm 3/20(火・祝)1:00pm

お先にどうぞ(110分・35mm・カラー) APRÈS VOUS...

2003(監督)ピエール・サルヴァドーリ

33

2/25(土)1:00pm 3/22(木)7:00pm

ワーク・ハード、プレイ・ハード(99分・35mm・カラー)

VIOLENCE DES ÉCHANGES EN MILIEU TEMPÉRÉ

2003(監督)ジャン=マルク・ムトゥ

34

2/28(火)3:00pm 3/23(金)7:00pm

マリアージュ！(101分・35mm・カラー) MARIAGES!
2004(監督)ヴァレリー・ギニャボデ

35

2/25(土)4:00pm 3/21(水)3:00pm

屈辱的な条件(21分・35mm・カラー)
LES FOURCHES CAUDINES
'99(監督)ミカエル・ドニオ

モン・アンジュ(92分・35mm・カラー) MON ANGE
2004(監督)セルジュ・フリードマン

36

2/26(日)4:00pm 3/22(木)3:00pm

ワーズ・イン・ブルー(114分・35mm・カラー)
LES MOTS BLEUS
2004(監督)アラン・コルノー

37

2/26(日)1:00pm 3/30(金)7:00pm

自由の女神(27分・35mm・白黒) LIBERTÉ CHÉRIE
'97(監督)ジャン＝リュック・ガジェ

マリスコス・ビーチ(95分・35mm・カラー)
CRUSTACÉS ET COQUILLAGES
2004(監督)オリヴィエ・デュカステル、ジャック・マルティノー

38

2/28(火)7:00pm 3/31(土)1:00pm

りんごと無花果とアーモンド(35分・35mm・カラー)
LA POMME, LA FIGUE ET L'AMANDE
'99(監督)ジョエル・プリス

ハウス・ウォーミング！(91分・35mm・カラー) TRAVAUX
2004(監督)ブリジット・ルーアン

39

2/29(水)3:00pm 3/29(木)7:00pm

何事も誓うなかれ(100分・35mm・カラー)
IL NE FAUT JURER... DE RIEN!
2004(監督)エリック・シヴァニャン

40

2/29(水)7:00pm 3/27(火)3:00pm

優しい女(102分・35mm・カラー) GENTILLE
2004(監督)ソフィー・フィリエール

41

3/1(木)3:00pm 3/25(日)4:00pm

レミング(130分・35mm・カラー) LEMMING
2005(監督)ドミニク・モル

42

3/1(木)7:00pm 3/31(日)4:00pm

描くべきか、愛を交わすべきか(98分・35mm・カラー)
PEINDRE OU FAIRE L'AMOUR
2005(監督)アルノー・ラリュウ、ジャン＝マリ・ラリュウ

43

3/3(土)1:00pm 3/28(水)7:00pm

ラブ・イズ・イン・ジ・エア(105分・35mm・カラー)
MA VIE EN L'AIR
2005(監督)レミ・ブザンソン

44

3/3(土)4:00pm 3/29(木)3:00pm

マーズ(9分・35mm・カラー) MAAZ
'98(監督)クリスチャン・フォルクマン

フランキー(92分・35mm・カラー) FRANKIE
2005(監督)ファビアンヌ・ベルトー

45

3/4(日)4:00pm 3/30(金)3:00pm

私の名前はヘル(102分・35mm・カラー) HELL
2005(監督)ブリュノ・シッシュ

46

3/2(金)3:00pm 3/27(火)7:00pm

誕生(23分・35mm・カラー) J'AI ÉCHOUÉ
'95(監督)フィリップ・ドンゼロ

一夜のうちに(94分・35mm・カラー)
DU JOUR AU LENDEMAIN
2005(監督)フィリップ・ル・ゲイ

47

3/2(金)7:00pm 3/28(水)3:00pm

イマーゴ(12分・35mm・カラー) IMAGO...
2005(監督)セドリック・バブーシュ

エギュイユ・ルージュ(93分・35mm・カラー)
LES AIGUILLES ROUGES
2005(監督)ジャン＝フランソワ・ダヴィ

1-3 展覧会 Exhibitions

1-3-1 展覧会一覧(新ビル開館より平成22年度まで)
Exhibitions from the Opening of NFC's New Building in Fiscal 1995 until 2010

	回数	展覧会名
平成7年度[1995]	1	映画生誕百周年記念 ポスターでみる日本映画史 みそのコレクションより Japanese Film History in Posters: From the Collection of Kyohei Misono
平成8年度[1996]	2	写真で見る「ジャン・ルノワール, 映画のすべて。」 UCLAジャン・ルノワール・コレクションより Le Grand Théâtre de Jean Renoir: A Photo Exhibition from UCLA Library Special Collections Jean Renoir Papers
平成9年度[1997]	3	ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」 Soviet Film Posters in Late Silent Era
平成10年度[1998]	4	ポスターでみる日本映画史PART II みそのコレクションより Japanese Film History in Posters, Part II: From the Collection of Kyohei Misono
平成11年度[1999]	5	フリッツ・ラング：映像とそのイメージの原型 Fritz Lang: Filmbilder Vorbilder
平成12年度[2000]	6	ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」PART II Soviet Film Posters in the Late Silent Era, Part II
平成13年度[2001]	7	「イタリア映画大回顧」ポスター展 Italian Film Posters in Japan: From the National Film Center Collection
	8	資料でみる日本映画史 みそのコレクションより Japanese Film History in Documents: From the Collection of Kyohei Misono
平成14年度[2002]	9	展覧会 映画遺産 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより The Japanese Film Heritage: From the Non-Film Collection of the National Film Center
平成15年度[2003]	10	映画資料でみる蒲田時代の小津安二郎と清水宏 Days of Youth: Ozu and Shimizu at the Shochiku Kamata Studio
平成16年度[2004]	11	造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界 Artworks from the Animation Films of Tadanari Okamoto
	12	映画女優 高峰秀子展 Hideko Takamine, Film Actress

平成17年度 [2005]

- 13 尾上松之助と時代劇スターの系譜
Matsunosuke Onoe and the Culture of Period Films
- 14 ポーランドの映画ポスター 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより
Polish Posters for Films: From the Collection of National Film Center
- 15 松竹創業110周年記念 松竹と映画
Shochiku Company at 110: Shochiku in the History of Japanese Cinema
『浮雲』再現セット
Recreated Set of *Ukigumo*

平成18年度 [2006]

- 16 生誕100周年記念 美術監督 水谷浩の仕事
Pioneering Art Director: Hiroshi Mizutani at his Centenary
- 17 生誕110周年記念 衣笠貞之助の世界
Teinosuke Kinugasa: From Female Impersonator to Master Filmmaker

平成19年度 [2007]

- 18 スチル写真でみる日本の映画女優
Japanese Film Actresses: from the NFC Still Photo Collection
- 19 没後30年記念 チャップリンの日本
チャップリン秘書・高野虎市遺品展
Chaplin Meets Japan: from the Collection of Toraichi Kono, Charles Chaplin's Secretary
- 20 マキノ映画の軌跡
The Makino Picture Story

平成20年度 [2008]

- 21 映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1
Japanese Literature in Film Part 1—From the NFC Non-film Collection
- 22 生誕100年 川喜多かしこ展
Madame Kawakita, Her Life and Films
- 23 無声時代ソビエト映画ポスター展 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《袋一平コレクション》より
Soviet Film Posters in the Silent Era

平成21年度 [2009]

- 24 映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2
Japanese Literature in Film Part 2—From the NFC Non-film Collection
- 25 ドキュメンタリー作家 土本典昭
Noriaki Tsuchimoto: The Life of a Documentary Filmmaker
- 26 生誕百年 映画女優 田中絹代
Film Actress Kinuyo Tanaka at her Centenary
- 27 戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より
Postwar French Cinema in Posters

平成22年度 [2010]

- 28 映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 3
Japanese Literature in Film Part 3—From the NFC Non-film Collection
- 29 アニメーションの先駆者 大藤信郎
Noburo Ofuji, Pioneer of Japanese Animation

30 生誕百年 映画監督 黒澤明
Akira Kurosawa at his Centenary

*NFCコレクションでみる 日本映画の歴史
Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFC Non-film Collection

31 フィルムセンター設立40周年企画 展示室リニューアル記念 NFC映画
展覧会の15年 1995-2010
15 Years of NFC's Exhibitions: 1995-2010

32 映画パンフレットの世界

映画館で販売され、日本の映画ファンにもっとも親しまれてきた映画資料である「映画パンフレット」に着目し、その前史である「映画館プログラム」も含めて、約100年にわたる歴史をたどる企画である。場面写真やストーリー、作品情報はもちろん、批評や製作のうら話まで掲載されたこの冊子は、数多くの評論家の活躍の場として日本人の豊かな映画知識の源泉になったほか、「持ち帰ることのできる映画」として愛好者によるコレクションの対象にもなってきた。この展覧会は、日本独自に発達したこの映画パンフレット文化を、大正期に始まった無料のプログラム(週報)から、ロードショー上映の普及した戦後に有料の冊子となり、洋画輸入の黄金期を経て、ミニシアター時代にも機敏に対応してきた変遷のなかで捉え、日本の映画観客のたどった歴史を照らし出すものである。

またこの展覧会は、フィルムセンターが約6,700種におよぶ映画パンフレットの整理を終え、図書室で公開する運びとなったことと軌を一にして実施され、映画資料アーカイビングの最新成果を公にする機会にもなっている。

Souvenir Movie Programs of Japan

This exhibition focuses on “souvenir movie programs” that are sold at cinemas and can be called the film reference materials that have been most familiar to Japanese film viewers. Including the precursors, that is, “movie theater programs,” the exhibition surveys their history that spans over 100 years. In addition to the data of the films, these booklets contain criticisms and production notes. As such, they have functioned as the venues for a number of critics which in turn serves as the source of rich knowledge on cinema for many Japanese people. They have also been treated as the “films that can be brought back home,” the collectible objects coveted by many fans. This exhibition showcases the history of the unique culture of souvenir movie programs which developed in a unique way in Japan. The changes of this culture is also surveyed. For example, there were free programs (weekly news) from the Taisho era (1912-1926), but in the post-war period, when a road show format became widespread, the industry started to produce the booklets to be purchased, they stayed that way through the golden age of foreign films. They were quick to cope with the trend of “art house theaters”.

This exhibition also functioned as the opportunity to present the latest archival achievements of non-film reference materials since it was held at the time when NFC completed the process of sorting out approximately 6,700 film programs and made them available for the public at its library.



会 期
平成23年5月27日～平成23年9月4日 (87日間)
会 場
展示室
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数
195点
入場者数
5,670人(1日平均65人)
新聞・雑誌等における掲載記事
公明新聞 5月13日 映画パンフレットの 世界
let's enjoy tokyo 5月13日
art_icle 5月25日
ぶらり美術館 5月下旬
月刊ギャラリー 5・6月号
宣伝会議 6月1日 「映画パンフレット の世界」開催
読売新聞 都内版 6月3日
信越放送レールに乗って 6月4日
G L I T T E R 6月7日
朝日新聞 6月8日夕刊 美・博ピック アップ：ミュージアム欄
J-CASTモノウォッチ 6月15日
毎日新聞 6月15日夕刊 憂楽帳 「映画 パンフ」
毎日サライ 7月14日
エフエム小金井「多摩ふれあい交差点」 7月16日
産経新聞 7月17日 映画パンフの歴史 をたどる
銀座新聞ニュース 7月19日
スクリーン 7月号 映画パンフレット の世界
spring 7月号 映画パンフレットという 文化に触れてみませんか？
JAGATプリバリ印 7月号 紙上に記さ れた銀幕の夢
松戸市立博物館友の会会報57号 7月号 近隣館の催し物
イベントレポート 8月3日
ベネッセ「にほん日和」 8月10日 おで かけカレンダーにて 名作映画のパンフ を一挙公開！
まंगाの達人 8月下旬号
クロスビート 9月号 日本独自の発展 を遂げた映画パンフレットの歴史を俯瞰

会 期
平成23年9月13日～平成23年12月25日 (82日間)
会 場
展示室
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数
165点
入場者数
4,412人(1日平均54人)
新聞・雑誌等における掲載記事
ビデオサロン 8月20日 清楚な魅力で 人気を博した女優・香川京子の展覧会 The Japan Times 9月2日 Kyoko Kagawa retrospective looks back at Japan's golden age of cinema 東京新聞 9月9日 映画女優 香川京子 銀座新聞ニュース 9月12日 装苑オンライン 9月13日 祝！ FIAF賞！可憐な大女優、「映画女優 香川京子」展 公明新聞 9月14日 映画女優 香川京子 映像新聞 9月19日 女優・香川京子 展示や上映で紹介 NFC 赤旗 日曜版 10月16日 女優人生つくつ た巨匠との出会い 和の生活マガジン花saku 10月20日 「Wa風生活」内「きものでおでかけ」情報 毎日新聞 10月25日 ひと 「国際フィ ルム・アーカイブ連盟賞を受賞」 江戸楽 10月号 映画女優 香川京子 毎日が発見 10月号 映画女優・香川京 子の魅力感じる展覧会 月刊展覧会ガイド 東京メトロ 沿線だより 12月号 定年時代 12月上旬号 上映会「映画女 優 香川京子」

33 映画女優 香川京子

「映画女優 香川京子」は、1949年の映画界入り以来、清潔な魅力と飾らない演技でアイドル的な人気を獲得し、その後数々の名演で日本映画の戦後黄金期を華やかに飾った女優・香川京子に焦点を当て、その業績を顕彰する展覧会である。

成瀬巳喜男監督の『おかあさん』（1952）や今井正監督の『ひめゆりの塔』（1953）でのみずみずしい演技が認められた香川氏は、ついで小津安二郎・溝口健二・黒澤明・清水宏・内田吐夢といった巨匠たちに次々と起用され、『東京物語』（1953）や『近松物語』（1954）、『どん底』（1957）といった世界映画史に残る傑作での名演は多くの映画ファンにとって忘れがたいものとなっている。また、いまでも現役として映画やテレビドラマへの出演を続ける香川氏は、一方でフィルムセンターの推進する映画保存活動にも多大な尽力をし、その功績は、この平成23年、日本人では初となる国際フィルム・アーカイブ連盟の「FIAF賞」受賞へと結びついた。この展覧会では、その60年にわたる輝かしいキャリアを、近年フィルムセンターが香川氏本人より寄贈を受けた写真アルバムや初々しいポートレート、出演作に関わった錚々たる映画人の旧蔵資料などを交えてたどるものである。

また、この展覧会と並行して、関連企画として大ホールで上映企画「映画女優 香川京子」を開催し、代表作のほか、上映機会の少ない初期作品や娯楽作品なども上映した。

Kagawa Kyoko, Film Actress

Kagawa Kyoko entered the film industry in 1949 and soon gained idle-like popularity with her pure charm and unpretentious acting. Her many superb performances made important and splendid contributions to the golden age of Japanese cinema in the post-war period. This exhibition, “Kagawa Kyoko, Film Actress,” focuses on her career so as to pay respect to her achievements.

Kagawa was initially acknowledged for her fresh performances in such film as *Okasan* (dir. Naruse Mikio, 1952) and *Himeyuri no to* (dir. Imai Tadashi, 1953). She went on to work with master directors such as Ozu Yasujiro, Mizoguchi Kenji, Kurosawa Akira, Shimizu Hiroshi and Uchida Tomu. Her strong performances in such masterpieces as *Tokyo monogatari* (1953) and *Chikamatsu monogatari* (1954) and *Donzoko* (1957) that are well remembered in the history of world cinema has proven unforgettable for many film fans. Kagawa still works as actor in films and television dramas. In addition to her acting career, she has made a tremendous contribution to NFC's film archival activities, which led her to receive, as the first Japanese to do so, the “FIAF Award” in 2011 from the International Federation of Film Archives. This exhibition surveys Kagawa's brilliant career that spans over 60 years through photo albums and early portraits that were donated to NFC by Kagawa as well as the reference materials that used to belong to the stellar filmmakers with whom Kagawa worked.



会 期
平成24年1月7日～平成24年3月31日 (73日間)
会 場
展示室
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数
106点
入場者数
6,190人(1日平均85人)
新聞・雑誌等における掲載記事
ビデオサロン 12月18日 ナイルスウェブ 12月22日 smart 12月22日 東京新聞 12月23日 交差点欄 しんぶん赤旗 12月28日 サンデー毎日 1月4日 毎日新聞 1月5日 The Japan Times 1月6日 The Art of Posters in Japan VOGUE.Com 1月11日 WEBサライ 1月11日 bead's up 1月12日 信濃毎日新聞 1月12日 J-WAVE「ランデヴー」 1月13日 読売新聞 1月13日 インターネットミュージアム 1月14日 エフエフ東放 レールに乗って 1月14日 日本映画専門チャンネルシネマホリック 1月15日-22日 サクセス15 1月15日 読売新聞 1月17日 シティライフ欄 聖教新聞 1月19日 mens FUDGE 1月24日 にっぽん放送「ザ・ボイス そこまで言うか！」 1月31日 月刊MdN3月号 2月6日 クロワッサンプレミアム 2月8日 Time out tokyo 2月10日 タイムアウトメモ Hayabusa.bz 2月10日 ブリバリ印 2月12日 TOKYO ART MONTH SPRING 2月15日-3月31日 Pen online 2月17日 日本の映画ポスター、逸品が大集合！ 産経エクスプレス 2月17日 映画に寄り添う愛情 独特のタッチ 週刊ポスト 2月20日 映画ポスターという芸術(カラー5ページ) 日本経済新聞 2月21日 文化往来 芸術新潮 2月25日 挿絵画家の映画宣伝術「日本の映画ポスター芸術」展より 産経新聞 2月26日 「日本の映画ポスター芸術」銀幕から飛び出した「アート」 朝日新聞 2月29日 アートで楽しむ映画ポスター展 週刊金曜日 3月9日

34 日本の映画ポスター芸術

「日本の映画ポスター芸術」は、映画作品の宣伝メディアとして作られてきた映画ポスターの中でも、自立した芸術作品としての価値を主張するポスター 106点を紹介する展覧会である。映画産業の近代化のなかで作品ごとのポスターが生まれた1930年代以降、モダニズム香る松竹蒲田映画で活躍した名デザイナー河野鷹思や、ヨーロッパ映画の芳醇なポスターで一時代を築いた野口久光のほか、戦後には挿絵画家岩田専太郎も日本映画ポスターに艶やかな女性美を刻むなど、映画の黄金期にはさまざまな才能が映画界と交差した。また日本アート・シアター・ギルド(ATG)の登場した1960年代には、映画芸術の革新の動きに並走するかのよう若手デザイナーが起用され、さらに映画・美術・文学・演劇などのジャンルが密接に絡まり合う中で粟津潔・横尾忠則・和田誠といった新世代のアーティストが登場し、旧来の映画ポスターのスタイルを変容させている。

所蔵品を中心に、さまざまな文化機関や個人収集家の出品協力を得て実現したこの展覧会は、映画とグラフィズムとの結節点を探るとともに、スクリーンの外側に花開いた映画芸術のもう一つの“顔”を提示するものである。

The Art of Film Posters in Japan

This exhibition showcases 106 posters which manifest superior values as independent art works despite the fact that they were made as the publicity materials for films. It was in the 1930s when posters for each film were started to be made in the context of modernization of the film industry, and a variety of talented artists contributed to the Golden Age of films through posters. For example, renowned designer Kono Takashi was active for modernistic Shochiku Kamata films and Noguchi Hisamitsu left his mark with rich illustrations for European films. In the post-war era, illustrator Iwata Sentaro drew glamorous feminine beauty on the posters for Japanese films. In the 1960s when Art Theatre Guild (ATG) appeared, young designers were employed as if the posters made progress together with the renovation of film art. As various artistic genres such as film, fine art, literature, and theater tightly intersected, the new generation of artists including Awazu Kiyoshi, Yokoo Tadanori and Wada Makoto appeared and changed the style of film posters.

Thanks to the cooperation from various cultural institutions and collectors, NFC was able to add important posters to its collection. The exhibition pursues the meeting point between film and graphics. It also aims to present another “face” of film art that blossomed outside of the screen.



会 期
平成23年10月1日～平成23年10月8日 (延べ上映日数2日間)
会 場
1会場 ジュゼッペ・ヴェルディ劇場
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 チネテカ・デル・フリウリ
作品数・上映回数
25作品／2プログラム／上映回数1回
入場者数
1,200人

1-4 共催事業 Co-organized Events

1-4-1 共催による館外上映会 Co-organized Out-of-premises Screening Programs

アニメの誕生—日本アニメーション映画の先駆者たち

初期日本アニメーション映画を回顧する番組の海外巡回上映は、平成19年度から20年度にかけてシネマテーク・ケベコワーズ(カナダ・モントリオール、FIAF加盟機関)と共同主催した「アニメの源へ—日本アニメーション映画(1924-1952)」を皮切りに、昨年度までに4会場で実施してきたが、平成23年度は30回目を迎えたチネテカ・デル・フリウリ(イタリア・ジェモナ・デル・フリウリ、FIAF加盟機関)主催の国際的な無声映画祭、ポルデノーネ無声映画祭において、「アニメの誕生—日本アニメーション映画の先駆者たち」という名称で共同主催した。初期日本アニメーション映画を代表する村田安司、大藤信郎及びアマチュア映画の世界においてアニメーションの製作を行った荻野茂二の3人の監督に焦点を当てたことにより、初期日本アニメーション映画の豊かな創造性とともに、個性に富む作家性を顕彰する番組となった。

The Birth of *Anime*: Pioneers of Japanese Animation

Starting with “To the Source of Anime: Japanese Animation (1924-1952)” that was co-organized with Cinematheque quebecoise (Montreal, Canada, FIAF member) in 2007 and 2008, NFC had already conducted a tour of the retrospective programs of early Japanese animation films at four international locations until the beginning of this fiscal year. This year, as the fifth event, NFC co-organized the program, “The Birth of *Anime*: Pioneers of Japanese Animation” with Cineteca del Friuli (Gemona del Friuli, Italy, FIAF member) at the 30th Pordenone Silent Film Festival. By focusing on three directors, that is, Murata Yasuji and Ofuji Noburo, the representative directors of early Japanese animation films, and Ogino Shigeji who made animation films within the amateur film world, this program pays respect to both the rich creativity of early Japanese animation films and strong authorship of the three directors.

会 期
平成23年8月24日、平成23年8月27日 (2日間)
会 場
1会場 サントリー・ホール小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 公益財団法人サントリー芸術財団
作品数・上映回数
1作品／1プログラム／上映回数2回
入場者数
582人

サマーフェスティバル2011 <MUSIC TODAY21> 映像と音楽(無声映画のための音楽)

本事業は、平成19年度にルーブル美術館が作曲を委託し、フィルムセンターと同美術館オーデトリウムとの共催により世界初演を行った作曲家・望月京氏による『瀧の白糸』(1933、溝口健二監督)のスコアを、サントリー芸術財団が毎年夏サントリー・ホールにおいて開催している「サマーフェスティバル」において、フィルムセンターとの共催により日本初演を行ったものである。無音を活かした楽曲により、溝口作品の持つ情緒や艶が巧みに引き立てられ、音楽関係者や現代音楽の愛好者など、通常の映画観客とは異なる客層に向け、無声映画や日本の古典映画に対する新鮮な関心を引き起こすことができた。

Summer Festival 2011 <Music Today 21> Film x Music: Chamber Music for Silent Film

In fiscal year 2007, Louvre Museum commissioned composer Mochizuki Misato to write a musical score for *Taki no Shiraito* (dir. Mizoguchi Kenji, 1933). NFC co-organized the world premiere performance of the score with the Auditorium of Louvre Museum. This year, NFC co-organized the Japan premiere of the score with Suntory Foundation for Arts as part of "Summer Festival" which Suntory Foundation for Arts hold every summer at Suntory Hall. Making good use of silence, the score skillfully enhanced nuanced emotions and sensuality of Mizoguchi's film. This special screening thus was able to appeal to new audience beyond film fans, that is, music specialists and music fans who otherwise might not necessarily be interested in silent cinema and Japanese classical films.

会 期
平成23年10月1日～平成24年1月20日 (38日間)
会 場
3会場 リンカーン・センター、 ナント三大陸映画祭、 シネマテーク・フランセーズ
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 フィルム・ソサエティ・オブ・リンカーン・ センター、ナント三大陸映画祭、 シネマテーク・フランセーズ
作品数・上映回数
21作品(延べ)／16プログラム(最大) ／上映回数2回
入場者数
4,869人

「日活100年」海外巡回上映会

日本最古の大手映画会社・日活が平成24年に創立100周年を迎えるにあたり、その長年にわたる業績を回顧するための海外巡回上映会を、各会場との共同主催、日活株式会社、国際交流基金の協力を得て開催した。作品選定は、各会場及びフィルムセンターとともにプリントの提供者となった各協力団体との間で、長期間にわたって検討がなされ、会場ごとに上映作品の違いはあるものの、最大で39作品による構成での回顧上映となった。フィルムセンターからは、戦前の代表作及び蔵原惟繕監督作品など戦後の作品を、主に英語字幕付プリントで提供した。昨年度デジタル復元を施した伊藤大輔監督『長恨』(1926)、『忠次旅日記』(1927)は海外初上映となり、平成23年度日活株式会社と共同でデジタル復元を行った川島雄三監督『幕末太陽傳』(1957)は、リンカーン・センター(ニューヨーク)での上映がワールド・プレミア上映となった。

International Tour of the Program '100 Years of Nikkatsu'

Commemorating the centenary of the foundation of Nikkatsu, the oldest major film company in Japan, NFC co-organized, with the international venues, the touring screening event in order to celebrate Nikkatsu's long-term achievements with the support by Nikkatsu Corporation and Japan Foundation. In order to select the films for this event, NFC spent a long time together with the international venues and various cooperating bodies that provided with the prints to curate the appropriate programs for the purpose. As a result, the programs with the maximum 39 films that vary from one venue from the other were organized. NFC provided the event with the representative pre-war films and some post-war films such as those directed by Kurahara Koreyoshi, mostly in the form of prints with English subtitles. As for *Chokon* (1926) and *Chuji tabinikki* (1927), directed by Ito Daisuke, the digitally restored prints were given the international premieres in this event. (The restoration was done in the previous year.) As for *Bakumatsu taiyoden* (dir. Kawashima Yuzo, 1957) which was digitally restored this fiscal year as the co-project with Nikkatsu Corporation, the world premiere screening was held at Lincoln Center (New York).

会 期
平成24年1月6日～平成24年3月18日 (延べ上映日数7日間)
会 場
3会場 広島市映像文化ライブラリー、 高知県立美術館、 山口情報芸術センター
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 一般社団法人コミュニティシネマセン ター
作品数・上映回数
3作品(全10作品) / 10プログラム / 上映回数1～3回
入場者数
860人

「喜劇映画の異端児—渋谷実監督特集」巡回事業

本事業は、小津安二郎、木下恵介と並び、松竹を代表する監督として活躍し、特に喜劇映画においてその特異な才能を発揮した渋谷実監督の代表作10作品を、全国の公共文化施設等に巡回するものである。フィルムセンターより提供する作品は、渋谷監督のデビュー作『奥様に知らずべからず』(1937)、吉村公三郎監督との競作となった『自由学校』(1951)、戦後の代表作の一つ『正義派』(1957)である。『自由学校』については、これまで原版が16mmマスター・ポジしか残されていなかったため、できる限り良質のプリントを提供することを目指し、35mmにブローアップし、デュープ・ネガ及びプリントの作成を行った。

National Tour of Shibuya Minoru Retrospective

This project is to tour 10 representative films by director Shibuya Minoru to various venues such as public cultural institutions around Japan. Shibuya was the director who was considered to be one of the representative filmmakers at Shochiku together with Ozu Yasujiro and Kinoshita Keisuke. Shibuya's unique talent was especially manifest in comedy films. NFC provided this event with the following prints: Shibuya's debut film *Okusama ni shirasu bekarazu* (1937), *Jiyu gakko* (1951), the film Shibuya made in a competition against Yoshimura Kozaburo, and one of Shibuya's representative post-war film *Seigiha* (1957). As for *Jiyu gakko*, the only surviving original material was 16mm master positive, so NFC blew it up to 35mm and made a duplicate negative and a print from the blown-up positive in order to provide this project with the best possible screening print.

会 期
平成24年1月21日～平成24年2月11日 (延べ上映日数5日間)
会 場
1会場 イエール大学ホイトニー・ヒュー マニティーズ・センター・オーディ トリウム
主 催
イエール大学東アジア研究センター、 東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
12作品／5プログラム／上映回数1回
入場者数
305人

刀と銀幕—日本の時代劇映画 1915～1960

本事業は、アメリカにおける日本研究に実績があるイエール大学東アジア研究センターとの共催により、日本映画史を専門とする共催者の担当教員とともに、フィルムセンター所蔵作品から日本映画における時代劇の系譜を辿るのに相応しい作品で、英語字幕付プリントの所蔵がある作品を選定し、研究者、学生及び映画愛好者向けの連続上映を行ったものである。上映当日には、フィルムセンター研究員とアメリカ人日本映画研究者による論考及び共催者の大学に所属する大学院生による作品解説を掲載した小冊子を配布した。また、最終日にはフィルムセンター研究員が参加するシンポジウムを開催し、日本映画史における時代劇の意義を論ずるとともに、映画の保存・復元からの視点を提供することができた。

The Sword and the Screen: The Japanese Period Film 1915-1960

Co-organized with the Council on East Asian Studies at Yale University, the leading institution in Japan studies in the U.S., this event surveys the genealogy of period films in Japan. Together with the instructor at Yale who specializes in the history of Japanese cinema, NFC curators selected appropriate films for which the prints with English subtitles exist in its collection. During the event, the screenings were held consecutively for the target audience consisting of researchers, students and film fans. A booklet containing essays by NFC curators and American scholars on Japanese films as well as commentaries on films by the graduate students at Yale was published. Its copies were distributed at the event. NFC curator participated in the symposium on the last day in which he discussed the significance of period films in the history of Japanese cinema and presented the perspective from the point of view of film preservation and restoration.

会 期
平成24年3月24日～平成24年3月25日 (延べ上映日数2日間)
会 場
1会場 国立国際美術館
主 催
国立国際美術館、東京国立近代美術館 フィルムセンター
作品数・上映回数
2作品／1プログラム／上映回数2回
入場者数
301人

第3回中之島映像劇場 全体芸術の試み

無声映画＋音楽演奏＋弁士の語り

—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による—

本事業は、従前より映像作品の紹介に務めてきた国立国際美術館が、美術と映像の歴史の変遷を探るため、平成22年度より新たに「中之島映像劇場」の名称で始めた定期上映会の第3回目である。今回は、無声映画の上映における音楽伴奏と活弁の意義を問い直す試みとして、国立国際美術館の森下明彦客員研究員にフィルムセンター研究員が協力する形で、日本映画(『御詠治郎吉格子』(1931))と外国映画(『朝から夜中まで』(1921))を組み合わせる番組編成を行った。両日とも、活動弁士の澤登翠氏と無声映画伴奏者の柳下美恵氏を招いて、上映会を開催した。

Nakanoshima Screen Vol.3: An Attempt at Total Art Co-organized with National Film Center

The National Museum of Art, Osaka, has a strong record in showing films. Last year, the Museum launched the series entitled “Nakanoshima Screen in order to investigate the historical transformation of fine art and moving images. This was the third installment of the series, and intended to re-examine the significance of music accompaniment and benshi (silent film narrator) at the screenings of silent films. NFC curators helped Morishita, Akihiko the visiting curator of the Museum, organize the programs consisting of a Japanese film (*Oatsurae jirokichi goshi*) and a foreign one (*Von morgens bis mitternachts*). On both days, the screenings were accompanied by benshi Sawato Midori and musician Yanashita Mie.

会 期
平成23年4月から12月まで隔月開催 (延べ上映日数10日間)
会 場
1会場 京都国立近代美術館
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター、 京都国立近代美術館
作品数・上映回数
58作品／5プログラム／上映回数1回
入場者数
595人

NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@home

本事業は、フィルムセンターと京都国立近代美術館が平成19年度に開始した共同主催による映画上映会であり、平成23年度で5年目を迎えた。平成21年度以降は年に5回程度を開催しながら(現在は各回2日程度)、多彩な国、ジャンルの作品を紹介するスタイルが定着しており、平成23年度は4月＝スイス映画、6月＝外国アニメ映画、8月＝実験映画、10月＝日本のドキュメンタリー、12月＝日本アニメーション映画の編成で、計58本(短篇を含む)のフィルムセンター所蔵作品が京都国立近代美術館の講堂で上映された。

MoMAK Films@home

This was the fifth year of the screening series that NFC co-organized with the National Museum of Modern Art, Kyoto, in 2007. Since 2009, approximately five screening events, usually two days per event, are held per year and films of various countries and genres are shown. This year's programs were as follows: Swiss films in April, foreign animation films in June, experimental films in August, Japanese documentary films in October, and Japanese animation films in December. The total of 58 films (including shorts) from NFC collection were screened at the auditorium of the Museum.

国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施した。

23回目となる平成23年度は、平成22年度同様、1プログラム4作品、全25プログラム、100作品という枠組は維持したまま、同じ監督の作品でも比較的新しい作品に差し替えることにより、番組に新鮮味を持たせることを心がけ、8作品を新たに加えることにした。

会 期	平成23年7月16日～平成24年3月11日(延べ上映日数362日)
会 場	188会場(千葉県、徳島県を除く全国45都道府県)
主 催 等	文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数	100作品25プログラム
入場者数	87,975人
入場料金	成人1人1回500円以内

As the co-organized project with the Agency for Cultural Affairs and in liaison and cooperation with various boards of education and public institutions, NFC circulated the screening event in many places around Japan so as to encourage Japanese people's interests in film culture and film art, and also to deepen their understanding of the importance of film preservation.

For this 23rd edition, while the framework of 100 films in 25 programs (four films per program) was maintained, eight films were added in exchange with the older films by the same director so as to give a fresh impression to the programs.

プログラム別作品一覧 平成23年度

Aプログラム

西鶴一代女	(1952年・溝口健二・137分)
雨月物語	(1953年・溝口健二・97分)
山椒大夫	(1954年・溝口健二・124分)
近松物語	(1954年・溝口健二・103分)

Gプログラム

貸間あり	(1959年・川島雄三・112分)
雁の寺	(1962年・川島雄三・98分)
独立愚連隊	(1959年・岡本喜八・108分)
肉弾	(1968年・岡本喜八・116分)

Bプログラム

麦秋	(1951年・小津安二郎・125分)
東京物語	(1953年・小津安二郎・136分)
彼岸花	(1958年・小津安二郎・118分)
秋刀魚の味	(1962年・小津安二郎・113分)

Hプログラム

秋津温泉	(1962年・吉田喜重・73分)
少年	(1969年・大島渚・97分)
復讐するは我にあり	(1979年・今村昌平・140分)
心中天網島	(1969年・篠田正浩・103分)

Cプログラム

めし	(1951年・成瀬巳喜男・97分)
おかあさん	(1952年・成瀬巳喜男・98分)
浮雲	(1955年・成瀬巳喜男・123分)
乱れ雲	(1967年・成瀬巳喜男・108分)

Iプログラム

遠雷	(1981年・根岸吉太郎・135分)
ロックよ、静かに流れよ	(1988年・長崎俊一・100分)
櫻の園	(1990年・中原俊・100分)
お引越し	(1993年・相米慎二・124分)

Dプログラム

青い山脈	(1949年・今井正・172分)
また逢う日まで	(1950年・今井正・109分)
真昼の暗黒	(1956年・今井正・124分)
純愛物語	(1957年・今井正・130分)

Jプログラム

浪華悲歌	(1936年・溝口健二・72分)
晩春	(1949年・小津安二郎・108分)
稲妻	(1952年・成瀬巳喜男・87分)
華岡青洲の妻	(1967年・増村保造・99分)

Eプログラム

酔いどれ天使	(1948年・黒澤明・98分)
羅生門	(1950年・黒澤明・88分)
生きる	(1952年・黒澤明・143分)
天国と地獄	(1963年・黒澤明・143分)

Kプログラム

夜の河	(1956年・吉村公三郎・104分)
雪国	(1957年・豊田四郎・133分)
五番町夕霧楼	(1963年・田坂具隆・137分)
五瓣の椿	(1964年・野村芳太郎・163分)

Fプログラム

野火	(1959年・市川崑・104分)
おとうと	(1960年・市川崑・98分)
東京オリンピック	(1965年・市川崑・169分)
細雪	(1983年・市川崑・140分)

Lプログラム

伊豆の踊子	(1974年・西河克己・82分)
野菊の墓	(1981年・澤井信一郎・91分)
時をかける少女	(1983年・大林宣彦・104分)
ぼくらの七日間戦争	(1988年・菅原比呂志・94分)

Mプログラム

- 暁の脱走 (1950年・谷口千吉・110分)
 隠し砦の三悪人 (1958年・黒澤明・138分)
 悪名 (1961年・田中徳三・94分)
 雪之丞変化 (1963年・市川崑・113分)

Nプログラム

- 弁天小僧 (1958年・伊藤大輔・86分)
 眠狂四郎殺法帖 (1963年・田中徳三・81分)
 反逆児 (1961年・伊藤大輔・110分)
 沓掛時次郎 遊侠一匹 (1966年・加藤泰・90分)

Oプログラム

- 不知火検校 (1960年・森一生・91分)
 次郎長三国志 (1963年・マキノ雅弘・102分)
 網走番外地 (1965年・石井輝男・91分)
 人生劇場 飛車角と吉良常 (1968年・内田吐夢・109分)

Pプログラム

- 戦争と平和 (1947年・山本薩夫、亀井文夫・110分)
 安城家の舞踏会 (1947年・吉村公三郎・90分)
 蜂の巣の子供たち (1948年・清水宏・84分)
 帰郷 (1950年・大庭秀雄・104分)

Qプログラム

- 煙突の見える場所 (1953年・五所平之助・108分)
 お早よう (1959年・小津安二郎・94分)
 裸の島 (1960年・新藤兼人・96分)
 名もなく貧しく美しく (1961年・松山善三・128分)

Rプログラム

- 大江戸五人男 (1951年・伊藤大輔・132分)
 銭形平次捕物控 人肌蜘蛛 (1956年・森一生・82分)
 旗本退屈男 (1958年・松田定次・108分)
 赤穂浪士 (1961年・松田定次・150分)

Sプログラム

- 本日休診 (1952年・渋谷実・97分)
 駅前旅館 (1958年・豊田四郎・109分)
 ニッポン無責任時代 (1962年・古澤憲吾・86分)
 喜劇・女は男のふるさとヨ (1971年・森崎東・90分)

Tプログラム

- おかしな奴 (1963年・沢島忠・110分)
 喜劇・大安旅行 (1968年・瀬川昌治・94分)
 吹けば飛ぶよな男だが (1968年・山田洋次・91分)
 あゝ軍歌 (1970年・前田陽一・88分)

Uプログラム

- エノケンの頑張り戦術 (1939年・中川信夫・74分)
 ジャンケン娘 (1955年・杉江敏男・92分)
 大学の若大将 (1961年・杉江敏男・82分)
 君も出世ができる (1964年・須川栄三・100分)

Vプログラム

- めぐりあい (1968年・恩地日出夫・91分)
 八月の濡れた砂 (1971年・藤田敏八・91分)
 約束 (1972年・斎藤耕一・88分)
 忍ぶ川 (1972年・熊井啓・120分)

Wプログラム

- 張込み (1958年・野村芳太郎・116分)
 黒い画集 あるサラリーマンの証言 (1960年・堀川弘通・95分)
 白い巨塔 (1966年・山本薩夫・150分)
 飢餓海峡 (1964年・内田吐夢・183分)

Xプログラム

- 風の中の子供 (1937年・清水宏・86分)
 あすなろ物語 (1955年・堀川弘通・108分)
 次郎物語 (1987年・森川時久・110分)
 風の又三郎 ガラスのマント (1989年・伊藤俊也・107分)

Yプログラム

- 西遊記 (1960年・藪下泰司、手塚治虫・88分)
太陽の王子 ホルスの大冒険 (1968年・高畑勲・82分)
長靴をはいた猫 (1969年・矢吹公郎・80分)
火垂るの墓 (1988年・高畑勲・89分)

平成23年度優秀映画鑑賞推進事業実施報告

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
■北海道							
1 千歳市民文化センター	平成23年8月6日(土)～8月7日(日)	O	2	2	290	3	93,474
2 札幌市生涯学習総合センター(ちえりあ)	平成23年10月27日(木)～10月28日(金)	C	2	8	1,135	35	209,224
3 たきかわホール	平成23年11月12日(土)～11月13日(日)	S	2	6	260	0	45,000
4 砂川市地域交流センター(ゆう)	平成23年10月1日(土)～10月2日(日)	X	2	4	113	0	19,251
5 厚岸情報館(本の杜)	平成23年10月20日(木)～10月23日(日)	P	4	6	27	0	11,000
6 深川文化交流センター(み・らい)★	平成23年1月13日(木)	U	1	6	170	0	23,000
■青森県							
7 青森市中世の館	平成23年8月20日(土)～8月21日(日)	L	2	4	143	13	311,000
8 八戸市南郷文化ホール(スウィングベリー NANGO)	平成23年11月22日(火)～11月23日(水)	R	2	4	424	9	24,000
■岩手県							
9 久慈市文化会館(アーバンホール)	平成24年2月26日(日)	E	1	4	291	0	38,168
■宮城県							
10 塩竈市民交流センター(遊ホール)	平成23年9月4日(日)	U	1	2	88	0	57,000
11 加美町中新田文化会館(中新田バッハホール)	平成23年8月28日(日)	V	1	4	393	0	26,530
■秋田県							
12 大仙市中仙市民会館(ドンパル)	平成24年1月28日(土)～1月29日(日)	U	2	4	370	5	90,762
13 大館市民文化会館	平成24年1月20日(金)～1月22日(日)	P	3	9	623	0	80,000
14 八郎潟町公民館	平成23年11月15日(火)	F	1	2	281	0	6,783
15 北秋田市文化会館(ファルコン)	平成23年8月28日(日)	E	1	3	270	0	37,159
16 横手市ふれあいセンターかまくら館(かまくら館)	平成24年1月8日(日)	B	1	4	292	0	100,000
■山形県							
17 山形市中央会館(アズ七日町)★	平成23年8月6日(土)	J	1	4	1,149	21	254,000
18 米沢市市民文化会館	平成23年9月10日(土)	T	1	1	125	7	89,000
19 長井市民文化会館	平成23年10月23日(日)	U	1	4	46	0	29,409
■福島県							
20 福島県文化センター	平成23年10月24日(月)～10月25日(火)	O	2	4	279	13	277,000
21 会津若松市文化センター	平成23年12月2日(金)	O	1	2	646	0	125,910
22 白河市文化センター	平成23年8月26日(金)	M	1	2	92	0	65,000
23 朝日座	平成23年9月10日(土)～9月11日(日)	N	2	6	126	0	70,000
■茨城県							
24 水戸芸術館(ACM劇場)	平成24年2月25日(土)～2月26日(日)	U	2	4	291	17	191,668
25 多賀市民会館(多賀市民プラザ)	平成24年1月28日(土)～1月29日(日)	M	2	4	439	0	191,668
26 土浦市民会館	平成23年11月26日(土)	S	1	3	864	13	144,082
27 東海文化センター	平成24年2月4日(土)～2月5日(日)	J	2	8	515	0	38,000
28 取手市民会館	平成24年3月3日(土)～3月4日(日)	D	2	4	1,338	0	
■栃木県							
29 鹿沼市民文化センター	平成24年1月15日(日)	E	1	4	1,258	0	102,296
30 塩谷町立塩谷中学校体育館	平成23年11月12日(土)	L	1	4	160	0	13,150
31 栃木市栃木文化会館	平成24年2月25日(土)～2月26日(日)	L	2	8	365	0	142,258
■群馬県							
32 桐生市市民文化会館(シルクホール)	平成23年10月15日(土)～10月16日(日)	S	2	4	1,430	0	130,000
33 太田市新田文化会館(エアリスホール)	平成23年9月16日(金)～9月17日(土)	L	2	4	294	19	219,859
34 甘楽町文化会館	平成23年12月3日(土)	I	1	4	272	0	14,500
35 片品村文化センター	平成23年10月13日(木)～10月14日(金)	D	2	2	43	0	5,000
■埼玉県							
36 桶川市民ホール(響の森)	平成23年10月1日(土)	U	1	2	756	2	75,947

	会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
37	彩の国さいたま芸術劇場(彩の国シネマスタジオ)	平成24年1月6日(金)～1月9日(月)	E	4	14	524	40	1,100,000
38	熊谷会館(彩の国シネマスタジオ)	平成23年12月20日(火)～12月21日(水)	B	2	6	429	16	200,000
39	SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ	平成23年9月16日(金)～9月19日(月)	F	4	8	449	9	500,000
40	蕨市民会館	平成24年2月26日(日)	J	1	3	1,685	0	72,497
41	川越スカラ座	平成23年10月8日(土)～10月12日(水)	E	5	10	770	10	340,000
42	深谷シネマ チネ・フェリーチェ	平成23年11月20日(日)～11月24日(木)	Q	5	20	324	1	147,600
43	所沢市民文化センター(ミュージズ)	平成24年2月11日(土)～2月12日(日)	S	2	4	920	3	340,000
■東京都								
44	小平市民文化会館大ホール(ルネこだいら)	平成24年2月21日(火)～2月22日(水)	F	2	4	2,488	0	179,687
45	多摩市立永山公民館(ベルブホール)	平成23年11月24日(木)～11月25日(金)	J	2	4	208	8	148,000
46	三鷹産業プラザ	平成23年9月25日(日)～9月26日(月)	W	2	4	373	0	180,000
47	江東区亀戸文化センター(カメラアホール)	平成23年8月6日(土)	T	1	2	431	20	470,000
48	タワーホール船堀(船堀シネバル)★	平成23年9月12日(月)～9月16日(金)	O	5	20	1,265	2	680,210
49	中央区立中央会館(銀座プロッサム)★	平成24年1月7日(土)～1月8日(日)	W	2	4	392	9	118,898
■神奈川県								
50	川崎市アートセンター(アルテリオ映像館)	平成23年12月3日(土)～12月7日(水)	E	5	20	891	42	1,406,836
51	大和市生涯学習センターホール	平成24年3月10日(土)～3月11日(日)	E	2	4	1,147	9	226,223
52	座間市立市民文化会館(ハーモニーホール座間)	平成23年9月28日(水)～9月29日(木)	O	2	4	251	0	129,561
53	厚木市文化会館	平成24年3月11日(日)	F	1	2	2,400	0	225,345
54	小田原コロナシネマワールド	平成23年9月30日(金)～10月1日(土)	B	2	4	191	19	200,000
■山梨県								
55	都の杜うぐいすホール(うぐいすホール)	平成24年2月17日(金)～2月19日(日)	H	3	6	163	0	34,000
56	富士川町ますほ文化ホール(旧：増穂町文化会館)	平成24年1月20日(金)～1月21日(土)	D	2	4	472	0	11,691
57	市川三郷町歌舞伎文化公園ふるさと会館(ふるさと会館)	平成23年8月20日(土)	U	1	2	346	0	17,933
■長野県								
58	松川村多目的交流センター(すずの音ホール)★	平成24年2月4日(土)	L	1	2	82	0	10,222
59	飯田市民会館	平成23年7月16日(土)	C	1	2	562	7	106,000
60	飯田市立鼎文化センター(鼎公民館)	平成24年8月28日(火)	K	1	2	600	7	107,000
61	池田町公民館(新池田学問所)	平成23年11月12日(土)	U	1	2	145	0	10,600
62	上田市文化会館	平成23年11月11日(金)～11月13日(日)	N	3	1	180	10	159,000
63	小布施町北斎ホール	平成23年11月26日(土)～11月27日(日)	V	2	2	200	0	11,479
64	駒ヶ根市文化会館(駒ヶ根総合文化センター内)	平成24年1月15日(日)	I	1	3	41	0	34,192
■新潟県								
65	胎内市産業文化会館	平成23年9月17日(土)～9月18日(日)	G	2	8	311	0	31,800
66	村上市民ふれあいセンター	平成23年12月3日(土)～12月4日(日)	C	2	7	511	0	67,738
67	南魚沼市民会館 多目的ホール	平成23年12月10日(土)～12月11日(日)	A	2	6	360	0	64,000
68	魚沼市小出郷文化会館	平成23年10月14日(金)～10月16日(日)	C	3	8	166	0	41,318
69	佐渡市両津文化会館	平成23年12月16日(金)～12月18日(日)	F	3	5	75	0	63,965
70	高島座	平成23年8月27日(土)～8月28日(日)	T	2	6	521	11	283,107
71	中之島文化センター	平成23年10月8日(土)～10月9日(日)	W	2	4	248	11	280,000
72	高田世界館★	平成23年10月20日(木)～10月23日(日)	Q	4	12	205	8	200,000
■富山県								
73	入善町民会館コスモホール	平成23年10月1日(土)	R	1	3	106	0	27,000
74	クロスランドおやべ	平成24年3月5日(月)～3月6日(火)	Q	2	4	372	0	32,000
75	黒部市国際文化センター(コラーレ)	平成23年10月1日(土)～10月2日(日)	E	2	4	192	0	42,700
■石川県								
76	サンビーム日和ヶ丘	平成23年8月18日(木)～8月21日(日)	O	4	4	156	0	58,806
77	こまつ芸術劇場うらら	平成23年10月13日(木)～10月14日(金)	B	2	4	158	0	108,510
■福井県								
78	バレア若狭音楽ホール	平成24年1月21日(土)～1月22日(日)	W	2	4	348	0	14,419

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
■岐阜県							
79 岐阜市文化センター	平成23年11月29日(火)～11月30日(水)	W	2	5	624	16	400,000
80 羽島市映画資料館	平成23年11月26日(土)～11月27日(日)	N	2	4	184	0	69,097
81 可児市文化創造センター(a l a)	平成24年2月17日(金)～2月20日(月)	R	4	8	375	0	105,000
82 瑞浪市総合文化センター	平成23年8月13日(土)	Y	1	4	148	0	41,000
■静岡県							
83 静岡市清水文化センター	平成24年2月17日(金)～2月20日(月)	C	3	12	512	27	725,344
84 掛川市生涯学習センター	平成24年1月23日(月)	J	1	4	1,010	0	115,436
85 掛川市文化会館(シオーネ)	平成24年1月14日(土)	D	1	4	700	0	115,436
86 焼津市大井川文化会館(ミュージコ)	平成23年11月15日(火)	A	1	4	309	0	143,000
87 藤枝市民会館	平成23年8月6日(土)	N	1	4	828	7	145,160
88 焼津文化会館(焼津市文化センター)	平成24年1月8日(日)	R	1	4	1,288	0	146,800
89 静岡県コンベンションアーツセンター(グランシップ)	平成23年10月15日(土)～10月16日(日)	L	2	4	674	27	213,330
■愛知県							
90 春日井市民会館	平成24年3月6日(火)～3月8日(木)	S	3	9	899	9	300,000
91 瀬戸蔵	平成23年10月22日(土)～10月23日(日)	R	2	4	385	0	133,000
92 尾張旭市文化会館	平成23年10月7日(金)～10月8日(土)	U	2	4	329	1	82,000
93 小牧市市民会館★	平成23年9月28日(水)～9月30日(金)	Q	3	9	1,075	10	153,578
94 犬山市民文化会館★	平成23年11月12日(土)～11月13日(日)	V	2	4	197	0	75,847
■三重県							
95 松阪コミュニティ文化センター	平成23年12月7日(水)～12月8日(木)	N	2	4	433	1	170,752
96 アドバンスコープADSホール(名張市青少年センター)	平成23年9月4日(日)	E	1	4	566	0	83,000
97 伊勢市生涯学習センター(いせトピア)	平成23年9月17日(土)～9月18日(日)	K	2	2	204	2	130,000
98 菰野町民センター	平成23年9月8日(木)～9月10日(土)	X	3	4	191	0	40,929
99 亀山市文化会館	平成23年9月4日(日)	B	1	3	241	0	50,000
100 三重県総合文化センター(そうぶん)	平成23年9月23日(金)～9月25日(日)	J	3	3	469	7	290,806
■滋賀県							
101 米原市民交流プラザ(ルッチプラザ)★	平成23年10月15日(土)	Y	1	3	384	0	42,000
102 甲賀市碧水ホール	平成23年10月1日(土)～10月2日(日)	C	2	6	294	5	94,700
103 日野町民会館わたむきホール虹	平成23年10月1日(土)	F	1	4	408	0	23,000
■京都府							
104 宇治市生涯学習センター	平成23年11月18日(金)～1月19日(土)	K	2	6	803	0	193,000
105 文化パルク城陽(あれば)	平成24年1月27日(金)～1月28日(土)	B	2	6	596	0	79,734
106 寒梅館ハーディーホール(同志社大学)	平成23年10月6日(木)	S	1	4	139	1	45,000
■大阪府							
107 大阪歴史博物館(なにわ歴博)	平成23年10月8日(土)～10月9日(日)	Q	2	4	712	15	78,400
108 堺市立西文化会館	平成23年12月9日(金)～12月10日(土)	W	2	2	202	33	44,000
109 守口文化センター(エナジーホール)	平成23年10月15日(土)	M	1	3	229	8	147,520
110 岸和田市立文化会館(マドカホール)	平成23年12月10日(土)～12月11日(日)	W	2	2	202	9	200,000
111 大東市立文化ホール(サーティーホール)	平成23年9月23日(金)	T	1	4	106	0	127,359
112 阪南市立文化センター(サラダホール)	平成23年10月15日(土)	E	1	3	484	0	58,000
113 大阪人権博物館(リパティおおさか)	平成24年1月28日(土)～1月29日(日)	N	2	4	28	15	60,400
■兵庫県							
114 兵庫県立美術館(芸術の館)	平成23年8月26日(金)～8月27日(土)	B	2	4	572	0	126,436
115 加東市滝野文化会館	平成23年11月5日(土)～11月6日(日)	D	2	4	205	0	40,000
116 市川町文化センター(ひまわりホール)★	平成23年7月23日(土)～7月24日(日)	W	2	4	297	0	13,761
117 豊岡市民プラザ(ほっとステージ)	平成24年1月21日(土)～1月22日(日)	F	2	4	161	0	89,631
118 姫路市文化センター	平成23年12月23日(金)	E	1	3	1,478	10	540,000
119 明石市立市民会館 大ホール(アワーズホール)	平成23年10月19日(水)～9月29日(水)	F	1	2	1,263	9	293,000
120 川西市みつなかホール	平成24年1月21日(土)～1月22日(日)	Q	2	4	1,569	0	161,063
121 淡路市立サンシャインホール★	平成24年1月22日(日)	L	1	2	34	0	48,406

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
■奈良県							
122 奈良県文化会館	平成23年11月26日(土)～11月27日(日)	K	2	2	1,266	8	368,295
123 奈良市北部会館市民文化ホール	平成23年11月6日(日)	J	1	2	153	8	370,000
■和歌山							
124 和歌山市民会館	平成24年2月1日(水)～2月3日(金)	O	3	6	238	12	375,287
125 橋本市産業文化会館(アザレアホール)	平成24年3月3日(土)～3月4日(日)	N	2	4	104	0	68,437
126 かつらぎ総合文化会館(あじさいホール)	平成24年1月14日(土)	U	1	4	94	0	18,840
127 紀の川市貴志川生涯学習センター(かがやきホール)	平成24年1月14日(土)～1月15日(土)	S	2	4	447	0	68,124
128 橋本市東部コミュニティセンター★	平成24年3月10日(土)～3月11日(日)	R	2	4	64	0	67,800
129 海南市市民交流センター★	平成23年9月1日(木)	S	1	1	26	0	56,413
■鳥取県							
130 米子市文化ホール	平成23年10月12日(水)～10月12日(水)	F	2	4	1,045	3	150,000
131 鳥取市民会館★	平成23年12月18日(日)～12月19日(月)	L	2	4	328	2	197,000
132 わらべ館★	平成23年9月3日(土)	Y	1	2	84	2	200,000
■島根県							
133 隠岐島文化会館	平成24年1月14日(土)～1月15日(日)	L	2	8	23	0	15,818
134 島根県芸術文化センター(グラントワ)	平成23年10月6日(木)～10月7日(金)	L	2	4	219	0	51,000
135 松江市美保関海の学苑ふるさと創生館(メテオプラザ)	平成23年10月15日(土)～10月24日(日)	K	1	4	182	5	194,023
136 安来市民会館	平成23年10月23日(日)	N	1	4	292	0	42,480
137 松江勤労者総合福祉センター(松江テルサ)	平成23年10月22日(土)～10月2日(日)	V	2	6	146	5	196,000
138 悠邑ふるさと会館	平成23年10月1日(土)～10月3日(日)	M	2	4	55	0	3,846
139 江津市総合市民センター(ミルキーウェイホール)	平成24年1月28日(土)～1月29日(日)	E	2	4	361	0	26,325
140 雲南市木次経済文化会館(チェリヴァホール)★	平成24年1月21日(土)～1月22日(日)	R	2	4	185	0	43,141
■岡山県							
141 岡山県天神山文化プラザ	平成24年2月4日(土)～2月5日(日)	U	2	8	426	19	700,000
142 津山文化センター	平成24年3月4日(日)	H	1	4	720	0	108,000
143 笠岡市保健センター(ギャラクシーホール)	平成23年9月11日(日)	B	1	2	188	0	55,000
■広島県							
144 はつかいち文化ホール(さくらびあ)	平成23年12月15日(木)～12月16日(金)	S	2	8	1,230	0	120,000
145 安芸高田市民文化センター(クリスタルアージュ)	平成23年8月5日(金)～8月6日(土)	Q	2	4	357	0	33,000
146 三原リージョンプラザ	平成23年10月27日(木)～10月29日(土)	G	3	12	121	0	102,202
147 呉市文化ホール★	平成23年9月8日(木)～9月9日(金)	K	2	6	757	2	243,089
148 シネマ尾道	平成23年12月3日(土)～12月7日(水)	B	5	24	416	1	150,000
149 シネマモード I ★	平成23年10月8日(土)～10月10日(月)	J	3	6	174	24	460,000
■山口県							
150 下関市民会館	平成23年9月13日(火)～9月14日(水)	A	2	8	1,223	2	285,243
151 山口情報芸術センター(YCAM)	平成23年9月8日(木)～9月11日(日)	M	4	8	259	4	190,000
152 山口県民芸術文化ホールながと(ルネッサながと)	平成24年1月28日(土)～1月29日(日)	F	2	4	242	0	40,000
153 テアトル徳山 I	平成23年10月28日(金)～11月1日(火)	B	5	24	435	3	152,851
154 山陽小野田市民館	平成23年10月8日(土)～10月9日(日)	K	2	4	165	0	67,000
155 萩ツインシネマ	平成23年9月17日(土)～9月18日(日)	U	2	11	27	2	54,890
■香川県							
156 香川県県民ホール(アルファあなぶきホール)★	平成23年8月21日(日)	V	1	4	760	9	400,000
157 善通寺市民会館	平成24年2月12日(日)	W	1	4	1,000	0	34,000
158 ユープラザうたづ(ハーモニーホール)	平成23年9月11日(日)	J	1	4	135	16	18,000
159 ベッセルおおちの湯★	平成23年10月25日(火)～10月28日(金)	D	4	4	80	0	33,000
■愛媛県							
160 西条市総合文化会館	平成23年9月7日(水)	Q	1	4	107	0	114,584
161 松山市総合福祉センター	平成23年11月27日(日)	B	1	4	980	15	515,996
162 宇和島市生涯学習センター	平成23年8月27日(土)～8月28日(日)	F	2	4	251	0	86,500

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
■高知県							
163 土佐清水市立市民文化会館(くろしおホール)	平成23年8月8日(月)～8月11日(木)	E	4	8	217	0	16,453
■福岡県							
164 田川青少年文化ホール	平成23年8月6日(土)～8月7日(日)	W	2	6	936	0	51,465
165 小郡市文化会館	平成24年1月14日(土)～1月15日(日)	C	2	4	777	0	59,200
166 西鉄ホール	平成23年12月22日(木)～12月25日(日)	J	4	8	179	22	1,450,000
■佐賀県							
167 武雄市文化会館	平成23年9月18日(日)～9月19日(月)	S	2	8	690	0	51,479
168 鹿島市生涯学習センター(エイブル)	平成23年7月30日(土)～7月31日(日)	E	2	8	323	0	31,581
169 佐賀県立男女共同参画センター(アバンセ)★	平成23年12月24日(土)	W	1	4	314	0	236,354
■長崎県							
170 大村市民会館	平成24年2月25日(土)～2月26日(日)	W	2	8	510	0	90,000
■熊本県							
171 八千代座	平成24年1月29日(日)	C	1	4	524	0	58,000
172 宇土市民会館	平成23年8月28日(日)	L	1	4	724	0	38,404
173 山都町立図書館★	平成23年12月3日(土)～12月4日(日)	Q	2	4	83	0	18,132
174 宇城市小川総合文化センター(ラポート)	平成23年9月3日(土)～9月4日(日)	O	2	7	1,303	8	60,000
175 ながす未来館	平成23年9月23日(金)～9月24日(土)	T	2	8	392	0	17,000
176 益城町文化会館	平成23年9月3日(土)～9月4日(日)	A	2	8	1004	0	33,489
■大分県							
177 宇佐市安心院文化会館★	平成23年12月11日(日)	M	1	4	1,158	0	58,574
178 日田市民文化会館(パトリア日田)	平成23年12月18日(日)	M	1	4	423	1	72,201
179 九重町九重文化センター	平成23年11月11日(金)～11月12日(土)	W	2	3	112	0	10,911
180 くにさき総合文化センター(アストくにさき)	平成23年7月23日(土)～7月24日(日)	K	2	4	166	0	32,606
181 国見生涯学習センター(みんなかん)	平成23年9月10日(土)	Y	1	4	220	0	4,988
182 コンパルホール★	平成23年11月17日(木)	M	1	4	746	0	475,227
183 コアやまくに	平成23年9月21日(水)～9月24日(土)	M	4	8	72	2	2,800
■宮崎県							
184 西都市文化ホール	平成24年1月14日(土)～1月15日(日)	J	2	8	458	0	33,000
185 門川町総合文化会館	平成23年9月3日(土)～9月4日(日)	W	2	4	561	0	19,000
■鹿児島県							
186 コミュニティーセンター川辺文化会館	平成23年7月17日(日)～7月18日(月)	Y	2	8	200	0	40,095
187 川内文化ホール	平成23年9月10日(土)～9月11日(日)	D	2	8	504	0	95,000
■沖縄県							
188 パレット市民劇場	平成23年11月26日(土)～11月27日(日)	E	2	8	891	15	318,465
合計	188会場		362	969	87,975		

★印は本年度新規実施会場(24会場)

(1) 映画フィルム

映画フィルムの貸与については、海外と国内への貸与、あるいは共同主催事業による提供と通常の貸与とに分けられる。海外への貸与のうち、共同主催事業では、チネテカ・デル・フリウリ(イタリア、FIAF加盟機関)との間で開催した第30回ポルデノーネ無声映画祭「アニメの誕生—日本アニメーション映画の先駆者たち」に対し日本アニメーション映画25本、シネマテーク・フランセーズ(フランス、FIAF加盟機関)など3会場との間で開催した『日活100年』海外巡回上映会に対し日本劇映画を最大で21本、イェール大学東アジア研究センターとの間で開催した「刀と銀幕—日本の時代劇映画1915～1960」に対し日本劇映画12本を提供した。共催事業の成果が通常の貸与にも反映し、国立ジョルジュ・ポンピドゥ芸術文化センター(フランス、FIAF加盟機関)に対し日本アニメーション映画6本、トリノ国立映画博物館(イタリア、FIAF加盟機関)に対し日本劇映画の日活作品7本の貸与を行った。また、香港国際映画祭が行った蔵原惟繕監督特集に際し、平成20年度に収集した英語字幕付プリント6本を貸与した。

国内への貸与のうち、共同主催事業については、昨年度に引き続き京都国立近代美術館との間で開催した「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@home」には、全5回の上映会に対し『信濃風土記より 小林一茶』(1941)等日本映画34本、『魂を失へる男』(1936)等外国映画24本を、国立国際美術館との間で開催した「第3回中之島映像劇場」には『御誂治郎吉格子』(1931)と『朝から夜中まで』(1921)を提供し、関西における所蔵フィルムの上映拠点として、より堅固な土台を築くことができた。また、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの間で行っている巡回上映事業では、「喜劇映画の異端児—渋谷実監督特集」をスタートさせ、広島市映像文化ライブラリーなど3会場に日本劇映画3本のフィルムを提供した。通常の貸与では、山形国際ドキュメンタリー映画祭の複数の特集上映に対し5本、カナザワ映画祭に対し外国映画11本を貸与したことが特筆される。また、従来通り、福岡市総合図書館(FIAF加盟機関)、京都府京都文化博物館、川崎市市民ミュージアム、山口情報芸術センター等のシネマテーク、神保町シアター、新文芸坐、ラピュタ阿佐ヶ谷、銀座シネパトス、シネ・ヌーヴォ等の名画座における特集上映に対しては、番組において欠くことのできない作品について、プリントの貸与を行った。

①貸与	90件 (324本)
内訳	
国内貸与	51件 (96本)
海外貸与	29件 (72本)
共催事業	10件 (156本)
②特別映写観覧	92件 (267本)
③複製利用	39件 (62本)

(2) 映画関連資料

映画関連資料については、平成23年度は7件の貸与が行われた。国内では、フィルムセンター主催展「映画の中の日本文学」をベースに企画された北九州市立文学館の展覧会のためポスターやシナリオ等140点が貸与されたほか、世田谷文学館・世田谷美術館共催の展覧会「都市から郊外へ—1930年代

の東京」のため戦前期の映画ポスターなど18点が貸与されたことが特筆される。ほかにも長崎歴史文化博物館、憲政記念館、早稲田大学演劇博物館、「半世紀を映画から振り返る 山田洋次監督50周年展」といった多彩な展示に対して資料貸与を行っている。また海外では、カナダのシネマテーク・ケベコワーズに日本アート・シアター・ギルド(ATG)制作のポスター 39点が貸与され、FIAF会員同士の交流のもとに、日本の映画ポスター文化の豊かさを紹介した。

①貸与		7件 (209点)
	内訳	
	国内貸与	6件 (170点)
	海外貸与	1件 (39点)
②特別観覧		45件 (787点)

① Films

NFC lends films both to the foreign and domestic parties. Also, NFC lends films to the projects that NFC co-organizes and to the third parties. This year, NFC lent films to the co-organized international events as follows: 25 Japanese animation films to “The Birth of *Anime*: Pioneers of Japanese Animation” at the 30th Pordenone Silent Film Festival that NFC co-organized with Cineteca del Friuli (Italy, FIAF member); the maximum of 21 Japanese drama films to “International Tour of the Program ‘100 Years of Nikkatsu’” that NFC co-organized with three venues including Cinémathèque Française (France, FIAF member); and 12 Japanese drama films to “The Sword and the Screen: The Japanese Period Film 1915-1960” which NFC co-organized with the Council of East Asian Studies at Yale University. The outcome of such co-organized events influenced the lending activities to other parties. NFC lent six Japanese animation films to Centre Pompidou (France, FIAF member) and seven Japanese drama films made at Nikkatsu to Museo nazionale del Cinema, Torino (Italy, FIAF member). In addition, to the retrospective event of Kurahara Koreyoshi at Hong Kong International Film Festival, NFC lent six prints with English subtitles which NFC acquired in 2008.

Within Japan, NFC lent 34 Japanese films such as *Shinano fudoki yori: Kobayashi Issa* (1941) 24 foreign films such as *Die ewige Maske* (1936) to the five screening events of the “MoMAK Films@home” series at the National Museum of Modern Art, Kyoto. To the third installment of the “Nakanoshima Screen” series co-organized with the National Museum of Art, NFC lent *Oatsurae Jirokichi goshi* (1931) and *Von morgens bis mitternachts* (1921). Through these two lending activities, NFC was able to tighten the relationship with the two museums in the Kansai (western) region, thus making the function of the two venues as the screening bases for NFC stronger. For the circulation projects organized with Japan Community Cinema Center, NFC started “National Tour of Shibuya Minoru Retrospective” and provided three venues including Hiroshima City Cinematographic and Audio-Visual Library with three Japanese drama films. As for lending to third parties, notably, NFC lent five films to various feature programs at Yamagata International Documentary Film Festival, 11 foreign films to Kanazawa Film Festival, In addition, as usual, NFC lent screening prints to the feature programs at cinematheques and art houses such as YCAM (Yamaguchi Center for Art and Media), Jinbocho Theater, Shinbungeiza, Laputa Asagaya, Ginza Cine Pathos and Cine Nuvo

when the indispensable films for their programs were in NFC collection.

② Non-film Materials

Seven lending activities happened this year. Within Japan, NFC lent 140 items such as posters and scenarios to Kitakyushu Literature Museum for their exhibition which was based on NFC's "Japanese Literature in Film" exhibition. Another notable lending was done to the exhibition "From the City to the Suburbs – Tokyo in the 1930s" co-organized by Setagaya Literary Museum and Setagaya Art Museum. NFC lent 18 items including film posters from the pre-war era. In addition, NFC lent non-film materials to a variety of exhibitions including "Looking Back the Half Century by Films – 50 Years of the Director Yoji Yamada" at various institutions such as Nagasaki Museum of History and Culture, Memorial Hall of Constitutional Politics Japan, and the Tsubouchi Memorial Theatre Museum, Waseda University. As for international lending, NFC lent 39 posters made for the films of Art Theatre Guild (ATG) to Cinémathèque Québécoise, FIAF member institution, thus introducing richness of film poster culture in Japan to Canadian people.

貸与実績一覧

[映画フィルム国内貸与] 51件96本

上映会名	主催	貸与本数
日本映画の男優特集「華麗なるダメ男たち」	神保町シアター	1本
映画『ひろしま』の文化的価値の検証と、 アーカイブとしての映画の研究上映	立命館大学 国際平和ミュージアム	1本
第12回 脚本家／水木洋子の世界	市川市映像文化センター	1本
長谷川一夫特集	福岡市総合図書館	1本
教育プログラム「映画を2回観る会」	財団法人 山口市文化振興財団	2本
追悼・高峰秀子 アンコール	新文芸坐	2本
日本映画の女優特集「みつめていたい女優たち」	神保町シアター	1本
三島由紀夫を【観る】	株式会社角川書店	1本
本格ミステリ作家クラブ10周年企画協賛・ 超ミステリー映画大全	神保町シアター	2本
文京映像史料館 地域で残そう映像史料	特定非営利活動法人 映画保存協会	3本
EUフィルムデーズ関連企画上映会	同志社大学学生支援機構学生支援センター	1本
第4回爆音映画祭	第4回爆音映画祭実行委員会	1本
生誕百年 森一生映画展	NPO法人 コミュニティシネマ大阪	1本
宝塚映画撮影所の特集上映	株式会社ラピュタ	2本
田中絹代 女優として映画監督として	新文芸坐	4本
山路ふみ子の「生誕100年記念事業」	財団法人 山路ふみ子文化財団	2本
太郎の愛した映画たち	川崎市市民ミュージアム	1本
モスラ誕生50周年	株式会社ヒューマックスシネマ	1本
東映60周年 東映時代劇の華 大川橋蔵、東千代之助、 大友柳太朗	新文芸坐	5本
カナザワ映画祭	かなざわ映画の会	11本
市史講座	茅ヶ崎市長	2本
第6回「映画の復元と保存に関するワークショップ」 「女流文学全集」特集	京都府京都文化博物館 神保町シアター	2本 2本
2011年、大正100年を巣鴨であそぶ	西巣鴨庚申塚商栄会 巣鴨地藏通り商店街振興組合	1本
映画女優・高峰秀子	福岡市総合図書館	1本
没後10年 甦る相米慎二	神戸映画資料館	1本
三文豪映画祭	公益財団法人 金沢文化振興財団	1本
山形国際ドキュメンタリー映画祭	特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭	5本
「映画監督 千葉泰樹」特集	神保町シアター	6本
サイレントフィルム「港の日本娘」と チャンチキトルネエド生演奏	港のスペクタクル2011実行委員会	1本
鈴木志郎康作品上映会『極私点360°』	イメージフォーラム	1本
邑の映画会	邑の映画会実行委員会	2本
追悼・岡田茂 東映黄金時代を作った男	新文芸坐	1本
Drop Cinema Festival	株式会社 ENBUゼミナール	1本
相米慎二のすべて—1980-2001全作品上映— 「東北映画紀行」特集	特定非営利活動法人 東京フィルメックス実行委員会 神保町シアター	1本 3本

上映会名	主催	貸与本数
三國連太郎と日本映画史	有限会社スコルピオ	1本
女優・高峰秀子 映画祭	新文芸座	1本
「巨匠たち 無声映画の時代」特集	神保町シアター	3本
萩原健一映画祭	株式会社ヒューマックスシネマ	1本
「川口家の人々」特殊	神保町シアター	2本
原田美枝子映画祭	新文芸座	1本
「監督と女優とエロスの風景」特集	神保町シアター	3本
三鷹の森アニメフェスタ2012	公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団	1本
東日本大震災被災地復興支援シネマ	株式会社 ギンレイシネマックス	1本
女優・高峰秀子アンコール	神保町シアター	2本
「京都にんじんの会」企画上映	京都シネマ(株式会社如月社)	1本
第7回大阪アジア映画祭プレイベント 「3.11から1年～東北映画特集」	大阪映像文化振興事業実行委員会	1本
フランス女性監督特集	東京日仏学院	1本
フィルムに残る文京区の暮らし(第4回)	特定非営利活動法人映画保存協会	1本
サイレント映画上映企画 「サウンド・アンド・サイレント」	財団法人広島市未来都市創造財団	1本

[映画フィルム海外貸与] 29件72本

上映会名	主催	貸与本数
ファッション映画祭	ニューヨーク 映像博物館	1本
極東映画祭	チネテカ・デル・フリウリ	1本
第57回オーバーハウゼン国際短篇映画祭	アート・バーゼル/アート・シネマ	1本
発見、復元、初期映画	韓国映像資料院	2本
日本アートシアター・ギルド特集 —インディペンデントという実験	パリ日本文化会館	4本
日本アート・シアター・ギルド特集	英国映画協会サウスバンク	1本
ボン無声映画祭	ミュンヘン映画博物館	5本
黒澤明監督回顧展	ミュンヘン映画博物館	1本
第38回テリュライド映画祭	テリュライド映画祭	1本
松本俊夫監督特集	ハーバード・フィルム・アーカイブ	2本
第30回ボルデノーネ無声映画祭 極地探検 百周年プログラム	チネテカ・デル・フリウリ	1本
第49回ニューヨーク映画祭 特別上映部門	フィルム・ソサエティ・オブ・リンカーン・センター	1本
第55回英国映画協会ロンドン映画祭の 「アーカイブからの宝物」部門	英国映画協会サウスバンク	1本
実験工房	ベトンサロン 芸術・研究センター パリ、フランス	4本
タイペイ・ゴールデンホース映画祭	タイペイ・ゴールデンホース映画祭	1本
ジパング・フェスト映画祭 リーズコクサイ映画祭	ジパング・フェスト映画祭	1本
在オーストラリア日本大使館協力による特別上映会	オーストラリア国立映画音響アーカイブ アクセス	1本
デザインを巡る短編映画特集にて上映のため	サンフランシスコ近代美術館	1本

上映会名	主催	貸与本数
平成23年度アジアにおける日本映画特集上映事業 日本の新世代：映画とアニメーション	一般社団法人ジャパン・イメージ・カウンシル	1本
ジパング・フェスト映画祭 レトロ部門英国巡回上映	ジパング・フェスト映画祭	1本
日本アート・シアター・ギルド回顧展 プラネット・マンガ！	ノルウェー映画協会	2本
侍とエロスと弾丸と一日活最初の百年	国立ジョルジュ・ボンピドゥ芸術文化センター	6本
第六回グローバス・フィルム・シリーズ 「愛は私たちを引き裂く」	国立映画博物館／マリア・アドリアーナ・プロローロ財団	7本
各国の極地探検を記録した初期映画の上映番組	ジャパン・ソサエティ	2本
スコット隊長没後百周年を記念した催しでの上映	オーストラリア国立映画音響アーカイブ アクセス	1本
第十回アジア・フィルム・フェスティバル 塚本晋也監督顕彰番組	英国映画協会サウスバンク	1本
蔵原惟繕監督の回顧展「万能の匠」において上映するため	アジア・フィルム・フェスティバル	2本
荻野茂二に関する特別上映会	香港国際映画祭	6本
	APニュースフィルムセンター	13本

【映画フィルム共催館外上映貸与】 10件148本

上映会名	主催	貸与点数
MoMAKfilms@home	京都国立近代美術館	58本
サマーフェスティバル2011<MUSIC TODAY21> 映像と音楽(無声映画のための音楽)	公益財団法人サントリー芸術財団	1本
香川京子と巨匠たち	公益財団法人ユニジャパン	3本
アニメの誕生—日本アニメーション映画の先駆者たち	チネテカ・デル・フリウリ	25本
日活100年	フィルム・ソサエティ・オブ・リンカーン・センター	14本
日活100年	ナント三大陸映画祭	14本
日活100年	シネマテーク・フランセーズ	16本
「喜劇映画の異端児—渋谷実監督特集」巡回事業	一般社団法人コミュニティシネマセンター	3本
刀と銀幕—日本の時代劇映画1915～1960	イエール大学東アジア研究センター	12本
第3回中之島映像劇場 「全体芸術の試み 無声映画+音楽演奏+弁士の語り」	国立国際美術館	2本

【映画関連資料国内貸与】 6件170点

展覧会名	主催	貸与点数
映画の中の日本文学—昭和編—	北九州市立文学館	140点
大正デモクラシー期の議会政治特別展	衆議院事務局憲政記念館	1点
孫文・梅屋庄吉と長崎	長崎歴史文化博物館	3点
日活向島と新派映画の時代	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	2点
山田洋次監督50周年展	株式会社 NHKプロモーション	6点
世田谷文学館世田谷美術館	都市から郊外へ 1930年代の東京	18点

【映画関連資料海外貸与】 1件39点

展覧会名	主催	貸与点数
新しい映画のための芸術—ATG映画ポスター展	シネマテーク・ケベコワーズ	39点

◆赤崎陽子

論文「現代フランス映画のもう一つの肖像2」/『NFCニューズレター』第101号

論文「ナント三大陸映画祭「日活100年特集」報告」/『NFCニューズレター』第101号

発表「日活100年特集について」/ナント三大陸映画祭(会場:ナント三大陸映画祭広場、地方ラジオ局で放送、2011年11月25日)

◆板倉史明

論文「『忠次旅日記』のデジタル復元」/『NFCニューズレター』第98号

論文「黎明期から無声映画期における色彩の役割—彩色・染色・調色」/『日本映画史叢書15 日本映画の誕生』(森話社、2011年10月)

論文「書評Aaron Gerow, *A Page of Madness: Cinema and Modernity in 1920s Japan*」/『映像学』第87号(日本映像学会、2011年11月25日)

論文「「無垢な」観客と「洗練された」観客」『映画のなかの社会/社会のなかの映画(映画学叢書3)』(ミネルヴァ書房、2011年12月25日)

論文「占領期におけるGHQのフィルム検閲—所蔵フィルムから読み解く認証番号の意味」/『東京国立近代美術館研究紀要』第16号

発表「東京国立近代美術館フィルムセンターの取り組み」/第6回 映画の復元と保存に関するワークショップ2011(会場:京都府京都文化博物館、2011年8月27日)

発表「フィルムセンターにおけるフィルム保存環境と権利処理」/人間文化研究機構「人間文化資源の保存環境研究」研究会(会場:国立民族学博物館、2011年11月25日)

発表「映画『忠次旅日記』のデジタル復元—長期保存に向けた素材情報の数値化の試み」/2011年度日本写真学会秋季研究発表会(会場:京都教育文化センター、2011年12月5日)

発表 シンポジウム「The Sword and the Screen」/イエール大学東アジア学部(会場:イエール大学ホーイットニー・ヒューマニティーズセンター、2012年2月11日)

発表「フィルム保存と活用の実践例—東京国立近代美術館フィルムセンターの場合」/人間文化研究機構連携研究「人間文化資源」の総合的研究のうち、「歴史研究資料としての映画の保存と活用に関する基盤研究」(会場:国立歴史民俗博物館、2012年2月27日)

◆入江良郎

論文「日本映画の初公開—明治三二年の興行と上映番組」/『日本映画史叢書15 日本映画の誕生』(森話社、2011年10月)

論文(共著)「デビューは牧野周一、山地幸雄、松田春翠の前座で『チャップリンのスケート』 澤登翠氏インタビュー」/『NFCニューズレター』第98号

論文(共著)「60年の女優生活を振り返って 香川京子氏インタビュー」/『NFCニューズレター』第99号

発表「地域で残そう映像史料 第2回 映画と文京区:日本映画の初公開」/文京映像史料館(会場:本郷中央教会、2011年6月11日)

発表「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査・目録整備と保存活用」/早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点での成果報告(会場:早稲田大学早稲田キャンパス6号館3階レクチャールーム、2011年12月22日)

◆岡島尚志

論文「吉村公三郎監督のこと——1980年、京橋」／『NFCニューズレター』第96号

論文「フィルムセンター相模原分館・映画保存棟II」竣工の意味するもの／『NFCニューズレター』第97号

論文「アフリカの映画保存——“インディジェナス・コレクション”という端緒,あるいはその可能性について (FIAFプレトリア会議報告)」／『NFCニューズレター』第98号

論文「映画フィルムという視聴覚資料の保存」／『視聴覚教育』2011年9月号 (日本視聴覚教育協会、2011年9月1日)

論文「「映画女優 香川京子」——NFCの特集、東京国際映画祭での上映、FIAF賞受賞」／『NFCニューズレター』第99号

論文「テレビ番組は社会的文化財」／『G A L A C』2011年10月号 (放送批評懇談会、2011年10月6日)

論文「あの人を訪ねたい」／『月刊・石垣』2011年10月号 (日本商工会議所、2011年10月10日)

論文『NFCニューズレター』の16年——成果と意義／『NFCニューズレター』第100号

論文「風にそよぐ草」／『サライ』2012年1月号 (小学館、2011年12月10日)

発表 “Indigenous Film Collections in Africa and the World”／国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) (会場：南アフリカ国立図書館、2011年4月11日、12日)

発表「フィルムの魅力」／フィルム傑作選 ソクーロフ (特集上映) (会場：ユーロスペース、2011年7月24日)

発表「失われた脚本・台本を求めて～文化リサイクルの意義」／脚本アーカイブズ・シンポジウム (会場：国立国会図書館・新館講堂、2012年2月15日)

発表「世界のフィルム・アーカイブとメディア芸術センター」／映像メディアアキュレーター養成講座 (会場：映画美学校、2012年2月22日)

発表「映画のミライ」／『幕末太陽傳』富山上映会 (会場：フォルツァ総曲輪、2012年3月10日)

◆岡田秀則

論文「来た, 見た, 買った—映画パンフレット小論」／『NFCニューズレター』第97号

論文 (共著) 「60年の女優生活を振り返って 香川京子氏インタビュー」／『NFCニューズレター』第99号

論文「微笑みとときめき 展覧会「映画女優 香川京子」をめぐる」／『NFCニューズレター』第99号

論文「紙々の黄昏—ノンフィルム資料の修復」／『NFCニューズレター』第99号

論文「東京下界いらっしやいませ—<一九九〇>偶景」／『甦る相米慎二』 (インスクリプト、2011年9月30日)

論文「映画を射抜いた《眼》—日本のポスター試論」／『NFCニューズレター』第101号

展覧会カタログ「闘うブリコラージュ—サンチアゴ・アルバレスの映画を読む」／第12回山形国際ドキュメンタリー映画祭カタログ (山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会、2011年10月7日)

展覧会カタログ「映画を射抜いた《眼》—日本の映画ポスター試論」、「ATGのブランド・カラーは、黒です」デザイナー・檜垣紀六氏インタビュー、「デザインと映画をめぐって」奈良義巳氏インタビュー／「日本の映画ポスター芸術」

発表「記録映画作家サンチアゴ・アルバレス」／第12回山形国際ドキュメンタリー映画祭(会場：山形市民会館、2011年10月8日)

発表「東京シネマの時代に学ぶ」／第4回恵比寿映像祭(会場：東京都写真美術館、2012年2月18日)

◆榎木 章(発表者名=とちぎあきら)

論文「その場所に明治ありて—『小林富次郎葬儀』が誘う時代と町」／『NFCニューズレター』第97号

論文「祝祭と復興—第30回ポルデノーネ無声映画祭報告」／『NFCニューズレター』第100号

論文「映像で残す、映像を残す」／『伝統と文化』第35号(ポーラ伝統文化振興財団、2012年1月25日)

論文「日本の最初期トーキー映画のアーカイビング」／『映像・音声記録メディアの保存と修復』(東京文化財研究所、2012年3月31日)

発表「映画に謙虚に、フィルムに素直に—映像資料の保存と活用～その資料的価値について」／神奈川県視聴覚教育連盟(会場：神奈川県立図書館新館1階多目的ホール、2011年5月18日)

発表「『瀧の白糸』の復元を巡って」／明治学院大学芸術学科講演会／日本アルバン・ベルク協会特別例会(会場：明治学院大学白金校舎アートホール、2011年7月26日)

発表「映画上映を志す人のためのフィルム・アーカイブ入門」／映像メディア・キュレーター養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」(会場：映画美学校、2012年1月11日)

発表「CIE映画フィルムのアーカイビング」／「占領する眼・占領する声—CIE／USIS映画とVOAラジオ」シンポジウム(会場：東京大学大学院情報学環福武ホール、2012年3月4日)

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Acquisition of Non-Film Materials and the Library

一定の網羅性を確保する形で、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めている。

公開への準備としては、今後のデータベースへの登録を見越して、これまでリスト化されていなかった図書室内の映画雑誌、外国映画祭カタログのリスト化を着実に進めているほか、映画パンフレットについては平成22年度開始されたOPACデータベースへの登録が引き続き進められている。

①収集活動

収集件数 2,728件

②図書室公開活動

公開日数	224日
公開件数	36,179件(和書31,911件／洋書4,268件)
入室者数	3,525人
公開請求件数	1,084件
複写利用数	1,399人(16,732枚)

1-2 学校や社会教育施設への幅広い学習機会の提供 Aid for Research and Study

◆特別映写観覧による職能教育研修会等への協力

実施件数：11件(全167件中)

参加者数：計960人

◆小中学高等学校・大学の授業等への協力

実施件数：9回

参加者数：計158人

◆研修等への協力

実施件数：15件

参加者数：計155人

◆「こども映画館 2011年の夏休み」

内 容：10回目を迎えた「こども映画館」では、平成23年も映画上映に施設見学や弁士・伴奏付きの無声映画上映などを組み合わせるスタイルを踏襲しつつ、子どもたちが日常のテレビやDVDなどでは接する機会を持ちにくい映画遺産に触れる機会を設けた。

実施回数：4回(平成23年7月29日(金)、7月30日(土)、8月5日(金)、8月6日(土))

参加者数：363人

会 場：小ホール

◆相模原分館における小・中学生を対象とした上映会

内 容：平成24年3月21日(水)、相模原市立由野台中学校2年生(上映作品『がんばっていきまっしょい』)

実施回数：1回(平成24年3月21日(水))

参加者数：101人

会 場：相模原分館

◆相模原分館 JAXA相模原キャンパス特別公開「相模原から宇宙大航海へ出発しよう！」

宇宙科学セミナー／所蔵フィルム上映&施設探検ツアー

内 容：相模原市・宇宙航空研究開発機構・東京国立近代美術館の間で締結した「文化事業等の協力協定」を基に実施した。(上映作品『黒い太陽』『ようこそ宇宙人』)

実施回数：6回(平成23年7月29日(金)・30日(土))

参加者数：943人(内ツアー143人)

会 場：相模原分館

◆相模原分館 「さがみ風っ子」親子映画鑑賞会

内 容：相模原市・東京国立近代美術館の間で締結した「文化事業等の協力協定」を基に実施した。(上映作品『西遊記』『ゴジラ』)

実施回数：2回(平成23年10月30日(日))

参加者数：116人(内ツアー85人)

会 場：相模原分館

①ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント

「映画はどこで、どのように保存されているのか
—日／米ナショナル・フィルム・アーカイブからの報告—」

実施日：平成23年11月5日(土)

開催場所：大ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：107人

講師：パトリック・ロックニー(議会図書館映画放送録音物部国立視聴覚保管センター[パッカード・キャンパス]ディレクター)、岡島尚志(フィルムセンター主幹)、とちぎあきら(フィルムセンター主任研究員)

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)を記念するイベント事業の第4回目として、議会図書館映画放送録音物部からパトリック・ロックニー氏を招き、日米のナショナル・フィルム・アーカイブが新たに設置した映画保存庫の話題を中心に、映画保存の現状と今後について報告や対談を行うとともに、議会図書館が所蔵する映画コレクションを上映した。

②カルト・ブランシュー期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画—

実施日：平成23年9月17日(土)、24日(土)、10月1日(土)(3日間)

開催場所：小ホール

共催：エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社、ぴあ株式会社

参加者数：204人

ゲスト：平成23年9月17日(土) 富田克也(映画監督)、城繁幸(人事コンサルタント、作家)

平成23年9月24日(土) 河瀬直美(映画監督)、木下雄介(映画監督)

平成23年10月1日(土) VERBAL(DJ、音楽プロデューサー)、窪田崇(映画監督)

「カルト・ブランシュ」は3年目を迎えた。若い観客層の開拓を目的として、最前線で活躍中の映画人や文化人が自由に作品を選定し、上映と解説を行った。

③EUフィルムデーズ2011

実施日：平成23年5月28日(土)

開催場所：大ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：210人

ゲスト：ヴァーグヴルジ・B・アンドラーシュ(『コロラド・キッド』監督)

エイヤ・ニスカネン(映画研究家、ヘルシンキ大学)

イエジー・スコリモフスキ(『アンナと過ごした4日間』監督)
 スティーヴン・サラザン(映画およびメディア・アート評論家、
 パリ第8大学講師)
 矢田部吉彦(東京国際映画祭プログラミング・ディレクター)

1-4-2 ゲストトーク Post-Screening Talk

①企画上映「EUフィルムデーズ2011」

開催回数：12回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成23年5月27日7:00pmの回	イエジー・スコリモフスキ (『アンナと過ごした4日間』監督)
平成23年5月28日5:00pmの回	イエジー・スコリモフスキ (『アンナと過ごした4日間』監督)
平成23年5月29日11:00amの回	ペタル・ニコラエフ(ブルガ リア大使館文化担当官) 峰川佳子(ブルガリア文化研 究家)
平成23年5月29日2:00pmの回	ピエロ・ソッラツィ(イタ リア文化会館文化担当官)
平成23年5月29日5:00pmの回	谷元浩之(『シックス』製作)
平成23年5月31日7:00pmの回	谷元浩之(『シックス』製作)
平成23年6月1日3:00pmの回	ピエロ・ソッラツィ(イタ リア文化会館文化担当官)
平成23年6月2日3:00pmの回	エイヤ・ニスカネン(映画研 究家、ヘルシンキ大学)
平成23年6月2日7:00pmの回	ペタル・ニコラエフ(ブルガ リア大使館文化担当官) 峰川佳子(ブルガリア文化研 究家)
平成23年6月4日1:00pmの回	エイヤ・ニスカネン(映画研 究家、ヘルシンキ大学)
平成23年6月5日11:00amの回	ヴァーグヴルジ・B・アンド ラーシュ(『コロラード・キッ ド』監督)

参加者数：1,827人

②共催上映「第33回PFFびあフィルムフェスティバル」

開催回数：22回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成23年9月20日6:00pmの回	石井裕也(『ハラがコレなん で』監督)
平成23年9月22日11:00amの回	南部充俊(『パッション』監督) 和田彩(『偶像讃歌』監督)

平成23年9月22日2:15pmの回	森岡龍 (『ニュータウンの青春』監督) 野上鉄晃 (『PICARO』監督)
平成23年9月22日5:30pmの回	塚本晋也 (監督)
平成23年9月23日11:00amの回	飯塚花笑 (『僕らの未来』監督) 勝又悠 (『オーダーリー』監督)
平成23年9月23日2:30pmの回	長谷川和彦 (監督) 岩井俊二 (監督)
平成23年9月23日5:30pmの回	長谷川和彦 (監督) 河瀬直美 (監督)
平成23年9月24日11:00amの回	狩野嵩大 (『反芻』監督) 岩永洋 (『untitled』監督)
平成23年9月24日2:30pmの回	武田真悟 (『チルドレン』監督) 酒巻大樹 (『101』監督)
平成23年9月24日6:00pmの回	黒沢清 (監督) 廣原暁 (監督)
平成23年9月25日11:00amの回	石井慎吾 (『ケージ』監督) 日原進太郎 (『春夏秋冬くるぐる』監督) 天野千尋 (『チョッキン堪忍袋』監督)
平成23年9月25日2:30pmの回	永野義弘 (『Recreation』監督) 佐藤考太郎 (『山犬』監督)
平成23年9月25日6:00pmの回	北川仁 (『ダムライフ』監督) 緑朗 (『TAITO』監督)
平成23年9月27日11:00amの回	コガケースケ (『Recreation』出演者) 橋本和志 (『Recreation』出演者) 佐藤考太郎 (『山犬』監督)
平成23年9月27日2:30pmの回	武田真悟 (『チルドレン』監督)
平成23年9月27日6:00pmの回	森岡龍 (『ニュータウンの青春』監督) 野上鉄晃 (『PICARO』監督)
平成23年9月28日11:00amの回	狩野嵩大 (『反芻』監督) 岩永洋 (『untitled』監督)
平成23年9月28日2:30pmの回	北川仁 (『ダムライフ』監督) 緑朗 (『TAITO』監督)
平成23年9月28日6:15pmの回	南部充俊 (『パッション』監督) 和田彩 (『偶像讃歌』監督)
平成23年9月29日11:00amの回	石井慎吾 (『ケージ』監督) 日原進太郎 (『春夏秋冬くるぐる』監督) 天野千尋 (『チョッキン堪忍袋』監督)
平成23年9月29日2:30pmの回	飯塚花笑 (『僕らの未来』監督) 勝又悠 (『オーダーリー』監督)
平成23年9月29日6:30pmの回	木村承子 (『恋に至る病』監督)

吉田光希(監督)
廣原暁(監督)
我妻三輪子(『恋に至る病』出演者)
齊藤陽一郎(『恋に至る病』出演者)
佐津川愛美(『恋に至る病』出演者)
染谷将太(『恋に至る病』出演者)
浜崎容子(音楽[Vo])
谷地村啓(アーバンギャルドメンバー[作曲])

参加者数：3,249人

③企画上映「映画女優 香川京子」

開催回数：2回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成23年11月19日2:00pmの回 香川京子(女優)
平成23年12月10日2:00pmの回 香川京子(女優)

参加者数：620人

④企画上映「日本の文化・記録映画選 文化庁『工芸技術記録映画』の特集」

開催回数：1回

開催場所：小ホール

ゲスト：平成23年12月18日0:00pmの回 桂盛人(「彫金—桂盛人のわざ—」出演)

参加者数：58人

1-4-3 ギャラリー・トーク Gallery Talk

①「映画パンフレットの世界」

開催回数：3回

開催場所：展示室

6月11日 岡田秀則、佐崎順昭(フィルムセンター主任研究員、同客員研究員)

7月9日 佐々木淳(映画書籍・パンフレット編集者)

8月11日 畑暉男(映画研究家)

参加者数：147人

②「映画女優 香川京子」

開催回数：2回

開催場所：展示室

9月24日 田中眞澄(映画史家・文化史家)

11月26日 池田千尋(映画監督)

参加者数：108人

③「日本の映画ポスター芸術」

開催回数：3回

開催場所：展示室

2月4日 寺本美奈子(印刷博物館学芸員)

3月3日 岡田秀則(フィルムセンター主任研究員)

3月24日 和田誠(イラストレーター、映画監督 出品作家)

参加者数：272人

④常設展ギャラリー・トーク

開催回数：12回

開催場所：展示室

講師：フィルムセンター研究員、客員研究員

4月9日 列品解説

5月7日 「日本映画と国家のかかわり」

6月4日 「記録映画・ニュース映画の発展」

7月2日 「日本映画への色彩の導入」

8月6日 「日本映画への音声の導入」

9月3日 「日本の南極探検映画」

10月1日 「日本の映画ポスター」

11月12日 「日本の映画宣伝メディア」

12月3日 「松山の伊藤大輔と伊丹万作」

1月7日 「資料でみる日活史・初歩篇」

2月4日 「フィルムセンターの映画カメラ・コレクション」

3月3日 「御園京平とくみそのコレクション」

参加者数：135人

◆インターンシップ

受入期間 平成23年6月～10月
 実施場所 フィルムセンター
 参加人数 1名(事業推進室・情報資料室)
 事業内容 イベント運営など事業推進室の業務全般、情報資料室の所蔵資料整理

◆博物館実習

受入期間 平成23年8月23日～8月27日(5日間)
 実施場所 フィルムセンター
 参加人数 13名
 事業内容 フィルムセンター各室の業務に関わる講義と実習

◆特別映写観覧による大学等への協力

実施件数 55件(177本)

◆国立美術館内での連携

京都国立近代美術館との連携

「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@home」

期 間：平成23年4月から12月まで隔月開催(延べ上映日数10日間)

会 場：京都国立近代美術館

国立国際美術館との連携

「第3回中之島映像劇場 全体芸術の試み 無声映画+音楽演奏+弁士の語り—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による—」

期 間：平成24年3月24日～平成24年3月25日(延べ上映日数2日間)

会 場：国立国際美術館

2-1 カタログ Catalogs

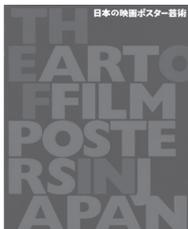


□「第33回PFFびあフィルムフェスティバル」(共催者)

発行日：平成23年9月20日

責任編集：荒木啓子

編集：片岡真由美



□「日本の映画ポスター芸術」

発行日：平成24年1月7日

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター



□第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議2007

シンポジウム「短命映画規格の保存学的研究」の記録

発行日：平成24年1月31日

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター、安澤秀太、濱口幸一

発行：東京国立近代美術館

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター



□平成23年度優秀映画観賞推進事業 観賞の手引

A4/48P(表紙A3判1回折1枚、作品解説A4判22枚)

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター、株式会社オーエムシー

発行日：平成23年6月30日

各プログラム(25番組、各4作品)の作品解説(実施プログラムに応じて各会場で解説を配布)会場一覧

・展覧会出品目録・ガイド(3回)



□「映画パンフレットの世界」出品リスト

22.5×10cm/12p

発行日：平成23年5月27日



□「映画女優 香川京子」出品リスト

22.5×10cm/12p

発行日：平成23年9月13日



□「日本の映画ポスター芸術」出品リスト

22.5×10cm/12p

発行日：平成24年1月7日

2-3 NFCカレンダー等 NFC Calender and Flyers

2-3-1 NFCカレンダー NFC Calender

29.7×21cm

大ホール上映作品解説／上映スケジュール



□2011年4月号
生誕百年
映画監督 吉村公三郎
4p



□2011年5月号
よみがえる日本映画vol.2
[東映篇] ——映画保存のた
めの特別事業費による
4p



□2011年6月号
EUフィルムデーズ2011
4p



□2011年7月号
生誕百年
映画監督 森一生
4p



□2011年8月号
特集
逝ける映画人を偲んで
2009-2010
6p



□2011年9月号
シネマの冒険
闇と音楽2011
2p



□2011年10月号
再映：よみがえる日本映画
——映画保存のための特別事
業費による／生誕百年 映
画監督 吉村公三郎
4p



□2011年11-12月号
映画女優 香川京子
6p



□2012年1月号
よみがえる日本映画 vol. 3
【新東宝篇】 ——映画保存のた
めの特別事業費による
4p



□2012年2-3月号
現代フランス映画の肖像2—
ユニフランス寄贈フィルム・
コレクションより
6p

2-3-2 展覧会チラシ Publicity Flyers / Exhibitions

29.7×21cm



□映画パンフレットの世界
2p



□映画女優 香川京子
2p



□日本の映画ポスター芸術
2p

29.7×21cm

(ア)フィルムセンター発行



□《京橋映画小劇場No.21》
映画の教室2011
2p



□《京橋映画小劇場No.22》
アンコール特集：
2010年度上映作品より
2p



□カルト・ブランシュ～
期待の映画人・文化人が選
ぶ日本映画～
2p



□日本の文化・記録映画選
文化庁「工芸技術記録映画」
の特集
4p

(イ)共催者発行

26×18cm



□EUフィルムデイズ2011



□第33回PIFFぴあフィルム
フェスティバル



□香川京子と巨匠たち

29.7×21cm



こども映画館
2011年の夏休み
2p

29.7×21cm/16p

発行・著作：独立行政法人国立美術館／東京国立近代美術館

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター



□96号(2011年4月-5月号)

特集：生誕百年 映画監督 吉村公三郎
発行日：平成23年4月1日



□97号(2011年6月-7月号)

特集1：生誕百年 映画監督 森一生
特集2：映画パンフレットの世界
発行日：平成23年6月1日



□98号(2011年8月-9月号)

特集：3D映画の歴史
FIAFプレトリア会議報告
発行日：平成23年8月1日



□99号(2011年10月-11月号)

特集：映画女優 香川京子
発行日：平成23年10月1日



□100号(2011年12月-2012年1月号)

特集1：よみがえる日本映画[新東宝篇]
特集2：文化庁「工芸技術記録映画」
発行日：平成23年12月1日



□101号(2012年2月-3月号)

特集：デジタル上映：現場からの報告
日本の映画ポスター芸術
現代フランス映画の肖像2
発行日：平成24年2月1日

(ア)上映会のためのハンドアウトの発行 92～100号(9部)

事業関連の情報を提供する「NFCメールマガジン」は着実に登録者が増えている。またNFCD（フィルムセンターデータベース）については、ウェブ化開始以来の懸案であった人物データのコンバートがようやく完了し、人物情報の統合作業を進めている。また、資料整理の進化とともにNFCDの改造を計画し、フィルムの運用を細やかに管理するとともに、プレス資料（プレスシート、チラシ等）をNFCD上で登録できるように作業を進めている。

また、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかに行うためにデジタル・データの形で提供する傾向が定着しているが、これまでにデータ化された写真等の画像を円滑に活用するため、共有ファイル内に設けた「画像集積所」のさらなる充実を目指した。

1-1 平成23年度招聘者

氏名[英文](所属)

目的

滞在期間

ミヒャエル・バウムガルトナー [Michael Baumgartner]
 スイス/パウル・クレー・センター

「パウル・クレー おわらないアトリエ」展示立会い、オープニング出席者、作品調査、意見交換のため

平成23年5月28日～6月1日

奥田修 [Okuda Osamu]
 スイス/パウル・クレー・センター

「パウル・クレー おわらないアトリエ」展、展示立会い、講演会、作品調査、意見交換のため

平成23年7月13日～7月17日

ヴォルフガング・ケルステン [Wolfgang Kersten]
 スイス/チューリヒ大学

「パウル・クレー おわらないアトリエ」展、展示立会い、オープニング出席者、作品調査、意見交換のため

平成23年5月29日～5月31日

柿沼万里江 [Kakinuma Marie]
 スイス/チューリヒ大学

「パウル・クレー おわらないアトリエ」展、関連講演会のため

平成23年5月29日～6月10日

レイコ・イケムラ [Leiko Ikemura]
 ドイツ、ベルリン芸術大学教授

イケムラレイコ展 展示指導・開会式およびシンポジウム等出席のため

平成23年8月13日～8月30日

フィリップ・フォン・マツト [Philipp von Matt]
 ドイツ、建築家

イケムラレイコ展 展示指導・開会式出席のため

平成23年8月13日～8月30日

パトリック・ロックニー [Patrick Loughney]

(議会図書館映画放送録音物部国立視聴覚保管センター(パッカード・キャンパス) ディレクター)

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「映画はどこで、どのように保存されているのか一日/米ナショナル・フィルム・アーカイブからの報告」の講師のため

平成23年11月2日～11月6日

ヴァレリオ・オルジャティ [Valerio Olgiati]
 スイス、スイス・イタリア語圏大学メンドリジオ建築アカデミー教授

ヴァレリオ・オルジャティ展 展示確認・開会式出席・講演会出席等のため

平成23年10月28日～11月10日

ローラン・シュトルダー [Laurent Stalder]
スイス、スイス連邦工科大学チューリヒ校准教授

ヴァレリオ・オルジャティ展 展示指導・開会式出席等のため
平成23年10月26日～11月3日

ナタン・ギリングェリ [Nathan Ghiringhelli]
スイス、ヴァレリオ・オルジャティ事務所所員

①ヴァレリオ・オルジャティ展 展示指導・開会式出席等のため
平成23年10月23日～11月3日
②ヴァレリオ・オルジャティ展 撤収・輸送作業立会のため
平成24年1月15日～1月20日

コーネリア・エッシャー [Cornelia Escher]
スイス、スイス連邦工科大学チューリヒ校建築理論・建築史研究所アシスタント

ヴァレリオ・オルジャティ展 展示指導・開会式出席等のため
平成23年10月23日～11月3日

ビジョイ・ジェイン [Bijoy Jain]
インド/スタジオ・ムンバイ代表

60周年企画「夏の家」の敷地下見、打ち合わせなど
平成24年3月4日～3月7日

ジョセフ・ファン・デル・ステーン [Joseph Van der Steen]
インド(国籍はイギリス)/「スタジオ・ムンバイ」所員

60周年企画「夏の家」の敷地下見、打ち合わせなど
平成24年3月4日～3月7日

1-2 平成23年度来館者 Visitors

平成23年7月5日 ジャン＝フランソワ・ロジェ(フランス/シネマテーク・フランセーズ、プログラミング・ディレクター)
リチャード・ペニャ(アメリカ/フィルム・ソサエティ・オブ・リンカーンセンター)

平成23年7月19日 郭建超(シンガポール/ナショナル・アート・ギャラリー 館長)
許少全(シンガポール/ナショナル・アート・ギャラリー 理事長)

平成23年8月23日 カタリーナ・ヴィネケス(ドイツ、ケルン大司教区美術館学芸員)

平成23年8月23日 フリーデマン・マルシュ(リヒテンシュタイン公国、リヒテンシュタイン美術館長)

平成23年8月30日 朱文清(中華民国/中華民国行政院新聞局電影事業處處長)
洪慈燐(中華民国/中華民国行政院新聞局電影事業處科長)

平成23年10月22日 許國禎(中華民国/台北駐日經濟文化代表處広報部長)
メグ・ラブラム(オーストラリア/オーストラリア国立フィルム&サウンド・アーカイブ シニア・キュレーター)

平成23年10月27日 エマニュエル・マルティネス(フランス/ポンピドゥー・センター・メッス、事務総長)

- 平成23年10月28日 ジャン=フィリップ・テッセ(フランス/カイエ・デュ・シネマ副編集長)
バンジャマン・イロス (フランス/カンヌ国際映画祭監督週間ディレクター)
- 平成23年12月13日 金峯影(韓国/韓国映画資料院)
- July 5, 2011 Jean-François Rauger (France / Programming director of Cinémathèque française)
Richard Peña (United States of America / Film Society of Lincoln Center)
- July 19, 2011 Kian-Chow Kwok (Singapore / Director of The National Art Gallery, Singapore)
Seow-Chuan Koh (Singapore / Chairman of The National Art Gallery, Singapore)
- August 23, 2011 Katharina Winnekes (Germany / Curator of KOLUMBA, Art Museum of the Archdiocese of Cologne)
- August 23, 2011 Friedemann Malsch (Liechtenstein / Director of Kunstmuseum Liechtenstein)
- August 30, 2011 Wen-Ching Chu (Taiwan / Director of the Government Information Office's Department of Motion Pictures)
Celine Hung (Taiwan / The Government Information Office's Department of Motion Pictures)
Gary Sheu (Taiwan / The Taipei Economic and Cultural Office in Japan)
- October 22, 2011 Meg Labrum (Australia / Senior Curator of National Film and Sound Archive)
- October 27, 2011 Emmanuel Martinez (France / General Secretary of Centre Pompidou Metz)
- October 28, 2011 Jean-Philippe Tessé (France / Rédacteur en chef adjoint des Cahiers du Cinéma)
Benjamin Illos (France / Directeur de la Quinzaine des Réalisateurs, Festival de Cannes)
- December 13, 2011 Bongyoung Kim (South Korea / Korean Film Archive)

- 平成23年6月9日
優秀映画鑑賞推進事業実施委員会開催
- 平成23年5月30日
共催展「パウロ・クレール—終わらないアトリエ」展の開会式およびレセプションを挙行
- 平成23年6月24日
平成23年度第1回評議員会(美術・工芸部会)開催
- 平成23年6月30日
平成23年度第1回評議員会(映画部会)開催
- 平成23年8月8日
平成23年度第1回美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催
- 平成23年8月11日
特別展「レオ・ルビンファイン 傷ついた街」展の開会式およびレセプションを挙行
- 平成23年8月22日
特別展「イケムラレイコ うつりゆくもの」展の開会式およびレセプションを挙行
- 平成23年9月9日
共催展「グェッリーノ・トラモンティ展 イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師」の開会式およびレセプションを挙行
- 平成23年10月31日
特別展「ヴァレリオ・オルジャティ展」の開会式およびレセプションを挙行
- 平成23年11月14日
特別展「ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945」展の開会式およびレセプションを挙行
- 平成24年1月16日
平成23年度美術作品購入等選考委員会(工芸・デザイン部門)開催
- 平成24年2月2日
特別展「原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見えてくるもの」の開会式およびレセプションを挙行
- 平成24年2月6日
特別展「『織』を極める 人間国宝 北村武資」展の開会式およびレセプションを挙行
- 平成24年2月6日
シンガポール/ナショナル・アート・ギャラリーと両館協力のための「覚書(Memorandum of Understanding)」を締結
- 平成24年2月9日
共催展「生誕100年 ジャクソン・ポロック展」の開会式およびレセプションを挙行
- 平成24年2月17日
平成23年度第2回評議員会(映画部会)開催
- 平成24年2月24日
平成23年度第2回評議員会(美術・工芸部会)開催
- 平成24年2月27日
平成23年度第2回美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催
- 平成24年3月8日
平成23年度美術作品購入等選考委員会(写真部門)開催

3 予算 Expenditure

3-1 平成23年度歳出予算一覧

事項	予算額(単位：千円)
1 一般管理費	242,329
2 収集・保管事業費	642,057
陳列品購入費	530,928
資料収集整備費	111,129
3 展示事業費	351,293
特別展経費	98,028
企画展経費	20,971
常設展経費	188,679
所蔵品名品巡回展経費	36,666
展覧会調査経費	6,949
4 調査研究事業費	80,295
5 教育普及事業費	193,369
合計	1,509,343

4 名簿 Nominal List

4-1 東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)

(平成24年3月31日現在)

現職	氏名
財団法人ポーラ美術館館長	荒屋鋪透
株式会社ブリヂストン監査役	石橋 寛
国際交流基金文化事業部企画役	伊東正伸
横浜美術館館長	逢坂恵理子
美術評論家	岡部あおみ
東京都写真美術館事業企画課長	笠原美智子
公益社団法人企業メセナ協議会専務理事	加藤恒夫
町田市立葉師中学校長	篠原やよい
世田谷美術館学芸部長	清水真砂
山梨県立美術館長	白石和己
明星大学造形芸術学部特別教授	宝木範義
財団法人うつのみや文化創造財団常務理事・宇都宮美術館館長	谷 新
株式会社よみうりランド取締役	谷矢哲夫
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部長	松本伸之
神奈川県立近代美術館館長	水沢 勉

(五十音順)

4-2 東京国立近代美術館評議員(映画部会)

(平成24年3月31日現在)

現職	氏名
公益財団法人川喜多記念映画文化財団代表理事	岡田正代
映画監督	小栗康平
社団法人日本映画製作者連盟事務局長	華頂尚隆
早稲田大学文学学術院教授	小松 弘
明治学院大学文学部教授	斉藤綾子
映画監督、日本映画監督協会理事長	崔 洋一
映画評論家	杉浦孝昭
立命館大学映像学部准教授	富田美香
公益社団法人映像文化製作者連盟事務局長	中嶋清美
映像作家	中島 崇
映画プロデューサー、東京芸術大学大学院映像研究科教授、 ユースペース代表取締役	堀越謙三
アテネ・フランセ文化センター主任	松本正道
日本大学芸術学部教授	宮澤誠一
東京大学大学院 情報学環・学際情報学府教授、 東京大学 大学総合教育研究センター センター長	吉見俊哉
映画評論家	渡辺祥子

(五十音順)

(平成24年3月31日現在)

現職	氏名	現職	氏名
館長	加茂川幸夫		
副館長	松本 透		
運営管理部		工芸課	
運営管理部長	石垣鉄也	工芸課長	唐澤昌宏
室長(庶務)	和田敏雄	主任研究員 工芸室長	諸山正則
室長(会計)	小山寛俊	主任研究員 デザイン室長	木田拓也
室長(普及)	小谷松誠司	展示室長(兼)	唐澤昌宏
室長(研修)(命)	小谷松誠司	主任研究員 教育・資料室長	今井陽子
係長(庶務)	武内東子	主任研究員	北村仁美
係主任	小澤孝明		
係長(人事)	大本 学	フィルムセンター	
係長(監査)	岡 克憲	主幹	岡島尚志
	福田武史	事務室長	西田佳二
係長(会計)	東谷 憲	係長(管理)	荒井久登
(管理)	湯浅仁美	係長(業務)	市村英孝
係長(普及)(兼)	定永尚代	係長(相模原分館管理)(兼)	西田佳二
	小谷松誠司	係長(相模原分館管理)	春日義孝
	羽田野愛	主任研究員 映画室長	榎木 章
	小川原茜	主任研究員	板倉史明
係長(研修)(兼)	小谷松誠司	映写技術士	高屋吉丘
(命)	羽田野愛	主任研究員 事業推進室長	入江良郎
(命)	小川原茜	主任研究員 情報資料室長	赤崎陽子
			岡田秀則
企画課			
企画課長	中林和雄		
主任研究員 企画展室長	大谷省吾		
主任研究員	三輪健仁		
主任研究員	中村麗子		
主任研究員 教育普及室長	一條彰子		
主任研究員 情報資料室長	水谷長志		
美術課			
美術課長	藏屋美香		
主任研究員 絵画彫刻室長	鈴木勝雄		
主任研究員	鶴見香織		
主任研究員	保坂健二郎		
版画素描室長(兼)	藏屋美香		
	榎田倫広		
主任研究員 写真室長	増田 玲		
主任研究員 展示調整室長	都築千重子		

平成23年度
独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館活動報告

発行者： 加茂川幸夫
発行： 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
東京都千代田区北の丸公園3-1
電話03 (3214) 2561 (代表)
印刷： ヤマノ印刷株式会社
発行日： 平成25年1月31日

■非売品

2011 Annual Report
Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo

Publisher: Kamogawa sachio
Edited & Published by:
Independent Administrative institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo ©2011
3-1 Kitanomaru-koen, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan
Phone: +81(0)3-3214-2561
Printed by: Yamano Printing Co., Ltd.

Printed in Japan

■Not for sale

